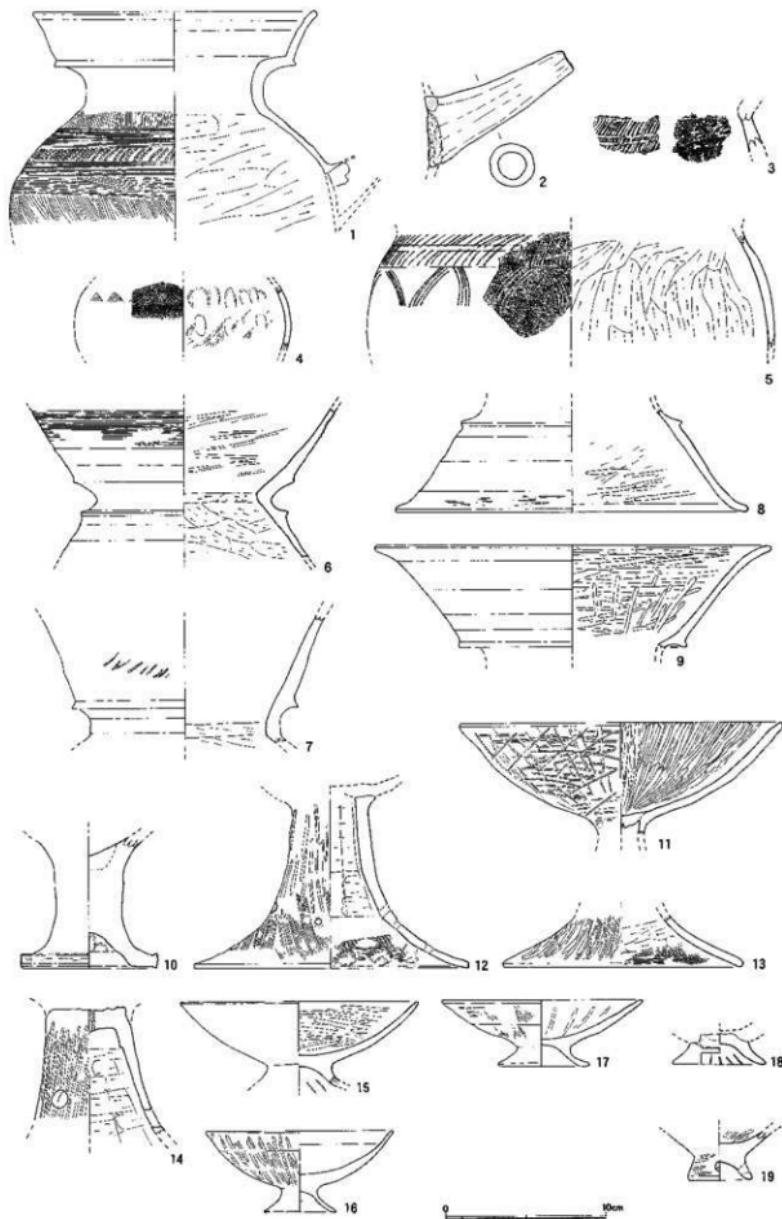


第103図 西区第1黑色土層出土劣生土器(3)実測図 ($S = 1/3$)



第104図 西区第1黑色土層出土弥生土器（4）実測図（S=1/3）

後期の鼓形器台（第104図 6～9） 鼓形器台は筒部が短いものが出上しており、それらは平行沈線文が施された一群（6）と施されない一群（7～9）の2つに分けられる。

後期の高坏（第104図10～14） 高坏は完形のものが無く全体の形状が不明であるが、脚端部は拡張され沈線文が施される一群（10）と裾部が大きく開く一群（12、13）がある。裾部が大きく広がる脚部の坏部は11のように坏部が内湾しながら広がり端部が若干外に屈曲する形状のものと考えられる。14の脚部は11～13の高坏よりやや後出する新しい特徴を持ったものと思われる。

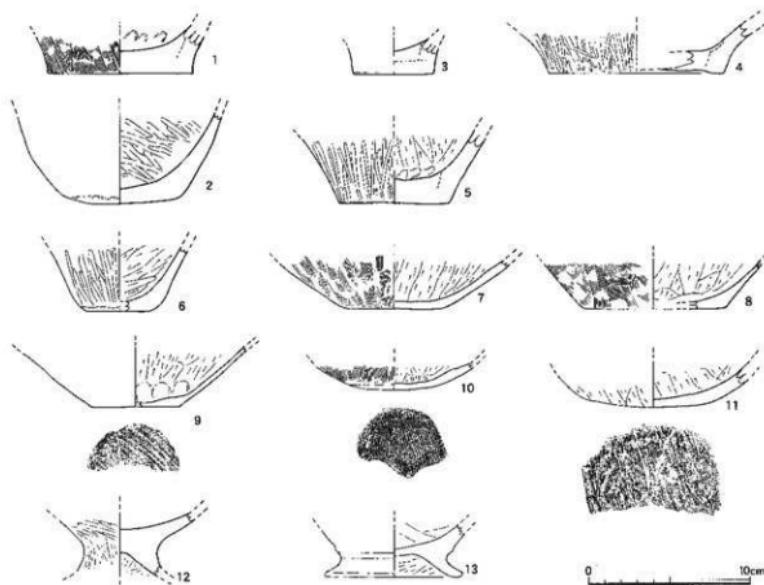
後期の低脚坏（第104図15～19） 低脚坏は坏部が緩やかに内湾し、脚部は「ハ」の字状に開く形態のものである。脚部には内面にヘラ状工具による刺突文が施された個体（15・18）や凸形の透かしが空けられた個体（19）がある。

底部（第105図） 1と2は前期に属す可能性が考えられる底部で、内面にはミガキや指ナデが見られる。3～5は中期に属す底部で、5は内面に縱方向のヘラケズリが見られる。

6～9は後期に属す底部と考えられるが、6については中期の可能性もある。これらは内面にヘラケズリが見られ、7～8は器壁が薄く外面や底部にハケメが施されている。

10と11は丸底の底部であり後期末頃の可能性が考えられる。10は内面ヘラケズリで外面は底部も含めハケメが見られる。11は内外面ともヘラケズリである。

12と13は「ハ」字状に開く底部で前述した底部と異なり、壺・壺以外の器種と思われる。

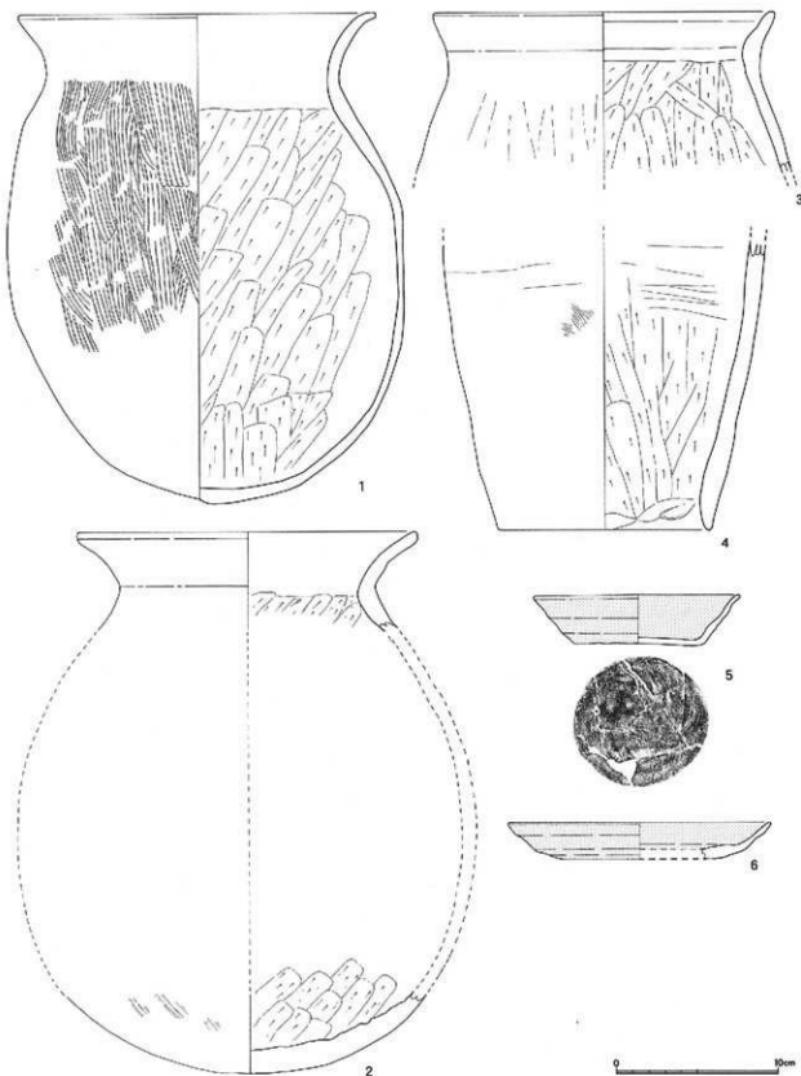


第105図 西区第1黑色土層出土弥生土器（5）実測図（S=1/3）

(3) 土師器 (第106図)

土師器は古墳時代後期以降のものが殆どであり、前期～中期と考えられるものはない。

壺 (第106図 1～3) 壺は口縁部が「く」の字に折れる単純口縁のもので、外面には粗いハケメ



第106図 西区第1黑色土層出土土師器実測図 (S = 1 / 3)

又はナデが施され、内面には頸部以下粗い縦方向のヘラケズリが認められる。肩部は肩が張らない長胴のものである。これらは概ね古墳時代後期頃のものと考えられる。

甑（第106図4） 甑は底部片が2個分出上している。4は底部に向かって緩やかに狹まる形状のもので、下方には縦方向のヘラケズリが見られ上方は粗いナデである。これは前述した1～3と同じような時期のものと推測される。また、口縁部は3のような口縁部が短く屈曲する形状のものである可能性が考えられる。

坏類（第106図5、6） ここでは底部が糸切りではない個体について記述する。5と6はいずれも内外面に赤色顔料が塗布されたものである。5は外傾する口縁部の坏であり、6は口縁部が外傾する浅い皿である。これらは一次調査の2号溝状遺構から出土したものと類似しており、共伴した須恵器の時期より奈良時代後半～平安時代初頭に位置づけられる。

（4）須恵器（第107図～第108図）

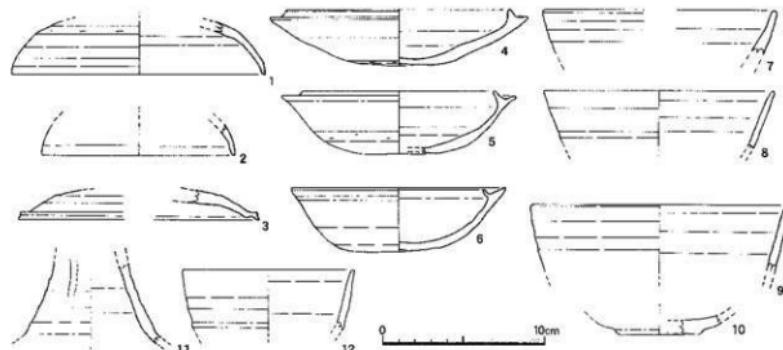
須恵器は古墳時代後期以降のものが出土している。

坏蓋（第107図1～3） 1は天井部に回転ヘラケズリが見られ、縫が不明瞭なであることから出雲4期¹¹と考えられ、6世紀末頃のものと考えられる。2は口縁部小片で口径が小さいことから出雲5期～6期と思われ、7世紀前半に位置づけられる。3は輪状つまみ等のつまみが付く蓋で、口縁部が屈曲した後に端部に至る形状で8世紀後半～9世紀初頭頃のものと考えられる。

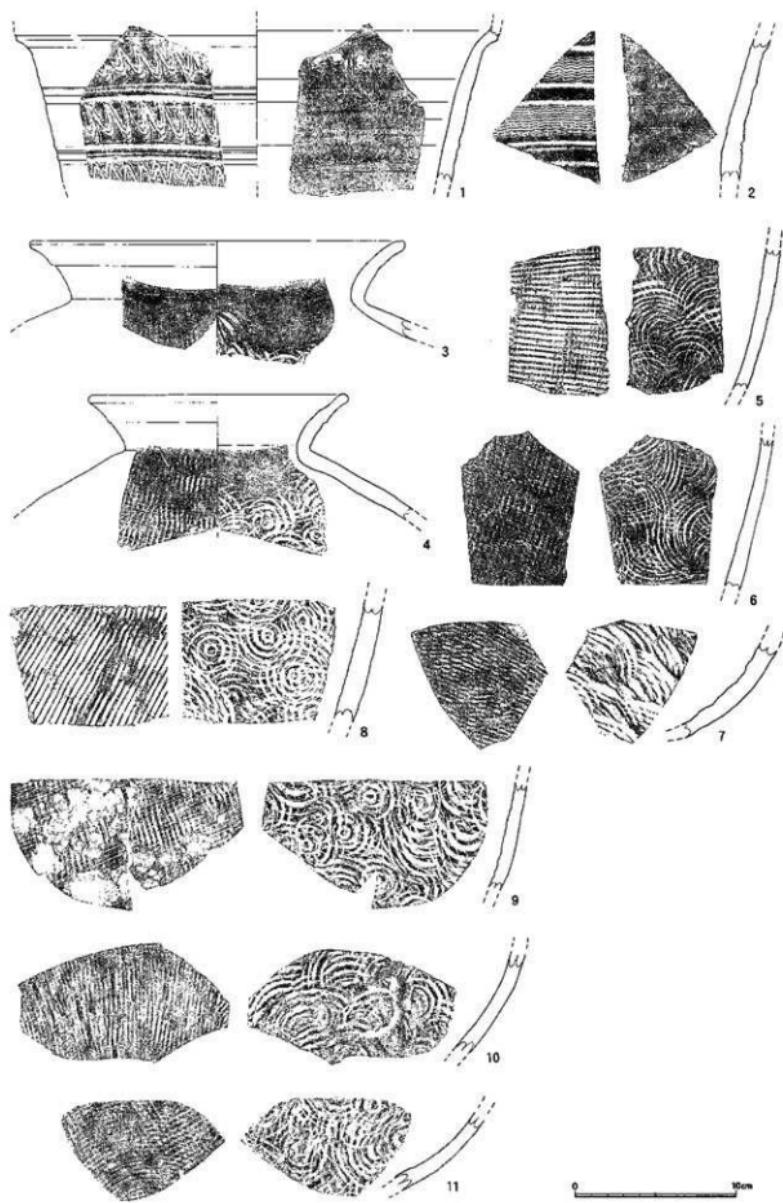
返りの有る坏身（第107図4～6） 4～6は返りの有る坏身であり前述した1、2の形態の蓋とセットになるものである。1と5は底部外周部に回転ヘラケズリが見られ出雲4期に位置付けられ6世紀末頃のものと考えられる。6は底部に回転ヘラケズリが見られず、返りも受部より低いことから出雲5期に位置付けられ7世紀初頭の時期が推測される。

返りの無い坏（第107図7～10） 7～10は返りの無い坏であり、無高台と高台の有る2種類の坏が存在する。7は器壁が厚い口縁部でおそらく無高台のものと思われる。8と9は器壁が薄く直線的に外傾する口縁部で高台が付く可能性がある坏である。10は無高台の坏であり底部の切り離しは不明である。これらの坏は完形品が無く時期は明確にできないが8世紀後半頃と思われる。

高坏（第107図11） 11は透かしのある高坏である。これは大谷見二氏の分類¹²の低脚無蓋高坏にあたり、小片のため不明確であるが出雲4期～5期頃のものと思われる。



第107図 西区第1黑色土層出土須恵器実測図 (S = 1 / 3)



第108図 西区第1黒色土層出土須恵器・表実測図 ($S = 1/3$)

壺（第107図12） 12は壺の口縁部と考えられる破片である。内外面とも回転ナデである。

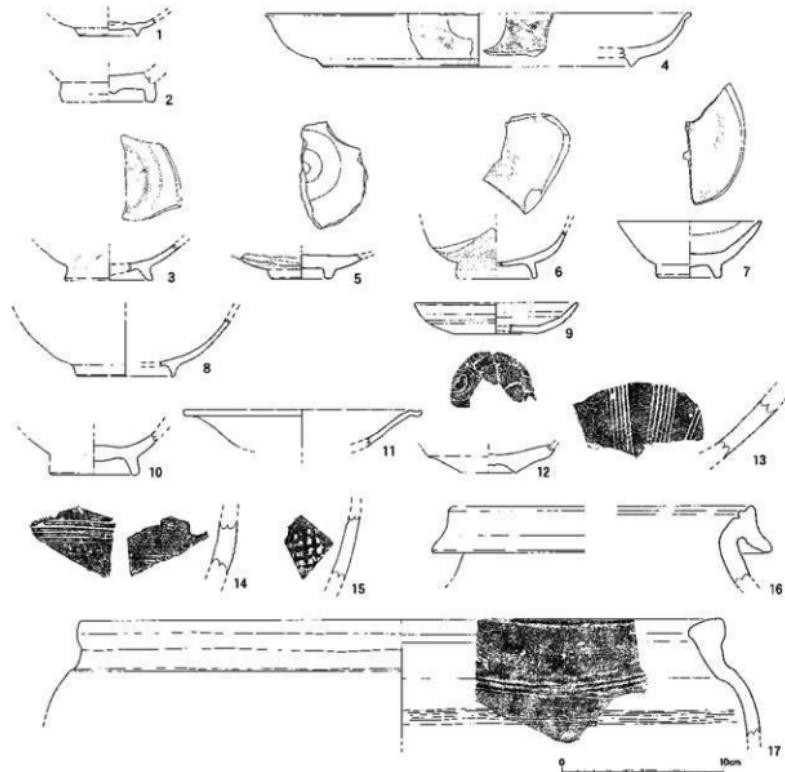
壺口縁部（第108図1～4） 壺の口縁部は頸部が長く沈線文と波状文が施される一群（1、2）と頸部が短く文様が施されない一群（3、4）の2つがある。

壺胴部片（第108図5～11） 出土している壺胴部片は大抵把に4つに分類され、内面の同心円文・当具痕の細い一群（5、6）、当具痕が青海波状の一群（7）、当具痕がやや幅広のもので同心円文が明瞭な一群（8、9）、当具痕がやや幅広で同心円文が不明瞭な一群（10、11）がある。

（5）中世以降の陶磁器・土器（第109図）

中世以降の陶磁器等は14世紀以降のものが出土している。

貿易陶磁器（1～3） 1は白磁の端反りの皿底部で白磁E類^{*3}に分類され16世紀代に属する。2は龍泉窯系青磁の碗で青磁D類^{*4}に分類され15世紀のものと思われる。3は玲瓏窯系の青花の碗で高台に砂粒が付着している。これは森村健一氏の2期^{*5}に相当すると推測され16世紀末～17世紀初頭に位置づけられる。



第109図 西区第1黑色土層出土陶磁器実測図（S = 1 / 3）

肥前系磁器（4～8） 4～8は肥前系の磁器である。4～7は染め付けであり、4は皿、5～7は碗である。4は17世紀後半～18世紀のものである。5は蛇の目の釉剥ぎが見られ18世紀に位置づけられる。6も18世紀頃と思われる。7は青磁の染め付けで18世紀頃のものと考えられる。

土師器皿（9） 9は底部が回転糸切りの皿であり口縁はやや内湾気味に立ち上がる。時期については明確にできないが中世後半～近世前半頃であろうか。

陶器碗・皿（10～12） 10は淡褐色の釉が施された碗である。11は口縁端部が溝縁の皿であり内面には灰釉が施される。時期は17世紀中頃と推測される。12は三日月状の高台の皿である。これは17世紀前半に位置づけられる。

陶器鉢・壺・甕（13～16） 13は須恵質の在地産の描鉢と考えられ、時期は室町時代頃であろうか。14は備前系の甕である。17世紀以前のものと思われる。15はタキギが見られる甕片で肥前系の近世頃のものと思われる。16は常滑系の甕である。これは中野昭久氏の7型式¹⁶に相当し14世紀初頭のものである。

瓦質土器（17） 17は甕で断面に漆絞ぎが見られる。産地・時期については不明である。

（6）石器（第110・111図）

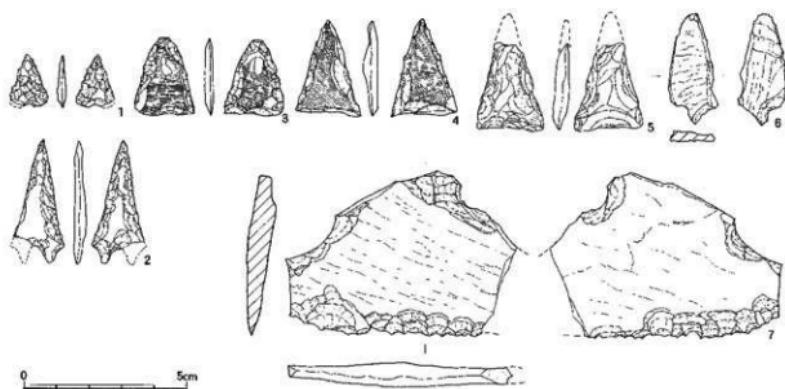
石器は繩文時代後期中葉～弥生時代頃にかけてのものが出土していると考えられる。第2・第3黒色土層出土の石器と比較すると石錐の減少と半磨製石鏽が見られる点が特徴である。

石鏽（第110図1～5） 1と2は凹基式の打製石鏽である。2は左右に抉りの入る特徴的な石鏽である。3～5は表面に細かな研磨痕が認められる半磨製石鏽である。基本的に基部に抉りが入らない三角形の石鏽である。

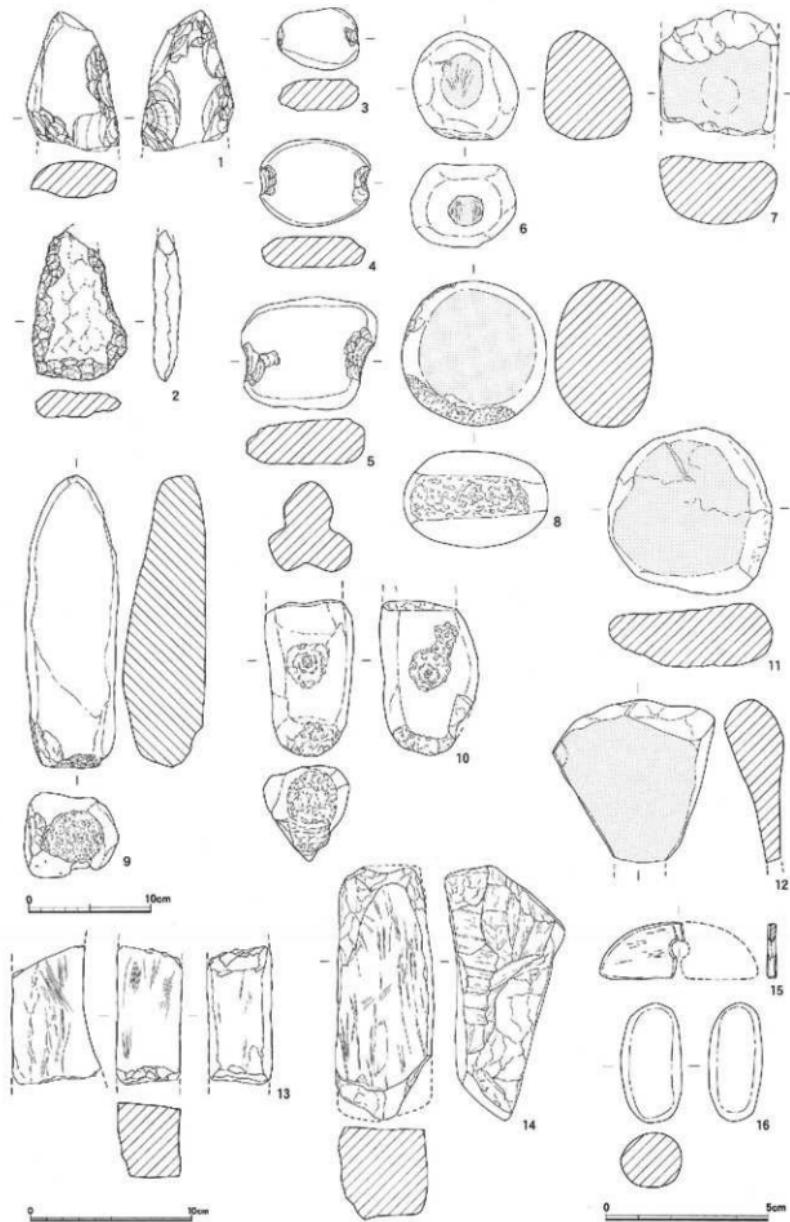
剥片（第110図6） 6は前述した半磨製石鏽と石材が類似した剥片である。

スクレーパー（第110図7） 7は左右の先端が破損しているが、両側から抉りを施し基部を作り出している。表面には光沢が見られる。

打製石斧（第111図1、2） 1は基部の破片である。やや厚みがあり両側部に調整剝離が見られる。2は扁平なもので基部が若干欠損している。刃部、側部ともに調整剝離が見られる。



第110図 西区第1黑色土層出土石器（1）実測図（S = 2 / 3）



第111図 西区第1黑色土層出土石器(2)実測図
(1~8、10~14はS=1/3、9はS=1/4、15・16はS=2/3)

石錘（第111図3～5） 石錘は総数で8点出土し最軽量のものは3の54.2g、最重量のものは5の244.3gである。これらは重量で大中小の3つ程に分類され、50～70g程の一群、100g前後の群、200g以上の一群になる。全ての石錘は短辺部分を打ち欠いている形態のものである。

磨石・敲石類（第111図6～10） 6は2面に磨面が認められ、磨面にはやや粗い擦痕も見られる。7は細長い形状で表面に磨面が見られ中心が窪む。8は扁平で円形の形状で表面に磨面が見られ側面に敲打痕が見られる。9は棒状のもので先端一面に敲打痕が見られる。10は円石とも呼べるもので二面が窪み敲打痕が見られ、また先端部にも明瞭な敲打痕が認められる。

石皿・台石類（第111図11、12） 11は扁平なもので磨面が見られる面が窪む。12は砥石といつた方が良いかもしれないが、遺跡出土の砥石の石材とは異なる。磨面部分は非常に厚みが薄い。

磁石（第111図13、14） 13は4面とも擦痕が見られる磁石である。14は擦痕が見られるやや湾曲した面があり、側面には砥石の製作時の加工痕ともされる工具痕が確認される。

耳飾等（第111図15、16） 15は横に長い玦状耳飾である。これは植口清之氏のF類¹²に相当すると考えられる。16は石器として扱えるかは疑問であるが、黄褐色の半透明の光沢のある石である。

（7）金属製品（第112・113図）

金属製品は鉄製品が主なもので、中でも中世～近世頃と思われる鉄釘が多く出土している。

鍛冶系鉄片（第112図） 1～5は不整形のもので鍛冶に関連する鉄片と推測される。1～4は薄い鉄片であり、1はやや反り返ったものである。5はやや分厚いものである。これらは時期が特定できないが弥生時代後期の堅穴住居跡に関連する遺物である可能性が考えられる。

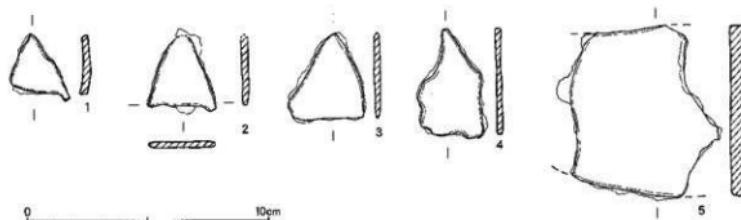
鉄鎌（第113図1～3） 1と2は無茎の鉄鎌であり、1は中央に円孔が空けられている。これらは形態から弥生時代後期¹³に属するものと考えられる。3は鎌身が方頭状のもので闇部は一回り厚くなるものである。これは古墳時代後期末以降¹⁴の時期が推測される。

刀子類（第113図4～6） 4～6は刀部が片側に付く刀・刀子等と思われる鉄器である。4は片側の厚い刀部の小刀片と考えられる。5と6は刀子の茎と考えられる。

鎌（第113図7、8） 7は刃部が直線的で基部の折り返しは欠損等で不明瞭であるが、全体を折り曲げているものと思われる。8は刃先が尖っているもので7よりも新しい時期と考えられる。

楔・鎌（第113図9～11） 9と10はほぼ同じ寸法の楔である。11はカスガイで後述する掘立柱建物跡の柱穴内から出土している。先端部には木質が付着している。

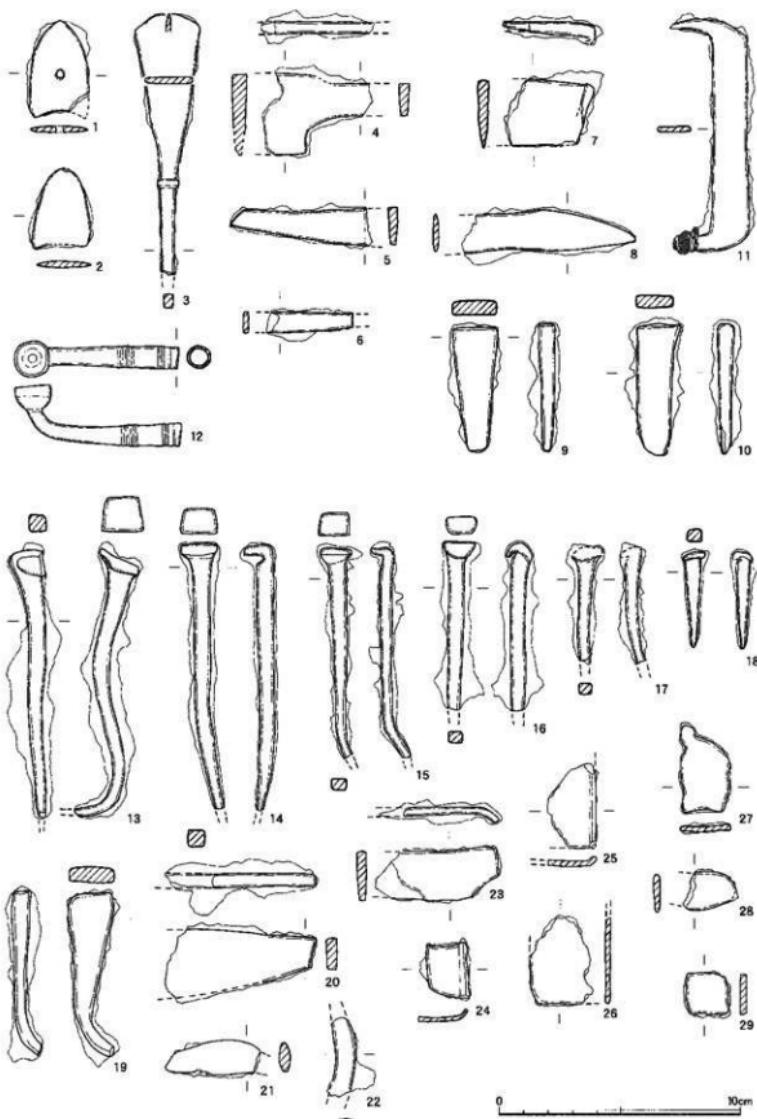
煙管（第113図12） 12は火皿袖強帯があり肩には沈線状の凹凸が見られる。これは形態から古泉



第112図 西区第1黑色土層出土鍛冶系鉄片実測図 (S = 1/2)

弘氏のⅢ段階²³⁾に相当するものと思われ18世紀前半頃の時期が推測される。

鉄釘（第113図13～18） 鉄釘は後述する掘立柱建物跡周辺を中心に多数出土している。これらは



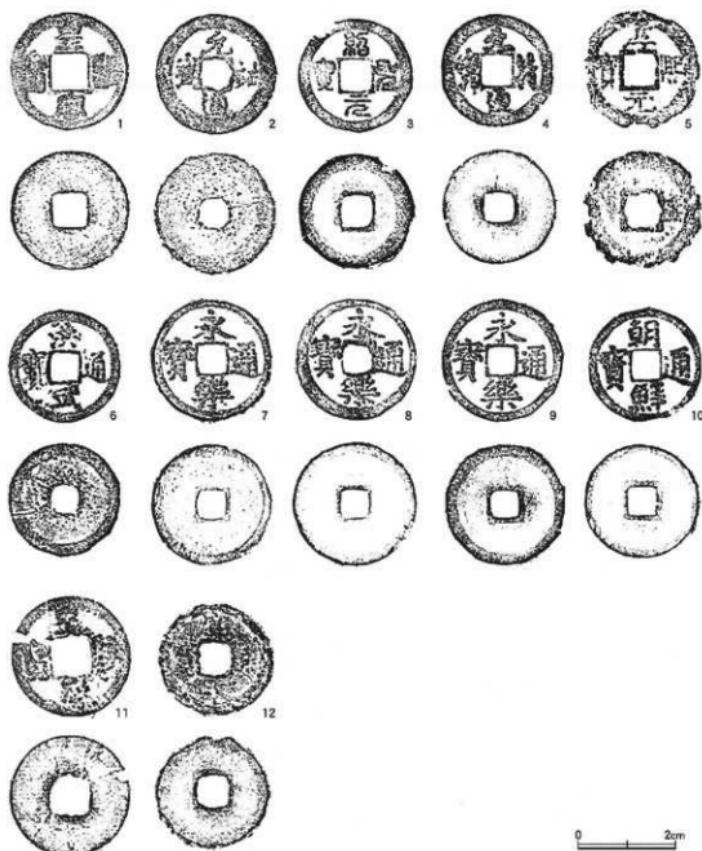
第113図 西区第1黑色土層出土金属器実測図 (S = 1/2)

その長さから、11cm以上の特大の一群（13、14）、10cm前後の一群（15）、7cm前後の一群（16）、5cm前後の一群（17）、4cm以下的一群（18）の5つ程に分けられる。

不明鉄器（第113図19～29） 19～29は種類が不明な鉄器である。19と20は厚みがあり、21と22は厚くて細長い。23～29は薄板状のもので23～25は端部が若干折り曲げられているものである。

（8）銭貨（第114図）

銭貨は全部で12点出土しており、そのうち1～10の10点は調査区の南端部分で一括で出土している。一括で出土している銭貨は、北宋錢（1～4）、南宋錢（5）、明錢（6～9）、朝鮮王朝錢（10）がある。その他の出土品では11の「皇宋通寶」と12の「寛永通寶」があり、12は拓影が不明瞭であるが古寛永と推測される。



第114図 西区第1黑色土層出土銭貨拓本（S=1/1）

4. 製鉄関連遺構と遺物

第1黒色土層の調査では鍛冶炉を伴った掘立柱建物跡を検出し、またそれに関連する鍛冶滓等が出土している。また遺構は検出してないが、掘立柱建物跡以外の製鉄関連遺構に伴う鉄滓等の関連遺物も出土している。ここでは、それらの製鉄関連遺構・遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡（第116図）

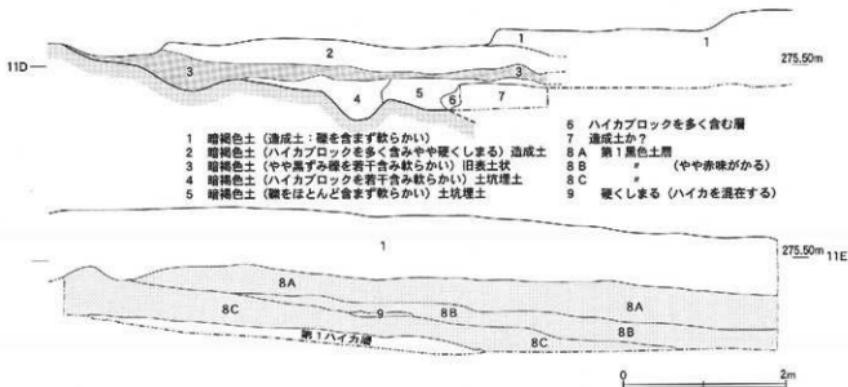
調査区の西側で検出した建物跡は、緩斜面を大きく削平し作り出した平坦面に建てられており、南側では削平が第2黒色土層にまで達している。また、この部分の土層断面（第115図）を観察すると旧表土（3層）上に版築状に硬く叩き締められた土砂（1・2層）が厚く堆積していた。この硬く締まった層は明創神社に関わる造成土である可能性が考えられる。

掘立柱建物跡 建物跡の存在する平坦面には非常に多数の柱穴を検出していることから数棟の建物跡が重複している可能性も考えられたが、基本的に3間×2間の建物跡1棟を想定してみた。想定した建物跡は桁行きP39-P41-P43-P79、P12-P37-P66-P58の3間、梁行きP39-P18-P17、P79-P54-P58の2間である。そして柱穴間の距離は梁行き、桁行き共におおよそ2m程度である。なおP38-P19-P12も柱穴間距離が2m程度で、P39-P17からの距離が1m程度であることから、これらの柱穴群も建物跡を構成する柱穴群として考えられた。

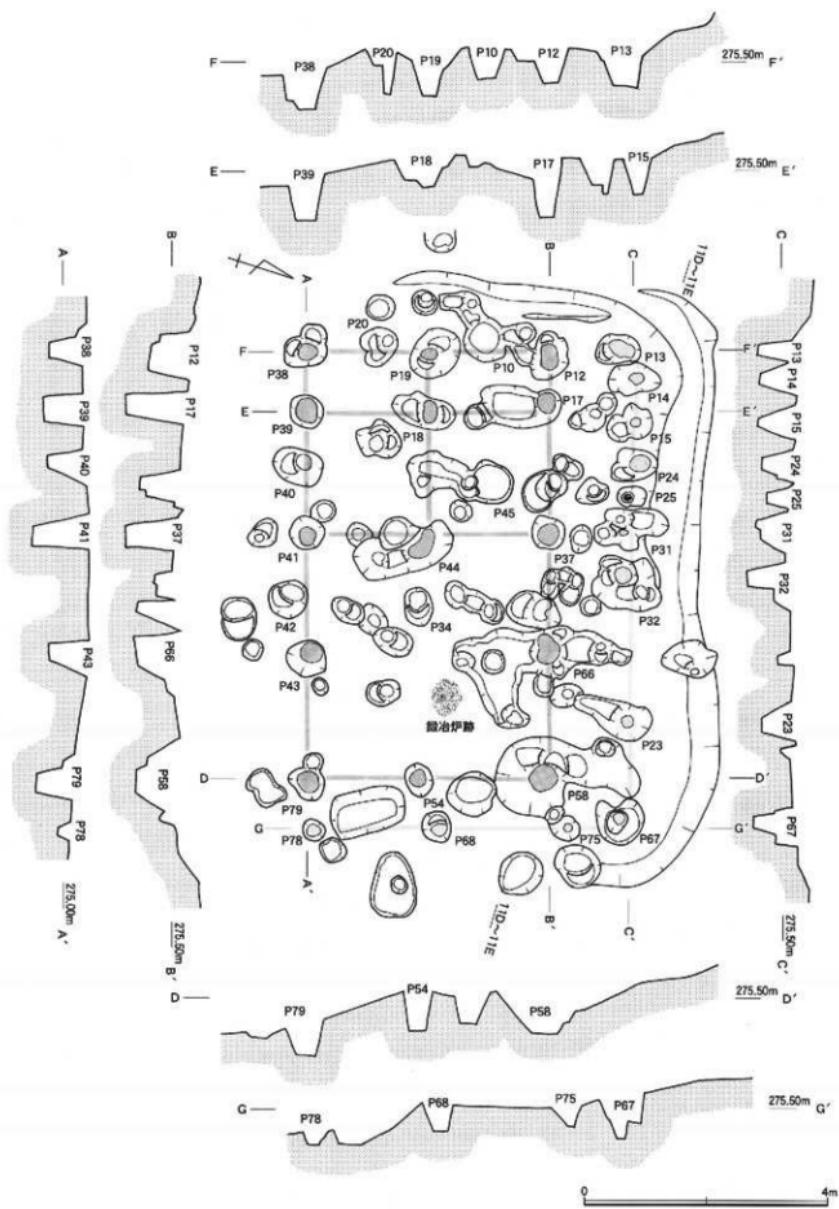
以上のことから建物跡は梁行きにもう1間加えた規模のものと推測され、梁行き約4m×桁行き約7m（加えない場合6m）の規模が考えられる。

また想定した建物跡の周囲にも多数の柱穴を検出している。それらについて検討すると南北方向でP78～P67、東西方向でP13～P67が並ぶことから、この並ぶ柱穴群も建物跡に付随する構造物になるものと推測される。

鍛冶炉 鍛冶炉は建物跡の北東隅付近で検出しているが、調査時に鍛冶炉として認識して調査しなかったことから不十分な調査となった。鍛冶炉は径60cm程の範囲で被熱によって赤く焼けており、若干窪んだ中からは椀形鍛冶滓が出土している。さらに周囲の土砂からは鍛造剝片、粒状滓といった鍛冶に関連した特有の遺物が採取された。



第115図 西区東西ベルト土層図（11D-11E）（S=1/60）



第116図 西区掘立柱建物跡実測図 ($S = 1/80$)

建物跡の時期 建物跡からは鍛冶滓が出土し、柱穴からは鉄器（第113図11、13、16）が出土しているが、建物跡の時期の確定する材料としては困難なものである。そこで建物跡の上部に堆積した造成土の時期を検討すると、最も新しい出土陶磁器（第109図の6）が18世紀代であるので、建物跡は18世紀以前である可能性も考えられる。結論として時期判定の材料が少なく詳細は分からぬが、鉄器や鍛冶滓の様相及び造成土の状況等から近世頃の建物跡と推測しておきたい。

（2）製鉄関連遺物（第117図～130図）

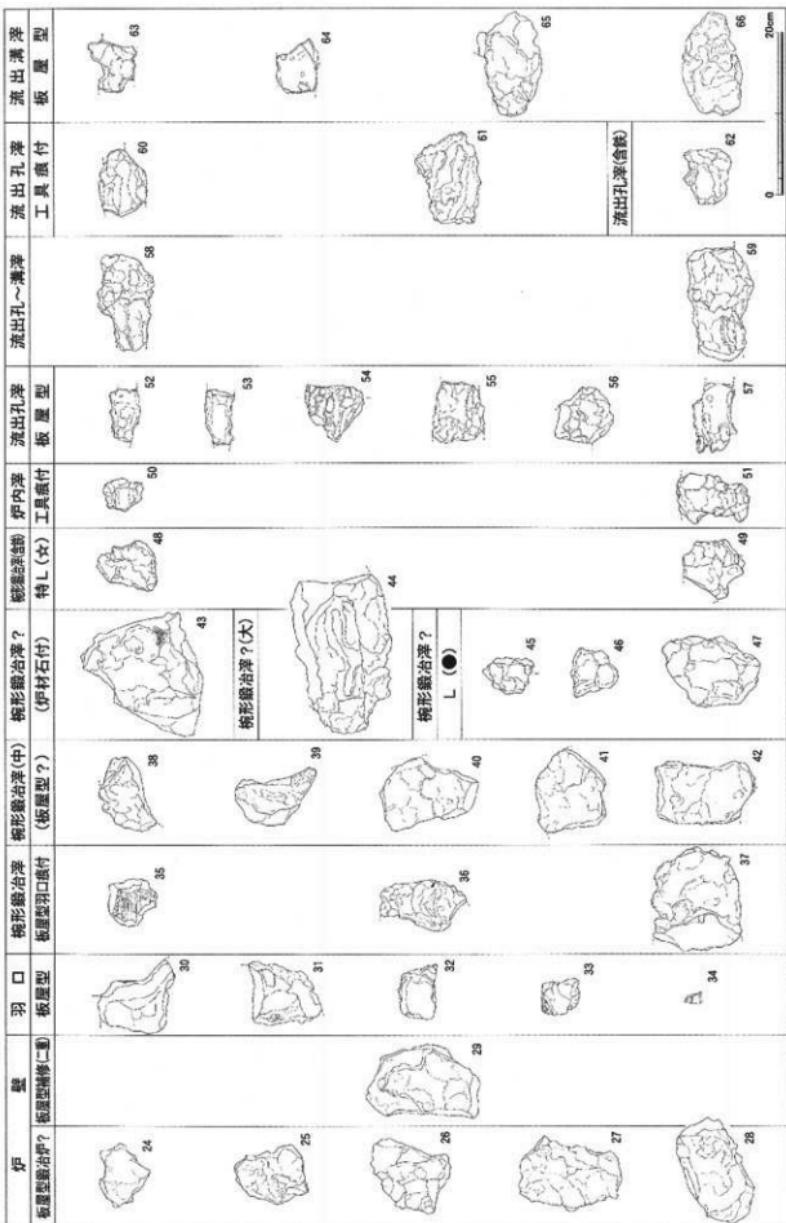
出土している製鉄関連遺物は、大きく3群に分けられるものであった。それらは中世頃と推測される製鉄炉に関連するA群、中世頃と推測される精錬鍛冶炉に関係するB群、近世頃の建物跡の鍛冶炉に関連するC群である。なお冶金学的な分析は遺構に伴うC群についてのみ実施した。

A群炉壁（第121図1～5） 中世頃の製鉄炉の炉壁と推測される一群であり、胎土には石英質の砂粒が混和された硬質のものである。また内面は高温のために強く黒色に焼化している。4は内面の溶解の状況から通風孔下の炉壁と推測される。

炉 壁	炉壁(含鉄) L (●)	流 出 孔 洋	流 出 溝 洋	単位流動洋	流 動 洋	炉 内 洋
1		6	10	14	16	20
2		7	11		17	21
3	5	8	12		18	22
4		9	13	15	19	23
				0		20cm

第117図 板屋Ⅲ遺跡製鉄関連遺物構成図1 (S = 1 / 6)

第118圖 板履Ⅲ遺跡鐵器陶通體物構成圖 2 (S = 1 / 6)



A群流出孔津 (第122図6~9) 6~9は炉内で生成された滓が流出孔で固まつたもので、いずれも緻密な滓である。7と8は底面の断面形が楕状になっているもので、9はその形状から流出孔中に詰まつた滓のように見える。

A群流出溝津 (第122図10~13) 10~13は炉外で滓を排出する溝の形状を残しているものである。これらの底面は緩やかな楕状になっており、11以外の3点は底面に炉壁粉をかみ込んだり固着している。10と12は気孔が見られ、11と13は気孔が殆ど見られない緻密な滓である。

A群単位流動津 (第122図14、15) 14と15は細長い形状をした流動津で単位流動津と呼称しているものである。いずれも緻密な滓であり、14は側面から下面に木炭痕が残り、15はきれいな流動状のもので下面には粉炭痕と炉壁粉が見られる。

A群流動津 (第122図16~19) 16~19はいずれも扁平な流動津である。16、18、19は緻密な滓である。17はこぶ状の流動津の単位が葡萄状に重層している特異な滓であり、下面には光沢をもった流動津が天地を逆にして固着している。

含 鉄 潢					鉄塊系遺物	椀形鐵治滓	羽 口
鑄化(△)	H(○)	M(◎)	L(●)	特L(☆)	特L(☆)	(小)	
67	72	76	81	86	91	96	
68	73	77	82	87	92	97	
69		78	83	88	93	98	101
70	74	79	84	89	94	99	
71	75	80	85	90	95	100	0 4cm
					20cm		

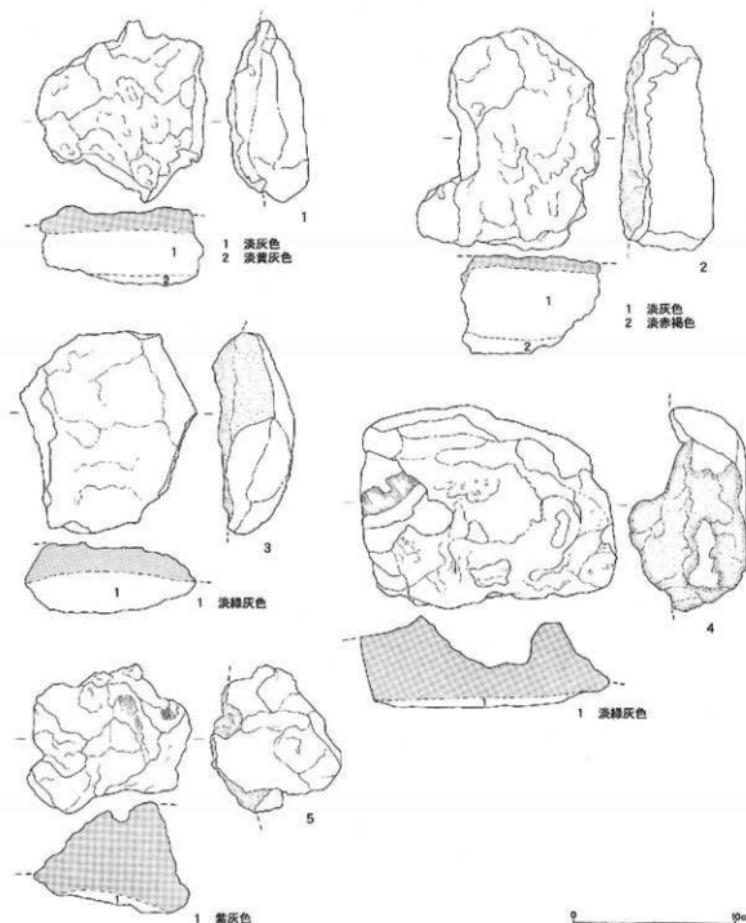
第119図 板屋Ⅲ遺跡製鐵関連遺物構成図 (S=1/6、1/3)

第120図 板屋Ⅲ遺跡製鉄関連遺物構成図4 (S = 1 / 6)

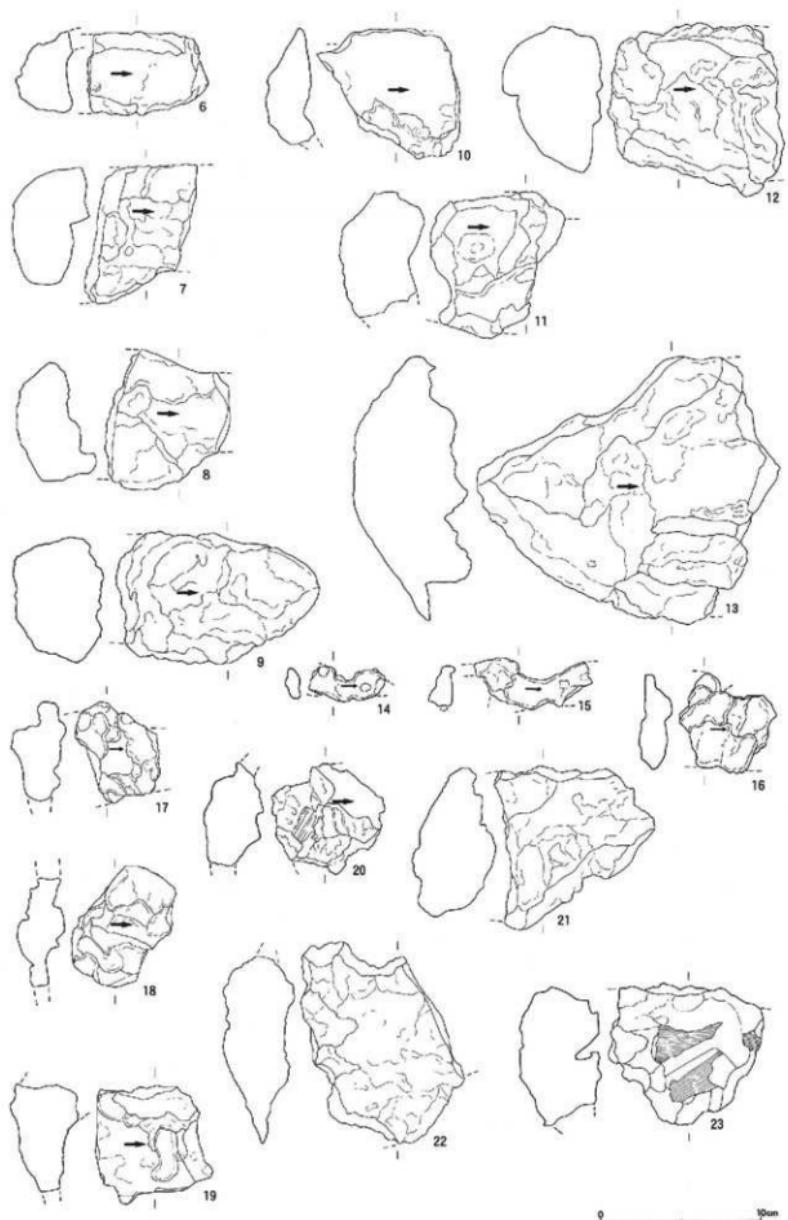
木炭	塊	形	量	治	澤	(中)	鍛 金 含 銅 ・ 銻 (△)	鍛 金 ・ 銻 (○)	含 鐵 ・ 銻 (◎)	澤	板状炭	鍛造剝片	羽口	
102-1	103	107	分析No. 1	109	112					121	116	119		125
102-2	104	108		110	113					117	115	116	分析No. 4	124
	105	106		111	114					118	120	122	分析No. 3	127
														20cm

A群炉内滓（第122図20～23） 20～23はいずれもメタル度の無い炉内滓である。21はややガス質の滓で22と23は緻密な滓である。20は上面に木炭痕が密集し、下面には地山のハイカ層が固着したやや特異な外観のものである。また、22の上面は流動気味で流出溝滓である可能性も考えられる。

B群炉壁（第123図24～29） 24～29は中世頃の板屋型羽口を伴う精鍛錬冶炉の炉壁と推測される一群である。これらは、A群炉壁（第121図1～5）としたものと比較すると胎土に石英質の砂粒を多めに含む点は似るが、被熱が弱く内面が薄く滓化している点が異なる。



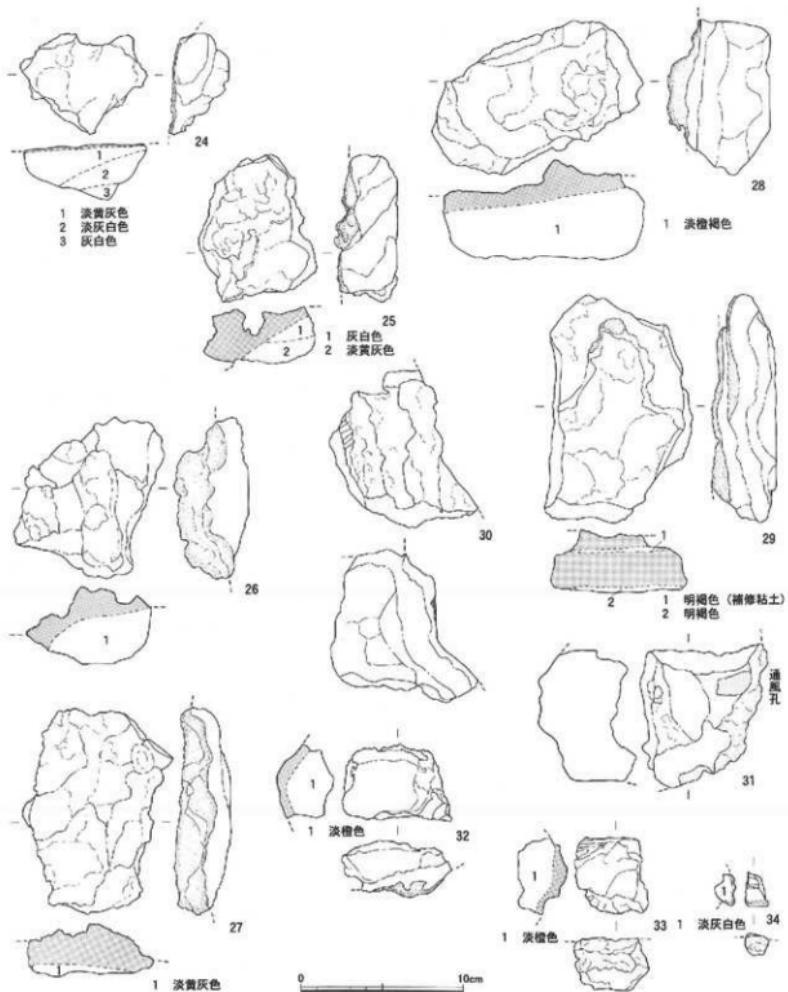
第121図 西区製鉄関連遺物実測図1 (S = 1/3)



第122図 西区製鉄関連遺物実測図2 (S = 1 / 3)

28は胎土が他のものと異なりスサと粉殻が混和された特異なものである。29は補修土を挟んだ溶解面が2枚重層しており、補修の痕跡が分かるものである。このことからこの炉壁は製錬炉では一般的に見られない補修痕があるので精鍊鍛冶炉のものである可能性が高い。

B群板屋型羽口（第123図30～34） 30～34は外面にスマキによる成形痕が見られる板屋型羽口と呼称されている特徴的な羽口である。この板屋型羽口は精鍊鍛冶炉に伴う特徴的な羽口として考えられている。31は上面に通風孔が残り、スマキ痕が認められないが外面の形状等から板屋型羽口と

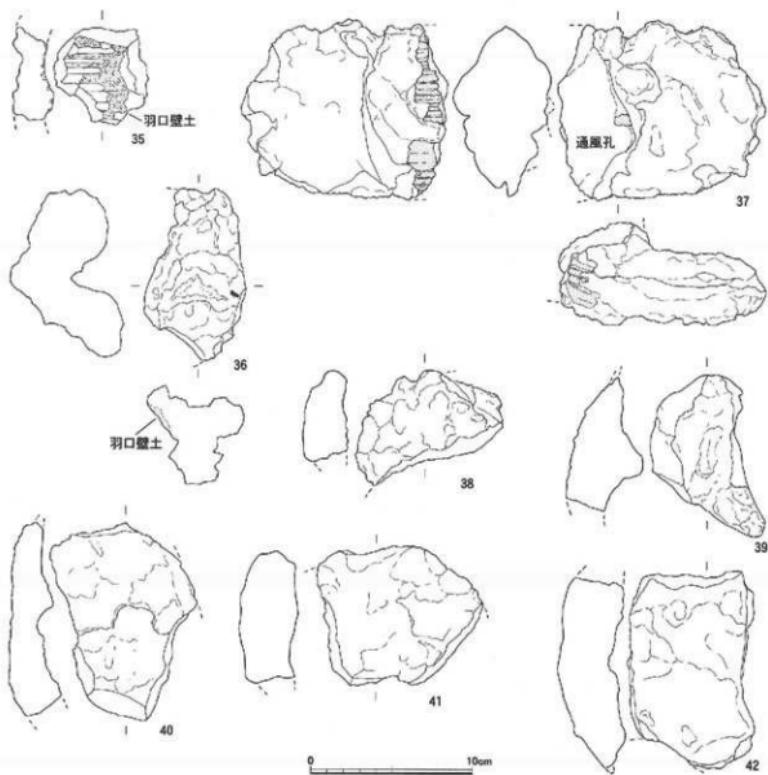


第123図 西区製鉄関連遺物実測図3 (S = 1 / 3)

考えた。32には胎土に砂粒の他に粗穀が混和されている。

B群 楠形鍛治滓（板屋型羽口痕付き）（第124図35～37） 35～37は楢形鍛治滓であり、板屋型羽口の外面のスマキ痕が写されているものである。このことから板屋型の精錬鍛冶炉に伴う鍛治滓である可能性が高い滓である。35は上面にスマキ痕によってできた平行する筋状の凹凸が見られ、さらに羽口壁土と思われる土が固着している。36は上面が大きく凹んでおり、これは通風孔部の影響によるものと推測される。37は板屋型羽口先端部がそのまま残っている滓であり通風孔部も確認される。

B群 楠形鍛治滓（第124・125図38～44） 38～44は板屋型の精錬鍛冶炉に伴う可能性がある楢形鍛治滓であり、39～42は中型の滓、43は炉壁に使用された石材が固着したもの、44は大型の滓である。38は緩やかな楢形のもので下面に石英質の砂粒を多く含む炉壁土が固着する。43はやや製錬滓の外観を持っている。左側下面には大型の角礫が固着し、精錬鍛冶炉では炉床に石材を用いる類例があることから鍛治滓と考えられる。44は大型のもので下半の滓は密であるが中層はやや気孔が認めら



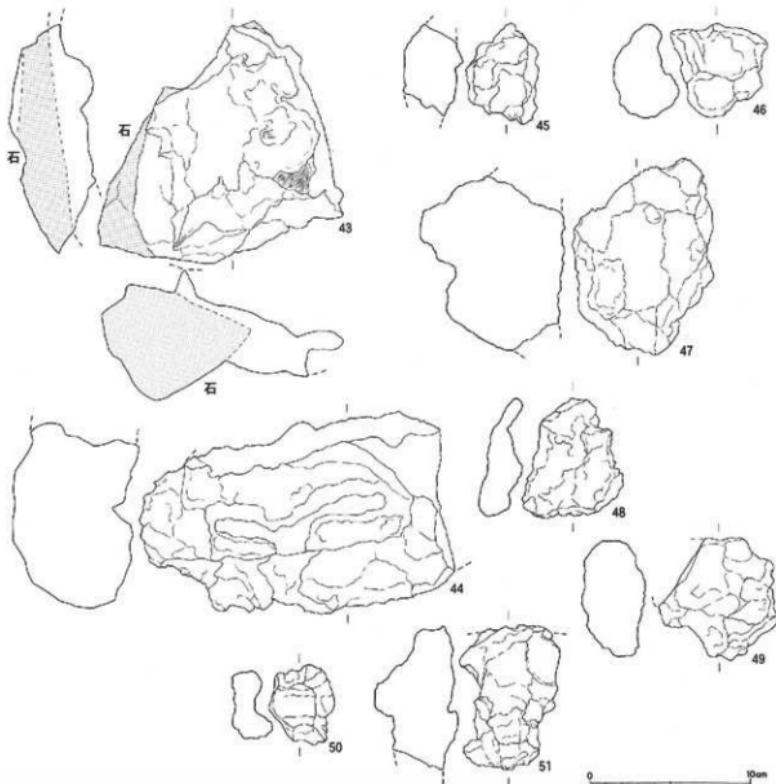
第124図 西区製鉄関連遺物実測図4 (S=1/3)

れる。下面には炉壁土が全面に固着している。製錬炉の炉底塊の端部の可能性も考えられる。

B群 梗形鐵治滓（含鉄）（第125図45～49） 45～49は金属部分を含む比重の高い梗形鐵治滓である。これら4点は特殊金属探知器の設定で45～47はメタル度L（●）、48と49はメタル度特L（☆）となる。48は下面が浅い皿状で上面には木炭痕が見られる。49は上下面に流动状の滓部が認められる。

B群 炉内滓（工具痕付）（第125図50、51） 50と51は上面に工具痕と考えられる桶状の瘤みや平坦面が見られる滓である。50はやや気孔が見られるガス質の滓で下面には炉壁土が固着している。51は質感の異なる滓部が共存しているもので緻密な部分とガサガサした部分が見られる。

B群 流出孔滓（第126図52～57） 52～57は流出孔滓で下面是緩やかな弧状をなしている。これらの幅を見るとは4cm以下のもの（52、53）と5cm～7cm程のもの（54～57）がある。52は半流动状の滓で上面中央が陥没している。53は上面が流动状で下面是炉壁土が固着し、また光沢をもっている。54は細かい流动単位が重層しており断面は他のものと異なり「V」字状になっている。55は概

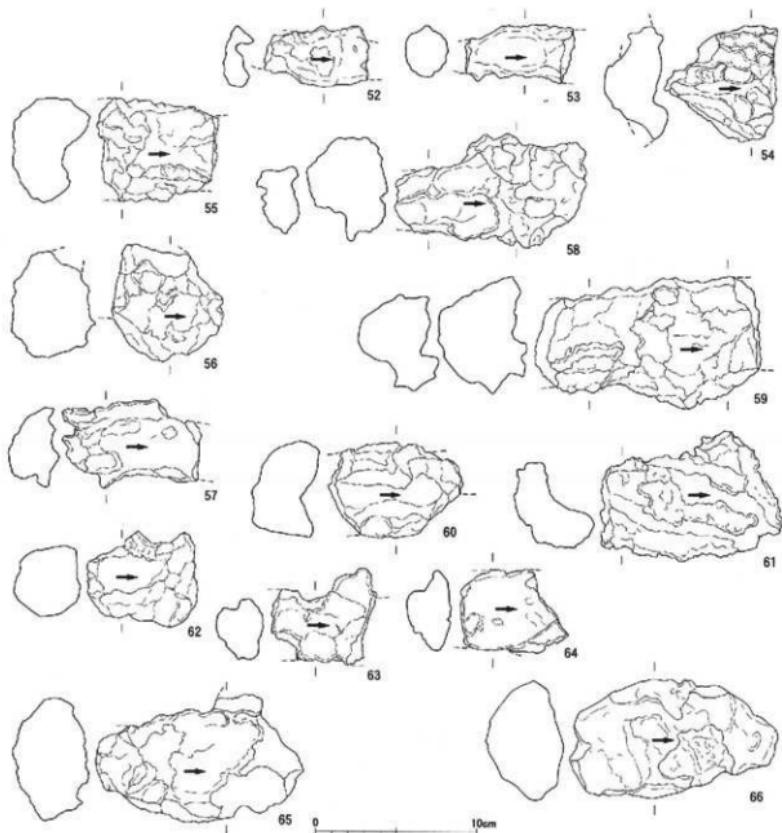


第125図 西区製鉄関連遺物実測図5 (S = 1/3)

密な溝で上面中央部が凹む。56は上面に木炭を含んでおり上手側はきれいな流動状の溝である。57はやや厚みの薄いもので上面中央部が若干凹み、下面是木炭痕と見られ炉壁粉が固着している。

B群流出孔溝（第126図58、59） 58と59は左右で質感が異なり右側が幅が広くなることから炉壁の流出孔から流出溝に至る部分の溝と推測される。58の上面左側は流動溝が重層しているが右側は木炭痕の多いガサガサした溝である。59も58と同様の外観であるが、よりガス質で流動状の部分は少ない。

B群流出孔溝（工具痕付）（第126図60、61） 60と61は工具痕が見られる流出孔溝である。60は下半部が緻密な溝で上半部はやや気孔が見られるガス質の溝であり、上面中央部は溝状に窪んでいる。61はややねじれたような外観の溝で上面中央部に楕円状の工具痕が見られる。溝は流動性が不良のもので途切れ気味である。下面には粉炭痕が多量に固着している。



第126図 西区製鉄関連遺物実測図6 (S = 1 / 3)

B群流出孔滓（含鉄）（第126図62） 62は金属部分が含まれる滓でメタル度特L（☆）のものである。外観は中間部がくびれ、左右端部の流动滓が途切れ気味のものである。このことから流出孔中で滓が途切れてしまったものであろうか。

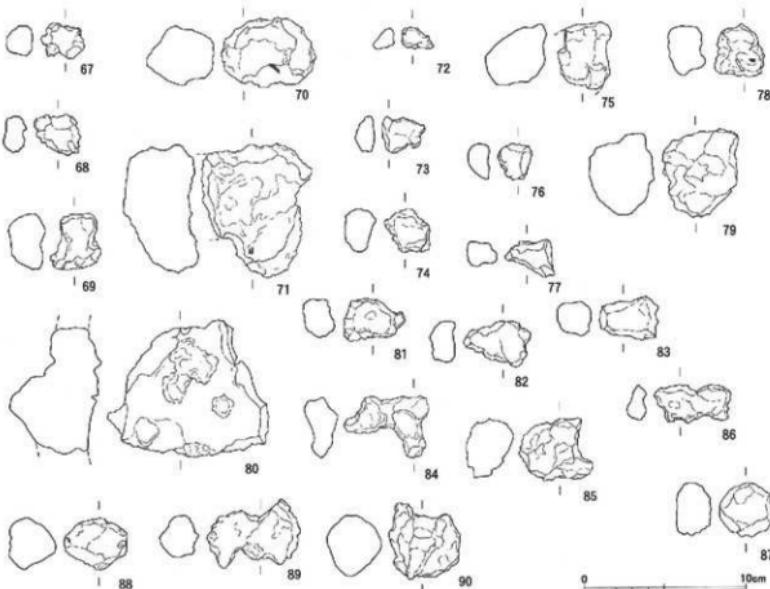
B群流出溝滓（第126図63～66） 63～66は精錬鍛冶炉の流出溝の形状を残していると考えられる滓である。63と64は幅が狭いものであり、63は緻密で下面には粉炭痕が全面に見られ流出孔滓的なものであり、64は下面と手前側部に別単位の滓が重層している。67と68は表面が紫紅色で外観も良く似た幅広の滓である。

B群鍛冶滓（含鉄）（第127図67～90） 67～90は金属部分が含まれた全体的に小形の鍛冶滓である。これらのメタル度は67～71が鋳化（△）、72～75がH（○）、76～80がM（◎）、81～85がL（●）、86～90が特L（☆）である。

鋳化（△）（67～71） 67と69は塊状のもので、68はやや扁平な形状のもので木炭痕が確認される。70と71はやや大振りなもので71は内部に木炭痕が見られ炉内滓的な外観である。

H（○）（72～75） 72～75は小塊状の滓である。73は小さな椀形のもので、75は上面が半流动状のものである。

M（◎）（76～80） 76、77は小塊状の滓で、78は下面が皿状の滓である。79は椀形滓様の滓で上面に粘土質の滓が固着しており、80は大型の流动滓片様の滓で下面是凹凸が著しく製鍊系の流动滓の可能性も考えられる。



第127図 西区製鉄関連遺物実測図7 (S = 1 / 3)

L (●) (81~85) 81と82は小形の扁平な滓であり、84はねじれたような形状のもので下面の凹部は木炭痕の可能性が考えられる。

特L (☆) (86~90) 86は薄手で船底状の外觀の滓で、87はボタン状の外觀のものである。88は比重が高い塊状の滓で、89は上面が波状で一部に木炭をかみ込んでいる。90は上面中央部が突出した異形のもので、上面は流動状の滓部である。

B群鍛冶鉄塊系遺物 (第128図91~95) 91~95はメタル度が特L (☆) の鍛冶系の鉄塊系遺物である。91~93は小形のもので、91は左右に反り返り滓部の無いもの、92は扁平な板状の形状で上面に木炭痕のあるもの、93は椀形で比重が高いものである。

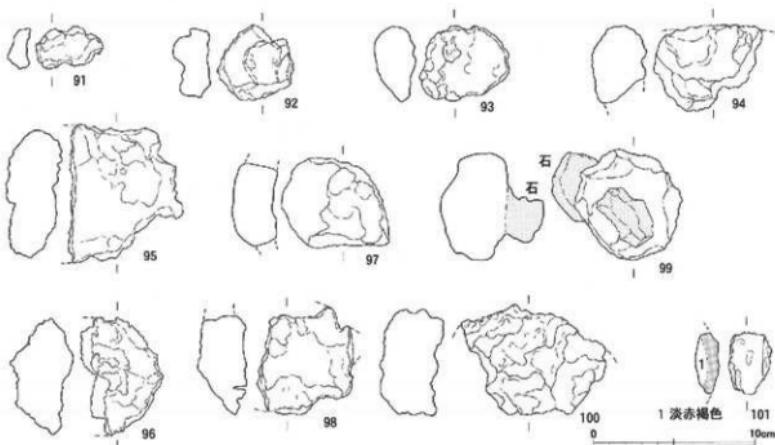
94、95はやや大きめの椀形のもので、94の上面は波状で下面は楕円状、95は比重が高いものである。

B群椀形鍛冶滓 (小) (第128図96~100) 96~100は径が7cm前後的小振りな椀形鍛冶滓である。96は右側部片であり上面は緩やかな山形のもので、97は上面が下面と同様緩やかな椀形で下面には粘土質の滓が固着している。98は肩部が波状にうねり下面には粉炭痕が見られる。99は炉壁片や石が固着したもので、100は上下面に木炭痕が密着し内部にも木炭痕が見られる。

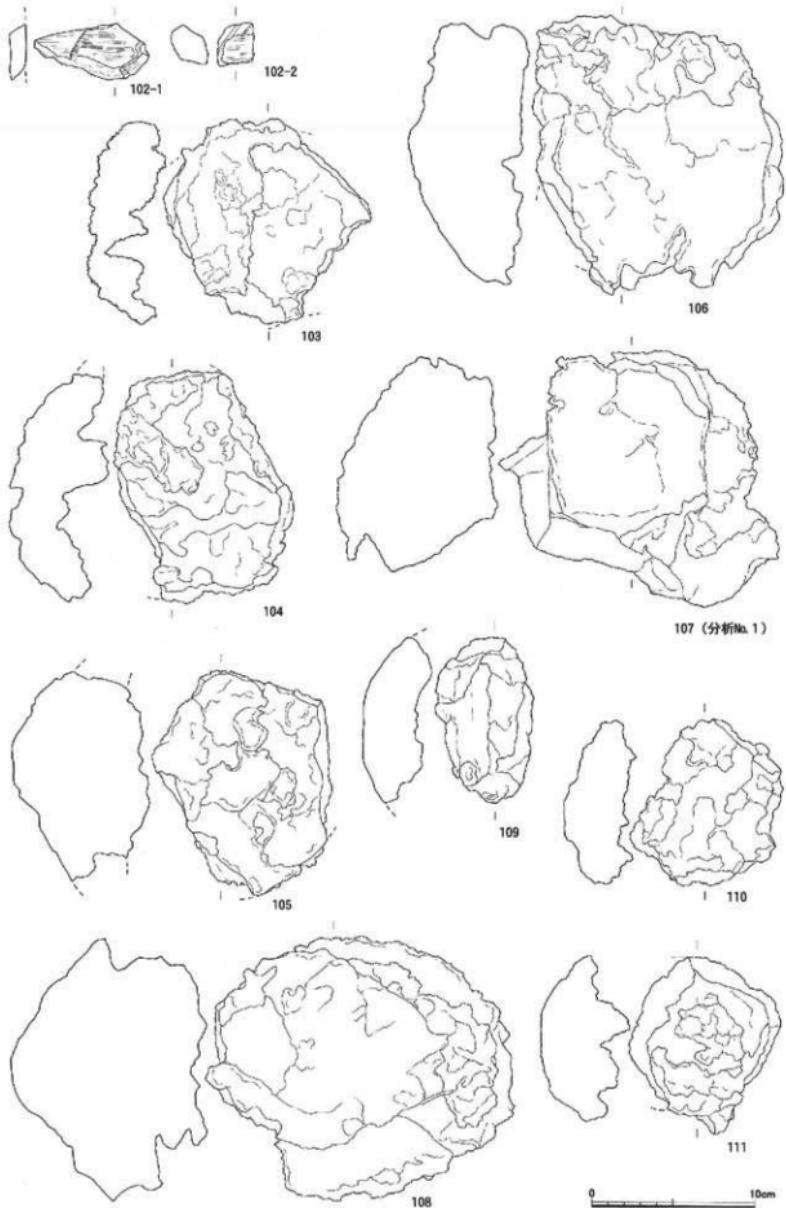
B群羽口 (第128図101) 101は羽口の小片である。表層は黒色ガラス質に漬化しており胎土は軟質で砂粒を若干混和している。通風孔部が欠落した羽口先端片と思われる。

C群木炭 (第129図102~1・2) 102は建物跡の覆土及びピットから出土しており、近世頃の鍛冶炉に関連する可能性がある黒炭である。-1は木取りが平割りのもので右側部に工具痕が見られる。-2は松の可能性がある軟質なものである。

C群椀形鍛冶滓 (大) (第129図103~106) 103~106は幅が13cm~17cm程の大型の椀形鍛冶滓であり、B群のものと比較すると、色調が赤黒く密度が低いスカスカの印象がもたれる外觀の滓である。



第128図 西区製鉄関連遺物実測図8 (S = 1 / 3)



第129図 西区製鉄関連遺物実測図9 (S = 1 / 3)

103と104は上面の凹凸が著しい滓で扁平なものである。103は下面に光沢のある鍛造剥片が多量に付着し粒状の滓できかかっている。104も下面に鍛造剥片が付着しやや大きめの木炭痕も見られる。105と106は厚手で上面は103や104ほど凹凸は見られない。105は上層以外の部分は滓が緻密であり、106は下面に多量の鍛造剥片が固着し木炭痕も密集している。

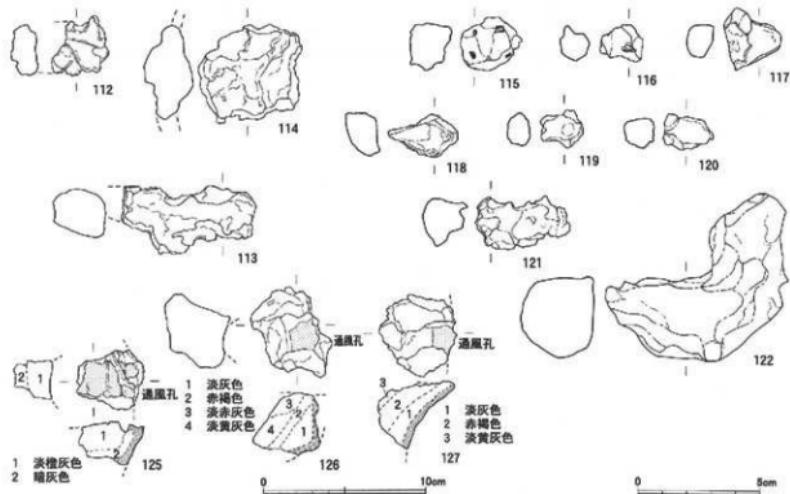
C群楕形鐵治滓（二段）（第129図107、108） 107、108は幅16cm程の大型の楕形鐵治滓が2段に重なっている滓で、両者とも上面に扁平で一回り小さい滓が見られる。107は分析資料で下面の木炭痕の凹み部分に光沢をもった鍛造剥片が多量に固着する。108はほぼ完形の滓で上面の滓は流動状で下面の滓は全体的にガサガサしており質感が異なっている。

C群楕形鐵治滓（中）（第129図109～111） 109～111は幅10cm程の中型の楕形鐵治滓である。109は緻密な滓で上面は破面である。110は完形の滓で上下面に木炭痕が見られる。111はガサガサした質感の滓で上面の凹凸が著しく下面には鍛造剥片が固着している。

C群鐵冶滓（第130図112～114） 112～114は小振りな鐵冶滓であり、112は上面に光沢を持つもの、113は半流動状でやや緻密なもの、114は扁平で上面の凹凸が著しい滓である。

C群鐵冶滓（含鉄）（第130図115～122） 115～122は金属部分が含まれた小形の滓である。これらのメタル度は115が鋳成（△）、116～118がH（○）、119と120がM（◎）、121と122がL（●）である。またこれらの大部分は炭土坑（第94図）から出土しているものである。

C群羽口（第130図125～127） 125～127は羽口の先端部の破片であり、通風孔部の壁が残っている。125は通風孔部に横方向の擦痕が残り明褐色の胎土である。126の先端部は発泡気味の部分と滓化部分の両方が見られ胎土は明褐色から赤褐色である。127の先端部は強く溶解しており胎土はスサが混じる粗い粘土質のものである。



第130図 西区製鐵関連遺物実測図10 (S = 1/3 · 1/2)

第6章 まとめ

最後にこの章で、板屋Ⅲ遺跡の西側調査区で検出された遺構や遺物を中心にまとめて結びとした。また記述にあたっては、第3色土層、第2色土層、第1色土層の各土層ごとに古い方から順に述べていきたい。

第1節 第3黑色土層の調査成果

第3黑色土層からは縄文時代早期に位置付けられる集石遺構を検出し、また黑色土層上部を中心早期から前期にかけての土器と石器が出土している。本節では土器の分類とその時期を中心に述べる。

1. 出土土器について（第131図）

出土した土器は大きく8類に分けられるものであった。1類（第46図1、2）はネガティブな梢円文が施される押型文土器である。これらは神宮寺式に並行し早期前半と考えられる。

2類（第44図1～3）は集石遺構の下部から出土した山形文が帯状に施された押型文土器である。これは神並上層式と対島式の間と考えられており²²早期後半～末に位置づけられる。

3類（第46図13）は1点だけ出土しており、「3」字状の刺突文が連続して施されているもの羽島下層Ⅱ式に並行するものとみられ、前期前半頃のものと思われる。

4類（第46図1～8）は外面にいわゆるミミズ腫れの細隆帯が付くものである。第46図の8は断面三角形の隆帯にキザミが入る異形のものであるが、この類型と関連が深いものと思われる。これらは藤B式に並行するものと見られ、前期前半頃²³に比定される。

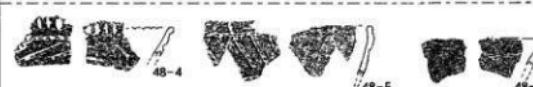
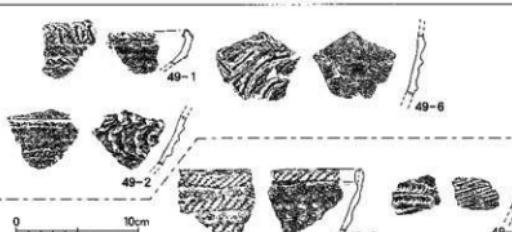
5類（第47図1～11）は条痕地で爪形文が施されているものである。爪形文は間隔が広いもの（4）と狭いもの（8）の2つに細分も可能なものである。また9のように半裁竹管状工具で押し引いて文様を付けるものも関連が深いものと考えられる。これらは羽島下層Ⅲ式に並行すると思われ、前期中葉頃に位置づけられる。なお、一次調査では縄文地で爪形文が施される土器が出土しているが、今回の調査では確実に縄文地であると判断されるものは出土しなかった。

6類（第46図9～12）は平行する短線が施されている土器である。これらは曾畠式と関連が深いものと思われ前期後半頃のものと考えられる。

7類（第48図）は条痕地で口縁部に刺突・押し引き文が施される一群である。これらはヘラ状工具による押引文（1、5）、半裁竹管状工具による押引文（4、5、15）、刺突文のみ（10、12）の3つに細分できるものである。この7類は月崎下層式や彦崎Z式に比定され前期後葉と考えられる。

8類は（第49図1～10）はキャリバー状の口縁で縄文地に貼り付けた突起上を半裁竹管状工具で押し引く土器である。さらに内面に指頭圧痕が顕著に見られるのも特徴である。また9と10はやや異なるものであるが、この類型の土器と関連が深いものと推測した。これらの土器は里木1式に並行すると思われ前期後葉頃に位置づけられる。

以上述べてきたように第3色土層からは早期前半から前期後葉に位置付けられる土器が含まれていることが確認された。またこの成果は、これまで実施された志津見周辺の遺跡の成果と矛盾ないものであることも追認された。

類型	特徴	実測図	関連型式	時期
1 類	押型文土器 ネガティブな横円文	 46-1 46-2	神宮寺式	早期前半
2 類	山形文が帶状施文	 44-3 44-2	神並上層式と 黄鳥式の中間	早期後半～末
3 類	「3」字状の 網文の連続施文	 46-13	羽島下層Ⅱ式	前期前葉
4 類	外壁に細縫起脊文 (いわゆるミニ ズベル次の跡等)	 46-3 46-4 46-5 46-6	轟B式	前期前半
5 類	地文は底面で爪印 文(半截竹管状工具 による押引文含む)	 47-4 47-8 47-9	羽島下層Ⅲ式 ～轟／轟式	前期中葉
6 類	短沈縫文	 46-9 46-10 46-11	轟式	前期後半
7 類	地文は底面で押し 引き沈縫文が施さ れる。口縁部には刺文 文。 ・ヘラ状工具によ る押し引き沈縫文 ・半截竹管状工具に よる押引文	 48-1 48-3		前期
	・新文のみ	 48-4 48-5 48-15	月崎下層式	後葉
		 48-10 48-12		
8 類	地文は羅文で粘竹 管等上に半截竹管状 工具による押引文。 口縁端部内面に羅 文、内面に指頭圧痕 が残る。	 49-1 49-6 49-2 49-9 49-10	里木I式	前期後葉

第131図 第3黒色土層出土縄文土器一覧 (S = 1 / 4)

第2節 第2黒色土層の調査成果

第2黒色土層からは縄文時代前期末頃の落し穴（SK05）を検出し、その覆土中から块状耳飾が2点出土している。また黒色土層上部を中心に前期末～後期中葉にかけての土器と石器が出土している。本節では特徴的な遺物である块状耳飾と土器の時期を中心に述べる。

1. 出土块状耳飾について

板屋Ⅲ遺跡では、SK05（第2黒色土層の調査）から2点と第1色土層から1点の合計3点出土している。これらについてここでは県内出土の块状耳飾も同時に概観して整理しておきたい。

（1）板屋Ⅲ遺跡出土の块状耳飾の特徴と時期

第2黒色土層で検出したSK05出土の2点（第55図13、14）は大歳山式に並行する土器が伴っているので縄文時代前期末の時期が推測される。2点とも細長いヘラ状のもので復元される長さは10.8cmと全国的に見ても非常に細長い形状で橈口分類のA類に相当するものと考えられる。

一方で第1黒色土層出土の1点（第111図15）は小形で横長の半円形の耳飾であり橈口分類のF類に相当すると思われ、第2黒色土層出土の2点とは異なる形状のものである。この耳飾の時期は包含層出土であり詳細には分からぬが、包含層の時期から後期中葉～晩期の時期が推測される。

（2）県内出土の块状耳飾について

完全ではないが県内出土の块状耳飾を集めたものが第7表²⁴⁾である。これらの中には時期が不明なものがあり細かな検討が難しいので、ここでは分布や時期等を概観するに留めたい。

块状耳飾の中で最も多く出土している形状のものは橈口分類のF類である。この形状のものは、隱岐、島根県東部の海岸部、山間部の各所で見られる。またこの形状の耳飾の時期は板屋Ⅲ遺跡や家の後II遺跡の様相から後期を中心とした時期が現状では考えられ、他のA類、C類より後出する形状の耳飾であるのかもしれない。C類は佐太講武貞塚遺跡や新横原遺跡の様相から現状では前期を中心とした時期が考えられる。A類、B類、E類については各1遺跡から出土しているだけであり、時期的な位置づけは資料的に無理があるが、A類は前期末を中心とした時期が考えられ、E類は形状が類似したF類と似たような時期が考えられる。

以上述べてきたことをまとめると、块状耳飾は前期を中心とするC類があり、前期末頃には縦に

第7表 島根県内出土の块状耳飾一覧

番号	道路名	所 在	出土遺構	形 状	橈口分類	長さ(cm)	時 期	備 考
1	板屋Ⅲ遺跡	飯石郡飯野町 板屋Ⅲ遺跡	第2黒色土層	左とし六 下方に長く垂 れる	A類	9.3以上	前期末	第55図13、補修孔
2	板屋Ⅲ遺跡	飯石郡飯野町 板屋Ⅲ遺跡	第2黒色土層	左とし六 下方に長く垂 れる	A類	5.6以上	前期末	第55図14
3	板屋Ⅲ遺跡	飯石郡飯野町 吉澤	包含層（第1色土層）	横長の半円形	F類	1.67	後期中葉～ 晩期	第111図15
4	家の後II遺跡	大原郡木次町 北原	1区旧河道	横長の半円形	F類	3.6	後期	補修孔、二次加工 か？
5	家の後II遺跡	大原郡木次町 北原	1区包含層	横長の半円形	F類	3.1	後期？	切れ口が違ひ
6	道ノ内溝跡	大原郡木次町 北原	包含層	やや横長の方 角	B類	—	中期～晩期	
7	サルガ桑岡塙遺跡	八束町 美深町	包含層	橈口の半円形 横丸	D類	—	不明	補修孔
8	佐太講武貝塚遺跡	八束郡宍道町 神生	包含層	円形	C類	4.95	前期か？	補修孔
9	恵良遺跡	江津市二日町 神生	包含層	破片	—	—	不明	縄文時代の可能 性あり
10	新横原遺跡	宍道郡見附町	表抹	やや方形に近 い内部	C類	4.4	不明	補修孔？
11	岩井津（岩沼）遺跡	隱岐郡西郷町 妻探	—	三角形に近い 形に複数	E類	2.7	不明	
12	郡山溝跡	隱岐郡海士町 妻探	—	方形に近い 形に後元か？	E類？	3.7	不明	補修孔
13	郡山道路	隱岐郡海上町	—	横長の半円形	F類	—	不明	
14	郡山溝跡	隱岐郡海士町 妻探	—	横長の半円形 横丸	F類	—	不明	

長い形状のA類が出現し、F類が後期を中心として存在する可能性が現状の資料では考えられる。

2. 出土土器について（第132図）

出土した土器は大きく5類に分けられるものであった。1類（第58図1～14）は地文が縄文で突帯上を半裁竹管状工具で押し引くものである。そして口縁端部内面には縄文が付され、口縁部はキャリバー状のもの（1、2）と直線的でキザミが入れられるもの（6）の2種類に細分される可能性がある。また、突帯上の押し引きも間隔が細かいもの（1、2）と間隔が広いもの（6）が存在する。これらは6のように押し引きの間隔が広いものが単木I式の可能性もあるが、おおむね大歳山式に並行すると考えられ前期末と推測される。

2類（第58図11～14）は原体の太い縄文地の土器である。これらは船元I式～II式に並行するものと思われ中期前葉に位置づけられる。

3類（第58図16～19）は縦帶文土器であり、肥厚した口縁端部外面に縄文を付す16や太い沈縄文が施された18が存在する。またこれらに伴う浅鉢として胸部屈曲部に刺突を施すもの（19）が考え

類型	特徴	実測図	開邊型式	時期
1類	地文は縄文で貼付突帯上に半裁竹管状工具による押し引文。口縁端部内面に縄文。		大歳山式	前期末
2類	原体の太い縄文地の土器		船元I式～II式	中期前半
3類	縦帶文土器 太い沈縄文		布勢式 崎ヶ森式	後期前葉
4類	沈縄文で区画された被杉状の沈縄文。		—	—
5類	大きな原体による押し引文（内面に押し引きが反映されて底らむものあり。）		月崎下層式	（前期末か？）

第132図 第2黒色土層出土縄文土器一覧 (S = 1 / 4)

られる。なお本来は細分可能であると思われるが出土点数が少ないと一括している。これらの縁帯文土器は布勢式又は崎ヶ鼻式に比定され後期前葉に位置づけられる。

4類（第58図15）は1点だけ出土しているので、沈線文で区画された綾杉状の沈線文が施された土器である。当初邑智郡瑞穂町郷路橋遺跡の土坑（SK26）から出土している土器²⁵と類似したものと考えて磨消綱文土器に属する可能性を想定していた。しかし、非常に良く似た土器が板屋Ⅲ遺跡の一次調査では第3黒色土層から出土しており、下層のものが混入した可能性も考えられ、時期については保留しておきたい。

5類（第59図1～5）は大きな原体による押引文が見られる土器であり、内面に押し引きが反映され膨らむもの（2）もある。また、口縁部に刺突が施される土器（1、5）も関連が深いものと推測される。これらは月崎下層式に比定されるものである。しかし、前節で述べた第3黒色土層出土の土器にも月崎下層式に比定される一群（第131図7類）が存在していることから、本来第3黒色土層に伴う土器が混入している可能性が考えられる。

ただ、第3黒色土層で7類に分類した一群と比較すると原体の太さが異なっている。さらに月崎下層式の細分²⁶によると、ある程度の時期幅が存在し大きな原体のものは新しい様相の土器である。これらの理由から、第2黒色土層で出土する一群は月崎下層式の新しい段階のもの、第3黒色土層出土の一群は月崎下層式の古い段階のものと理解することも可能である。

この5類の位置づけについては、結論として今回は保留し、今後の類例の増加によって再検討されることを期待する。

以上述べてきたように第2黒色土層には前期末には後期中葉に位置付けられる土器が含まれている。この様相はこれまで実施された志津見周辺の遺跡の調査成果と矛盾はない。

第3節 第1黒色土層の調査成果（縄文時代）

この節では、第1黒色土層から出土している縄文土器について述べ、黒色土層から多数出土した弥生土器と弥生時代の堅穴住居跡については後節で述べることとする。

1. 出土縄文土器について（第133図）

第1黒色土層から出土した縄文土器は非常に少ないが、大きく4類に分けられるものであった。

1類（第99図3、4）は口縁部内面に沈線文が施されるもので、外面に沈線が施されるものも関連が深いものと考えた。これらは岩田4類に近いものと推測され後期末頃のものと考えられる。

2類（第99図1）は口縁が緩く外反するもので、おそらく屈曲する頸部をもつものである。これは篠原式古段階に相当する可能性が考えられ、晩期中葉に比定される。

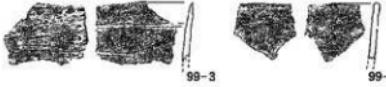
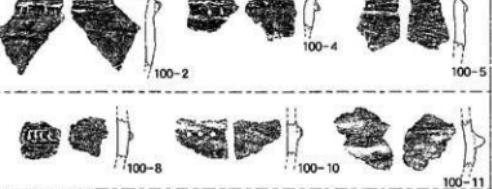
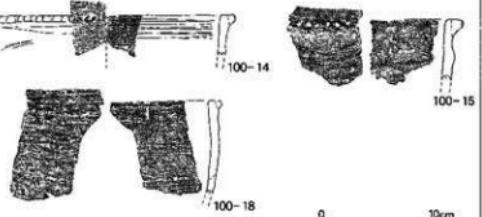
3類（第99図7）は浅鉢であり、外反する長い口縁部を持ち内外面にミガキが見られる精製土器である。これは谷尻式に類するものと思われ晩期中葉に位置づけられる。

4類（第100図1～19）は突帯文土器である。これらは突帯の貼り付けられている位置によって大きく3つに分けられる。それは口縁部から若干下がった位置に付く一群（A類：2、4、5）、胴部に突帯が付く一群（B類：8、10、11）、口縁端部に接して大きめの突帯が付く一群（C類：14、15、18）の3群である。このうちB類とした胴部に突帯が付く一群は、4A類の口縁部の胴部である可能性が考えられる。またそれぞれの突帯を細かく見るとキザミがあるもの、無いもの、竹管状工具で刺突が施されるもの、といったように突帯にもいくつか種類が存在する。

これらの突帯文土器の時期は4A・B類が沢田式に並行する可能性があり、晩期後葉頃と思われる。そして4C類は突帯文土器の終末段階と考えられ晩期後葉～末頃に位置づけられるものであろう。

なお4類とした突帯文土器について第1次調査で出土したものと比較すると、2次調査で出土している口縁端部にキザミをもった突帯文土器（前池式に近い一群）は今回出土していない。また4C類とした突帯文土器は一次調査でも出土しているが、キザミや刺穴のある突帯が貼り付けられたものが今回の調査で新たに出土している。

以上述べてきたように第1黑色土層からは後期末から晩期後葉に相当する土器が包含されていることが確認され、この様相は周辺地域の調査成果と矛盾がないものであった。

類型	特徴	実測図	関連型式	時期
1類	口縁部内面に縄文 (外面に沈線文の土器含む)		岩田4類?	後期末
2類	屈曲する頸部を持ち口縁部が外反する		福原式古設陶?	晩期中葉
3類	肩部が張り、口縁部が長く外反する (無文精製浅体)		谷尻式?	晩期中葉
4類	突帯文土器 ・口縁端部よりやや下がった位置に突帯が付く。 ・腹部に突帯が付く		沢田式	晩期
	・口縁端部に捨する ように突帯が付く			後葉
				5末

第133図 第1黑色土層出土縄文土器一覧 (S = 1 / 4)

第4節 繩文時代の調査成果について

この節では、第3黒色土層～第1黒色土層の調査で出土している縄文時代の土器と石器について数量的な面から検討して縄文時代の調査成果のまとめとしておきたい。

1. 出土した縄文土器の破片数について（第14表～16表参照）

第1黒色土層～第3黒色土層で出土している縄文土器の破片数は1,834片であり、これらの内訳は第3黒色土層1,277片、第2黒色土層366片、第1黒色土層191片であった。この破片数を見ると第3黒色土層が圧倒的に多いと指摘することができる。ただし、各黒色土層の縄文時代の中での期間を検討すれば大雑把であるが第3黒色土層が5千年程、第2黒色土層と第1黒色土層が千年程であり、その期間を踏まえると第3黒色土層出土の縄文土器が多いことは当然と考えることができる。

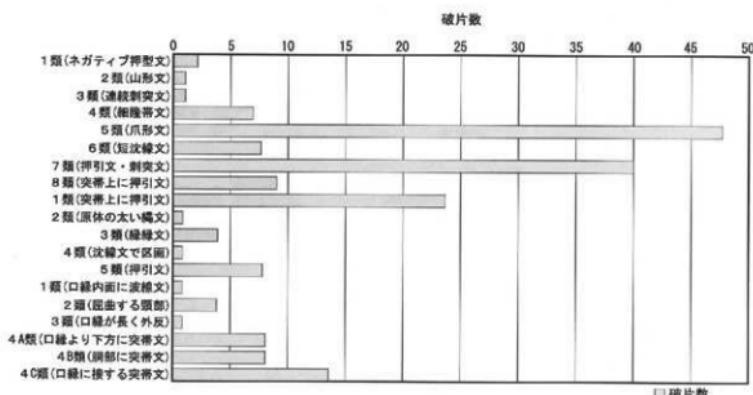
2. 各類型ごとの出土破片数（第134図）

出土した縄文土器片の分類については既に述べてきたとおりであるが、ここではその各類型の破片数について検討したい。ただし分類した類型にもさらに細分可能なものもあったり、それぞれの類型の想定される時期幅が異なっている可能性が十分にあり、単純に比較することは危険であるので、大まかな遺跡の様相を捉える程度の検討に留めておきたい。

各類型ごとの破片数をグラフとして表したもののが第134図である。このグラフの作成にあたっては基本的に文様等の特徴が分かり、どの類型に所属するのか判断されるものを対照にしており、条痕だけの破片は含めていない。また、縄文が施された破片で、ある程度所属する類型が想定されるものもあえて含まないことにした。

第134図のグラフを見ると類型によって破片数の多少があることが分かる。類型で突出して多いものは第3黒色土層の5類（前期中葉）、7類（前期後葉）と第2黒色土層の1類（前期末）である。このことから出土した上器で類型が分かる破片は前期中葉～末に集中していると言える。また早期～前期前半、中期～晩期中葉に属している破片は非常に少なく、晩期後葉の突帯文土器の時期にある程度増えている点も指摘される。

以上述べたことから、今回調査した板屋Ⅲ遺跡の西側調査区では、早期～晩期にかけての各時



第134図 各類型の縄文土器の破片数

期の土器が出土しているが、その中心は前期中葉～前期末であることが土器破片数から指摘される。

なお、本来は今回の調査成果と第一次調査の成果を加えて遺跡全体の様相を明らかにする必要があったが、時間的に検討ができなかったことが課題として残った。

3. 三瓶山火山灰と縄文時代遺跡の関係（第8表）

今回の調査成果と三瓶山の火山灰との関係を周辺地域の遺跡も含めてまとめたものが第8表²⁷である。この表からも分かるように板屋Ⅲ遺跡の一次調査と比較すると火山灰との関係は矛盾がないものである。また土器型式から見ると、基本的に一次調査から出土しているものと変わらず、今回の調査で新たに早期の神宮寺式並行の押型文土器が出土していることが異なるのみである。

火山灰の降下と土器形式の関係を見ると、既に指摘されているように第1ハイカ層は、その下層（第2黒色土層）で彦崎K1式並行の土器が出土し、上層（第1黒色土層）で四元式並行の土器が出土していることから後期中葉に降下した可能性が高いものと考えられる。第2ハイカ層はその下層（第3黒色土層）から里木1式並行の土器が出土し、上層から大歳山式並行の土器が出土していることから前期末頃に降下したものと考えられる。ただ、第2ハイカ層については、上層から大歳

第8表 三瓶火山灰と縄文時代遺跡の関係

時 期	板屋Ⅲ		五 明 田	森	下 山	門	小 丸	神 原	貝 谷	櫻 原	茶 屋 谷	三 田 谷	矢 野		
	一次調査	西側													
晚 期	沢 前 谷 篠 滋 滋	田 池 尻 原 質 質 里 里 a II	●	○	●	●	●	●	●	●			●	第1 黒色 土層	
	滋 福 彦 彦 四	里 田 崎 K 元	●	●	●	●	●	●	●	●					
	彦 福 中 里 船 船 船 船	K K II 津 木 元 元 元 元	●	●	●	●	●	●	●	●					
	大	歲 山	●	○											
	第1ハイカ層（三瓶太平山火山灰）														
	彦 福 中 里 船 船 船 船	K K II 津 木 元 元 元 元	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
中 期	大	歲 山	●	○										第2 黒色 上層	
	第2ハイカ層（三瓶角井陣下火山灰）														
	里 彦 磯 羽 羽	木 崎 ノ 鳥 島	I Z I 下 層 III	●	○										
	大	歲 山	●	○											
	アカホヤ火山灰														
	早 期	雄 穗 高 黄 帶 神 草	土 器 谷 寺 宮 創 法 灌	b	●									第3 黒色 土層	
草創期															

山式並行の土器が出土している遺跡が板屋Ⅲ遺跡の1例のみであることから、今後の周辺遺跡の類例が待たれる。なお、三瓶火山灰と黒色土層の放射性炭素年代測定値を第9表²⁸に掲げている。ちなみに今回の調査では第4黒色土層下部の最も黒色の部分を測定している。この表を見ると各層位で矛盾が殆ど見られないが、第3黒色土層の調査で検出した遺構試料の測定値が矛盾している点がやや問題であり、今後のさらなる検討が必要と思われる。

4. 出土石器の組成について（第10表、第135図）

西側調査区で出土した石器をまとめたものが第10表と第135図である。これらを教賀敬一郎氏の研究²⁹を採用してその機能・用途別に大きく7つに分類した。その内訳はI類が狩猟具（石鉄、尖頭器）、II類が漁撈具（石錐）、III類が植物質食料加工工具（石皿・台石類、磨石・敲石類、凹石）、IV類が処理加工工具（スクレーパー類、石匙、石包丁状石器）、V類が伐採加工工具（磨製石斧）、VI類が土掘り具（打製石斧）、VII類が工具（楔形石器、石錐、砥石）である。

この7つに大きく分類した石器の各黒色土の様相について見てみると、第3黒色土層で圧倒的にII類の石錐が多く、次にIII類の磨石類、石皿類が見られる。第2黒色土層でも様相は第3黒色土層と変わらずII類が圧倒的に多く、次にIII類が多い。第1黒色土層では、これまで圧倒的に多かったII類の石錐が激減し、III類の磨石類、石皿類が最も多くなる。またVI類の打製石斧が若干ではあるが見られるようになる。なお、第1黒色土層から出土している石器の中には弥生時代に属する石器も含まれている可能性が存在している。

さて、この西側調査区の石器の様相を一次調査の石器の様相を加えると、第3黒色土層・第2黒色土層ではII類の石錐が最も多く、次にIII類の磨石・石皿類が多い。その一方で第1黒色土層ではII類の石錐が激減し、III類の磨石・石皿類が最も多くなっており、大きな変化が見られる点が特徴的である。この石錐の急激な減少がそのまま漁撈の生産活動の中で割合の減少を意味しているかは、より詳細な検討が必要であるが注目される点である。

5. 石器の石材について

石器の石材については、サヌカイト製の石器と黒曜石の比率が第3黒色土層と第2・第1黒色土層では大きく異なる点が既に下山遺跡の調査や板屋Ⅲ遺跡の一次調査で指摘されている。今

第9表 三瓶山火山灰と黒色土層の放射性炭素による年代測定値一覧

層位	放射性炭素年代測定値 (yBP: 下段の数字は補正年代、網掛けは追拂による測定)					
第1黒色土層						
第1ハイカ層 (三瓶太平山降下火山灰層)	3600±75 (補正値なし)	3530±100 (補正値なし)	3710±100 (補正値なし)	3710±130 (補正値なし)	3740±50 (3740±50)	
第2黒色土層	3680±90 (補正値なし)	3740±170 (補正値なし)	3800±50 (3810±50)	3590±40 (3590±40)	3710±50 (3710±50)	3580±60 (3570±60)
第2ハイカ層 (三瓶角井降下火山灰層)	4780±100 (補正値なし)					
第3黒色土層 (浮布黒色土層)	5670±70 (5730±70)	4710±120 (補正値なし)	4710±160 (補正値なし)	4330±140 (補正値なし)	4750±70 (補正値なし)	
	6520±60 (6560±60)					
	8960±70 (9050±70)					
第3ハイカ層						
第4黒色土層	9570±240 (補正値なし)	9900±200 (補正値なし)	10880±70 (10970±70)	10760±73 (10830±70)	10980±200 (11050±200)	
三瓶浮布降下火山灰層						

第10表 板屋Ⅲ遺跡出土石器内訳

●第1黒色土・第1ハイカ上面出土石器(西側調査区)

剥片石器		塊石器	
種別	点数	種別	点数
石 盤	5	磨石・斂石類	33
剥 片	55	打製石斧	3
石匙・スクレーパー	1	凹 石	2
		砥	7
		石皿・合石	20
		石 錐	9
小計	61	小計	74
合計(剥片をのぞく)			80

●第3黒色土・第3ハイカ上面出土石器(西側調査区)

剥片石器		塊石器	
種別	点数	種別	点数
剥 片	93	磨石・斂石類	28
石 盤	3	磨製石斧	6
石匙・スクレーパー	1	凹 石	2
		石皿・合石	19
		石 錐	143
小計	97	小計	198
合計(剥片をのぞく)			202

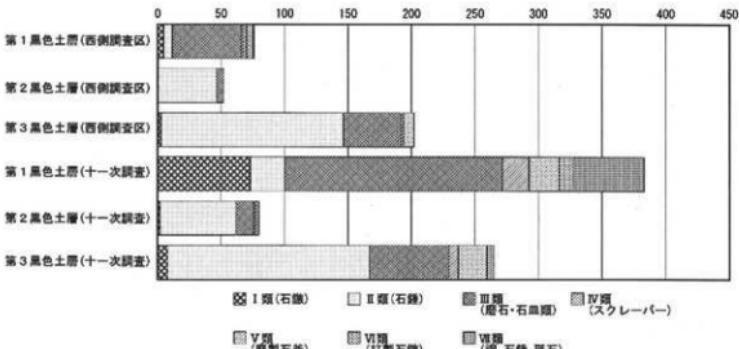
●第2黒色土・第2ハイカ上面出土石器(西側調査区)

剥片石器		塊石器	
種別	点数	種別	点数
剥 片	14	磨石・斂石類	2
		凹 石	1
		石皿・合石	3
		石 錐	46
小計	14	小計	52
合計(剥片をのぞく)			52

●種類別数量(西側調査区)

剥片石器		塊石器	
種別	点数	種別	点数
剥 片	162	磨石・斂石類	63
石 盤	8	砥	7
石匙・スクレーパー	2	磨製石斧	6
		打製石斧	3
		凹 石	5
		石皿・合石	42
		石 錐	198
小計	172	小計	324
合計(剥片をのぞく)			334

	I類(石錐)	II類(石錐)	III類 (磨石・石皿類)	IV類 (スクレーパー)	V類 (磨製石斧)	VI類 (打製石斧)	VII類 (塊・石盤、砥石)
第1黒色土層 (西側調査区)	5	9	55	1	0	3	7
第2黒色土層 (西側調査区)	0	46	6	0	0	0	0
第3黒色土層 (西側調査区)	3	143	49	1	6	0	0
第1黒色土層 (+一次洞査)	77	23	173	18	23	14	54
第2黒色土層 (+一次洞査)	1	62	10	1	0	3	0
第3黒色土層 (+一次洞査)	11	162	61	7	14	0	4



第135図 板屋Ⅲ遺跡石器組成グラフ

この調査では安山岩の自然化学分析を行っていないことからサスカイト製石器を抽出していないことから詳細な検討が十分には行えない。ただ、黒曜石製の石器の内で殆どのものが第3黒色土層で出土していることから、第3黒色土層では黒曜石製の石器の比率が大きく、第2・第1黒色土層ではサスカイト製の石器が多く占めるといったこれまでの指摘と矛盾していないものと考えられる。

さて、黒曜石やサスカイト製の石器以外の石器石材について最後に検討しておきたい。今回の調査で出土した石器の石材についてはその大部分を検討した²⁰⁾。その結果大部分が神戸川上流域周辺で見られる石材であり地元で採れるものを利用していたことが判明した。ただし第3黒色土層出土の磨製石斧（第50図8、9）の2点と棒状の磨石（第50図10）、第1黒色土層出土の打製石斧（第111図1）の4点については他の石材とは異なり、周辺部では見られないものであることから他地域からの原石又は製品の搬入の可能性が考えられた。

第5節 弥生時代の調査成果について

本節では第1黒色土層で検出した弥生時代後期の竪穴住居跡と出土した弥生土器を中心に検討して弥生時代の調査成果のまとめとしたい。

1. 検出した弥生時代の住居跡（第11表、第136図）

今回調査した西側調査区では可能性のあるものを含めて8棟の竪穴住居跡を検出している。さらに第一次調査では立て替えも含めて6棟検出しており、総数で14棟の竪穴住居跡を検出していることとなった。これらはS I 0 2を除いて弥生時代後期に位置づけられる竪穴住居跡であり、弥生時代後期にはある程度の規模を持った集落が存在していたことが判明した。また、S I 0 4は調査区外に広がっており、本来は検出した住居跡以外に数棟まだ存在している可能性が高い。

(1) 住居跡の形態と規模 住居跡の規模を見ると、径4.5m～5.5m程度で床面積が14m²以上のものが大部分であり、突出して大きいものは存在しないが、2号住居跡がやや小形のものであり、さらに主柱穴が2本の他と異なる特徴が見られる。この2号住居跡は規模と構造から考えて他の住居跡とは異なる性格を持っている可能性がある。

住居跡の平面形は、全体が分かることは隅丸方形で確実に円形のものが存在していない点が共通している。また、住居跡の構造は、2号住居跡以外では基本的に1本の主柱のもので、中央には土

第11表 板屋Ⅲ遺跡 弥生時代竪穴住居跡

西側調査区	竪穴住居跡	縦横(m, m)				特徴	出土土器	備考
		長径	短径	深さ	床面積			
西区 S I 0 1	4.7	4.2	0.55	18.5	隅丸方形	4本柱・中央土坑	V類	
西区 S I 0 2	4.4	3.5	0.2	9.8以上	不明	不明	中期か?	
西区 S I 0 3	5.3	3.4	0.3	12.9 (推20.3)	隅丸方形(多角形?)	4本柱・中央土坑?	IV類	
西区 S I 0 4	4	1.6	0.6	4.3以上	隅丸方形	不明	IV類	
西区 S I 0 5	4.4	4.4	0.4	推14.6	隅丸方形	4本柱・中央土坑	IV類	切り合い新
西区 S I 0 6	4.5	3.6	0.3	推14.6	隅丸方形	4本柱・中央土坑	IV類	切り合い中
西区 S I 0 7	?	?	?	—	不明	不明	不明	切り合い古
西区 S I 0 8	3.8	1.8	0.4	5.3以上	不明	不明	V類か?	加工段?
2号竪穴住居跡	4.1	3.7	0.25	12	隅丸方形	2本柱	IV類	
3号竪穴住居跡	4	1.2	0.2	6.0以上	円形又は隅丸形	不明	V類	
8号竪穴住居跡	2.5	?	0.3	推22.0	隅丸形?	4本柱	IV類(古棺)	
11号竪穴住居跡(古)	4.2	4	?	推14.2	隅丸方形	4本柱	V類	立て替え
11号竪穴住居跡(新)	5.2	4.7	0.3	推20.8	隅丸方形	4本柱	V類	立て替え(後)
12号竪穴住居跡	5.6	4.5	0.9	15.3	隅丸方形	4本柱・中央土坑	IV類	

坑が設けられているものが多い。

この隅丸方形で4本柱主柱を持って中央に土坑が設けられている住居跡は、同時期の出雲地方の宍道湖・中海周辺の住居跡と変わらないもので共通している。

(2) 集落構造について 検出された住居跡の位置（第136図）を見てみると大きく4つの群に分けられる。それは北側から11号住居跡・12号住居跡・S I 01・S I 02・S I 04で構成されるA群、S I 05～07・S I 03・S I 08で構成されるB群、2号住居跡・3号住居跡で構成されるC群、8号住居跡で構成されるD群である。これらの住居跡の時期を見ると、各群を構成する住居跡は同じ時期がのものは無く、それぞれ時期が異なっている可能性が推測される。このことは、同時に住居跡が各群に1棟又は2棟程存在している状況が想像される。当時の板屋Ⅲ遺跡内では、同時に住居が2～3棟程で構成された集落編成であったものと思われる。

2. 出土した弥生土器について（第137図）

(1) 壺の口縁形態について 第1黒色土層から出土した土器の大半は弥生時代に属するものであり、大部分が弥生時代後期に位置付けられる土器であった。これらの出土した後期の弥生土器の中で壺については、口縁部形態を基準にして大きく7つに分類し数をカウントして整理した。壺の口縁部の分類は、第3章第5節の包含層出土の弥生土器についての記述部分すでに述べているが、もう一度ここで整理すると1類は口縁部に3～4条の凹線文が施されるものである。

2類は口縁部に平行沈線文が10条前後施されるもので、3類はさらに口縁部が拡張され、より密な平行沈線文が15条以上施されているものである。

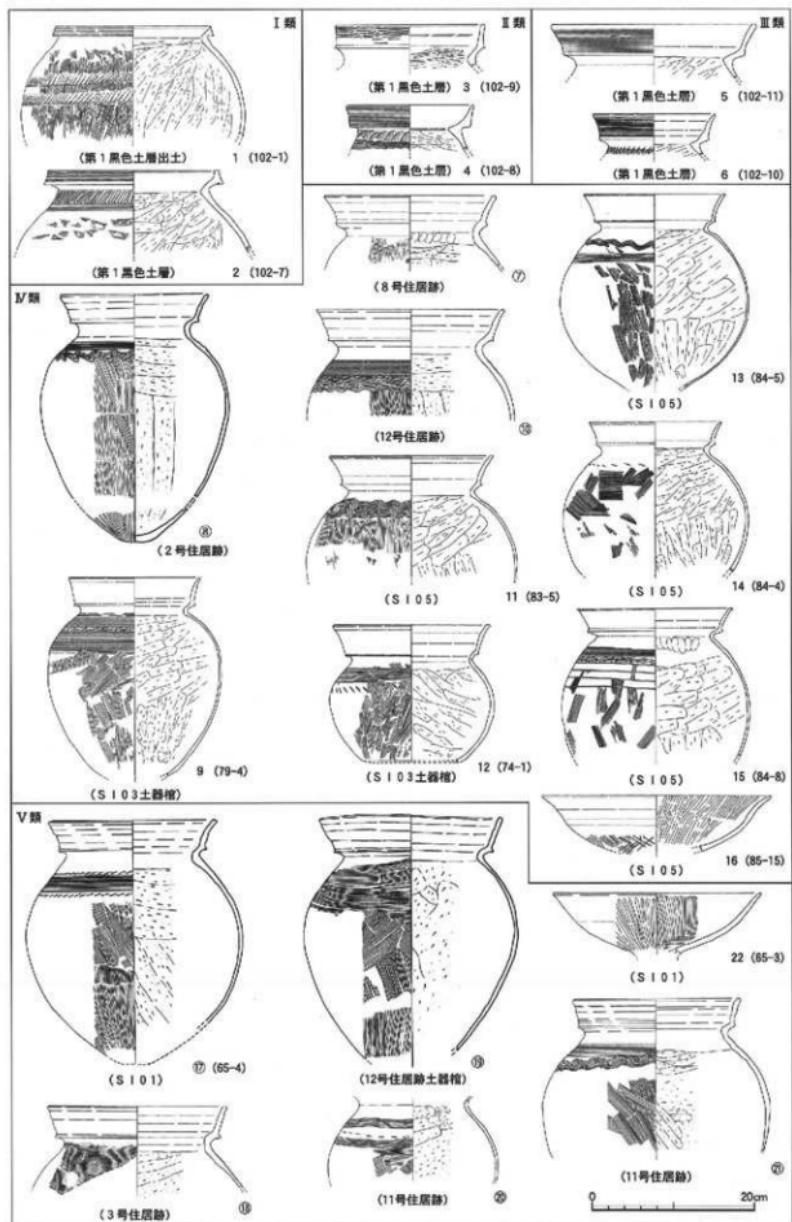
4類は平行沈線文が施されず口縁部立ち上がりの基部が厚く頭部の屈曲がシャープなもので、5類は口縁部の基部の器壁がヨコナデによって器壁が薄いものである。

6類は口縁端部に面を持っているもので、7類は口縁端部に面を持つて内側に若干折れているものである。

以上のように口縁端部を基準に7つに分類し整理していたが、改めて完形に近い壺や一次調査出土品との比較検討を行う中で口縁形態の分類だけでは、問題があると思われたので再度検討を試みたいと考える。



第136図 第1ハイカ層検出遺構全体図 (S = 1/8,000)



第137図 板屋Ⅲ遺跡出土の弥生時代後期の土器 (S = 1 / 6、丸団数字は一次調査出土)

(2) 壺の再分類について（第137図） 板屋Ⅲ遺跡出土の後期に位置づけられる壺の中で、胴部上半～口縁部まで分かれる個体について、検討してⅠ類～Ⅴ類の5つに分類したものが第137図である。この分類では口縁部に沈線文が施されている壺については、当初の口縁部形態のみから分類したものと同じものであるが、口縁部に沈線文が無いヨコナデ仕上げの壺については、大きく2つに分類し直している。また、各類型はこれまでの出雲地方の編年観からⅠ類～Ⅴ類へ変遷しているものと考えられる。以下各分類の内容について説明する。

Ⅰ類（1、2）は拡張した口縁部に3～4条の凹線文が入るもので、口縁部の拡張の幅によってⅠA類（1）とⅠB類（2）に細分される壺である。

Ⅱ類（3、4）はさらに拡張され複合口縁になったものに平行沈線文が10条前後施される壺。

Ⅲ類（5、6）はⅡ類よりも口縁が高く、外反し平行沈線文が15条以上施されている壺。

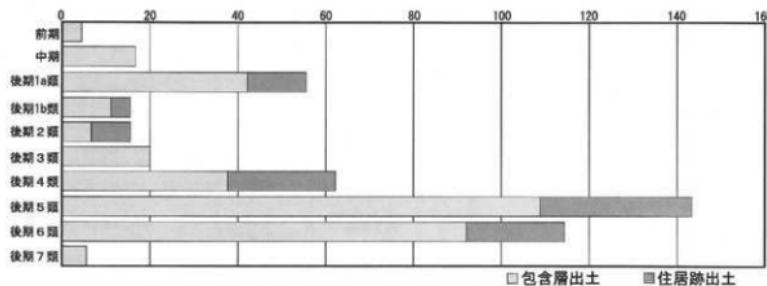
Ⅳ類（7～16）は口縁部に沈線文が無いものであり器壁が薄いもので口縁端部は尖り気味のものが多い。胴部は倒卵形で長いものが多い。ただし、13～15は胴部が球形に近いものであり、このような壺はⅣ類の中でも新しい様相の壺として捉えられる。中でも14と15は口縁部が短くより新しい様相が見られることから細分の余地がある。この類型の肩部の施文を見ると平行沈線文と波状文の組み合わせのものと平行沈線文と刺突文の組み合わせが見られる。なお、この類型とセットになると思われる鉢（12）、高坏（16）も掲載した。

Ⅴ類（17～22）は口縁部の立ち上がりが垂直気味のもので、端部に面を持ち外面の稜は水平方向に突出する個体であり、胴部はⅣ類に比して短くなり球形に近くなる。肩部の施文はⅣ類と同様に平行沈線文と波状文又は刺突文との組み合わせの両者が見られるが、波状文はⅣ類に比して緩やかで乱れたものである。

以上説明してきた各類型について、これまでの出雲地方における研究成果内で鹿島町草田遺跡で行われた編年³¹との並行関係を示すと、大まかなものであるがⅠ類が草田1期、Ⅱ類・Ⅲ類が草田2期～草田3期、Ⅳ類が草田4期～草田5期、Ⅴ類が草田6期におおよそ対応するものと思われる。

3. 弥生土器の統計処理について（第138図）

弥生土器については第17表・19表にも挙げているように、分類によって破片数をカウントして整理している。出土した破片の内である程度内容が分かるものは1120片であり、また破片のうちで端部等の個体数が反映される破片は、前期10片、中期28片、後期398片の合計436片であった。



第138図 弥生土器の個体数（後期の類型は口縁部のみで細分した分類）

第138図は、前期～後期までの破片で、壺や甕の口縁部を対照にしてカウントしたものをグラフで表現したものである。ただし中期については高坏の端部も含めた。

この第138図を見ると分かるように後期に集中しており、それも後期5類・6類と細分した甕が多数を占めていることが分かる。また1a類とした甕もやや多いがこの類型には中期末頃のものも含まれている可能性があり、実際は中期末～後期前葉にかけての土器が比較的多く出土していることになると解釈した方が妥当かもしれない。

出土した土器の数量的な面からみれば、板屋Ⅲ遺跡（西側調査区）では弥生時代中期末～後期前葉頃に1つピークがあり、中心的な時期は後期後葉～末にかけての時期と考えられる。この結果は、住居跡の中心的な時期と矛盾するものではなく一致している。

第6節 製鉄関連遺構と遺物について

今回の板屋Ⅲ遺跡（西側調査区）の調査では、近世の掘立柱建物跡に付設された鍛冶炉を1基検出している。一次調査では第12表に整理しているように古代末頃～中世にかけての製鉄炉、精錬鍛冶炉を検出しており、今回の発見によって新たに近世の製鉄関連遺構を加えることとなり、各時代に鉄関連の生産活動が盛んであったことが明らかになった。また、遺構は検出しなかったが古代～中世の製鉄炉及び精錬鍛冶炉に伴うと推測される製鉄関連遺物が出土している。本節では新たに検出した近世の鍛冶炉と出土した製鉄関連遺物について整理しておきたい。

1. 検出した近世の鍛冶炉（第13表）

検出した鍛冶炉は径60cm程の規模のものであり、分析結果を踏まえると精錬鍛冶～鍛錬鍛冶を行っていたことが判明した。また想定される原料の砂鉄に含まれるチタン量が8%程度と想定されることから、周辺部の製錬炉で生成された素材を基に鍛冶を行っていたものと推測される。

今回検出した鍛冶炉の特徴は単独で存在し、鍛冶炉や製鉄炉等の関連施設が近接していない点である。これまで見つかっている近世の鍛冶炉は、獅子谷遺跡³²や中原遺跡³³で検出されており、数基がセットになる大規模ないわゆる「近世人鍛冶場」である。これら大規模なもの比較すると今回検出のものは、一般集落の中に存在して鍛冶を行っていた場で専業的な性格をあまり持たないものと考えられる。

第12表 板屋Ⅲ遺跡検出の製鉄関連遺構

調査区	遺構名	内 容	規 様	時 期	測定年代値 ^上 _下 : °C 年代 熱残留ガス年代
西側 調査区	掘立柱建物跡 付設鍛冶炉	詳細不明であるが 円形	径60cm程	近世 (18世紀以前)	—
	1号製鉄炉	隅丸長方形の箱形 炉	及さ2.1m×幅1.0m×深さ 0.1~0.3m	16世紀代か? (構造からは 古代末以前)	380±80yrBP —
第一 調査 区	4号製鉄炉	長方形箱形炉に小 舟状遺構が付設	木座状遺構 及さ3.7m×幅1.55m×深 さ0.6m	15世紀代	480±80yrBP A.D. 1410±10
次 調 査 区	2号精錬鍛冶炉	板屋型（精錬） 鍛冶炉	第1号炉床：径10cm程 第2号炉床：径14~24cm、 深さ5cm 第3号炉床：径20~25cm、 深さ15cm	12世紀 ~13世紀初	730±90yrBP —
	3号精錬鍛冶炉	板屋型（精錬） 鍛冶炉	径40cm、深さ35cm	12世紀 ~13世紀初	800±190yrBP A.D. 1180±50

2. 出土した製鉄関連遺物について（第13表）

出土した製鉄関連遺物については3つのグループに分類して整理しており、それらがどの製鉄関連構に伴っている可能性があるのかは第13表で整理している。一次調査で検出している1号製鉄炉、2・3号板屋型（精錬）鍛冶炉は西側調査区の下方に位置していることから、A群・B群として分類した製鉄関連遺物はそれぞれ対応しているものと考えて問題はないものと推測される。

第13表 板屋Ⅲ遺跡 製鉄関連構の主要要素一覧表

種類	分析資料	種類	精錬			鍛錬
			TiO ₂ 4~8%	TiO ₂ 1.1~2%	TiO ₂ 0~1%	
分 析 資 料	鉄滓	—	大型椀形鍛冶滓 ITA-42 (TiO ₂ : 4.13)			ITA-14 鍛冶滓 亜共析（含鉄） 鋼+過（C:0.8以 共析鋼上）
			鍛冶滓 ITA-43（含鉄） 鍛鉄（C:4.3以 上）			
出土 上 製 鉄 関 連 遺 物	鉄滓	—				ITA-45
	鍛造片	—				ITA-16
遺構	A群 (古代～中世の製 鉄炉関係)		古代～中世の製鉄炉に関連する遺物群。一次調査検出の1号炉(長方形箱形製錬炉)に関連し た遺物である可能性が高い。 (炉壁、單位流動滓、流出孔滓、流出溝滓、流動滓、炉内滓)			
	B群 (中世の板屋型精 錬炉関係)		古代～中世の精錬鍛冶炉に関連する遺物群で、鍛冶炉は板屋型羽口を伴うタイプのものと推 測される。一次調査検出の2・3号炉(板屋型の精錬鍛冶炉)に関連する遺物の可能性が高い。 (炉壁、炉塙(修復痕)、板屋型羽口、椀形鍛冶滓(板屋型羽口痕付)、流出孔滓、流出溝滓、 含鉄滓、鐵塊系遺物)			
時期	C群(建物跡出土) (近世の鍛冶炉関 係)		近世の掘立柱建物跡に付設された鍛冶炉に関連する遺物群。この遺物群について分析を実施。 (椀形鍛冶滓、椀形鍛冶滓(一段)、鍛冶滓、粒状滓、鍛造片)			
	掘立柱建物跡 (鍛冶炉付き)		3間×2間(6m×4m)の規模の建物内に鍛冶炉(径60cm程)が伴う。			
検出 された 鍛冶炉 の分類 基準 が見 た遺構 の性質等	掘立柱建物跡 (鍛冶炉付き)		柱穴出土の鉄製品や遺構上部を覆う造成土から出土した陶磁器から近世(18世紀以前)と推定。			
	①工房としてはTiO ₂ 量が8%程の砂鉄を原料にした素材を精錬鍛冶(大鍛冶)と鍛錬鍛冶にまたがって鍛冶を行 っている。					
	②鍛冶素材は、過共析鋼～鍛鉄を用いたものであり、分析した2点の鍛冶滓(含鉄)は精錬途上の鍛冶系の遺物で ある。					
	③粒状滓と鍛造片は鍛錬鍛冶を示すものであるが、王水エッチングによる金属学的な解析がなされていないの で、鍛錬工程のどのあたりに位置するかは微密には不明である。					
	④47-イ-1は鍛錬鍛冶の後半段階に相当する生成物である。					

おわりに

最後にこれまで述べてきた板屋Ⅲ遺跡の今回の調査における成果について整理して結びとしたい。以下時代ごとに記述していきたい。

1. 縄文時代

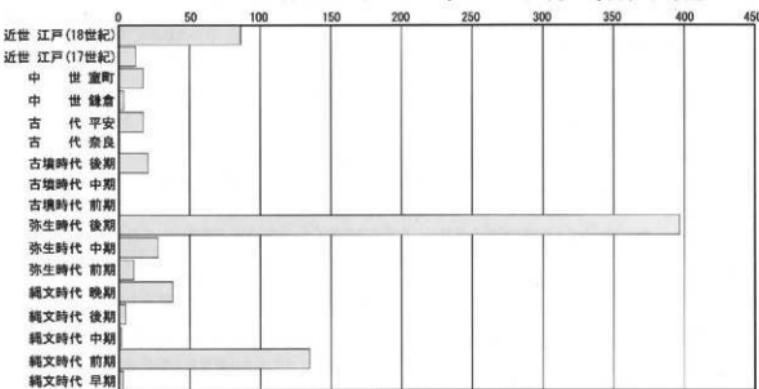
縄文時代では、その中心的な時期は前期中葉～前期末と土器の破片数から推測された。また、遺構は早期の集石遺構を検出し、遺構の面から生活の痕跡を明らかにすることができた。ただし住居跡などは一次調査の成果とは異なり検出しなかった。

石器の様相から見ると、縄文時代後期中葉以降ではそれ以前と比べ石錘の急激な減少が見られ、漁撈に関わる生産活動に何らかの変化が想定された。また、これまで述べられてきた石器石材の黒曜石とサメカイトの占める割合が第3黑色土層と第2・第1黑色土層では変化しているという現象についても、今回も同じ現象が見られた。

出土石器の中では前期末の玦状耳飾2点と後期中葉～晩期の玦状耳飾1点が挙げられる。これらはこれまで神戸川上流域では出土例が無く、縄文時代の装飾品を検討する上で貴重な資料を追加したものと考えられる。また、前期末の2点は非常に細長いタイプのもので今回十分に類例の調査検討ができなかった点が課題として残っている。

さて板屋Ⅲ遺跡の位置する神戸川上流域は三瓶山に起因する噴出物が縄文時代に3度堆積しており、古土壤（黒色土層）がバックされている環境にある。このことからこれまで各遺跡で環境や農耕について自然科学的検討が試みられてきた。本報告書でも第7章自然化学分析の中でプラントオバールと花粉分析を検討していただいている。その詳細な成果については、第7章を見ていただければ分かるが、最も注目されるべき点は縄文時代草創期に相当する時期が想定される第4黑色土層で確認されたイネのプラントオバールであろう。

第4黑色土層は今回も放射性炭素年代測定値を出しておらず、これまでの成果（第9表）も合わせて想定されるB P年代が10,000年～11,000年である。この層からイネのプラントオバールが確認されたことは非常に重大な成果であり今後論議を呼ぶものと考えられる。今後は考古学的な調査によっ



□破片数

第139図 板屋Ⅲ遺跡西側調査区出土土器片一覧

て、第4黒色土層の遺構・遺物の検出の外に土壤に含まれる微細な遺物等の検討によって検証していく作業が必要になってくるものと考えられる。

2. 弥生時代

弥生時代では、堅穴住居跡を可能性のあるものを含めて8棟検出している。これらはS102が中期の可能性がある以外はすべて後期後葉に位置付けられる住居跡であった。後期後葉に位置付けられる住居跡は一次調査でも6棟検出しており、弥生時代後期後葉の神戸川中流域の1つの中心的な集落として考えられる。また、検出した住居跡からは鉄器が出土するものが見られ、弥生時代のこの地域における鉄器の様相を検討する上で重要な資料を提供した。さらに、包含層（第1黒色土層）からの出土で確実に時期を特定はできないが、弥生時代の鍛冶に関係する可能性が考えられる鉄片が出土している。これらのことから板屋III遺跡の成果は弥生時代の石から鉄への素材の転換を検討する面からも重要な遺跡として位置づけられよう。

その他に堅穴住居跡からは上器棺墓と推測されるものがS103で検出し、さらに一次調査の12号住居跡でも同じタイプのものが見られ、両者の時期は弥生時代後期後葉と推測される。このようなタイプの土器棺墓は周辺の森遺跡群検出の堅穴住居跡でも発見例があり、弥生時代後期のこの地域の地域的特色として捉えられるものと考えられる。

3. 古墳時代

古墳時代前期～中期に関しては一次調査と同様遺構は検出されなかった。土器の面から見ると壺の口縁部分類の7種が古墳時代前期に位置付けられる余地もあるが、基本的に第139岡からも分かるように空白の時期である。この時期については周辺地域の遺跡でも遺構の検出がほとんど見られず、また後期になると遺構が見られ、このような様相についても検討の価値があるだろう。

古墳時代後期になると今回の調査でも第139岡でも明らかなように遺物の出土例があるが、遺構は検出していない。これについては、一次調査で検出された古墳時代後期の堅穴住居跡に関連したものである可能性が考えられる。

4. 古代（奈良・平安時代）

この時期で平安時代の遺物が第139岡でも分かるように出土しているが、実際は奈良時代末～平安時代初頭に位置付けられるものである。今回の調査ではこの時期の遺構を検出していないが、一次調査では住居跡や溝状遺構が検出していることから、これらに関連した遺物と思われる。

5. 中世（鎌倉～室町時代）

今回の調査で検出した遺構は、東側調査区で検出した鉄鍋の埋納遺構であり15世紀頃に位置づけた。これについては時期の検討や類似した埋納遺構の詳細な検討が今後残されている。

第139岡を見ると、出土遺物から見ると中世も後半段階を中心に陶磁器が出土しているが、これらについても一次調査検出の掘立柱建物跡、製鉄関連遺構に関わる遺物であると考えられる。

6. 近世（江戸時代）

近世の遺構は掘立柱建物跡とそれに付設した鍛冶炉がある。第139岡で18世紀代の陶磁器などが比較的多く見られるのはこれに関連したものである可能性が考えられる。また一次調査ではこの時期の麻薙しに関わる遺構（掘立柱建物跡・粘土貼土坑・集石遺構）が多く見つかっている。

以上のことから板屋III遺跡は、近畿のこの地域の鉄や麻等の生産の一端を窺うことができる遺跡であり、また鉄や麻といった当時の地場産業の特色を見事に遺構から知ることができる遺跡とも言

える。

以上述べてきたように板屋Ⅲ遺跡は純文時代～近世までの様々な歴史的様相を窺い知ることができる遺跡であるが、本報告書では検討が不十分な点が多いことが悔やまれる。今後のより詳細な検討を期待し、この地域のより豊かなる歴史像を描くための資料として活用されることを願う。

- * 1 板屋Ⅲ遺跡、森V遺跡（額原町）、古志本郷遺跡（出雲市）、福富Ⅰ遺跡（松江市）、大歳遺跡（本次町）、清水荒神塚遺跡（三刀屋町）の6遺跡が知られる。これら内容については以下を参考とした。また、可能性のあるものとして矢川横穴群（安来市）があり、石見地方では古市遺跡（浜田市）が知られる。
- ・額原町教育委員会 2001年『森V遺跡』
 - ・島根県教育委員会 2001年『古志本郷遺跡Ⅱ』
 - ・島根県教育委員会 1997年『福富Ⅰ遺跡・屋形1号墳』
 - ・三宅博士 1985年「土御質土器を伴う石鉢について」『島根考古学会誌』第2集
 - ・三刀屋町教育委員会 1990年『三刀屋町の遺跡Ⅲ 瀬山地区』
 - ・山本清 1969年「1安来市・矢川横穴群」『島根縣埋蔵文化財調査報告書』第1集
 - ・浜田市教育委員会 1995年『古市遺跡発掘調査報告』
 - ・構原博英 2001年『浜田・古市遺跡における中世前半の土器について』『松江考古』第9号
- * 2 三宅博士 1985年「土御質土器を伴う石鉢について」『島根考古学会誌』第2集
- * 3 額原町教育委員会 2001年『森V遺跡』
- * 4 第39回掲載遺物については、註1で挙げている報告書の他に以下の文献から転載している。
- ・島根県教育委員会 1983年『富川川河床遺跡 発掘調査報告書』Ⅲ
- * 5 五十川伸矢 1992年「古代・中世の鍛鉄・鍛物」『国立歴史民俗博物館研究報告』第16集
- 五十川伸矢 1997年「中世の鍋釜・鍛製烹炊具の名称」『国立民俗博物館研究報告』第71集
- * 6 1A類としたものは時期幅が存在しているものと推測され共伴遺物からは検証できないが、福富Ⅰ遺跡出土の鍋（第39図1）は17種類が内渦気味に垂直に立ち上がり胴部も垂直に近いことからより古いものである可能性が考えられる。
- * 7 中世の土師器については、出雲地方をさらに小地域に分けた地域ごとに検討し、共伴する陶磁器の状況も踏まえて位置づけていく必要があるが、資料の制約もあり現在詳細に検討した研究がない。さらに、今回詳細に検討する余裕がないので上師器の編年観は以下の文献を参考にし、おおよそ矛盾が生じない程度に鉄鍋の変遷を整理してみたつもりである。
- ・島根県教育委員会 1999年『古志本郷遺跡Ⅰ』
 - ・額原町教育委員会 2001年『森V遺跡』
- * 8 年代については大雑把な比定であるが、五十川氏の研究成果や以下の出土鉄鍋の年代観を参考にしている。
- 大分県深水郡埋納遺跡出土鉄鍋（14世紀前半～中葉）
佐々木稔・村上和久・赤沼秀男 1990年『大分県下の中世遺跡から出土した鉄鍋の金属学的解析』『古文化研究』第23集
 - 福岡県太宰府史跡 S.E.561出土鉄鍋（14世紀前半）
九州歴史資料館 1975年『太宰府史跡 昭和49年度発掘調査概報』
 - 浜田市古市遺跡 S.E.2008出土鉄鍋（13世紀頃）
浜田市教育委員会 1995年『古市遺跡発掘調査概報』
 - 富田川河床遺跡 S.B.031出土鉄鍋（17世紀前半）
島根県教育委員会 1983年『富田川河床遺跡 発掘調査報告書』Ⅲ
- * 9 本書で掲載した出土純文土器の編年の大体と型式名等は以下の文献を参照して記述した。
- ・鎌木義昌・木村幹夫 1955年「中國地方の編文土器」『日本考古学講座』3
 - ・鎌木義昌・高橋謙 1965年「瀬戸内」「日本の考古学」II
 - ・小林透雄編 1988～1989年『純文土器大観』1～4小字館
 - ・加藤青平・小林透雄・藤本強編 1994年『純文化の研究』3～5雄山閣
 - ・大川清・鈴木公雄・工楽善通編 1996年『日本十器辞典』雄山閣
 - ・戸沢允則編 1994年『繩文時代研究辞典』東京堂出版
 - ・柳浦俊一 2000年『山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年』『島根考古学会誌』第17集
 - ・柳浦俊一 2001年『山陰地方における縄文時代前期土器の地域編年』『島根考古学会誌』第18集
- * 10 出土赤土器の中で後期に位置づけられる土器については、本報告書の中では口縁部の形態から1類～7類に分類したものを使用する。詳細については第5章第5節の第1黒色土器出土の弥生土器についての記述を參照。

照していただきたい。

- *11 本報告書では山縁部の形態のみから分類した以外に、第一次調査検出の住居跡出土の弥生土器も含めて肩部から上が残っている個体で再分類を試みた。詳細は第6章第5節の記述に譲るが、I類～V類の5つに分類している。この5つに分類したもので住居跡の時期に限っては使用する。
- *12 大谷晃二 1994年「出雲地方の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集
- *13 大谷晃二 1994年「出雲地方の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集
- *14 森田 敏 1982年「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2
- *15 上田秀夫 1982年「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2
- *16 森村健一 1995年「福島省津州麻糸青花・五彩・瑠璃地の編年」『大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要』3
- *17 中野晴久 1995年「中正陶器〔2〕常滑・深美」『概説 中正の土器・陶磁器』中世土器研究会編
- *18 橋口清之 1993年「块状耳飾」『考古学雑誌』23～1・2
- *19 島根県教育委員会 1998年「門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡」
- *20 原谷久子 1993年「鳥取県における古墳時代の鉄鍛について」『島根考古学会誌』第10集
- *21 古泉 弘 2001年「炭管2 煙管」『因説 江戸考古学研究辞典』江戸遺跡研究会編
- *22 矢野健一 1993年「押型文土器の起源と変遷—いわゆるネガタイプな輪円文を有する押型文土器の再検討—」『考古学雑誌』第78巻第4号
- *23 鈴B式の業行関係については下記の文献を参考にし、時期的な位置づけを検討した。
柳浦俊一 2001年「山陰地方における縄文時代前朝土器の地域編年」『島根考古学会誌』第18集
- *24 一覧表の作成にあたっては以下の文献を参照している。また本報告のものについては調査担当者の助言を得た。
家の後山遺跡 島根府埋蔵文化財調査センター2002年調査、担当者 熊川貴保の助言による。
垣ノ内遺跡 島根府埋蔵文化財調査センター2001年調査、担当者 増田浩太の助言による。
サルガ暴洞窟遺跡 藤田富士夫 1989年「王」
佐太満日塚遺跡 施島町教育委員会 1993年「佐太満日塚発掘調査報告書」
恵良遺跡 島根県教育委員会 2001年「一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」IV
新原遺跡 北見町教育委員会 1987年「新原遺跡発掘調査報告書」
岩井津（岩泉）遺跡 関西大学・島根大学共同隊岐調査会編 1968年「隊岐」
御山遺跡 関西大学・島根大学共同隊岐調査会編 1968年「隊岐」
藤田富士夫 1989年「王」
- *25 土坑から出土している土器は条痕地の波状山縁の深鉢であり、三本沈線と一枚貝による刺突文が組み合わさっているものである。また土坑からは磨消絹文土器が一緒に出土している。
島根県教育委員会 1991年「中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財報告書」III
- *26 柳浦俊一氏による検討では月崎下層式を3段階に整理しており、第1段階・第2段階に比較して第3段階では原体が大きくなり、押し引きが内面に反映され膨らむものが多いと指摘している。
柳浦俊一 2001年「山陰地方における縄文時代前朝土器の地域編年」『島根考古学会誌』第18集
- *27 第8表は、これまで志津見ダム建設予定地内遺跡の調査報告書で掲載されているもに今回の調査成果を追加したものである。
島根県教育委員会 1998年「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5 板屋Ⅲ遺跡」
島根県教育委員会 2002年「志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書12 下山遺跡（2）」
- *28 表に掲載した放射性炭素測定年代値については以下の文献を利用している。
松井恭司 1998年「三瓶火山の噴出物とその年代」「板屋Ⅲ遺跡」島根県教育委員会
松井恭司 2002年「三瓶火山の噴出物とその年代」「下山遺跡（2）」島根県教育委員会
島根県教育委員会 1996年「門遺跡」
島根県教育委員会 2002年「下山遺跡（2）」
島根県教育委員会 2002年「貝谷遺跡」
島根県教育委員会 2000年「神原Ⅱ遺跡（3）」
- *29 乾賀敬一郎 2002年「石器組成分析による縄文時代生産活動の復元」「帝釈岐遺跡群発掘調査会報」X VI
- *30 板屋Ⅲ遺跡西側開拓区出土の石器については、中村唯史氏（県立三瓶自然館）に徵定していただき、御教示いただいた。
- *31 出雲地方の弥生時代後期の土器については研究の蓄積が進んでいるが、今回は一般的に調査報告書で使用されている草川遺跡との比較をおこなった。
鹿島町教育委員会 1992年「濱武地区県営園場整備事業発掘調査報告書5 南濱武草川遺跡」
- *32 島根県教育委員会 2002年「殿渕山遺跡・獅子谷遺跡（1）」
- *33 島根県教育委員会 1999年「中原遺跡」

第14表 第3黒色土層 出土 繩文土器 総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数										合計	
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	
第3黒色土層	3黒1類	ネガティブな押し型文								2				2
第3黒色土層	3黒2類	山形文が帯状施文(巣石遺構川上)								1				1
第3黒色土層	3黒3類	3の字形の爪形文								1				1
第3黒色土層	3黒4類	隆帯文(轍式)、灰色系で隆帯が細く尖る							2					2
第3黒色土層	3黒4類	隆寄文(轍式)、暗色系で隆帯が低くミミズくずれ状	1	1						1	1			4
第3黒色土層	3黒4類	隆寄文(轍式?)、よくて高い隆帯にキザミが入る							1					1
第3黒色土層	3黒5類	半載竹型による2条1單位の波綱文(北白川I b ~ II a)	1	2	1		1							5
第3黒色土層	3黒5類	器壁薄い、原体が太く間隔が複数の爪形文(北白川I b ~ II a)	2	1	4	4	9							20
第3黒色土層	3黒5類	器壁薄い、原体が細く間隔が複数の爪形文(北白川I b ~ II a)	1	1	4	2	4	1						13
第3黒色土層	3黒5類	刺突文(北白川 I b)					1			2				3
第3黒色土層	3黒5類	器壁が厚く原体が太く間隔が複数の爪形文(北白川 I a?)					2			1				3
第3黒色土層	3黒5類	幅が広く長い刺突文(北白川 II a?)					2							2
第3黒色土層	3黒5類	間隔が広い原体太めのD字の爪形文(北白川 I a)							1					1
第3黒色土層	3黒5類	羽状文あり(北白川 II a)							1					1
第3黒色土層	3黒5類?	縞文のある破片(北白川 I b ~ II a)							3					3
第3黒色土層	3黒5類?	縞文のある破片(北白川 I b ~ II a?)			2									2
第3黒色土層	3黒5類?	縞文のある破片(北白川 II a?)				6	6							12
第3黒色土層	3黒5類?	縞文の破片(北白川 II a?)		1										1
第3黒色土層	3黒6類	内面に羽状文(羽根?)					1							1
第3黒色土層	3黒6類	まのびした沈綱文・短絶縫文(曾焼?)	1	1	4	1								7
第3黒色土層	3黒7類	ヘラ状工具による押し引き・刺突文(月崎下層)				3								3
第3黒色土層	3黒7類	幅の狭い原体(半載竹管状工具?)による押し引き(月崎下層)	2	2	6	1	5	1						17
第3黒色土層	3黒7類	幅の広い原体による押し引き(月崎下層)	1		6									7
第3黒色土層	3黒7類	非常に幅の広い原体による押し引き(方形の刺突状)(月崎下層)					1							1
第3黒色土層	3黒7類	刺突文(月崎下層)		1	2									3
第3黒色土層	3黒7類	その他の文様(月崎下層)			6	3								9
第3黒色土層	3黒7類か?	口縫部の端部にキザミ(月崎下層式か?)	1	3			1	9	1					15
第3黒色土層	3黒8類	垂下隆帯、隆帯上に縞文を付す(墨木 I)			1									1
第3黒色土層	3黒8類	結節浮縫文、溝引き状(墨木 I)			1	1								2
第3黒色土層	3黒8類	口縫部内面が肥厚し墨文付す、外面にも帶状に墨文(墨木 I ?)												1
第3黒色土層	3黒8類	隆帯状に押し引き(墨木 I)				1	1							2
第3黒色土層	3黒8類	隆帯上に縞文、隆帯上に半載竹管による押し引きの両者が見られる(墨木 I)								1				1
第3黒色土層	3黒8類?	隆帯と爪形文の組み合わせ、内面柔軟(墨木 I ?)						2						2
第3黒色土層	3黒8類?	縞文のある破片(墨木 I)	1	3	12	10								26
第3黒色土層	3黒8類?	縞文のある破片(墨木 I に近い)			6									6
第3黒色土層	不明	型式不明の沈綱文土器、直底			5	1								6
第3黒色土層	不明	口縫端部(無文)					8	14						22
第3黒色土層	不明	底部		1										1
第3黒色土層	不明	縫部		3										3
第3黒色土層	不明	口縫端部(無文)							1	3	2			6
第3黒色土層	不明	縞文						3						3
第3黒色土層	不明	無文、外ナダ(粘土痕跡)							1					1
第3黒色土層	表裏条底	器壁厚いもの	19	16	21	56	35	146	8	7				308
第3黒色土層	表裏条底	器壁薄いもの	3	1	6	17	7	54	1	3				92
第3黒色土層	表のみ条底	器壁厚いもの	6	8	3	1	5	0	5	3				31
第3黒色土層	表のみ条底	器壁薄いもの	1	3	1	0	5	0	1	2				13
第3黒色土層	裏のみ条底	器壁厚いもの	13	12	11	38	17	3	8	2				104
第3黒色土層	裏のみ条底	器壁薄いもの	2	6	4	4	7	17	0	1				41
第3黒色土層	無文	器壁厚いもの	34	30	27	93	19	114	30	17				364
第3黒色土層	無文	器壁薄いもの	3	13	8	17	10	46	1	3				101

第15表 第2黑色土層 出土 織文土器 総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数										
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	その他の不明	合計
第2黑色土層	2墨1類	隆起状に間隔が密(爪形状)な押し引き(大歳山)		2		8							10
第2黑色土層	2墨1類	隆起状に間隔が狭く押し引き(大歳山、里木の可能性もあり)		1	5	1	1		1				9
第2黑色土層	2墨1類	底部(大歳山)			3								3
pit90	2墨1類?	織文のある薄い破片(里木I~大歳山)											1
pit96	2墨1類?	織文のある薄い破片(里木I~大歳山)											2
pit95	2墨1類?	織文のある薄い破片(里木I~大歳山)											1
pit101	2墨1類?	織文のある薄い破片(里木I~大歳山)											1
第2黑色土層	2墨1類?	圓形の薄い織文あり(前後半)(里木I~大歳山)	11	28	15	20	3						77
pit94	2墨2類	織文のある薄い破片(船元)											1
pit95	2墨2類	織文のある厚い破片(船元)											1
第2黑色土層	2墨2類	織文のある厚い破片(船元)	3	4	3	4	8	21					43
第2黑色土層	2墨3類	後期縞模文の土器(布勢式新~萬ヶ鼻並行)							1				1
第2黑色土層	2墨3類	後期(布勢式新~萬ヶ鼻Ⅰ並行)							2				2
第2黑色土層	2墨3類	後期(布勢式新~萬ヶ鼻Ⅱ並行)							1				1
第2黑色土層	3墨4類	波線文で区画された縞模文(第3黑色土層からの混入か?)							1				1
第2黑色土層	2墨5類	細い押し引きが2段(月崎下層)				2							2
第2黑色土層	2墨5類	原体が非常に大きい押し引き(月崎下層)			2								2
第2黑色土層	2墨5類?	月崎下層に類似	1	1	1	1							4
第2黑色土層	後期	条痕(表:卷貝)					5						5
第2黑色土層	後期	粗製縞模文土器 帯貝条痕							1				1
第2黑色土層	後期	粗製土器		2									2
第2黑色土層	後期	底部			1								1
第2黑色土層	後期	柔軟の破片(厚い)	14	23	11	60							108
第2黑色土層	3墨5類(混入)、前期	爪彫文(北白川I b~II a)						1	1				2
第2黑色土層	前期	条痕X文 内面2枚貝条痕			2								2
第2黑色土層	前期	堅突不明(側突文)							2				2
第2黑色土層	前期	沈線文(普偏の可能性あり)			1								1
第2黑色土層	前期?	底部							1				1
第2黑色土層	前期か	条痕の破片(薄い) 2枚貝条痕						1	2				3
第2黑色土層	前期	条痕の破片(薄い)	10	17	3	14							44
pit91	前期	柔軟のある薄い破片											1
pit111	崩崩	柔軟のある薄い破片											2
pit112	崩崩	柔軟のある薄い破片											1
第2黑色土層	不明?							5					5
第2黑色土層	不明	条痕土器(時期不明)						1					1
第2黑色土層	不明?							2					2
第2黑色土層	不明	不明(織文)	2			1		4					7
第2黑色土層	時期不明	刺突文			1								1
第2黑色土層	不明?	底部						4	1				5
第2黑色土層	不明	不明		3			2		2				7

第16表 第1黒色土層(表土) 出土 繩文土器 総括表

層位・遺跡	型式名	特徴など	破片数									
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E
第1黒色土層	1黒1類	粗製深鉢・内面に沈線(一次調査 晩期Ⅲ類)					1					1
第1黒色土層	1黒2類	浅鉢(山形部)・粗製・往來文(晚期一次調査Ⅲ-V類並行)					1					1
S101貼り床	1黒2類	深鉢・口縁部にキザミあり(晚期-V類並行種原式新段階)(S101貼り床上)										1
第1黒色土層	1黒2類	深鉢・口縁部にキザミあり(晚期-V類並行種原式新段階)										1
第1黒色土層	1黒2類	粗製する頭部をもつ粗文粗製土器(深鉢)(晩期-V類並行種原式新段階)					1					1
第1黒色土層	1黒3類	無文精製浅鉢・肩部が張り口縁部が長く外反					1					1
第1黒色土層	1黒4類(A)	下方に突帯文(キザミあり)					1	2	1			4
表土	1黒4類(A)	下方に突帯文(キザミあり)					1					1
S101床面付近	1黒4類(A)	下方に突帯文(キザミなし)										1
第1黒色土層	1黒4類(A)	下方に突帯文(キザミなし)					1		1			2
表土	1黒4類(B)	深鉢・胸部に突帯文(キザミなし)					1					1
第1黒色土層	1黒4類(B)	深鉢・胸部に突帯文(キザミなし)					1					1
第1黒色土層	1黒4類(B)	下方に突帯文(退化したもの)					2					2
第1黒色土層	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミあり)					2					2
S106	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミあり)										1
第1黒色土層	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(胸突)					2					2
サブレ-	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)					1					1
第1黒色土層	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)					1					1
S102B1層	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)					1					1
S102慢土	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)										1
S103慢土	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)										1
第1黒色土層	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)					1		2			3
第1黒色土層	1黒4類(C)	上方に突帯文あり(キザミなし)										1
第1黒色土層	晩期	粗製浅鉢(沈練なし)・胸部					1					1
第1黒色土層	晩期	粗製浅鉢(沈練あり)・胸部					1					1
S101床面付近	晩期	粗製浅鉢(沈練あり)・胸部										1
第1黒色土層	晩期	無文粗製陶鉢					1	4				5
第1黒色土層	晩期	無文粗製深鉢					1					1
S104慢土	晩期	無文粗製深鉢										1
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:ミガキ、内:ミガキ					4					4
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ミガキ					1					1
表土	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ミガキ					1					1
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:二枚目条痕					1	4	1			6
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:削り口、内:ミガキ					2					2
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:削り口、内:二枚目条痕					4					4
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:削り口、内:条痕					2					2
表土	胸部片	胸部片					1					1
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:条痕、内:条痕					1					1
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:条痕					2					2
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:ミガキ、内:条痕					2					2
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:ミガキ、内:ナデ					1	3				4
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ナデ					1	12	2	20		36
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:条痕、内:ナデ										3
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:削り口、内:ナデ										15
表土	胸部片	胸部片・外:削り口、内:ナデ										2
第1黒色土層	胸部片	胸部片・外:条痕、内:条痕					2					2
表土	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ナデ					1					1
S105慢土	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ナデ										3
S101床面付近	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ナデ										1
S102B1層	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:ナデ										1
S102慢土	胸部片	胸部片・外:粗いナデ、内:削り										1

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数											
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明
S102復土	胴部片	胴部片・外：削り？、内：ミガキ												1
S102復土	胴部片	胴部片・外：柔軟、内：柔軟												1
S103復土	胴部片	胴部片・外：粗いナデ、内：柔軟												4
S105復土	胴部片	胴部片（外）粗いナデ、内：ナデ												1
第1 黒色土層	胴部片	胴部片外：ミガキ、内：ナデ									2			2
第1 黑色土層	胴部片	胴部片外：粗いナデ、内：ナデ									16			16
第1 黑色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：粗いナデ								5				5
第1 黑色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：二枚貝柔軟								1				1
第1 黑色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：一枚貝柔軟								1				1
第1 黑色土層	胴部片	胴部片外：削り？、内：柔軟								2				2
第1 黑色土層	胴部片	胴部片外：粗いナデ、内：柔軟								2				2
表土	縞文	縞手						1						1
第1 黑色土層	縞文	薄手		2	1									3
不明	縞文	縞手								1				1
第1 黑色土層	縞文	厚手							2	4				6
表土	2墨2類	縞文あり（船元式）		2										2
第1 黑色土層	2墨2類	平継竹筋による迷路文・縞文（船元類？）								1				1

第17表 第1黑色土層（表土）出土 弁生土器・土師器 総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数											
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	その他	不明
第1 黑色土層	甕（弥生前期）	口縁（頸部）								2				2
第1 黑色土層	鉢（弥生前期か？）	口縁（頸部）								2				2
第1 黑色土層	壺（弥生前期）	木の葉紋							1					1
第1 黑色土層	甕（弥生前期）	有輪羽状紋（A）								1				1
第1 黑色土層	甕（弥生前期）	有輪羽状紋（B）							1					1
第1 黑色土層	甕（弥生前期）	その他							2	3				5
第1 黑色土層	甕（IV種式）	口縁部はI型と同じで変わらないが頸部～胴部上半を削らざりハケメやナデの痕迹	3						2					5
第1 黑色土層	甕（IV種式）	櫛描刺繡文（中期）・體単位が明瞭・胴部文様	1						25	18				44
第1 黑色土層	甕（中崩）	文様あり							2					2
第1 黑色土層	甕（中崩）	文様無し								1				1
第1 黑色土層	甕（中崩）	凹痕部分							2	1				3
第1 黑色土層	甕（中崩）	突突付										1	(540)	1
第1 黑色土層	大型特舛甕（IV種式）	胎土が特徴的なオレンジ色。流水紋付	2	3	2									7
第1 黑色土層	甕（V種式）	口縁（頸部）							2					2
第1 黑色土層	甕（V種式）	口縁に凹凸文・脚端部												2
第1 黑色土層	甕（V種式）	口縁に凹凸文・脚端部							3	1				4
第1 黑色土層	甕（V種式）	口縁に凹凸文・脚部							1					1
第1 黑色土層	甕（後期1a類）	中期後裏を一部含む・複合口縁	2	23	16									41
第1 黑色土層	甕（後期1b類）	口縁が証強・複合口縁	3	4	3									10
第1 黑色土層	甕（後期2類）	口縁部の幅広く比跡の間が広い・複合口縁	1	3	3									7
第1 黑色土層	甕（後期3類）	口縫あり、比跡（具紋）の間が狭く密にある・複合口縁	1	8	11									20
第1 黑色土層	甕（後期4類）	口縫に平行弦線なし・複合口縫	1	4	18	11								34
第1 黑色土層	甕（後期5類）	口縫に比跡無し・頸部内部せり・複合口縫	3	76	26									105
第1 黑色土層	甕（後期6類）	口縫に比跡無し・縫部に面あり・複合口縫	4	1	69	14								88
第1 黑色土層	甕（後期7類）	口縫に比跡なし・縫部に面あり内部が肥厚・複合口縫							5					5
第1 黑色土層	注口器（後期）	注口のみ							1	1				2
第1 黑色土層	甕（後期1・2型に對応）	全縫・複合口縫								1				1
第1 黑色土層	甕（後期2・3型に對応）	全縫・複合口縫								1				1
第1 黑色土層	甕（後期4・5型に對応）	全縫・複合口縫							3	1				4
第1 黑色土層	甕（後期6・7型に對応）	全縫・複合口縫							3	1				4
第1 黑色土層	甕（後期6類に對応）	全縫・複合口縫							2	1				4
第1 黑色土層	甕（後期6類）	全縫・複合口縫								1				1
第1 黑色土層	甕（後期7類）	全縫・複合口縫								1				1
第1 黑色土層	甕（後期7類）	全縫・複合口縫								3				3
第1 黑色土層	甕（後期7類）	全縫・複合口縫								13	5			18
第1 黑色土層	鉢形部A（2~3類）	平行弦線文あり。受部・漏部なし								3				3
第1 黑色土層	鉢形部B（4~6類）	平行弦線文なし。漏部・漏部なし								13	5			18
第1 黑色土層	鉢形部B（4~6類）	平行弦線文なし。漏部・漏部まであり								4				4

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数										その他	不明	合計
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E			
第1 黒色土層	波形器台B(4~6層)	平行沈縫文なし。肩部・端部まであり・内面ナデ							10						10
第1 黒色土層	鉄形器台B(4~6層)	平行沈縫文なし。受部・端部あり						3	4	6					13
第1 黒色土層	波形器台B(4~6層)	平行沈縫文なし。受部・端部なし						1	6	10					17
第1 黒色土層	鉄形器台B(4~6層)	平行沈縫文なし。受部・端部なし。									1				1
第1 黑色土層	高坏(後期)	坏縫部が単純なタイプ・肩端部									33	19			43
第1 黑色土層	高坏(後期)	坏縫部が単純なタイプ・肩部片									7				7
第1 黑色土層	高坏(後期)	坏縫部が単純なタイプ・坏縫部									32	9			41
第1 黑色土層	高坏(後期)	坏縫部が単純なタイプ・片部片	2	1							52	10			65
第1 黑色土層	高坏(後期)	坏縫部が単純なタイプ・肩部									6	3			9
第1 黑色土層	低脚坏(後期)	全般・脚部									3	1			4
第1 黑色土層	低脚坏(後期)	全般・脚部片									2				2
第1 黑色土層	低脚坏(後期)	全般・脚部									4				4
第1 黑色土層	低脚坏(後期)	全般・完形(脚+坏部)									2	1			3
第1 黑色土層	甕など(弥生後葉文様)	波状文・網部文様	4	16					180	4	51				265
第1 黑色土層	甕など(弥生後葉文様)	羽状紋・網部文様									3				3
第1 黑色土層	甕など(後葉3層中心文様)	網部文様・其殿利突文(2段のもの)									16				16
第1 黑色土層	甕など(後葉3層前文様)	網部文様・病突文(1段のみ)貝殻と壺状工具の二種に分けられる可能性あり。	3		6				22		17				45
第1 黑色土層	甕など(後葉4~6層文様)	網部文様・病突文(1段シケーブ)水平に近い文様で施されているものが多い			1	5			51	2	13				72
第1 黑色土層	甕など(後葉文様)	後葉の文様あり、破片でその他のもの									1				1
第1 黑色土層	底部(弥生前期)	削りなし・砂粒多い									5	3			8
第1 黑色土層	底部(弥生中期)	削りあり・砂粒少ない									8	3			11
第1 黑色土層	底部(弥生後期)	削りあり・砂粒少ない	1	6					30		6				43
第1 黑色土層	底部(時期不明)										5	4		1	10
第1 黑色土層	甕(出雲4期以降)	單純線で「く」の字型									48	7			55
第1 黑色土層	甕	底部									2				2
第1 黑色土層	甕	口縁部?									1				1
第1 黑色土層	甕(出雲4期6~7段半以降)	坏縫部							5	2					8
第1 黑色土層	甕(出雲4期6~7段半以降)	坏縫部片							4	8					12
第1 黑色土層	坏(古代~中世)	系切りなし・光形に近い									2				2
第1 黑色土層	坏(古代~中世)	系切り・底部	1								6		2		9
第1 黑色土層	坏(古代~中世)	系切りなし・底部									10				10
第1 黑色土層	坏(古代~中世)	系切りなし・坏縫部									12				12
第1 黑色土層	坏(古代~中世)	系切り・坏縫部	1												1
第1 黑色土層	坏(古代~中世)	系切りなし・坏縫部片									17				17
第1 黑色土層															0
第1 黑色土層															0

第18表 第1黑色土層 出土 須恵器 総括表

層位・遺構	型式名	特徴など	破片数										その他	不明	合計
			14D	14E	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E			
第1 黒色土層	甕①	出雲5~6期							1	3					4
第1 黒色土層	甕②	8c後半以降					1								1
第1 黒色土層	坏	出雲5~6期							3	2					5
第1 黒色土層	坏	無台(8c)					1								1
第1 黒色土層	坏	8c後半以降							2	1					3
第1 黒色土層	坏底部						1								1
第1 黒色土層	口縁部								1	1					2
第1 黒色土層	中型甕										2				2
第1 黒色土層	大型甕								1	1					2
第1 黒色土層	複脚甕①								4	9					13
第1 黒色土層	複脚甕②							1	1	15	19				36
第1 黒色土層	複脚甕③								1	10					11

第19表 堪穴住居跡 出土弥生土器 総括表

器種	型式	1号 住居跡	2号 住居跡	3号 住居跡	3号住居跡 土器露まし	3号住居跡 中央土坑	4号 住居跡	5号 住居跡	6号 住居跡	7号 住居跡	8号 住居跡	合計
甕 (複合口縁)	IV様式	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
甕 (複合口縁)	甕口縁部1a類	2	2	0	5	6	—	0	2	3	1	6
甕 (複合口縁)	甕口縁部1b類	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	4
甕 (複合口縁)	甕口縁部2類	3	3	0	1	0	2	0	1	1	0	5
甕 (複合口縁)	甕口縁部2類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甕 (複合口縁)	甕口縁部4類	6	7	0	0	0	0	1	13	15	0	20
甕 (複合口縁)	甕口縁部5類	1	1	0	3	4	3	1	1	19	20	1
甕 (複合口縁)	甕口縁部6類	5	10	0	1	1	1	0	6	9	0	13
甕 (複合口縁)	甕口縁部7類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
注入土器	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壺	甕3個～7個に対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壺	搬入系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
壺	その他の	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鉢形器台A	平行弦文あり (受部)	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	3
鉢形器台A	平行弦文あり (脚部)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1
鉢形器台B	平行弦文無し (受部)	0	0	1	1	1	1	0	0	0	3	3
鉢形器台B	平行弦文無し (脚部)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5	6
高杯 (中期)	(脚部) 第IV様式	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
高杯 (中期)	—	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1
高杯 (後期)	(脚部)	1	2	0	0	0	0	0	8	8	0	2
高杯 (後期)	壺5個以降の時期	1	0	0	0	0	0	0	8	0	0	11
高杯 (後期)	(脚部)	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0	12
底脚杯	脚部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
底脚杯	杯部	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
甕など	胴部文様 (波状文)	11	15	0	2	2	2	0	39	51	1	53
甕など	胴部文様 (羽状文)	4	1	0	1	0	0	0	3	5	0	4
甕など	胴部文様 (2段羽状文)	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	3
甕など	胴部文様 (斜契文幅広)	1	3	0	1	2	1	4	5	0	7	13
甕など	胴部文様 (斜契文幅広)	2	0	1	1	1	1	0	7	7	0	16
甕など	(斜契文シャープ)	3	7	0	4	1	2	0	16	20	0	25
甕など	(斜契文シャープ)	4	7	0	5	1	1	3	0	4	0	36
甕など	胴部文様 (復元その他)	1	5	0	0	0	0	0	1	1	0	5
甕など	胴部文様 (脚捲刺突文)	7	8	0	5	6	1	1	0	0	0	13
前期壺	破片(文様あり)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大型特殊壺	IV様式	4	4	0	1	5	4	4	5	0	6	4
底部	—	1	1	0	4	5	4	4	15	15	1	37

第20表 板屋III遺跡（西側調査区）出土 陶磁器 総括表

種類	器種	产地	特徴（釉薬など）	時期	破片数										
					14B	14F	13D	13E	12D	12E	11D	11E	10D	10E	不明
中世須恵器	壺(?)			中世?							1				1
陶器	壺	常滑系		14c 初						1	1				2
陶器	壺鉢片	在地	須恵質	中世						1					1
青磁	碗・皿(高台付)	中国		中世					1	2				3	
白磁	片口皿	中国		16c									T15	1	
陶器	甕	備前		17c 以前		1	1	1	1						2
備前系陶器	甕	岸和田系	灰釉	1580~1590年頃 16c前半灰釉部						1					1
磁器	青花碗	華南		16c末~17c初						1					1
陶器	甕	肥前系		近世前半	1					1					2
陶器	甕	唐津	砂止め。周縁あり。三ヶ月台あり	17c 中後		1	1	3	1						6
磁器(染付)	甕	肥前?		17c後半~18c代		6	6	4	4	6				1	27
磁器(染付)	瓶	不明		18c 代	1	1	1	4	2	1	3				13
無縫(蛇の目)	皿	肥前系		18c 代							1				1
無縫(染付)	碗	肥前?		18c 代	1		2	8	4	5	4				24
磁器(染付)	甕	肥前		18c 代						1					1
磁器(染付)	甕	肥前?		18c 代					1	1	1				4
磁器(染付)	甕	肥前?		18c 代					1	1	1				3
不明	土八型	不明	すべて同一個体	18c後半以降~	7	3	1								11
陶器	壺鉢片	不明		近世		1									1
陶器	瓶	不明	淡褐色の釉	近世		1	2	6	2	4					16
備前系陶器	甕	肥前系	たたきあり	近世							1				1
陶器	壺鉢片		さび釉	近世							1				1
磁器(染付)	碗・皿	肥前系		近世		1	1								2
磁器	甕(高台)	不明		近世	1	1	1		2						5
青磁	碗・瓶・皿	肥前系		近世		1	6	1							9
青磁(白地の部分)	瓶又は瓶	不明		近世		1	3	1							5
陶器	壺鉢・鉢・瓶		茶褐色の釉	19cにに入るものの (新しい)		3				1					4
陶器	瓶・わらび・煮・煮	不明		新らしい		1	9	5	3						18
陶器	甕	備前系か		不明					1						1
陶器	甕	不明	褐色油滴	不明		1			1						2
陶器	瓶	肥前系	その他の釉	不明		3									3
上野實土器	瓶	不明		不明					1						1
若狭焼	不明	不明		不明		3									3
陶器	瓶・円筒状製品	不明	さび釉	不明		2			5	1					8
不明	不明	不明		不明		1									1
瓦葺土器	甕	不明		不明							1				1
瓦葺(染付・青磁)	瓶	肥前?		不明					1						1

第21表 板屋III遺跡（東側調査区）出土遺物 総括表

遺物名など	遺物種類	器種	特徴など	破片数	
SK03	鏡文土器		多模のある土器	1	
第2 黒色土器	純文土器		柔底のある土器	6	
第2 黒色土器	純文土器		底面	1	
第3 黒色土器	純文土器		鉢	1	
波 3 号PNo27	純文土器		柔底のある土器	1	
波 3 区No26	鏡文土器		柔底のある土器	1	
第1 黒色土器	純文土器		柔底あり。脚部片	11	
第1 黑色土器取り上りPNo2	弥生土器		脚部片	1	
第1 黑色土器	弥生土器		甕・壺	1	
第1 黑色土器	甕・壺		複合口縁	1	
第1 黑色土器	甕・壺			5	
第1 黑色土器	甕・壺		かわらけ	6	
第1 黑色土器	甕		高台付	1	
第1 黑色土器	脚部器		脚部・磨り鉢	2	
第1 黒色土器	陶器器		陶器・底部	1	
第1 黒色土器	陶器器		陶器・底	1	
第1 黑色土器	陶器器		陶器	8	
第1 黑色土器	陶定器		陶器	3	
第1 黑色土器	陶定器		近世染付	9	
第1 黑色土器	陶器器		陶器	1	
第1 黑色土器	瓦器		近世以降	2	
第1 黑色土器	石製品		宝寅印塔	1	
東 2 区	南磁器		磁器	1	
大木周辺	鏡文土器		鉢(口縁部)	1	
大木周辺	土師器		坪	永切り	10
大木周辺	土師器		人形片	25	
大木周辺	陶器器		陶器片	1	
大木周辺	陶器器		褐色釉	2	
大木周辺	陶器器		褐色釉	2	
大木周辺	石器		磨石	1	
大木周辺	石器		圓石	1	
大木周辺	石器		石皿	1	

遺物觀察表

第22表 板屢遺跡 出土 編文・筋文・土師器 観察表

博國	勝地	時期・型式	区	施構	層位	口述	踏査	地盤	形態・文様の特徴	調査	胎	土	色	調
013-01	-	-	東3区	-	第2 黒色 土 壁	-	-	-	(外) 壁力が強調され、 (内) 斜めに近い傾きの条痕	なし			(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
013-02	深鉢	-	東2区	-	第2 黒色 土 壁	-	-	-	(外) 壁力の条痕			2mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
013-03	鉢	-	東区	-	第2 黒色 土 壁	-	-	-	(外) 壁力の条痕	なし		2~3mmの小石を多く含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
013-04	鉢	-	東3区	-	P No.26	-	-	-	(外) たて方向の条痕	(外) 壁力のナデ		2~3mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
013-05	-	-	東2区	-	第2 黒色 土 壁	-	-	9.8cm	なし	(外) 壁力のナデ		5mm以下の小石を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
013-06	鉢	-	東2区	SK 03	第3 黒色 土 壁	-	-	-	(外) たて方向の相手条痕	(外) 壁力のナデ		やや粗	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
044-01	-	貴賤式以前、 仲間寺か?	西	某石窓構	第3 黑色 下 壁	-	-	-	(外) 神奈文の山形文又は波状地文と考えられる	(外) 壁力のナデ	やや粗	砂質を多量に含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-01	鉢	神宮寺	西	11D	第3 黑色 土 壁	-	-	-	キガタブナ型空文	(外) 壁力のナデ (細め方向)		3mm以下の小石、0.5mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-02	鉢	神宮寺北・早朝	西	11D	第3 黑色 土 壁	-	-	-	キガタブナ型空文	(外) 壁力のナデ		1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-03	深鉢	轍式	西	1.3E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 壁の条痕	全体にナデ		2mmの小石、1mm程度の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-04	-	轍式	西	1.3E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 波状地文	(外) 壁力のナデ		2mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-05	-	(新しい方)	西	1.2E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 波状地文	(外) 壁力のナデ		0.5mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色	
046-06	-	轍式	西	1.1D	第3 黑色 土 壁	30cm	21.6cm	-	(外) 口縁部斜面によるギザミ、 行によるギザミ	(外) 壁力のナデ		1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-07	深鉢	轍式	西	1.4D	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 3種類の波状地文、たて方向の条痕	(外) 壁力のナデ		壁質を多量に含む 3mm以上の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-08	深鉢	轍式?	西	1.3E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 波状地文	(外) 壁力のナデ		1mm以下の小石と砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-09	鉢	-	西	1.3E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 壁力の条痕、斜面の直線	(外) 壁力のナデ		0.5mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-10	-	曾根	西	1.2E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 壁の条痕と斜面の直線	(外) 壁力のナデ		2mm以下の砂粒、1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-11	鉢	曾根	西	1.4E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 口縁部ギザミ、目、条痕、短波状文	(外) 壁力のナデ		2mm以下の砂粒、1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-12	鉢	曾根?	西	1.2D	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 波状地文によるギザミ、 (内) 条痕 (2枚貝)	(外) 壁力のナデ		1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
046-13	-	鳥島日か? 3 (ノ所) 所の風形	西	1.2E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 3字形の波状地文、粘土で上げた堆積物。	(外) 壁力のナデ		1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
047-01	-	羽島下槽 田氏	西	1.2E	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 上げた堆積物、下方に灰縫文	(外) 壁力のナデ		砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
047-02	-	羽島下槽 田氏	西	1.1D	第3 黑色 土 壁	-	-	-	(外) 半球形管による波状地文の貯留部底	(外) 壁力のナデ		砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	

博図	種類	時期・形式	区	通構	層位	口述	相名	最大距	底邊	南地・文書の特徴	調査	附註	土	色
047-03	-	羽鳥下唇 皿式	西	1.2 D 土	第3色	-	-	-	-	(外) 遠赤する形板が2枚 (内)	2mm以下1mm以下の形板を含む	(外) 黒褐色 (内) 褐褐色		
047-04	-	羽鳥下唇 皿式	西	1.1 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 半纏竹管による底文(2列)、斜行する底文 (内) 半纏竹管による底文(2列)、斜行する底文	密	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-05	-	羽鳥下唇 皿式	西	1.3 D 土	第3色	-	-	-	-	(外) 口：刷に上るタヂ、通達形刷、横刷の刷毛刷なし (内) 繩刷の刷毛刷	密；繩刷を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-06	-	羽鳥下唇 皿式	西	1.2 D 土	第3色	-	-	-	-	(外) 遠赤する底文 (内) なで	0.5mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-07	林	羽鳥下唇 皿式	西	1.2 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 半纏竹管による底文 (内) 繩刷の刷毛刷	1mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-08	林	羽鳥下唇 皿式	西	1.2 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 清潔底文 (内) 清潔底文	1mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-09	-	羽鳥下唇 皿式	西	1.3 D 土	第3色	-	-	-	-	(外) 半纏竹管による底文 (内) 備方向の繩刷	3mmの小石、2mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-10	-	羽鳥下唇 皿式	西	1.2 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 半纏竹管の刷毛刷なし (内) 繩刷の刷毛刷	1mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-11	-	羽鳥下唇 皿式?	西	1.3 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 半纏竹管の刷毛刷なし (内) 繩刷の刷毛刷	やや粗 3mmの小石、1mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-12	林	羽鳥下唇 皿式?	西	1.1 D 土	第3色	-	-	-	-	(外) 遠赤する底文 (内) 繩刷の刷毛刷	2mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-13	林	羽鳥下唇 皿式?	西	1.3 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 口縁刷による底文、運達した刷印文 (内) 亂刷	1.5mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
047-14	-	-	西	1.2 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 清潔底文の跡刷による羽口圧痕 (内) 繩刷	2mmの茶色、1mm程度の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-01	林	月崎下唇	西	1.3 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 梱刷、刷毛によるタヂ、4列の刷毛(4列) (内) 繩刷	1mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-02	-	月崎下唇	西	1.3 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 口縁刷による底文あり、刷毛刷付黒墨 (内) 美致	密；繩刷を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-03	-	月崎下唇	西	1.3 E 土	第3色	23.2cm	-	-	-	(外) 梱刷による底文のタヂ、ロ繩刷に押し引き文 (内) 繩刷	1mm以下の形板が現じる	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-04	-	月崎下唇	西	1.2 E 土	第3色	-	-	-	-	(外) 口縁刷による底文、口縁刷付付、繩 (内) 繩刷	密；繩刷を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-05	深林	月崎下唇	西	1.1 D 土	第3色	-	-	-	-	2mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色			
048-06	-	月崎下唇	西	1.2 D 土	第3色	-	-	-	-	(外) 口縁刷による底文、それ以外は斜方刷 (内) 繩刷	密；繩刷を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-07	浅林	月崎下唇	西	1.4 E 土	第3色	-	-	-	-	6mm以下の小石、3~2mm以下の小石を多く含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色			
048-08	-	月崎下唇	西	1.1 D 土	第3色	-	-	-	-	3mm以下の小石、1mm以下の形板を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色			
048-09	-	月崎下唇	西	1.3 E 土	第3色	-	-	-	-	4mm以下の小石、下方に2段の刷文なし (内) 繩刷	密；繩刷を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		
048-10	-	月崎下唇	西	1.3 E 土	第3色	-	-	-	-	4mm以下の小石、下方に2段の刷文なし (内) 繩刷	密；繩刷を含む	(外) 黑褐色 (内) 褐褐色		

海図	緯度	緯度・経度	区	流域	層位	河川	流域	層位	形態・文書の特徴	調査	基土	地調
048-11	糸	月崎下層	西	1.4 E	第3層色	-	-	-	(外) 条款、單行文、 (内) 横ナダ	基：2 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 深褐色		
048-12	糸	-	西	1.4 E	土層(45)	-	-	-	(外) 壓定石あり、口縁部にギザミ目あり (内) 横ナダ (内) 橫ナダ	基：1 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
048-13	糸	月崎下層	西	1.2 D	第3層色	-	-	-	(外) 口縁部表記文のギザミ目 (内) 横ナダ	基：0.5mm以上の石英を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
048-14	糸	-	西	1.4 E	第3層色	31.6m	-	-	(外) 口縁部表記文のギザミ目 (内) 横ナダ	基：帶状を含む、3 mm以下の砂 粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
048-15	糸	月崎下層?	西	1.4 D	土層	-	-	-	(外) 横ナダ (内) 横ナダ	基：帶状を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
048-16	-	-	西	1.3 E	第3層色	-	-	-	(外) 口縁部表記文、单行 (内) 横ナダ	基：(外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-01	糸	里木1	西	1.3 D	第3層色	-	-	-	(外) 口縁部表記文下方に横筋、漢文 (内) 横ナダ (内) 横ナダ	基：2 mm以下の石英を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-02	糸	里木1	西	1.1 E	第3層色	-	-	-	(外) 上方強度に半斜行筋による押し引き1条 下方に弱度に横筋が2条 (内) 指頭圧正紙	基：3 mmの小石、1 mm以下の砂 粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-03	-	里木1	西	1.3 E	第3層色	-	-	-	(外) 強度2以上に半斜行筋による押し引き漢文 (内) 横ナダ	基：1 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-04	糸	里木1	西	1.2 E	第3層色	-	-	-	(外) 2条の強度漢文、1条の強度文、漢文 (内) 指頭圧正紙 (内) 横ナダ	基：2 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-05	-	里木1	西	1.3 D	第3層色	-	-	-	(外) 強度2以上的強度漢文、序章は押し引き文、 序章は押し引き文(既読もあり) (内) 指頭圧正紙	基：微細粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-06	-	里木1	西	1.4 E	第3層色	-	-	-	(外) 極度2以上(強度上から押し引き文)、漢文 (内) 横ナダ	基：2 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-07	糸	里木1	西	1.2 E	第3層色	-	-	-	(外) 強度1と漢文 (内) 横ナダ、指頭圧正紙	基：2 mmの小石、0.5mm以下 の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-08	-	里木1	西	1.2 E	第3層色	-	-	-	(外) 漢文、横筋の施押さえ (内) 指頭圧正紙	基：2 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-09	糸	里木1?	西	1.4 D	第3層色	-	-	-	(外) 強度2以上に横筋を付ける (外) 他の部分はナデ (内) 日向御前紙	基：1 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-10	-	里木1?	西	1.2 E	第3層色	-	-	-	(外) 強度2以上に上方漢文の通称するもの2条 (内) 横ナダ	基：微細粒と漢文を含む (外) 黄褐色		
049-11	糸	-	西	1.2 E	第3層色	-	-	-	(外) 口縁部以下2段の質のない、強度に漢文を付ける (内) 指頭圧正紙	基：大きいもので3 mmの大砂粒 を含む、1 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-12	糸	萬文崩崩?	西	1.1 E	土層	27cm	33cm	-	(外) 横ナダの2枚貝条 (内) 砂又は土に付ける方向で「2枚貝条」	基：帶状を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-13	-	-	西	1.2 E	第3層色	-	-	-	(外) 厚さ、たて条痕 (内) 上方横ナダ	基：帶状を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-14	糸	-	西	1.3 E	土層	-	-	-	(外) 斜行2条の強度 (内) 斜行2条の強度	基：2 mmの大砂石、1 mm以下の 砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-15	糸	-	西	1.3 E	第3層色	-	-	-	(外) 横ナダ	基：2 mm以下の砂粒を含む (外) 黄褐色 (内) 黄褐色		
049-16	糸	漢文・崩崩	西	1.2 D	第3層色	-	-	-	(外) たて2枚貝条 (内) 横ナダ	基：2 mm以下の砂粒を含む、光 沢のある引出		

標記	地 場	時期・形式	区	層 厚	層 位 (底上H)	口徑	端部	最下端	所屬・文様の特徴	輪 置	輪 置	輪 土	色 調
049-17	-	-	西	1.3 E	土 壁	-	-	-	(外) 先端(横方向) 刻文なし	なし	-	0.5mm以下の砂を含む	(外) 深黄褐色 (内) 黄褐色
049-18	鉢	-	西	1.2 E	土 壁	-	-	-	(外) 指印と斜けた条痕	(外) ナナデ	7mm以下の大石、2mm以下の砂を含む	7mm以下の大石、2mm以下の砂を含む	(外) 黑褐色 (内) 深黑色
049-19	深鉢	-	西	1.4 D	土 壁	-	-	-	(外) 指印	(内) ナナデ	2.5mm以下の大石、1mm以下の砂を含む	2.5mm以下の大石、1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 深黑色
055-01	-	大嵐山	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 陶器上に半軸竹管による押し引き文、凹形溝	(外) ナナデ	大砂を含む	大砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-02	-	大嵐山	西	S K O S	-	-	-	-	(外) 地は陶文、陰筋上に半軸竹管による押し引き文	(外) ナナデ	大砂を含む	大砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-03	-	大嵐山	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 指印 文	(外) ナナデ	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色
055-04	-	大嵐山	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 指印 文	(外) ナナデ	2mm以下の小石、1mm以下の砂を含む	2mm以下の小石、1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色
055-05	鉢	-	大嵐山	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	(外) 指印 文	(外) ナナデ	2mm以下の砂を含む	2mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-06	-	大嵐山	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 指印 文	(外) ナナデ	2mm以下の小石、0.2mm以上の砂を含む	2mm以下の小石、0.2mm以上の砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-07	-	大嵐山?	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 指印 の条痕	(外) ナナデ	2mm以下の小石 1mm以下の砂を含む	2mm以下の小石 1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色
055-08	鉢	-	大嵐山?	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	(外) 指印 文	(外) ナナデ	2mm以下の砂を含む	2mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-09	-	月崎下階	西	S K O S	新2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 口縁部陶文のキザミ、側面の条痕	なし	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色
055-10	-	月崎下階	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) たて方の条痕	なし	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色
055-11	-	月崎下階	西	S K O S	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 指印の条痕	なし	少量含む	少量含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-01	深鉢	-	大嵐山	西	1.3 E	第2黒色 土 壁	34cm	-	(外) 4条の筋上から押し引き文、陶文による押し引き文、滑道上から押し引き文、滑道上から押し引き文 (2段)	(外) ナナデ	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-02	-	大嵐山	西	1.3 E	第2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 4条の筋上から押し引き文、陶文による押し引き文、滑道上から押し引き文 (2段)	(外) ナナデ	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色
055-03	-	大嵐山	西	1.4 E	土 壁	-	-	-	(外) 陶器上に押し引き文、陶文	なし	大砂を含む	大砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色
055-04	深鉢	-	大嵐山	西	1.3 E	第2黒色 土 壁	-	-	(外) 陶器上から押し引き文 (半軸竹管) 2段、地は滑道上から押し引き文 (半軸竹管) 2段、1半径2ミリガキ	なし	大砂を含む	大砂を含む	(外) 深黃褐色
055-05	鉢	-	大嵐山	西	1.3 E	第2黒色 土 壁	-	-	(外) 上方斜面上に半軸竹管による押し引き文、その下に滑道	なし	6mm以下の大石 2mm以下の中砂を含む	6mm以下の大石 2mm以下の中砂を含む	(外) 黑褐色 (内) 深黑色
055-06	鉢	-	大嵐山	西	1.4 D	土 壁	-	-	(外) 半軸竹管による押し引き文、3条の筋上から押し引き文	なし	大砂を含む	大砂を含む	(外) 黑褐色 (内) 深黑色
055-07	-	大嵐山	西	1.3 D	新2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 口縁部陶文による押し引き文、その下文	(外) ナナデ	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 黑褐色 (内) 深黑色
055-08	-	大嵐山	西	1.3 E	新2黒色 土 壁	-	-	-	(外) 陶器文による押し引き文、下方開口	(外) ナナデ	1mm以下の砂を含む	1mm以下の砂を含む	(外) 深黃褐色 (内) 黑褐色

件名	前 備	時期・型式	区	場 所	層 位	材 种	断面	最大径	底 面	形態・文様の特徴	測 定	地 土	色 調
058-09	鉢	縁なし、底なし！ ～大根山	西	1.4 E	第2黒色 土	-	-	-	-	(外) 断面は楕円で、底面は城から削りが入っている (内) 織目	径：1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 淡褐色	
058-10	浅鉢	大根山	西	1.3 D	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文	径：1mm程度の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色	
058-11	深鉢	縦元式	西	1.2 E	第2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文 (内) 織目が底板	径：大きいものの3mm以下の砂 粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 淡褐色	
058-12	-	縦元	西	-	-	-	-	-	-	(外) 縞文 (内) 織目が底板	径：5mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 淡褐色	
058-13	深鉢	縦元	西	1.2 D	第2黒色 上	層	-	-	-	(外) 縞文 (内) 織目が底板	径：5mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 淡褐色	
058-14	-	縦文中期・ 縦元式	西	1.3 E	第2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文 (内) 織目	やや粗：4mm、3mm以下の砂粒 を含む	(外) 黄褐色 (内) 淡褐色	
058-15	深鉢	縦文中期・ 新2黒色式	西	1.2 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文で区画された骨文	1mm以下の砂粒を含む	(外) 黑褐色 (内) 黑色	
058-16	深鉢	縦文中期・ 新2黒色式	西	1.2 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文 (内) 織目、繩目 (内) 織目が底板	3mmの小石、1mm以下の砂 粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-17	-	縦文中期・ 新2黒色～ 縦2黒色	西	1.2 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文 (内) 織目が底板	4mm以下、2mm以下の長石 を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-18	鉢	縦文中期・ 新2黒色	西	1.2 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文	普通1mm大的石を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-19	浅鉢	縦文中期	西	1.3 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 細かに斜め文が複数回に連続する。	1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-20	鉢	縦文後期	西	1.3 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 細かい斜め文が複数回に連続する。 (内) 織目が底板	3mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-21	-	後期・鉢割 無文土器	西	1.2 E	新2黒色 土	層	3.0cm	16.2cm	-	(外) 斜けする巻き貝殻 (内) 斜けする巻き貝殻	3mmの形の、1mm以下の砂 粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-22	-	-	西	1.2 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 縞文の底板の打ち出しがあり (内) 縞文の底板	1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
058-23	-	-	西	1.2 E	新2黒色 土	層	9.0cm	-	-	(内) 条痕	2mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-01	鉢	月崎下層	西	1.3 D	第2黒色 土	層	-	-	-	(外) 斜け引き新文が2段	2mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-02	鉢	月崎下層	西	1.3 D	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 2段の押し引きによる新文	1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-03	鉢	-	西	1.4 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 刷毛があり（工具不詳） (内) 刷毛	2mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-04	-	-	西	1.4 E	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 口縁部、ヘラによる新文、 (内) 刷毛	0.5mmの砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-05	深鉢	-	西	1.3 D	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 振正版、口縁部に刷痕のサザミ (内) 刷毛	1mm大的砂粒が混じる	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-06	-	縦文前期	西	1.1 E	新2黒色 土	層	-	-	-	連続する新文	1mm以下の砂粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	
059-07	-	縦文前期	西	1.2 D	新2黒色 土	層	-	-	-	(外) 斜け引きの具象文 (内) 織目が底板	大きいものの2mm程度の砂 粒を含む	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	

博団	編	編	時間・型式	区	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪	繪
059-08	…	…	織文前期	西	1.4 E	層 2 黒色 土 壁	1.4 E	層 2 黒色 土 壁	層 3 黒色 土 壁	層 4 黒色 土 壁	層 5 黒色 土 壁	層 6 黒色 土 壁	層 7 黒色 土 壁	層 8 黒色 土 壁	層 9 黒色 土 壁	層 10 黒色 土 壁	層 11 黒色 土 壁	層 12 黒色 土 壁	層 13 黒色 土 壁
059-09	-	-	帶塗あり	西	S 10.1	G 番	S 10.1	G 番	S 10.1	G 番	S 10.1	G 番	S 10.1	G 番	S 10.1	G 番	S 10.1	G 番	S 10.1
060-01	便	2 滅	西	S 10.1	G 番	23cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-02	便	6 滅	西	S 10.1	G 番	15.3	7.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-03	便	-	西	S 10.1	G 番	-	3.1cm	-	9.0cm	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-04	滅	5 朝以降	西	S 10.1	Pno. 899	26cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-05	便	-	西	S 10.1	G 番	(73)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-06	便	-	西	S 10.1	貼り紙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-08	勝台か?	發生後期	西	S 10.1	G 番	(120)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
060-09	林	織文前期	西	S 10.1	貼り紙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-01	便	1 滅	西	S 10.1	M 番	(67)	12.5cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-02	便	1 b 滅	西	S 10.1	M 番	(87)	21.8cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-03	便	4 滅	西	S 10.1	M 番	(17)	17.4cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-04	便	4 滅	西	S 10.1	M 番	26cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-05	便	4 滅	西	S 10.1	Pno. 90	17.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-06	便	5 滅	西	S 10.1	M 番	17.6cm 8.9cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-07	便	6 滅	西	S 10.1	M 番	20.8cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-08	便	6 滅	西	S 10.1	原 1 番	23cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-09	便	-	西	S 10.1	M 番	(133)	11.6cm 5.5cm 25.8cm	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-10	(網前)	-	西	S 10.1	N 番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-11	(網前)	-	西	S 10.1	M 番	(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
067-12	便	-	西	S 10.1	M 番	(147)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

構造	輪幅	輪厚	型式	区	油槽	履位	(底面) 口端	輪高	輪幅	輪高	形態・文様の特徴			規	規	規	規		
											底面	側面	底面						
067-13	要	-	西	S 1 0 1	M ■	-	-	-	(外) 縦横斜め文6条、黒斑	(外) 1mm以下の砂粒を多く含む	(外) 1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 混色系	(外) (内) 黄色系						
067-14	要	-	西	S 1 0 1	M ■	-	-	-	5.4cm なし	(外) 縦横斜め方向のへラ削り	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
067-15	要	-	西	S 1 0 1	M ■	-	-	-	10.2cm なし	(外) たて方向のへラ削り	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
067-16	底脚杯 (転前)	-	西	S 1 0 1	厚土	-	-	-	(外) 一部縫合着	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
069-01	要	-	西	S 1 0 2	M ■	-	-	-	(外) 縦横斜め文2段	(外) 2mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	
069-02	要	-	西	S 1 0 2	M ■ (55)	-	-	-	(外) 縦斜め文による斜め文	(外) 0.5mm以下の砂粒をわずかに含む	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	(外) (内) 混色系	
072-01	-	1.4輪	西	S 1 0 3	G ■	[2310]	18. Km	-	-	(外) 一部縫合	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
072-02	要	2輪	西	S 1 0 3	G ■	[2355]	18. Km	-	-	(外) 口縫合部より上の比較	(外) 2mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 混色系							
072-03	要	5輪	西	S 1 0 3	G ■	[2390]	16cm	-	-	(外) 口縫合部による平行化斜文、ナゲ面、縫合部には平行化斜文、斜め文	(外) 口縫合部から漏出地ナゲ、斜め上端、斜め下端	(外) (内) 黄色系							
072-04	要	1.6輪	西	S 1 0 3	G ■	[2846]	17. Km	4.5cm	-	(外) 縫合着	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
072-05	要	-	西	S 1 0 3	G ■	[2309]	-	-	-	(外) 縫合工具による斜め文、2選現存、下に丸縫	(外) 1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 黄色系							
072-06	要	-	西	S 1 0 3	G ■	[2317]	15. Km	-	-	(外) 縫合工具による平行化斜文、シャープなヘラ	(外) 0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
072-07	要	-	西	S 1 0 3	G ■	-	-	-	(外) 背面斜め面の斜め文(2段)上部に縫合、斜め文	(外) 1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
072-08	要	-	西	S 1 0 3	G ■	[2316]	-	-	-	(外) 縫合工具による斜め文、波状文	(外) 1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 黄色系							
072-09	要	学生中頃?	西	S 1 0 3	G ■	[2312]	-	-	-	6.4cm なし	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
072-10	要	-	西	S 1 0 3	G ■	-	-	-	6.4cm なし	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
072-11	要	底脚台	-	西	S 1 0 3	G ■	[2311]	-	-	-	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
073-01	要	5輪	西	S 1 0 3	厚土	[13. Km]	-	-	-	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
073-02	要	-	西	S 1 0 3	M ■	[2344]	-	-	-	(外) 丸縫、斜め斜め文	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
073-03	要	底脚台	-	西	S 1 0 3	厚土	-	-	-	-	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
073-04	要	底脚台	-	西	S 1 0 3	M ■	[16. Km]	-	-	-	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							
073-05	高杯	底脚後期	西	S 1 0 3	M ■	[2256]	15cm	-	-	(外) 上部高延	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系							

標記	船種	船型・型式	区	港構	層位	層位 (海上N)	口徑	船名	底质	形態・文様の特徴	測量・整備	船土	土色	闊	
073-06	曳	-	西	S 10 3	M層	12.5m 8.6cm	-	-	なし	(外) 口部低い場所で、ハーフの立ち揚ナデ、 やや低位置、3mm程度小石を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
073-07	曳	-	西	S 10 3	M層	[3.6m]	-	-	なし	(外) 口部低い場所で、ハーフの立ち揚ナデ、 やや低位置、2mm以下の砂粒	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
074-01	曳	6噸	西	S 10 3	底2船底 (土盛り) 土	19.4cm 17cm	-	(外) 船底、平行状、斜交文	(外) 浅礁ナデ、斜交して、チメナデ、 外口部から奥側、底礁アラマリナデ、頭部以下	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
074-02	曳	5噸	西	S 10 3	-	19.4cm	-	24.6cm	-	(外) 船底に14歳以上の回紋とその下は斜めのシャー ープな斜刺	(外) 口部低い場所で、斜交して、チメナデ、 頭部以下	面：0.5mm以下の砂粒を僅かに 含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系
074-03	曳	5噸	西	S 10 3	-	16.2cm	-	-	(外) 斜交文、平行状海文	(外) 斜交して、チメナデ、頭部以下	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
074-04	曳	5噸	西	S 10 3	-	16.2cm 24.5cm	-	(外) 斜交平洋状下、斜交文	(外) 口部低い場所で、頭部以下	面：1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
076-01	曳	新造IV型式	西	S 10 3	M層	16.8cm 3.4cm	-	(外) 口部部 3条回紋文	(外) (P)I褐色ナデ、頭部以下ハケメ	面：1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
076-02	曳	1.5噸	西	S 10 3	M層	18.8cm	-	(外) 口部部 3条の回紋、斜交文	(外) (P)I褐色ナデ、頭部以下ハケメ	面：1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
076-03	曳	2噸	西	S 10 3	G層	19.5cm 6.3cm	-	(外) 口部部工具による	(外) 口部部ナデ、頭部以下斜方角へラブリ	面：1mm以下の砂粒	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
076-04	臺	-	草田2	西	S 0 3	G層	17.6cm 11.5cm	-	なし	(外) 斜交ナデ、頭部ヘリカギナデ、 頭部以下	面：1mm程度の小石を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
076-05	曳	-	西	S 10 3	G層	15.4cm 9.1cm	-	(P)I爆付着	(外) 口部部ナデ、頭部以下ハケメ	面：0.5mm程度の砂粒を多く含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
076-06	曳	-	西	S 10 3	M層	-	-	(外) 口部部工具による	(外) (P)I爆付着ナデ、頭部以下Fへラブリ	面：2mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系		
076-07	曳	-	西	S 10 3	M層	-	-	3.2m	-	(外) 口部部ナデ、頭部ヘリカギナデ、 頭部以下	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
076-08	曳	-	西	S 10 3	M層	12.6cm 9.3cm	-	-	(外) 口部部工具による	(外) 口部部ナデ、頭部以下ハケメ	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
076-09	曳	4噸	西	S 10 4	G層	14.6cm	-	-	(外) 口部一部分にナサ付着	(外) (P)I爆付着ナデ、頭部以下ハケメ	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
076-10	曳	-	西	S 10 4	M層	15.4cm	-	-	(外) 機械工具による多状穴継	(外) (P)I爆付着ナデ、頭部ヘリミガキ	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
076-11	曳	5噸	西	S 10 4	M層	[2998]	-	-	(外) 機械工具による多状穴継	(外) (P)I爆付着ナデ、頭部ヘリミガキ	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
076-12	曳	-	西	S 10 3	M層	[2997]	-	-	11.4cm	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I爆付着ナデ、頭部以下Fナデ	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
083-01	曳	1.5噸	西	S 10 5	G層	-	-	-	(外) 3条の回紋	(外) (P)I爆付着ナデ	面：1mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
083-02	曳	4噸	西	S 10 5	C層	16.4cm 4.7cm	-	-	(外) 口部部回紋	(外) (P)I爆付着ナデ、頭部以下ハケメ	面：0.5mmの砂粒を僅かに含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	
083-03	曳	-	西	S 10 5	G層	18.7cm	-	-	(外) ところどころ横付着	(外) (P)I爆付着ナデ	面：2mm以下の砂粒を含む	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	(外) (P)I褐色系	

傳説	路線	時間・形式	区	種別	座標 (WGS84)	口経	幅員	最大限高	形状・文様の特徴	圖	要	概	土	色	圖
083-04	-	5頃	西	S 1 0 5 G 番	[18.3km] 6.7cm	-	-	-	(外)ヘラ先の尖端たて ハケ付の尖端ナデ、頭部から直角に下へ削り (内)頭部直角ナデ、頭部へヘラ削り	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
083-05	便	5頃	南	S 1 0 5 Pno.3697	[20km] 14.9cm	-	-	-	(外)頭部直角ナデ、頭部へヘラ削り (内)頭部直角ナデ、頭部へヘラ削り	0.5mmの砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
083-06	便	6頃	西	S 1 0 5 G 番 (3614)	[18.6km]	-	-	-	(外)口縫部直角に深げ削る (内)口縫部直角に削つ。	3.5mmの小石、0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
083-07	便	6頃	西	S 1 0 5 (3645)	[12cm]	-	-	-	(外)口縫部直角に削つ。	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
083-08	鉛形磨台	-	西	S 1 0 5 G 番	-	-	-	-	(外)頭部削り	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
083-09	便	-	西	S 1 0 5 G 番	-	-	-	-	(外)上部21角度の波状	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
083-10	-	-	西	S 1 0 5 G 番 (3234)	[19.6km] 4.5cm	-	-	-	(外)平行状況、直状文	1.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-01	便	1.5頃	西	S 1 0 5 M 番 (3234)	[18cm]	-	-	-	(外)口縫部削り	3mmの砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-02	便	2頃	西	S 1 0 5 (3068)	[23cm]	-	-	-	(外)口縫部削り	1.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-03	便	4頃	南	S 1 0 5 (3687)	[14.6cm]	-	-	-	(外)頭部以下5条の平行状況	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-04	便	5頃	西	S 1 0 5 (3664)	[16.2cm]	-	-	-	(外)脣部に斜状削り文	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-05	便	5頃	西	S 1 0 5 (3532)	[17.6cm] 3.9cm	-	-	-	(外)口縫部削り	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-06	便	5頃	西	S 1 0 5 Pno.3349	[16.8km] 24.5cm	-	-	-	(外)頭部8条の波状文、頭部13条以下の平行 状況文	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-07	便	-	西	S 1 0 6 G 番	[17.8cm]	-	-	-	(外)斜削り	2mm以下	(外) (内) 黄色系				
084-08	便	6頃	西	S 1 0 5 (3220)	[19cm]	-	-	-	(外)頭部削り	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
084-09	便	6頃	西	S 1 0 5 (3621)	[25.8cm] 7.2cm	-	-	-	(外)頭部直角面	3mm程度の小石、1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
085-01	便	-	西	S 1 0 5 塵土	-	-	-	-	(外)頭部削り	1mmの砂粒を少量含む	(外) (内) 黄色系				
085-02	便	-	西	S 1 0 5 〔中央上坑〕	-	-	-	-	(外)頭部削り	4mmの小石、1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
085-03	便	-	西	S 1 0 5 〔中央上坑〕	M 番	-	-	-	(外)頭部へリカット削り	外へ削り方側面へ削り	(外) (内) 黄色系				
085-04	便	-	西	S 1 0 5 (3161)	M 番	-	-	-	(外)頭部削り	0.5mmの砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
085-05	便	-	西	S 1 0 5 M 番	-	-	-	-	(外)頭部削り	2mm、1mmの砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				
									(外)頭部削り	2.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系				

種別	器種	形状・型式	区	選標	層位 (W.M.)	口径	断面 形状	断面 大きさ	形態・文様の特徴	圖 案	七 色 圖
085-06	(彌生)	-	西	S 1 0 5	N層	-	-	-	(外) 旗部ナデ	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-07	彌	-	西	S 1 0 5	M層 (3828)	-	-	-	(外) ハケナム (内) 横方向へ削り	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-08	彌	-	西	S 1 0 5	M層 (3828)	-	-	-	(外) 斧形工具による平行な削文、金具状付文	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-09	彌	-	西	S 1 0 5	M層 (3828)	-	-	-	(外) 斧形工具による平行な削文、その下に垂状文	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-10	彌	-	西	S 1 0 5	M層	-	-	-	(外) 一括削けき (内) 一括削けき	2mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-11	彌形器台	-	西	S 1 0 5	M層 (3828)	7cm	-	-	(外) 垂状文 (P) 受部はヘラミガキ、脚部はハラシ削り	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-12	彌环	中幅	西	S 1 0 5	土	-	-	-	(外) 口縁部上端1/3の凹彎文、口縁部4/5の凸彎文 (内) 有	無刃部含む	(外) (P) 黄色系
085-13	高环	-	西	S 1 0 5	M層	-	-	-	(外) 頭部：「条回彎部」、杯部：垂き (P) 突き、底部：斜面	無刃部：吹り削り	(外) (P) 黄色系
085-14	高环	渐生後期	西	S 1 0 5	M層	-	-	-	(外) 方眼ナデ	0.5mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
085-15	高环	-	西	S 1 0 5	M層	28.2cm	7cm	-	(外) 大の小石を含む	2mm大の小石を含む	(外) (P) 黄色系
088-01	彌	-	西	S 1 0 6	土	-	-	-	(外) 旗部ナデ	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
088-02	彌	2端	西	S 1 0 6	M層 (3822)	16.6cm	-	-	(外) 旗部ナデ	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
088-03	彌 (口縫)	2端	西	S 1 0 6	M層 (3822)	11.0cm	-	-	(外) 口縫部外側に平行工具による3条の平行彎文 (内) 有	0.5mmの刃部を多く含む	(外) (P) 黄色系
088-04	彌	2端	西	S 1 0 6	G層 (3827)	22.4cm	6.8cm	-	(外) 口縫部、頭部に平行彎文 (内) 有	0.5mmの刃部を多く含む	(外) (P) 黄色系
088-05	朴	6端	西	S 1 0 6	M層 (3832)	24.4cm	23.4cm	-	(外) 頭部平行彎文 (内) 有	0.5mm以下の刃部を多く含む	(外) (P) 黄色系
088-06	彌	-	西	S 1 0 6	M層	-	-	-	(外) 有	1mm以上の刃部工具による	(外) (P) 黄色系
088-07	底部	-	西	S 1 0 6	M層 (3829)	-	-	-	(外) 旗部ナデ、頭部切削方向カーブナデ	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
088-08	高环	中幅	西	S 1 0 6	G層	17.2cm	-	-	(外) 旗部ナデ	2mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
090-01	1.5端	西	S 1 0 7	G層	[18]cm	-	-	-	(外) 旗部ナデ	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
090-02	彌	6端	西	S 1 0 5	M層 (3822)	-	-	-	(外) 旗部ナデ	1mm以下の刃部を含む	(外) (P) 黄色系
090-03	彌形器台	-	西	S 1 0 5	M層 (3822)	19.6cm	-	-	(外) 旗部ナデ (ヘラ擦り)	無刃部を含む	(外) (P) 黄色系
090-04	彌	-	西	S 1 0 7	M層	-	-	-	(外) 13条以上の波状文 (内) 有	3mmの小石、1mm以下の砂粒を含む	(外) (P) 黄色系
093-01	彌	V1端式	西	S 1 0 8	M層 (3754)	26.6cm	-	-	(外) 2条の凹彎文 (内) 有	2mm以下の砂粒を含む	(外) (P) 黄色系

標因	器種	神廟・聖式	区	遺構	層位	口径	器高	最大径	底径	形態・文様の特徴	形態・文様の特徴	陶	土	色	調
093-02	甕	4輪	西	S 1 0 8	M層 (373)	30cm	5.8cm	-	-	底付甕	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：3mm以下の底付と1mm以下の壁 を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-03	甕	5輪	西	S 1 0 8	M層 (373)	15.4cm	-	-	-	底付甕	(外) 壁ナギ (内) 壁ナギ	密：2mm以下、1mm以下の多孔 を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-04	甕	6輪	西	S 1 0 8	表1黑色 土層(373)	18cm	3.4cm	-	-	(外) 口縁部が凹縮状に盛り立てる。焼付甕	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：底付甕を多く含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-05	陶片	-	西	S 1 0 8	表1黑色 土層(373)	-	-	-	-	(外) 織目剥突文	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：2mm以下、1mm以下の多孔 を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-06	-	-	西	S 1 0 8	新1黑色 土層(373)	-	-	-	-	(外) 竹籠文(3段に施される)	(外) ハゲメのラナデ (内) 多孔	密：1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-07	瓶	-	西	S 1 0 8	表1黑色 土層(373)	-	-	-	-	(外) 多孔	(外) 多孔 (内) ヤマ石(ガリ)のヘラ削り	密：1mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-08	瓶形端台	-	西	S 1 0 8	表1黑色 土層(373)	24.8cm	-	-	-	(外) 端部に工具による5段の波状文	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：1.5mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
093-09	瓶形端台	-	西	S 1 0 8	新1黑色 土層(373)	-	-	-	-	(外) なし	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：4mm程度の小石、1mm以下 の砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-01	壺(深鉢)	縄文後期-V層	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 未定、口縁部は波状の形状 なし。	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：1mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-02	壺(深鉢)	縄文後期(深)	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 縦向の条状 なし。	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：3mm程度の小石を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-03	三脚・乳頭の壺	縄文後期	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部下方化粧文	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	電：1mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-04	壺	縄文後期(深)	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部波線文(1段)	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：1mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-05	(口縁部) 文鏡形	縄文後期	西	1.4E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部に粘土貼付(肥厚)	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：3mm程度の小石を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-06	(口縁部) 文鏡形	縄文後期	西	T 1.5	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 未定	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	電：1mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-07	壺形浅鉢	縄文後期	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 横方向のミガキ	(外) 横方向のミガキ (内) 横方向のミガキ	密：4mm程度の小石を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-08	浅鉢	縄文後期(箱型鋲鉢)	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 斜面吹拂文1条あり	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-09	壺	(深鉢)(縁折)	縄文後期	S 1 0 1	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 1条の波線文	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	粗1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黑色系	(外) (内) 黑色系	
099-10	浅鉢	(箱型鋲鉢)	縄文後期	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 横方向ミガキ	(外) 横方向ミガキ (内) 横方向ミガキ	電：2mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
099-11	(口縁部)	箱型鋲鉢文	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部波線文	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：1mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
100-01	(口縁部)	縄文後期	西	1.2D	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部や下方に點打実筋文	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	密：3mm程度の小石を含む	(外) (内) 黑色系	(外) (内) 黑色系	
100-02	(口縁部)	縄文後期	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部下端斜文(キミアリ)	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：1mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	
100-03	(口縁部)	縄文後期	西	1.2E	第1黑色 土層	-	-	-	-	(外) 口縁部や下方に點打実筋文(キミアリ)	(外) 横ナギ (内) 横ナギ	やや密：2mm程度の大砂粒を含む	(外) (内) 青色系	(外) (内) 青色系	

構造	部材	地盤・形状	区	地盤	層位	断面	地盤・地物	断面・文様の特徴	断面・文様の特徴	調査	地盤	地
100-04 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 口輪部や下方に突起、口付端部若干外に折れがある。キザミあり	(外) 口輪部や下方に突起、口付端部若干外に折れがある。キザミなし	柱 : 3mm程度人の小石を含む (外) 黒褐色 (内) 淡褐色	柱 : 3mm程度人の小石を含む (外) 黒褐色 (内) 淡褐色	
100-05 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.1E	-	-	(外) 口輪部下方突起文 (キザミ無し)	(外) 口輪部下方突起文 (キザミ無し)	やや粗 : 2mm以上の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや粗 : 2mm以上の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-06 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	S10.1 第1黒色 土 層	-	-	-	(外) 口輪部下方に突起文 (突起はキザミ状の塊)	(外) 口輪部下方に突起文 (突起はキザミ状の塊)	やや密 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-07 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 口輪部下方に退化した突起文	(外) 口輪部下方に退化した突起文	やや密 : 2mm程度の大いの小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 2mm程度の大いの小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-08 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 制削痕のみ突起文	(外) 制削痕のみ突起文	粗 : 3mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	粗 : 3mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-09 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	9	-	-	(外) 制削痕による斜状文 (削みあり)	(外) 制削痕による斜状文 (削みあり)	やや密 : 1mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 1mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-10 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 斜状付帯斜状文	(外) 斜状付帯斜状文	やや密 : 1mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 1mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-11 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.1E	-	-	(外) 制削痕文 (キザミなし)	(外) 制削痕文 (キザミなし)	やや密 : 3mm程度の大いの小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 3mm程度の大いの小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-12 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.1E	-	-	(外) 斜状付帯斜状文	(外) 斜状付帯斜状文	粗 : 1mm程度人の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	粗 : 1mm程度人の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-13 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 口輪部付帯斜状文による斜状文	(外) 口輪部付帯斜状文による斜状文	やや密 : 斜状を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 斜状を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-14 (口跡跡上方)	深鉢	縄文地盤	西	S10.8 第1黒色 土 層	-	26.8cm	-	(外) 口輪部付帯斜状文	(外) 口輪部付帯斜状文	やや密 : 斜状を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 斜状を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-15 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 竹管工具による斜状文	(外) 竹管工具による斜状文	粗 : 2mm程度人の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	粗 : 2mm程度人の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-16 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	S10.3 第1黒色 土 層	-	-	-	(外) 口輪部上方に突起文 (キザミなし)	(外) 口輪部上方に突起文 (キザミなし)	やや密 : 3mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 3mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-17 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.4E	-	-	(外) 口輪部下方に突起文 (キザミ無し)	(外) 口輪部下方に突起文 (キザミ無し)	やや粗 : 2mm以上の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや粗 : 2mm以上の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-18 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 倒伏多量に付着	(外) 倒伏多量に付着	やや粗 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや粗 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-19 (口跡跡)	深鉢	縄文地盤	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	突起文？	突起文？	やや密 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-20 (脚部片)	脚部	縄文・船元田	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 開口、半斬竹管による通風文	(外) 開口、半斬竹管による通風文	粗 : 2mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	粗 : 2mm程度の大いの砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-21 (脚部片)	脚部	縄文 (漁手)	西	第1黒色 土 層	1.3D	-	-	(外) 斜状文	(外) 斜状文	やや粗 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや粗 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-22 (脚部片)	脚部	縄文	西	第1黒色 土 層	1.4E	-	-	(外) 斜状文	(外) 斜状文	やや密 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 1mm以下の砂粒を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
100-23 (脚部片)	脚部	縄文	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 斜状文	(外) 斜状文	粗 : 2mm以上の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	粗 : 2mm以上の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	
101-01 (口跡跡)	壺	学生前頭	西	第1黒色 土 層	1.2E	-	-	(外) 口輪部外に折り曲がり、突起文にキザミ	(外) 口輪部外に折り曲がり、突起文にキザミ	(外) 厚壁上部ナデ (内)	(外) 厚壁上部ナデ (内)	
101-02 (壺)	壺	学生前頭	西	S10.1 第1黒色 土 層	-	-	-	(外) 口輪部付帯	(外) 口輪部付帯	やや密 : 3mm程度人の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	やや密 : 3mm程度人の小石を含む (外) 黑褐色 (内) 淡褐色	

件目	断橋	断橋・型式	区	場所	部位	高さ	幅	厚さ	最大径	底盤	形態・文様の特徴	脚	脚	脚	脚	脚
101-03	橋 (口断面)	学生前段	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 口縁上部ナード、指廻折底模ナード、(内) 黄褐色	(外) 2mm以下、1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色	(外) (内) 黄褐色	(外) (内) 黄褐色	(外) (内) 黄褐色	
101-04	臺	学生前段	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 9条のヘラ巻木の裏裏	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-05	臺	学生前段	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 壁に2条の化粧文による下を區別された中古有河時代文	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-06	臺	学生前段	西	1.1E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 貝殻文による有河時代文	(外) 砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-07	臺 (断面)	学生中段	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 9条ほどの巻木による新作御文	(外) 断面より上部ナード、たてハケメ縫	やや密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-08	臺又は臺	-	西	1.3E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) 2mmの小石、1mm以下の砂粒を含む	密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-09	臺 (断面)	学生中段	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) 1mm以下の砂粒を含む	密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-10	臺 (断面)	学生中段	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 2条御文	(外) ハケメ縫に施す	密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-11	臺	学生中段	西	S10E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 断面より上部ナード、たてハケメ縫	(外) 間隔より上部ナード、下部側ナード	密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-12	臺	IV型式	西	1.4E	第1黒土	14cm	4.5cm	-	-	(外) 口縁に3条の引継文による刺文	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-13	瓶 (断面)	中筋IV型式	西	1.2E	第1黒土	20.2cm	3.3cm	-	-	(外) 口縁部に2条引継文、口縁と手前部に溝	(外) 付け根にあわせてミカキを施す	密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-14	瓶 (断面)	中筋IV型式	西	1.2D	第1黒土	11.4cm	-	-	-	(外) 口縁部3条の引継文、口縁部3条の凹継文	(外) 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-15	高所	筒筋IV型式	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 6条以上の凹継文	(外) (内) 付根後ナード	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-16	大型筒 (底水抜)	-	西	1.1E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 5条引継文、輪相模文紋	(外) 1mm以下の砂粒を含む	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-17	大型筒 (片)	学生 (中筋後裏)	西	1.1E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 5条引継文	(外) (内) 付根後ナード	密	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-18	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.3E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 8条引継文	(外) (内) 付根後ナード	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-19	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 8条引継文	(外) (内) 付根後ナード	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-20	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.3E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 8条引継文	(外) (内) 付根後ナード	1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-21	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 7条の付根文、1条の凹継文、軸突に	(外) (内) 付根後ナード	0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-22	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.1E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 7条の付根文、1条の凹継文、軸突に	(外) (内) 付根後ナード	0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-23	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 7条の付根文、1条の凹継文、軸突に	(外) (内) 付根後ナード	0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-24	大型筒	学生 (中筋後裏)	西	1.1E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 7条の付根文、1条の凹継文、軸突に	(外) (内) 付根後ナード	0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
101-25	大型筒 (底水抜)	学生 (中筋後裏)	西	1.2E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 7条の付根文、1条の凹継文、軸突に	(外) (内) 付根後ナード	0.5mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	
102-01	臺	1.4E	西	1.3E	第1黒土	-	-	-	-	(外) 口縁3条の凹継文、6条御工具による2	(外) (内) 付根後ナード、底部以下で下斜めの脚方斜削	5mmの小石を含む	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	(外) (内) 黄褐色系	

種別	筋面	細部・型式	区	通構	層位 (段落No.)	口述	筋面	筋大歯	歯頭	形態・文様の特徴	脚	茎	土	色	画
102-02	要	1a種	西	1 1 E	第1黑色	-	-	-	(外) 3系固輪文	(外) 黄色系	密：2mm以下の形態を含む	(外) 黄色系	(外) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-03	要又は要	1b種	西	1 2 E	第1黑色	16.7cm	-	-	(外) 口述3系古輪文、輪部・筋部実文から転換 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-04	要又は要	1b種	西	1 2 E	第1黑色	14.5cm	-	-	(外) 口述部に3条の凹輪文、筋部に筋状工具による文様 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-05	-	1b種	西	1 1 E	第1黑色	23cm	-	-	(外) 口述部 1条の回輪状	(外) 黄色系	密：0.5mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-06	要又は要	1b種	西	1 2 E	第1黑色	19.4cm	3.0cm	-	(外) 口述部 2条の回輪状、筋部は3条古輪文 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-07	要	1b種	西	1 3 E	第1黑色	21.0cm	-	-	(外) 口述部 2条の回輪状、筋部並列した筋 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：0.5mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-08	要	2類	西	1 1 E	第1黑色	15.8cm	-	-	(外) 口述部工具による平行古輪文 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-09	要	2類	西	1 2 E	第1黑色	18cm	5.2cm	-	(外) 口述部 8系古輪文、下半の3条筋はナ (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mmの大めの形を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-10	混合口述	3類	西	1 1 E	第1黑色	15cm	-	-	(外) 口述部筋輪、16系以上の平行古輪文、筋部 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：0.5mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-11	要又は要	3類	西	1 2 E	第1黑色	25cm	-	-	(外) 口述22系の平行古輪文、筋付管 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-12	要	3類	西	1 1 E	第1黑色	14.5cm	-	-	(外) 黑斑瓦面	(外) 黄色系	密：1.5mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
102-13	特	-	西	1 1 E	第1黑色	23cm	-	-	なし	(外) 黑斑瓦面	密：3mm以下の小石、1mm以下 の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-01	要又は要	4類	西	1 2 E	第1黑色	16.2cm	-	-	(外) 口述別列文	(外) 黄色系	密：1.5mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-02	要	4類	西	1 1 E	第1黑色	25.5cm	-	-	なし	(外) 一部深谷瓦面	密：1.5mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-03	混合口述	5類	西	1 1 E	第1黑色	16.2cm	-	-	(外) 口述別列文	(外) 黄色系	密：1mm以下の小石、1mm以下の砂 の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-04	要	5類	西	1 3 E	第1黑色	23cm	-	-	(外) 槌状工具による利突文	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-05	要又は要	6類	西	1 2 E	第1黑色	17.0cm	-	-	(外) 肩部削突文と伴つ、筋部1条の筋突文と10系 以上の平行古輪文	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-06	要又は要	6類	西	1 2 E	第1黑色	18.2cm	-	-	(外) 口述別列文と伴つ、口述筋は平行古輪文と筋突文 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-07	要又は要	6類	西	1 2 E	第1黑色	20.4cm	-	-	(外) 口述筋は基部下端方角へラブリ (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-08	要	6類	西	1 2 E	第1黑色	17.4cm	-	-	(外) 口述筋ナダ	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-09	要	6類	西	1 2 E	第1黑色	19.4cm	-	-	(外) 肩部不規則な3段の筋突文、全般的に裏付 (内) (外) 黄色系	(外) 黄色系	密：1mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	
103-10	二重 口述	6-7類	西	1 1 E	第1黑色	28.8cm	-	-	(外) 口述筋を伴つ (内) 黑瓦	(外) 黄色系	密：3mm以下の形態を含む	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	(外) (内) 黄色系	

種別	群種	時期・型式	区	標本	標本位	標本	標本	標本	標本	標本	標本	標本	標本	標本
103-11	出入り場	7番より 新め	西	1 1 E	土 1 黒	23.0cm	-	-	(外) 口輪部前縫とをも、内面に若干折り返す。 頭より下部はたてハケナメ、頭頂部は頭頂部ナメ、その上部頭部前面に2mmの小石を含む。	(外) (内) 暗色系				
104-01	(住土器)	6 煎	西	1 1 E	土 1 黑	17.4cm	9.5cm	-	たてハケナメ、頭頂部は頭頂部ナメ、頭頂部前面に2mmの小石を含む。	(外) (内) 暗色系				
104-02	(住土器)	-	西	1 2 E	土 1 黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-03	焼	-	西	1 2 E	土 1 黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-04	-	-	西	1 2 E	第1黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-05	焼	-	西	1 2 E	土 1 黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-06	焼形器台	3 煎	西	1 2 E	土 1 黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-07	焼形器台	-	西	1 1 E	土 1 黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-08	焼形器台	-	西	1 2 E	第1黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-09	焼形器台	-	西	1 2 E	第1黑	24cm	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-10	高升	12	西	1 2 E	第1黑	-	8.2cm	-	(外) (内) 暗色系					
104-11	高升	-	西	1 2 E	第1黑	-	10.4cm	-	(外) (内) 暗色系					
104-12	高升 (前)	-	西	1 2 E	土 1 黑	-	-	17.0cm	(外) (内) 暗色系					
104-13	高升脚	-	西	1 2 E	土 1 黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-14	高升	-	西	1 1 E	第1黑	-	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-15	低脚升	-	西	1 1 E	第1黑	16.8cm	-	-	(外) (内) 暗色系					
104-16	低脚升	-	西	1 2 E	第1黑	11.4cm	5.0cm	-	(外) (内) 暗色系					
104-17	低脚升	-	西	1 2 E	第1黑	12.6cm	4.1cm	-	(外) (内) 暗色系					
104-18	低脚升 (前)	-	西	1 2 E	第1黑	-	-	5.7cm	(外) (内) 暗色系					
104-19	低脚升	-	西	1 1 E	第1黑	-	-	3.6cm	(外) (内) 暗色系					
105-01	枕又2 (底)	前縛	西	1 2 E	第1黑	-	3.0cm	-	(外) (内) 暗色系					
105-02	枕又2 (底)	枕生前縛	西	1 1 E	第1黑	-	-	7.5cm	(外) (内) 暗色系					

種別	岩種	時間・形式	区	地 情	層位 (頂面)	口徑	層高	最大直径	形態・文様の特徴	圖 畜	粘 土	色 調
105-03	紫又は黒 (底部)	中層	岱	1 1 E	第1黑色 土・層	2.2cm	-	4.8cm	なし	(外) ミガキ、底面、底部ナダ (内) 断り後ナダ?	セ: 0.5mmの砂粒を含む	(外) (内) 深灰色系
105-04	紫又は黒 (底部)	中層	西	1 2 E	第1黑色 土・層	3.2cm	-	10.8cm	なし	(内) ミガキ、底部ナダ (外) 表面は擦斑、擦傷の詳細は不明	セ: 0.5mmの砂粒を含む	(外) (内) 黄色系
105-05	紫又は黒 (底部)	中層	西	1 2 E	第1黑色 土・層	-	-	6.8cm	なし	(外) たてミガキ (外) 断続的、側面正斜、側面たてへラブリ	セ: 1mmの大砂粒を含む	(外) (内) 深灰色系
105-06	(底部)	後層	西	1 3 E	第1黑色 土・層	-	-	4.6cm	なし	(外) 断続的、側面正斜、側面ナダ (内) ミガキ	セ: 1mmの大砂粒を含む	(外) (内) 深灰色系
105-07	紫又は黒 (底部)	後生後期	西	1 1 E	第1黑色 土・層	-	-	-	なし	(外) 断面たてミケメ、底面ナダ (外) 断面たてヘケメ、底部ナダ	セ: 1mmの大砂粒を含む	(外) (内) 黄色系
105-08	紫又は黒 (底部)	後生後期	西	1 1 E	第1黑色 土・層	-	-	-	なし	(外) 断面たてヘケメ、底面ナダ (外) 断面たてヘケメ、底部ナダ	セ: 5mmの小石、1mm以下の大砂粒を含む	(外) (内) 黄色系
105-09	紫又は黒 (底部)	後層	西	1 2 E	第1黑色 土・層	3.6cm	-	4.4cm	なし	(外) 断面ナダ、底面は工具による大 (内) 全体に相違無く	セ: 0.5mmの砂粒を含む	(外) (内) 深灰色系
105-10	紫又は黒 (底部)	後層	西	1 2 E	第1黑色 土・層	1.8cm	-	5.6cm	(外) 底面には埴込みを持つ	セ: 2mmの大砂粒を含む	(外) (内) 黄色系	
105-11	紫又は黒 (底部)	後層	西	1 2 E	第1黑色 土・層	-	-	6.4cm	(外) 保育着 (内) 保育着	セ: 4mmの小石、1.5mm以下の砂 (外) ハラブリ	セ: 4mmの小石、1.5mm以下の砂 (外) ハラブリ	(外) (内) 深褐色系
105-12	(底部)	-	西	1 2 E	侏土	-	-	-	なし	(外) 上部より黄褐色、下部から白色 (内) 断面ナダ、断面正斜ナダ	セ: 1mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 深灰色系
105-13	(底部)	侏生	西	1 2 E	第1黑色 土・層	-	-	9.5cm	なし	(外) 断面ナダ、断面正斜ナダ (内) 断面ナダ、断面正斜ナダ	セ: 4mmの大砂粒を含む	(外) (内) 黄色系
106-01	焼	-	西	1 2 E	22.0cm(30.3cm)	-	-	-	なし	(外) 上部より黄褐色、下部から白色 (内) 断面ナダ、断面正斜ナダ	セ: 0.5mm以下の砂粒を多く含む	(外) (内) 黄色系
106-02	燒	-	西	S 1 O 3	M層	21cm	-	-	(外) 断面正斜ナダ	セ: 1mm以下の小石を含む	(外) (内) 黄色系	
106-03	焼	古焼後期	西	1 2 E	第1黑色 土・層	10.8cm	-	-	なし	(外) 口縁部から底面ナダ、断面正斜ナダ (内) 断面正斜ナダ、断面正斜ナダ	セ: 2mm～3mmの大砂粒を含む	(外) (内) 黄色系
106-04	板	-	西	1 2 E	第1黑色 土・層	-	-	-	なし	(外) ナダ (外) 断面正斜ナダ、断面正斜ナダ	セ: 3mm以上の小石を含む	(外) (内) 黄色系
106-05	灰	-	西	1 2 E	第1黑色 土・層	13.0cm(3.0cm)	-	6.0cm	(外) 底面外壁以外、内部に赤色斑状が発達され いる。	(外) 断面正斜ナダ、断面正斜ナダ、なしで (内) 断面正斜ナダ	セ: 砂質が剥離されている	(外) (内) 深灰色系
106-06	灰	-	西	1 2 E	第1黑色 土・層	16cm	-	-	(外) 条痕あり、内外に赤色斑状が発達される	(外) 断面正斜ナダ、断面正斜ナダ (内) 断面正斜ナダ	セ: 斑痕は鮮明か?	(外) (内) 黄色系
106-09	灰	-	西	1 2 D	土・層	10.2cm(1.9cm)	-	5.3cm	なし	(外) 断面正斜ナダ、断面正斜ナダ、底部ナダ (内) 断面正斜ナダ、断面正斜ナダ	セ: 3mm以下の砂粒を含む	(外) (内) 黄色系
106-07	堀	-	西	S 1 O 1	G層	-	-	-	なし	(外) 断面ナダ (内) 断面正斜ナダ	セ: 粘土を含む	(外) (内) 深灰色系
038-04	灰	-	東3区	-	第2黑色 土・層	11.6cm(3.1cm)	-	6.5cm	(外) 外側に土質片付着	セ	(外) (内) 黄色系	
101-22	火成岩(火 成岩)	外生 (中層)	西	-	第1黑色 土・層	-	-	-	(外) 剥离によるキズミ、剥離3条 (内) 滑面ハケメ	セ: 働砂粒を含む	(外) (内) 黄色系	
101-23	人型火成 (中層)	外生 (水紋付)	西	1 1 E	第1黑色 土・層	-	-	-	(外) 滑面ハケメ、凹溝文3条、凹溝文1条、剥離によるキズミ (内) 滑面ハケメ	セ: 滑面粒を含む	(外) (内) 黄色系	

埠頭	層 構	時期・型式	区	遺構	層位 第10N	口径	深さ	最六径 底径	形態・文様の特徴	調査・監査の特徴		始 土
										(外)回転ナデ	(内)回転ナデ	
107-01	杯盤?	出窓4脚	西	1.1 E	表土	15.6cm	3.2cm	-	-	-	-	標高：0.7m以下の砂質を覆い含む
107-02	杯盤	出窓5～6脚	西	1.1 E	表土	11.8cm	-	12.0cm	-	-	-	標高：0.5m以下の砂質を覆い含む
107-03	壁	8 C後以降	西	1.3 E	ベント	-	-	-	-	-	-	（内）回転ナデ
107-04	坪	出窓4脚	西	1.2 E	2084	13.7cm	3.5cm	15.8cm	-	-	-	（外）回転ナデ
107-05	坪	出窓4脚	西	1.1 E	第1系 土 壁	11.8cm	3.8cm	14.4cm	4.4cm	-	-	（内）回転ナデ
107-06	坪	出窓5脚	西	1.2 E	第1系 土 壁	10.4cm	3.9cm	14.1cm	7.6cm	-	-	（外）回転ナデ
107-07	坪 (廻溝台)	8 C代	西	1.3 E	第1系 土 壁	14cm	-	14.4cm	-	-	-	（内）回転ナデ （外）回転ナデ
107-08	坪	8 C後半以降	西	1.2 E	第1系 土 壁75	17.4cm	3.1cm	-	-	-	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
107-09	坪	8 C後以降	西	1.2 E	第1系 土 壁75	15.8cm	-	-	-	-	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
107-10	坪 (底部)	8 C代	西	1.3 E	表土	-	-	-	5.2cm	-	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
107-11	高坪	出窓4～5脚	西	1.1 E	土窓651	-	-	-	-	（外）透かし彫り	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
107-12	壁	-	西	1.2 E	-	10.6cm	-	-	-	（外）自然粘土系付着	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
108-01	大甕	-	西	1.1 E	第1系 土 壁	-	-	-	-	（外）2段の沈み、4段の盛起状況（3段）	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
108-02	大型甕	-	西	1.2 E	第1系 土 壁	-	-	-	-	（外）底面に区画された鉢状文（2段）、施文文字9～11系出現層次工具	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
108-03	中型甕	-	西	1.1 E	第1系 土 壁661	23.2cm	6.1cm	-	-	（外）底面以下同心円状尖済 （内）底面以下下同心円状尖済	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
108-04	中型甕	-	西	S 103	M壁	17cm	-	-	-	（外）口縁部より平行たき （内）頭部より平行たき	-	（外）回転ナデ （内）回転ナデ
108-05	甕	-	西	1.1 E	表土	-	-	-	-	（外）頭部おさえ	-	（外）回転ナデ （内）平行たたき
108-06	甕	-	西	1.2 E	第1系 土 壁	-	-	-	-	（内）頭部おさえ	-	（外）回転ナデ （内）平行たたき
108-07	甕	-	西	S 103	M壁207	-	-	-	-	（外）頭部おさえ（青釉板状）	-	（外）回転ナデ （内）平行たたき
108-08	甕	-	西	1.2 E	第1系 土 壁650	-	-	-	-	（外）頭部おさえ	-	（外）2条1cmに2条の平行たたき （内）平行たたき
108-09	甕	-	西	S 103	M壁	-	-	-	-	（外）頭部おさえ	-	（外）平行たたき
108-10	甕	-	西	1.2 E	挿上	-	-	-	-	（外）頭部おさえ（青釉板状）	-	（外）底面たたきのちかく日 （内）頭部お見え
108-11	甕	-	西	S 103	M壁	-	-	-	-	（外）頭部お見え	-	（外）底面たたきのちかく日 （内）頭部お見え

第23表 出土陶磁器観察表

番号	器種	区	遺構	層位・ 底上N	口径	器高	最大径	底径	摘要・文様など	产地
098-05	褐色釉・陶器环	東	3区	-	9.2cm	1.9cm	-	4.3cm	褐色釉	-
109-01	白磁皿(16c)	西	11E(ト レンシテ15)	底上	-	-	-	-	-	中国
109-02	青磁碗	西	11E	表土	-	-	-	5.8cm	-	中国(中世)
109-03	青花碗 (16c末~17c初)	西	11D	表土	-	-	-	5.5cm	底部青花	華南
109-04	瓶	西	13E	-	26.2cm	-	-	-	染付	肥前
109-05	碗	西	11E	第1黑色 土 罩	-	-	-	3.9cm	(内)底部蛇口に輪をはぎとる	肥前
109-06	碗	西	12D	造成上	-	-	-	5cm		肥前 (18c代)
109-07	碗	西	13D	表土	-	-	-	4.2cm	(外)緑釉 (内)染め付	肥前?
109-08	碗	西	-	-	-	-	-	6cm	肥前系	肥前
109-10	碗	西	13D	表土	-	-	-	5.4cm	淡褐色の釉	不明
109-11	皿	西	12D	表土	14.8cm	-	-	-	(外)輪部溝縁 (内)内面に灰釉	唐津
109-12	皿(三ヶ月高台)	西	11E	表土	-	-	-	-	(外)底部、三ヶ月高台、無施釉 (内)乳白色の釉	唐津 (17c中期)
109-13	推鉢	西	11D	表土	-	-	-	-	(外)回転ナデ (内)6条の脚柱による瘤目	在地
109-14	蓋(17c以前)	西	12E	表土	-	-	-	-	(外)5条の沈線 (内)回転ナデ	備前
109-15	甕	西	11D	第1黑色 土 罩	-	-	-	-	(外)戴きあり	肥前系
109-16	甕	西	11E	-	18.5cm	-	-	-	常滑系	-
109-17	瓦質土器(甕)	西	11D	表土	4.0cm	-	-	-	(外)瓶面に修復痕あり。回転ナデ (内)6条のハケ状の条痕あり。	不明

第24表 板屋Ⅲ遺跡 出土 石製品 観察表

擇因NO	種別	区	遺構	層位 取付NO	長径	幅径	厚さ	重量	石材	特徴
037-01	宝鏡印塔	東	-	第1黑色 土層	宝鏡:長径10.1cm 幕(最大)15.9cm 鏡:外径5.1cm 内径11.3cm 九輪:長径9.1cm 幕(最小)8.3cm~10cm	-	-	-	-	九輪が鉛錆しっかりしているので宝町時代の後半~戰国頃
038-01	磨石	東	大木周辺	-	10.4cm	7.6cm	6.2cm	694.8g	-	各面とも滑らかな磨痕が認められる
038-02	圓石	東3区	大木周辺	-	11cm	9.6cm	5cm	651.4g	-	表面は敲打により凹む。裏面は磨面でやや凹む。側面の一部は敲打によりやや凹む部分あり
038-03	石皿	東	大木周辺	-	8.7cm	4.9cm	1.6cm	90.6cm	-	表面面でも磨面線であり凹みが認められる
044-04	剝片	西	集石遺構 土層下	第3黑色 土層	9.5cm	6.5cm	-	-	閃綠岩	自然石の可能性が高い
044-05	剝片	西	集石遺構 土層下	第3黑色 土層	3.7cm	2.6cm	0.6cm	4.9g	安山岩	人為的に加工が加えられた痕跡は無い
050-01	石鎚	西	12E	第3黑色 土層209	1.68cm	1.52cm	0.5cm	1g	黒曜石	回基式の石鎚
050-02	石鎚	西	12E	第3黑色 土層293	1.5cm	1.17cm	0.23cm	0.29g	黒曜石	回基式の石鎚
050-03	石鎚	西	12E	第3黑色 土層293	0.8cm	0.15cm	0.3cm	0.24g	黒曜石	先端部破損の回基式の石鎚
050-04	スクレ イバー	西	-	第3黑色 土層上	2.3cm	1.7cm	0.4cm	2g	黒曜石	-
050-05	剝片	西	-	第3黑色 土層上	1.6cm	1.4cm	0.4cm	0.9g	黒曜石	ただの剝片
050-06	石鎚	西	12E	第3黑色 土層上	5.2cm	2.9cm	0.7cm	8g	流紋岩~ 安山岩	石鎚の刃部を再加工したものか
050-07	スクレ イバー	西	11D	第3黑色 土層上	13.6cm	7.2cm	1cm	-	安山岩(サ ムカイト)	長辺の1辺に細い剝片を施して刃部としている
050-08	磨削石斧	西	14D	第3黑色 土層上	9.4cm	5.1cm	2.1cm	155.4g	質岩	基部は光沢あり。刃部は欠け側面は敲打痕が左右とも認められる
050-09	磨削石斧?	西	13E	第3黑色 土層上	8.9cm	3.3cm	1.8cm	79.6g	泥質岩片	石斧かどうか不明確に判断しない
050-10	椎状磨石	西	13D	第3黑色 土層上	7.8cm	3.2cm	2.5cm	111.5g	質岩	両側面は非常に滑痕が目立つ磨面であり平底になる。表面面は全面ではなく部分的に磨痕が目立ち滑面となる。
050-11	敲石・磨石	西	11D	第3黑色 土層上	9.6cm	6.2cm	5cm	385g	石英斑岩	下面が磨面で平底になる
050-12	敲石・磨石	西	13D	第3黑色 土層上	8.8cm	7.7cm	4.4cm	665.1g	粗面岩	表面面と側面1cm弱程の凹みを持つ。周辺は磨面様であり、又は側面の2面とも磨り面で平底となっている。
050-13	敲石・磨石	西	14E	第3黑色 土層上	8.8cm	7.9cm	5.1cm	622.1g	ひん岩	-
050-14	敲石・磨石	西	11D	第3黑色 土層上	11.6cm	8.7cm	6.1cm	934.6g	-	表面面とともに磨石が認められ。表面中央に敲打痕が認められる
050-15	圓石	西	11E	第3黑色 土層155	13.4cm	11.5cm	4cm	901.7g	ひん岩	表面面とともに敲打により凹む。
051-01	石鎚	西	13D	第3黑色 土層61	5.47cm	3.48cm	1.26cm	4.25g	軽灰岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-02	石鎚	西	11D	第3黑色 土層上	5.41cm	4.1cm	1.42cm	4.66g	ひん岩	扁平な円錐の長辺2ヶ所を打ち欠く
051-03	石鎚	西	S D O 2	第3黑色 土層下部	6.15cm	4.89cm	1.41cm	49.9g	粗面岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-04	石鎚	西	13E	第3黑色 土層上	5.55cm	4.31cm	1.52cm	50.4g	ひん岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-05	石鎚	西	S D O 2	第3黑色 土層下部	5.48cm	5.7cm	1.59cm	53.5g	ひん岩	やや不整形の扁平な円錐の長辺2ヶ所を打ち欠く
051-06	石鎚	西	12E	第3黑色 土層上	5.62cm	4.69cm	1.15cm	55.4g	花崗岩	やや角の残る扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-07	石鎚	西	12E	第3黑色 土層上	5.64cm	3.67cm	1.77cm	60.3g	花崗岩	やや圓凸のある扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-08	石鎚	西	12E	第3黑色 土層292	5.68cm	4.04cm	1.83cm	60.6g	粗面岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-09	石鎚	西	13D	第3黑色 土層上	6.33cm	5.79cm	1.56cm	89.3g	流紋岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-10	石鎚	西	14E	第3黑色 土層上	6.75cm	4.68cm	4.26cm	95.5g	?	横断面三角形の扁平な縦の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-11	石鎚	西	14D	第3黑色 土層上	7.28cm	5.34cm	1.77cm	97.2g	礫灰岩	やや不整形の扁平な縦の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-12	石鎚	西	13D	第3黑色 土層37	5.56cm	5.33cm	2.78cm	101.7g	花崗岩	やや扁平でない縦の長辺2ヶ所を打ち欠く。
051-13	石鎚	西	13E	第3黑色 土層上	7.1cm	2.38cm	2.41cm	102.6g	粗面岩	やや厚みのある細長い円錐の板辺2ヶ所を打ち欠く
051-14	石鎚	西	12E	第3黑色 土層251	7.05cm	4.81cm	1.96cm	105.7g	花崗岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-15	石鎚	西	14D	第3黑色 土層上	7.93cm	6.19cm	1.71cm	142.2g	流紋岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-16	石鎚	西	13E	第3黑色 土層上	7.29cm	5.58cm	3.15cm	147g	流紋岩	一面のみが扁平である円錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
051-17	石鎚	西	11E	第3黑色 土層上	9.24cm	6.48cm	1.43cm	159.1g	流紋岩	短辺2ヶ所を打ち欠く。扁平な円錐を使用

標図NO	種別	区	遺構	層位・ 取上u)	長径	短径	厚さ	重量	石材	特徴
051-18	石鍬	西	1 3 D	第3黒色土層	8.58cm	6.42cm	2.35cm	166 g	流紋岩	やや不整形な扁平な櫛の短辺2ヶ所打ち欠く
051-19	石鍬	西	1 4 E	第3黒色土層	7.18cm	7.03cm	2.18cm	171.6 g	流紋岩	やや不整形の円錐の長辺2ヶ所打ち欠く
051-20	石鍬	西	1 3 D	第3黒色土層	10.2cm	6.46cm	1.71cm	193.6 g	花崗岩 閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
051-21	石鍬	西	1 4 D	第3黒色土層	7.09cm	6.14cm	2.96cm	188.9 g	閃緑岩	扁平な圓錐の櫛の短辺2ヶ所打ち欠く。右側上面一部破面
051-22	石鍬	西	1 3 E	第3黒色土層	11cm	3.92cm	3.1cm	196.1 g	粗面岩	やや細長い棒状の櫛の短辺2ヶ所打ち欠く
051-23	石鍬	西	1 4 E	第3黒色土層	8.39cm	6.73cm	3.42cm	228.5 g	流紋岩	いびつな形の櫛。短辺2ヶ所打ち欠く
051-24	石鍬	西	1 2 D	第3黒色土層	7.45cm	7.7cm	2.77cm	222.8 g	花崗岩 閃緑岩	扁平な円錐の長辺2ヶ所打ち欠く
051-25	石鍬	西	1 3 D	第3黒色土層	8.81cm	7.09cm	2.36cm	241.1 g	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平な円錐を使用
051-26	石鍬	西	1 3 D	第3黒色土層	7.24cm	6.98cm	3.1cm	244.8 g	凝灰岩	扁平な圓錐の短辺2ヶ所打ち欠く
051-27	石鍬	西	1 3 E	第3黒色土層	10.7cm	8cm	1.93cm	225.5 g	花崗岩 閃緑岩	扁平な圓錐の短辺2ヶ所打ち欠く
051-28	石鍬	西	S D O 2	第3黒色土層T309	10.57cm	8.39cm	2.1cm	331.9 g	閃緑岩	扁平な圓錐の短辺2ヶ所打ち欠く
052-01	石皿	西	1 1 D	第3黒色土層159	18cm	13.2cm	6.2cm	2100 g	粗面岩	裏面とも裏面であり裏面はやや滑む
052-02	石皿	西	—	石20	25.3cm	14.3cm	16.5cm	6900 g	ひん岩	内面に磨り面あり。裏面にはやや被熱の痕が赤味を帯びる
052-03	石皿	西	—	第3黒色土層石6	29.3cm	11.7cm	5.8cm	2800 g	安山岩	表面は使用面で平滑である。裏面は剥離のため不明であるが生えていた部分は使用痕は認められない
052-04	石皿	西	—	第3黒色土層	22.8cm	22.6cm	8.5cm	6100 g	鷹面 黄英岩	裏面とも使用面で滑らかである。裏面の方は歯付近がより滑らかな面となる
052-05	石皿	西	—	B 3 層石 44	25.7cm	12.8cm	3.9cm	2800 g	ひん岩	やや粗めの滑面である。極端は底面。側面付近が不自然に凹む
055-12	石鍬	西	S K O 5	第2黒色土層	7.72	5.1	1.7cm	—	—	扁平な圓錐の短辺2ヶ所を打ち欠く
055-13	狀狀耳飾	西	S K O 5	覆土	9.3cm	1.07cm	0.28cm	—	凝灰岩	擦り切り痕あり。補修孔(径3mm)、上部と左側欠損
055-14	狀狀耳飾	西	S K O 5	覆土	5.6cm	0.9cm	0.28cm	—	凝灰岩	右側と左側下端欠損
060-01	石鍬	西	1 1 E	第2黒色土層	4.89cm	3.4cm	1.21cm	26 g	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く。ややいびつな形の扁平な石器
060-02	石鍬	西	1 4 E	第2黒色土層	5.14cm	4.05cm	1.15cm	37.5 g	凝灰岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平な円錐を使用
060-03	石鍬	西	1 2 D	第2黒色土層	5.64cm	4.1cm	1.2cm	37.5 g	凝灰岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平な円錐を使用
060-04	石鍬	西	1 3 E	第2黒色土層	5.03cm	3.68cm	1.63cm	44.9 g	石英既岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平な内角を使用
060-05	石鍬	西	1 3 E	第2黒色土層	5.6cm	5.1cm	1.3cm	50.2 g	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く。やや角の残る扁平な石を使用
060-06	石鍬	西	1 3 E	第2黒色土層	7.68cm	3.76cm	2.1cm	183.8 g	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く。やや渾みのある細長い円錐を使用
060-07	石鍬	西	1 2 E	第2黒色土層	7.09cm	5.02cm	2.01cm	111.2 g	花崗岩 閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平なやや角が若干残る円錐を使用
060-08	石鍬	西	1 2 D	第2黒色土層	7.34cm	5.35cm	2.1cm	112.4 g	花崗岩 閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
060-09	石鍬	西	1 1 E	第2黒色土層	8.37cm	4cm	2.16cm	114.6 g	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平で細長い円錐
060-10	石鍬	西	1 1 E	第2黒色土層	5.82cm	6cm	2.76cm	151.8 g	花崗岩	長辺2ヶ所打ち欠く。右は裏面が大きめ打欠き、左は浅く打欠く。あまり扁平でない円錐
060-11	石鍬	西	1 2 E	第2黒色土層	5.92cm	7.6cm	1.9cm	155.8 g	ひん岩	長辺2ヶ所打ち欠く。やや不整五角形の扁平な櫛を使用
060-12	石鍬	西	1 1 E	第2黒色土層	8.45cm	6.29cm	1.78cm	161.1 g	石英既岩	扁平な圓錐の両端を打ち欠く。右端部はあまりえぐれてない
060-13	石鍬	西	1 3 D	第2黒色土層	7.56cm	5.84cm	2.9cm	189 g	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く。やや凹凸のある扁平な細い円錐を使用する
060-14	石鍬	西	1 3 E	第2黒色土層	9.45cm	6.25cm	2.36cm	210 g	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
060-15	石鍬	西	1 4 E	第2黒色土層	7.38cm	6.83cm	4cm	289.5 g	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く。やや渾みのある扁平でない円錐
060-16	石鍬	西	1 3 E	第2黒色土層	10.1cm	7.08cm	2.35cm	260 g	石英既岩	短辺2ヶ所打ち欠く。扁平な円錐を使用している
060-17	石鍬	西	1 3 D	第2黒色土層	10.7cm	7.7cm	2.6cm	320.3 g	ひん岩	扁平な圓錐を左右に打ち欠く
060-18	凹石	西	1 3 D	第2黒色土層	10.5cm	7.6cm	5.6cm	604.5 g	閃緑岩	裏面とも敲打により凹む。右側面も敲打痕あり若干半面になる。
060-19	石皿	西	1 3 D	第3黒色土層	12.8cm	8cm	2.6cm	601 g	ひん岩	平面が凹み、その中は滑面である。裏面は磨面の可能性あり
060-20	石皿	西	1 3 D	第2黒色土層	12.8cm	11.8cm	5.2cm	197.4 g	花崗岩	裏面が滑面でややくぼむ
067-17	打製石斧	西	S I O 1	覆土	11cm	5.2cm	1cm	9.23 g	安山岩	基盤が欠けている。刃部は摩耗のため滑らかになっている

標因NO	種別	区	構成	層位・取上	長径	短径	厚さ	重積	石材	特徴
067-18	磨石	西	S I 0 1	B1層	9.4cm	4.9cm	2.9cm	192.6g	流紋岩	全面滑らかであり磨り面と考えられる
067-19	砥石	西	S I 0 1	M層108	15cm	9.7cm	4.8cm	247.7g	流紋岩	表裏面と左右側面が使用面であり、使用時の擦痕が明瞭に認められる
072-12	扁平な石	西	S I 0 3	G層2321	3.1cm	3cm	0.6cm	8.7g	流紋岩	石器かどうかは不明。平たく表面は中央が若干くぼむ
074-05	石皿	西	S I 0 3 土器蓋まり	-	44.2cm	16cm	11.9cm	10.7g	粗面岩	棒状の物。各面滑らか棒石の可能性あり
076-09	石皿	西	S I 0 3 中央土坑	M層	14.2cm	10.6cm	7.8cm	1700g	火山礫 凝灰岩	表面と左側面が磨り面
076-10	磨石	西	S I 0 3 中央土坑	M層	11.3cm	8.7cm	5.7cm	771.5g	安山岩	表面は滑らかであるが裏面は滑らかであるが、磨り面は不明。下面に敲打痕が2ヶ所認められる
077-01	石皿	西	S I 0 3 中央土坑	M層	17.6cm	8.2cm	7.8cm	1.7g	閃緑岩	表裏面とも使用面であるが目上右側にある面(凸面)の方が滑らかである
085-11	磨石	西	S I 0 5	G層3438	12.8cm	8.4cm	4cm	909.5g	粗面岩	表面の一節と下面が磨り面
085-16	磨石	西	S I 0 5	M層3157	10.6cm	9.9cm	5.4cm	766.8g	花崗岩	表面と下側の2ヶ所に磨り面
085-17	砥石	西	S I 0 5	M層3640	13.5cm	6.3cm	5.1cm	674.1g	流紋岩	表面と左側面は擦痕が明瞭。それ以外の面は滑面であるが摩擦面は平滑
089-01	石皿	西	S I 0 6	G層3434	23cm	17.4cm	10.9cm	7.2g	火山礫 凝灰岩	3面とも使用し、非常に滑らかである。凹面として目立つ面、被熱の赤褐色になる部分が確認される
089-02	磨石	西	S I 0 6	覆土	6.3cm	4.4cm	2.4cm	102.3g	酸性 質入岩	表面と左側部に磨り面。下部に敲打痕
093-16	磨石	西	S I 0 8	M層3557	12.9cm	7.5cm	6.7cm	948.6g	花崗岩	下部に敲打痕が1ヶ所あり
093-11	磨石	西	S I 0 8	G層3759	10.9cm	5.2cm	6cm	491.7g	ひん岩	表裏面は滑面。側面に敲打痕
093-12	磨石	西	S I 0 8	G層3764	12.3cm	11.3cm	7.6cm	677.9g	ひん岩	表裏面とも表面がみられ、左側部にも擦痕があり凹む
110-01	石織	西	1 1 E	第1黒色土層1422	1.56cm	1.12cm	0.26cm	0.38g	安山岩	固式の石製石織。基部が若干欠ける
110-02	石織	西	1 1 D	表土	3.8cm	1.6cm	0.35cm	1g	安山岩(サ カヌイタ)	固式の石織であるが基部の左右にえぐりがある
110-03	石織	西	小明	第1黒色土層	2.31cm	1.76cm	0.23cm	1.31g	流紋岩	研磨による擦痕が両面とも認められる。半磨製石織
110-04	石織	西	1 2 E	第1黒色土層	2.9cm	2cm	0.3cm	2.1g	流紋岩	無茎の三角形の織で、両面とも研磨痕が見られる半磨製石織
110-05	石織	西	1 2 E	第1黒色土層	2.7cm	2.1cm	0.5cm	2.62g	流紋岩	先端部及び片面に研磨痕の残る半磨製石織
110-06	剥片	西	1 1 E	第1黒色土層	3.5cm	1.4cm	0.25cm	1.51g	流紋岩 安山岩	人為的な加工が施されない可能性あり。ただの剥片と思われる
110-07	スクリーパー	西	1 2 E	第1黒色土層22	5.1cm	7.1cm	0.8cm	31.6g	流紋岩 安山岩	両面に穀物の光沢あり
111-01	打製石斧	西	1 4 E	第1黒色土層	8.1cm	5.4cm	2.2cm	149.7g	頁岩	打製石斧の基部の破片で刃部は欠
111-02	打製石斧	西	1 2 D	表土	9.2cm	5.2cm	1.5cm	194.2g	粗面岩	基部が欠けた石斧
111-03	石鍬	西	1 2 E	表土	5.02cm	3.77cm	1.89cm	5.42g	安山岩	高平な円錐の短辺2ヶ所傷あり。
111-04	石鍬	西	1 3 D	表土	6.77cm	5.43cm	1.89cm	99.8g	流紋岩	高平な円錐の短辺2ヶ所打ちちく
111-05	石鍬	西	1 2 E	第1黒色土層	8.16cm	6.74cm	2.57cm	244.3g	粗面岩	扁平な円錐の短辺2ヶ所打ちちく
111-06	敲石・磨石	西	1 2 D	表土	6.7cm	6.3cm	5.3cm	043.3g	ひん岩	表面に円錐な磨面があり平面になる。下面に敲打痕と明瞭な擦痕ある。平坦となる
111-07	磨石	西	1 2 E	第1黒色土層	7.7cm	7.3cm	3.8cm	345.8g	ひん岩	使用面の中心部に僅かに凹む
111-08	磨石・磨石	西	1 2 D	表土	9cm	8.9cm	6cm	883.8g	ひん岩	上下面に擦痕が見られ、側面は全面に敲り敲打痕が見られるが、特に2ヶ所に集中している
111-09	敲石	西	1 1 E	第1黒色土層	24cm	7.6cm	6.7cm	2943.8g	ひん岩	下面に敲痕あり。また表裏面、磨面の可能性あり
111-10	磨石	西	1 2 E	第1黒色土層	9.5cm	5.5cm	5cm	369.2g	粗面岩	断面三角形の石材の各側面が凹む。また下面にも敲打痕が認められる
111-11	石皿	西	1 1 E	第1黒色土層	10.3cm	10.1cm	4cm	812.4g	花崗岩	表裏の一面が磨面
111-12	石皿	西	1 2 E	第1黒色土層652	10.1cm	10cm	3.7cm	381.4g	酸性 質入岩	表裏面とも滑面であり使用面
111-13	砥石	西	1 2 E	第1黒色土層	8.6cm	4cm	5.5cm	254.7g	流紋岩	表面と裏面、左側面の三面が使用面で擦痕が認められるが、側面にはあまり滑らかでなく、自然面に近い状態である。工具痕あり
111-14	砥石	西	1 3 D	表土	15.8cm	5.7cm	6.7cm	723.5g	凝灰岩	表裏面に擦痕面あり、左右側面に工具痕がみられる。(2面に工具痕あり)
111-15	球状耳飾り	西	1 2 E	第1黒色土層278	4.8cm	1.67cm	0.3cm	5.91g	凝灰岩	円孔径(0.6cm)F型球状耳飾りの左側と推測。表面に研磨時の擦痕が認められる
111-16	円繩	西	1 3 E	第1黒色土層1723	3.7cm	1.9cm	1.7cm	18.7g	石英	きれいな淡黄褐色の石である。確かは不明

第25表 板屋三遺跡 出土金属製品 観察表

博団NO	器種	区	遺構	層位(取上N)	長さ	幅	厚さ		備考
031-01	鉄釘	東2区	S K16	第1黒色土層(15)	4.6cm	0.45cm	0.35cm	-	丸形品 頭部付近に木質
031-02	鉄釘	東3区	S K16	-	4.0cm	0.35cm	0.35cm	-	頭部に1.1cm程の木片付着
031-03	鉄釘	東2区	S K16	-	3.9cm	0.4cm	0.3cm	-	丸形品 頭部付近に木質 先端に木質付着か?
031-04	鉄釘	東2区	S K16	-	3.1cm	0.4cm	0.3cm	-	頭部欠
031-05	鉄釘	東2区	S K16	P No. 1.7	3.1cm	0.4cm	0.3cm	-	先端部欠 木質方向90°異なる
031-06	鉄釘	東2区	S K16	P No. 1.3	2.9cm	0.4cm	0.4cm	-	木質が頭部と先端部で90°方向が異なる
031-07	鉄釘	西区	S K16	P No. 1.3	2.7cm	0.4cm	0.3cm	-	頭部不明瞭 先端部欠 木質方向異なる
031-08	鉄釘	西区	S K16	-	2.5cm	0.35cm	0.3cm	-	先端部欠 木質方向90°異なる
035-01	鋸齒	東3	S X01	-	直尺 21.6cm	既述 16cm	高さ 9.4cm	-	把手・片口付、三足、甬口は一字
035-02	鋸	東3	S X01	P No. 1	7018.6 基5.8cm	3.6 2.3cm	0.5 0.45cm	-	茎がえぐれる
036-03	鏡	東 (大木周辺)	-	-	直径 13.1cm	6.6cm	半径 3.4cm	1.6cm 18.7cm	洗鏡
038-06	不明鉄器	東	2区	第1黒色土層	4.6cm	3.9cm	0.4cm	-	全体的に各側面の状況は不明瞭
063-01	刀刃	西	S I 01	床面	6.7cm	2.0cm	0.3cm	-	木質付着、切先欠け、茎部分で折れる
077-02	袋状鉄斧	西	S I 03	G型 (3673)	7.5cm	2.2cm 3.8cm	0.4cm 0.5cm	-	表面若干欠損
077-03	小明鉄器	西	S I 03	履帯ベルト	2.0cm	0.5cm	0.3cm	-	頭部欠
077-04	不明鉄器	西	S I 03	B 1層	2.1cm	1.2cm	0.2cm	-	履みの薄い鉄器
089-03	不明鉄器	西	S I 06	G層	3.5cm	1.7cm	0.3cm	-	-
093-13	不明鉄器	西	S I 06	櫻土	2.8cm	0.9cm	0.2cm	-	刃部がある可能性もあるが不明瞭
112-01	二角形板状 鉄片	西	1 2 E	表土	2.7cm	2.5cm	0.25~ 0.3cm	-	断面が交じる、鍛冶関連遺物
112-02	三角形板状 鉄片	西	1 2 E	第1黒色土層	2.9cm	2.8cm	0.2cm	-	板状の鉄片、鍛冶関連遺物か?
112-03	三角形板状 鉄片	西	1 2 E	第1黒色土層	3.5cm	3.2cm	0.3cm	-	板状の鉄片、鍛冶関連遺物か?
112-04	板状鉄片	西	1 1 E	第1黒色土層	3.3cm	2.7cm	0.3cm	-	鍛冶関連遺物か?
112-05	板状鉄器	西	1 3 E	第1黒色土層	6.1cm	7.2cm	0.6cm	-	やや厚みのある板状品、鍛造材か?
113-01	鋸齒	西	1 2 E	第1黒色土層	4.1cm	2.5cm	0.25cm	孔径0.3cm	無茎・三角形 円孔入り
113-02	鉄釘	西	1 1 E	第1黒色土層	3.3cm	2.4cm	0.25cm	-	無茎・三角形式、基部の形状は不明瞭
113-03	鉄釘	西	1 2 D	表土	34.6cm 鏡打付 2cm	0.4cm 0.2cm	0.6cm 10.8cm	-	方彌形の縫合縫隙異様
113-04	刀刃	西	1 2 E	第1黒色土層	7.2cm	3.2cm 2.7cm	0.6cm 1.3cm	全長4.6cm	断面の背側の形状不明瞭、刃部精が著しい
113-05	刀刃	西	1 3 E	第1黒色土層	5.8cm	1.6cm	0.4cm	-	茎部分のみ
113-06	不明鉄器	西	1 1 E	第1黒色土層(1607)	3.6cm	0.4cm	0.35cm	-	履みの薄い鉄器。
113-07	鍵?	西	1 2 E	第1黒色土層	3.7cm	2.7cm	0.4cm	-	折り返し不明瞭、履みあり
113-08	鍵?	西	1 1 E	第1黒色土層	7.2cm	1.7cm	0.2cm	-	鍵かどうか不明。鉗(やりがんな)か?
113-09	環	西	1 3 E	第1黒色土層	5.0cm	1.9cm	0.6cm	-	断面が若い
113-10	環	西	1 1 D	表土	5.4cm	1.8cm	0.35cm	-	断面が繋き打ちによりやや広がっていりか?
113-11	縄	西	p i t 27	履帯ベルト	8.5cm	1.6cm	0.2cm	-	木質付着
113-12	焼管	西	1 1 E	表土	6.8cm	0.9cm	0.1cm	火薬径1.5	焼造体あり 古奈良層壙(18世紀中頃)
113-13	鉄釘	西区	-	P i t . 4.3	11.7cm	0.8cm	0.8cm	-	先端欠、頭部は大きい
113-14	鉄釘	西区	1 1 D	-	10.9cm	0.8cm	0.8cm	-	先端部若干欠
113-15	鉄釘	西区	1 3 D	表土	9.4cm	0.7cm	0.5cm	-	先端部欠で折れ曲がる
113-16	鉄釘	西	p i t 58	-	6.7cm	0.6cm	0.5cm	-	先端部欠
113-17	鉄釘	西区	1 2 D	造成土	4.7cm	0.5cm	0.5cm	-	頭部の形状、不明瞭、先端欠
113-18	鉄釘	西区	1 3 E	-	4.0cm	0.6cm	0.5cm	-	丸形品、頭部の状況不明瞭
113-19	不明鉄器	西	1 1 E	表土	6.9cm	1.9cm	0.6cm	-	先端に向かって尖る形状で、ねじれている
113-20	不明鉄器	西	1 2 D	第1黒色土層(3295)	6.3cm	2.8cm	0.45cm	-	刃部の茎の可能性もあるが明確にできない
113-21	不明鉄器	西	S I 01	第1黒色土層	3.8cm	1.4cm	0.5cm	-	不明
113-22	不明鉄器	西	1 1 E	第1黒色土層	3.3cm	0.8cm	0.3cm	-	やや反ったもの、断面形は不明瞭
113-23	不明鉄器	西	1 2 E	表土	5.1cm	2.0cm	0.35cm	-	頭部折れ曲がる、刃部の有無不明
113-24	不明鉄器	西	1 2 E	第1黒色土層(2031)	1.7cm	2.3cm	0.2cm	-	断面の一边が折れ曲がる
113-25	不明鉄器	西	1 1 E	第1黒色土層	2.0cm	3.4cm	0.2cm	-	断面が折れ曲がる
113-26	板状鉄片	西	1 2 E	第1黒色土層(736)	3.6cm	2.6cm	0.2cm	-	薄い板状鉄片、様子部の一部が生きている
113-27	薄板状鉄片	西	1 2 E	第1黒色土層	3.5cm	2.0cm	0.2cm	-	平滑でない板状鉄片
113-28	不明鉄器	西	1 2 E	第1黒色土層(1823)	2.2cm	1.6cm	0.3cm	-	断片か? 刀部は有無不明
113-29	不明鉄器	西	1 3 E	B 1 層	1.8cm	1.7cm	0.3cm	-	各側面が生きているか不明確

第26表① 板屋Ⅲ遺跡（西区）出土銭貨 観察表

辨別番号	種別	初鋳年	区	遺構	層位・ 取上NO	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
114-01	皇宋通寶	1038	西	不明	表土 PNO 1	2.5	0.11	3.11	北宋 行書
114-02	元祐通寶	1086 1093	西	不明	表土 PNO 1	2.47	0.11	3.53	北宋 行書
114-03	紹聖元寶	1094	西	不明	表土 PNO 1	2.35	0.12	2.41	北宋 行書
114-04	元符通寶	1098	西	不明	表土 PNO 1	2.34	0.12	3.01	北宋 行書
114-05	淳熙元寶	1174	西	不明	表土 PNO 1	2.42	0.1	2.16	南宋 行書
114-06	紹熙通寶	1196	西	不明	表土 PNO 1	2.49	0.12	1.6	明 無背
114-07	永樂通寶	1408	西	不明	表土 PNO 1	2.47	0.15	3.62	明
114-08	永樂通寶	1408	西	不明	表土 PNO 1	2.5	0.13	2.29	明
114-09	永樂通寶	1408	西	不明	表土 PNO 1	2.51	0.12	3.29	明
114-10	朝鮮通寶	1423	西	不明	表土 PNO 1	2.32	0.13	2.7	李
114-11	皇宋通寶	1038	西	11 E	表土	2.49	0.01	1.57	北宋 行書
114-12	寛永通寶	1697	西	12 D	表土	0.23	0.1	1.87	新寛永

第26表② 板屋Ⅲ遺跡（東区）出土銭貨 観察表

辨別番号	種別	初鋳年	区	遺構	層位・ 取上NO	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
36-01	聖道元寶	995	東3区	SX01周辺	-	2.46	0.11	2.27	北宋 行書
36-02	聖宋通寶	1101	東3区	SX01周辺	-	2.41	0.13	2.47	北宋 行書
36-03	熙寧元寶	1068	東3区	SX01周辺	-	0.11	0.19	1.25	北宋
36-04	寛永通寶	1697	東3区	-	表土	2.44	0.09	2.65	新寛永
36-05	寛永通寶	1697	東3区	SX01周辺	-	2.29	0.07	1.65	新寛永
36-06	一錢	近代	東3区	SX01周辺	-	2.29	0.12	3.48	日本

第27表 板屋Ⅲ遺跡 西区出土石錐 計測表(第3黑色土層出土)

計測 No.	標図 No.	層位	グリッド	計測値 (mm, g)			石材	特徴
				長径	短径	厚さ		
1		第3黑色土層	13E	69.5	50.5	25.7	131.7	凝灰岩
2		第3黑色土層	14D	84.9	54.9	23.5	166.7	閃鋸岩
3		第3黑色土層	14D	77.5	50.3	26.1	216.2	花崗岩
4	051-22	第3黑色土層	13E	110	39.2	30.6	196.7	粗面岩
5		第3黑色土層	13D	61.2	66	18.7	91.4	粗面岩
6		第3黑色土層	12E	56.5	50.3	20.9	78.9	ひん岩
7		第3黑色土層	12E	61.9	57.7	23.8	119.4	粗面岩
8	051-07	第3黑色土層	12E	56.4	36.7	17.7	60.3	花崗岩
9		第3黑色土層	12E	72.5	46.9	17.8	88	流紋岩
10		第3黑色土層	11D	49.1	46.1	141.1	47.5	粗面岩
11		第3黑色土層	11D	68.1	46.9	13	67.5	流紋岩
12		第3黑色土層	12E	58.6	52.2	21	93	粗面岩
13		第3黑色土層	12E	64.1	48.8	15.8	69.1	粗面岩
14		第3黑色土層	12E	55.2	45.2	13.4	62.3	粗面岩
15	051-17	第3黑色土層	11E	92.4	64.8	14.3	159.1	流紋岩
16		第3黑色土層	13E	55.5	48.9	15.3	69.7	ひん岩
17	051-11	第3黑色土層	14D	72.8	53.4	17.7	97.2	凝灰岩
18		第3黑色土層	13E	52.8	44.2	13.9	38.2	粗面岩
19		第3黑色土層	14D	55.3	50.9	15.5	61.4	粗面岩
20		第3黑色土層	12E	64	49.5	16.6	61.5	粗面岩
21		第3黑色土層	11D	69.3	58.7	17.9	116.4	ひん岩
22	051-13	第3黑色土層	13E	71	23.8	24.1	102.6	凝灰岩
23	051-24	第3黑色土層	12D	74.8	77.8	27.7	222.8	細粒花崗岩
24		第3黑色土層	13E	64.7	50.9	18.2	90.9	ひん岩
25		第3黑色土層	13E	58.5	46.5	22.4	82	粗面岩
26	051-10	第3黑色土層	14E	67.5	46.8	22.6	95.5	?
27		第3黑色土層	12E	87.2	49.2	19.9	94.6	花崗岩
28		第3黑色土層	13E	77.3	63.2	17	126.6	流紋岩
29		第3黑色土層	13E	43.2	53.8	23.5	84.7	花崗閃綠岩
30		第3黑色土層	14E	77.4	59.5	28.5	179.9	花崗岩
31		第3黑色土層	14D	69.7	43.9	22.9	74.1	閃鋸岩
32		第3黑色土層	13E	61.5	53	18	81.9	流紋岩
33	051-02	第3黑色土層	11D	54.1	41	14.2	45.6	ひん岩
34		第3黑色土層	12E	45.9	49.5	27.3	85.3	ひん岩
35		第3黑色土層	13E	69.5	51.4	25.6	143	閃鋸岩
36		第3黑色土層	14D	75.6	67.5	16.2	121.1	流紋岩
37		第3黑色土層	12E	50.1	48.8	13.3	47.9	流紋岩
38		第3黑色土層	11D	75.5	60.8	28.5	187.1	花崗閃綠岩
39		第3黑色土層	14E	49.7	41.6	16.7	51	ひん岩
40		第3黑色土層	14E	62.6	54.9	17	92.6	ひん岩
41	051-15	第3黑色土層	14D	79.3	61.9	17.1	142.2	流紋岩
42		第3黑色土層	13E	78.9	65.1	19.6	148	粗面岩
43		第3黑色土層	13E	63.1	43.3	16	67.2	ひん岩
44		第3黑色土層	12E	55.7	43	22.6	80.2	粗面岩
45		第3黑色土層	14E	79	74.1	26	204	細粒花崗岩
46		第3黑色土層	13E	55.3	53.4	22.1	82.3	火山礫凝灰岩
47		第3黑色土層	14D	64.3	47.2	26.3	113.6	花崗岩
48		第3黑色土層	12E	63.7	54.7	26.3	136.8	ひん岩
49		第3黑色土層	14E	75.5	64.6	21.3	155.4	流紋岩
50	051-09	第3黑色土層	13D	63.3	57.9	15.6	89.3	流紋岩
51		第3黑色土層	13E	67.7	54.3	16	81.8	流紋岩
52		第3黑色土層	14E	62.1	56.1	24.2	105.5	火山礫凝灰岩
53		第3黑色土層	13D	78.2	55.2	25.2	144.3	流紋岩
54		第3黑色土層	12E	60	52.6	13.3	66.1	凝灰岩
55	051-27	第3黑色土層	13E	107	80	19.3	325.5	花崗閃綠岩
56		第3黑色土層	14E	60.4	55.3	12.7	57.5	流紋岩
57		第3黑色土層	12D	61.4	47.2	32.2	99.3	火山礫凝灰岩
58	051-06	第3黑色土層	12E	56.2	46.9	11.5	55.4	花崗岩
59	051-18	第3黑色土層	13D	85.8	64.2	23.5	166	流紋岩
60		第3黑色土層	13E	66.3	68	27.3	147	花崗岩
61		第3黑色土層	13D	81.5	77.2	24	215.3	花崗岩
62		第3黑色土層	12E	61.8	42.2	21.3	82.1	ひん岩
63	051-26	第3黑色土層	13D	72.4	69.8	30.8	244.8	凝灰岩
64		第3黑色土層	14E	54.5	49.3	20	74	流紋岩
65		第3黑色土層	13D	85.6	60.2	21	193.4	粗面岩

計測 No.	標図 No.	層位	グリッド	計測値 (mm × g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
66		第3黒色土層	1 D	69.2	70.7	20	128	閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
67		第3黒色土層	1 E	76.8	52.2	15.1	97.7	閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
68		第3黒色土層	1 E	73.2	35	21	120.2	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
69		第3黒色土層	1 D	66	59.5	24.6	135.2	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
70	051-12	第3黒色土層	1 D	35.6	53.3	27.8	101.7	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
71	051-16	第3黒色土層	1 E	72.9	55.8	31.5	147	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く
72		第3黒色土層	1 D	65.9	50.4	21	95.1	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
73		第3黒色土層	1 D	77	65.2	29.4	142.4	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
74		第3黒色土層	1 E	61.1	53.2	22.5	126.5	閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
75		第3黒色土層	1 E	64.5	50.9	25	79.4	粗面岩	破損
76		第3黒色土層	1 E	64.2	62.6	27.9	160.9	花崗岩	短辺1ヶ所座み
77		第3黒色土層	1 D	70.2	75.1	20.1	165.3	花崗岩	破損
78		第3黒色土層	1 E	86.2	64.6	24.5	194.7	閃緑岩	短辺1ヶ所打ち欠く
79		第3黒色土層	1 E	76.8	60.7	26	195.5	粗面岩	短辺2ヶ所傷あり
80		第3黒色土層	1 E	53.5	34	19.5	103.2	流紋岩	石峰?
81		第3黒色土層	1 E	100	81	31.1	403.8	四線岩	石峰?
82		第3黒色土層	1 E	80.5	45.1	19.9	106.4	ひん岩	石峰?
83	051-23	第3黒色土層	1 D	68.1	70.9	23.6	241.1	ひん岩	短辺2ヶ所座み
84		第3黒色土層	1 E	75	42.5	20.4	92.8	流紋岩	石峰?
85		第3黒色土層	1 E	52.6	37	16.9	51.2	ひん岩	短辺2ヶ所傷あり
86		第3黒色土層	1 E	56.2	58.6	19	97.4	流紋岩	長辺2ヶ所傷あり
87	051-01	第3黒色土層	1 D	54.7	34.8	12.6	42.5	粗面岩	短辺2ヶ所傷あり
88		第3黒色土層	1 E	58.6	41.5	20.5	57.9	粗面岩	短辺2ヶ所傷あり
89		第3黒色土層	1 E	55.6	47.7	21.5	86.7	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
90		第3黒色土層	1 E	72.4	51.8	18.9	92.9	粗面岩	短辺1ヶ所打ち欠く
91	051-08	第3黒色土層	1 E	56.8	49.4	18.3	60.6	粗面岩	短辺2ヶ所傷あり
92		第3黒色土層	1 E	95.1	69	21.2	157.5	閃緑岩	短辺2ヶ所座みあり
93		第3黒色土層	1 D	70.4	71.1	24.3	182.1	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
94		第3黒色土層	1 E	53.9	48.6	17.5	60.9	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
95		第3黒色土層	1 E	87	60.7	22.6	190.8	細粒花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
96	051-20	第3黒色土層	1 D	101.9	64.6	17.1	193.6	花崗閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
97		第3黒色土層	1 D	66.7	50.6	21.8	102.8	細粒花崗岩	短辺2ヶ所傷あり
98		第3黒色土層	1 E	52.1	52.2	15.3	45.5	粗面岩	長辺2ヶ所打ち欠く
99		第3黒色土層	1 E	61	48.8	18.2	74.6	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
100		第3黒色土層	1 E	58.6	60.9	16.8	80.9	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く
101		第3黒色土層	1 D	91.2	56.9	18.5	137.6	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
102		第3黒色土層	1 E	57.9	44.8	14.1	52.4	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く
103		第3黒色土層	1 E	53	48.5	24.8	95.8	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
104	051-14	第3黒色土層	1 E	70.5	48.1	19.6	105.7	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
105		第3黒色土層	1 D	58.4	43.8	14.8	51.9	粗面岩	短辺2ヶ所傷あり
106		第3黒色土層	1 E	67.6	53.1	28	151.1	花崗岩	短辺2ヶ所傷あり
107		第3黒色土層	1 E	80.2	55.5	28.8	209.8	ひん岩	短辺2ヶ所傷あり
108		第3黒色土層	1 E	73.7	48.7	28.4	122.7	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く
109	051-04	第3黒色土層	1 E	55.5	43.1	15.2	50.4	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
110	051-23	第3黒色土層	1 E	83.9	67.3	34.2	228.5	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く
111		第3黒色土層	1 D	46.4	33.5	13	27.4	花崗岩	短辺1ヶ所座み
112		第3黒色土層	1 E	62.5	51.2	26	134.9	四線岩	短辺1ヶ所座み
113		第3黒色土層	1 D	79.7	70.7	26.5	178.9	粗面岩	短辺1ヶ所傷あり
114		第3黒色土層	1 E	55.1	49.8	20.9	77.9	流紋岩	短辺2ヶ所打ち欠く
115		第3黒色土層	1 D	63	47.5	17.5	70.8	流紋岩	短辺2ヶ所傷あり
116		第3黒色土層	1 D	66	47.7	17.5	73.1	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
117		第3黒色土層	1 E	64.5	44.5	18.6	75.8	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
118		第3黒色土層	1 D	66.5	47.7	19.8	99.5	ひん岩	右の中央がくぼむ
119		第3黒色土層	1 D	36.5	34.5	25.9	79.9	流紋岩	短辺2ヶ所傷あり
120		第3黒色土層	1 D	59.6	50.9	15.5	73.1	ひん岩	短辺2ヶ所打ち欠く
121		第3黒色土層	1 E	42.5	48.1	16.4	48.6	粗面岩	長辺1ヶ所座み
122		第3黒色土層	1 E	52.1	41.5	17.2	49.8	ひん岩	短辺2ヶ所傷あり
123	051-21	第3黒色土層	1 D	70.9	61.4	29.6	198.9	閃緑岩	短辺2ヶ所傷あり
124	051-19	第3黒色土層	1 E	71.8	70.3	21.8	171.6	流紋岩	長辺2ヶ所打ち欠く
125		第3黒色土層	1 E	85.6	65.2	24.2	179.1	ひん岩	短辺2ヶ所傷あり
126		第3黒色土層	1 E	82	56.7	21.6	163.2	細粒花崗岩?	短辺2ヶ所傷あり
127		第3黒色土層	1 D	43.9	38.1	15	35.26	細粒花崗岩	短辺2ヶ所傷あり

板屋Ⅲ遺跡 出土石錘 計測表 (第2黒色土層出土)

計測 No.	探査 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	060-17	第2黒色土層	1 3 D	106.5	77.3	25.8	320.3	ひん岩	短辺ニヶ所打ち欠く
2		第2黒色土層	1 4 E	67	49.4	29.5	131.2	閃緑岩	短辺ニヶ所傷あり
3		第2黒色土層	1 4 E	56.4	40.1	13.2	45	ひん岩	短辺ニヶ所傷あり
4		第2黒色土層	1 2 D	68.6	45.9	16	109.7	花崗岩	短辺ニヶ所傷あり
5		第2黒色土層	1 4 E	81.8	66.4	23.7	137	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
6	060-15	第2黒色土層	1 4 E	73.8	68.3	40	249.5	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
7	060-13	第2黒色土層	1 3 D	75.6	58.4	30	189	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
8		第2黒色土層	1 3 D	87.6	63.9	19.7	153.7	粗面岩	短辺ニヶ所打ち欠く
9	060-14	第2黒色土層	1 3 E	94.5	62.5	23.6	210	ひん岩	短辺ニヶ所打ち欠く
10		第2黒色土層	1 4 E	90	67.9	17.3	196.8	閃緑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
11		第2黒色土層	p 1 + 97	89.5	84.1	32.2	224.9	花崗岩	
12		第2黒色土層	1 2 E	56.5	53.3	22.1	110.2	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
13	060-02	第2黒色土層	1 4 E	51.4	40.5	11.5	37.5	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
14		第2黒色土層	1 3 E	65.2	51.9	12.5	44.6	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
15		第2黒色土層	1 4 E	44	43.2	16.5	47	粗面岩	短辺ニヶ所打ち欠く
16		第2黒色土層	1 2 E	64.4	50.9	19.8	101.5	花崗岩	
17	060-10	第2黒色土層	1 1 E	58.2	60	27.6	151.8	花崗岩(溶結凝灰岩)	長辺ニヶ所傷あり
18		第2黒色土層	1 4 E	77.8	53	21.7	112.8	ひん岩	
19	060-06	第2黒色土層	1 3 E	76.8	37.6	21	103.8	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
20	060-09	第2黒色土層	1 1 E	83.7	40	21.6	114.6	ひん岩	短辺ニヶ所傷あり
21	060-05	第2黒色土層	1 3 E	64.5	51	13	50.2	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
22		第2黒色土層	1 2 D	48.7	49	18.9	55.4	火山礫凝灰岩	
23		第2黒色土層	1 3 E	67	52.7	14	72.9	粗面岩	短辺ニヶ所打ち欠く
24		第2黒色土層	1 3 E	54.8	45.2	35.6	92.4	ひん岩	
25	060-03	第2黒色土層	1 2 D	56.4	41	12	37.5	花崗岩(火成礫凝灰岩)	短辺ニヶ所打ち欠く
26		第2黒色土層	1 1 E	52.1	44	12.7	43.5	ひん岩	
27	060-08	第2黒色土層	1 2 D	73.4	63.5	21	112.4	花崗閃緑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
28		第2黒色土層	1 2 E	45.7	40.4	15.2	40.3	閃緑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
29		第2黒色土層	1 2 E	58.3	39.4	19.2	66.9	粗面岩	短辺ニヶ所傷あり
30		第2黒色土層	1 4 E	86.6	68.1	38	343.5	花崗岩	
31		第2黒色土層	1 4 E	61.1	42.6	19.6	73.1	粗面岩	短辺ニヶ所傷あり
32	060-04	第2黒色土層	1 3 E	50.3	36.8	16.3	44.9	石英斑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
33		第2黒色土層	1 2 E	71.1	52.4	13.7	87.9	花崗岩	短辺ニヶ所打ち欠く
34		第2黒色土層	1 3 E	58.3	40.4	17.6	56	粗面岩	短辺ニヶ所傷む
35	060-16	第2黒色土層	1 3 E	101	70.5	23.5	280	石英斑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
36		第2黒色土層	p 1 + 100	57.9	41.1	21.6	79.5	ひん岩	短辺ニヶ所打ち欠く
37	060-12	第2黒色土層	1 1 E	84.5	62.9	17.8	161.1	石英斑岩	短辺ニヶ所傷あり
38	060-01	第2黒色土層	1 1 E	48.0	34	12.1	26	ひん岩	短辺ニヶ所打ち欠く
39		第2黒色土層	1 3 D	94.4	65.9	22.8	256.8	火山礫凝灰岩	
40		第2黒色土層	1 3 E	65.3	46.8	22	83	閃緑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
41	060-07	第2黒色土層	1 2 E	76.9	50.2	29.1	111.2	花崗閃緑岩	短辺ニヶ所打ち欠く
42	060-11	第2黒色土層	1 2 E	69.2	73	19	165.8	ひん岩	長辺ニヶ所打ち欠く
43		第2黒色土層	1 3 E	46.7	35.7	21.2	50.9	火山礫凝灰岩	
44		第2黒色土層	1 3 D	57.8	60.1	14.9	68.5	花崗岩?	
45		第2黒色土層	1 2 E	68.8	37.7	18	70.1	ひん岩?	
46		第2黒色土層	1 2 D	47.3	31.4	14.6	27.96	花崗岩	1/2破損。1ヶ所打ち欠く
47	060-12	第2黒色土層	S K 0 5	77.2	51	17		平たい長方形の縁の長辺を打ち欠く	

板屋Ⅲ遺跡 出土石錘 計測表 (その他黒色土層等出土)

計測 No.	探査 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	051-05	第3黒色土層下部	S D 0 2	54.8	55.5	15.9	53.5	ひん岩	短辺2ヶ所傷み
2		第3黒色土層下部	S D 0 2	72.1	47.6	25.6	114.6	ひん岩	短辺2ヶ所傷あり
3	051-28	第3黒色土層下部	S D 0 2	105.7	83.9	19.4	331.9	閃緑岩	短辺2ヶ所打ち欠く
4		第3黒色土層下部	1 2 E	55	44.9	20.4	67.6	ひん岩	短辺2ヶ所傷あり
5	051-03	第3黒色土層下部	S D 0 2	61.5	48.9	14.1	49.9	粗面岩	短辺2ヶ所傷あり
6		第1黒色土層	1 2 E	81.6	67.4	25.7	244.3	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
7		造底土	1 2 D	66.3	53.1	12.8	66.2	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
8		造底土	1 2 D	78.9	70.9	26.3	228.2	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
9		表土	1 3 D	67.7	54.3	18.9	99.8	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
10		第1黒色土層	1 2 E	62.6	49	25.3	114.3	花崗岩	短辺3ヶ所打ち欠く
11		造底土	1 2 D	66.9	53.8	22.8	114	粗面岩	短辺2ヶ所打ち欠く
12		表土	1 1 E	65.6	55.3	21.4	114.6	花崗岩	短辺2ヶ所打ち欠く
13	111-03	表土	1 2 E	50.2	37.7	18.9	54.2	安山岩	短辺2ヶ所傷あり

第28表 板屋III遺跡 出土石器 計測表(種類 石器)

計測 No.	探査 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石 材	特 徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	110-6	第1黑色土層	1 E	35	14	2.5	1.51	流紋岩～安山岩	凸基式
2	110-1	第1黑色土層	1 E	15.6	11.2	2.6	0.38	安山岩	圓基式
3	110-4	第1黑色土層	1 E	29.3	20.3	3.8	2.1	流紋岩	平基式
4	110-3	第1黑色土層	不明	23.1	17.6	2.3	1.31	流紋岩	半基式
5	110-5	第1黑色土層	1 E	27	20.5	4.9	2.62	流紋岩	平基式
6	050-2	第3黑色土層	1 E	15	11.7	2.3	0.29	黑曜石	圓基式
7	050-1	第3黑色土層	1 E	16.8	15.2	5.5	1	黑曜石	圓基式
8	110-2	第1黑色土層	勇士	38	15.7	2.6	1.22	安山岩	凸基式
9	050-3	第3黑色土層	1 E	80	15	2.7	0.24	黑曜石	圓基式

第29表 板屋III遺跡 出土石器 計測表(種類 剥片)

計測 No.	探査 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石 材	特 徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第1黑色土層	1 E	3	2.3	0.6	4.3	—	
2		第1黑色土層	1 E	3.2	1.9	0.5	2.3	流紋岩	
3		第1黑色土層	1 E	6.2	4.5	0.7	28.2	流紋岩	
4		第1黑色土層	1 E	2.9	0.9	0.8	1.4	黑曜石	
5		第1黑色土層	1 E	2.6	2.3	0.3	2.3	流紋岩	
6		第1黑色土層	1 E	4.7	4.6	0.7	27.8	流紋岩	
7		第1黑色土層	1 E	2.1	1.2	0.6	1.8	流紋岩～安山岩	
8		第1黑色土層	1 E	2.7	2.1	0.6	4.1	流紋岩～安山岩	
9		第1黑色土層	1 E	5.1	1.3	0.6	3	流紋岩	
10		第1黑色土層	1 E	6.1	4	0.9	20.3	流紋岩～安山岩	
11		第1黑色土層	1 E	3.4	3.1	0.4	5.6	—	
12		第1黑色土層	1 E	3.1	2.2	0.4	3.2	流紋岩	
13		第1黑色土層	1 E	2.5	2.4	0.2	1.5	流紋岩	
14		第1黑色土層	1 E	3	2.9	0.5	3.9	流紋岩	
15		第1黑色土層	1 E	2.5	2.2	0.5	4.1	流紋岩	
16		第1黑色土層	1 E	3.1	2.4	0.2	1.6	流紋岩	
17		第1黑色土層	1 E	2.4	1.8	0.3	2	流紋岩?	
18		第1黑色土層	1 E	2.2	1.9	0.2	1	流紋岩	
19		第1黑色土層	1 E	2	1.9	0.5	1.5	流紋岩	
20		第1黑色土層	1 E	2.2	1.6	0.2	0.8	流紋岩	
21		第1黑色土層	1 E	1	0.8	0.6	0.4	—	
22		第1黑色土層	1 E	3.6	2.9	0.6	5.3	流紋岩	
23		第1黑色土層	1 E	3	2.6	0.4	4.2	流紋岩	
24		第1黑色土層	1 E	2.4	1.5	0.4	1.9	流紋岩	
25		第1黑色土層	1 E	2.6	1.7	1	4.7	黑曜石	
26		第1黑色土層	1 E	2.8	2.6	0.9	5.5	ひん岩	
27		第1黑色土層	1 E	3.1	2.5	0.3	2	—	
28		第1黑色土層	1 E	1.8	0.8	0.1	0.2	流紋岩	
29		第1黑色土層	1 E	2.7	1.8	0.4	2.5	流紋岩	
30		第1黑色土層	1 E	7.3	4.1	1.4	36.8	繊維花崗岩	
31		第1黑色土層	1 E	2.3	1.6	0.8	2.1	珪質岩	
32		第1黑色土層	1 E	3.7	2.4	0.5	3.7	流紋岩	
33		第1黑色土層	1 E	3.6	2.9	0.5	5.9	流紋岩	
34		第1黑色土層	1 E	4.4	2.1	0.3	2.8	流紋岩	
35		第1黑色土層	1 E	3.1	2.1	0.4	2.6	流紋岩	
36		第1黑色土層	1 E	2.9	2.3	0.2	2	流紋岩	
37		第1黑色土層	1 E	2.2	1.1	0.3	0.8	流紋岩	
38		第1黑色土層	1 E	2.2	2	0.4	2.6	—	
39		第1黑色土層	1 E	3.7	2.7	0.2	3.2	—	
40		第1黑色土層	1 E	1.7	1.5	0.3	0.8	—	
41		第1黑色土層	1 E	3.4	1.5	0.4	1.6	—	
42		第1黑色土層	1 E	2.7	1.8	0.4	1.8	—	

計測 No.	標識 No.	層 位	グリッド	計測値 (mm・g)				石 材	特 徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
43		第1黒色土層	1 1 E	3.1	2.9	0.4	40	-	
44		第2黒色土層	1 2 D	2.2	1.8	1	2.9	流紋岩～安山岩	
45		第2黒色土層	1 4 D	3.8	1.8	1.1	5.8	流紋岩～安山岩	
46		第2黒色土層	1 4 D	2.3	1	0.5	1	黒曜石	
47		第2黒色土層	1 4 D	4.7	4.6	1.2	19.9	凝灰岩	
48		第2黒色土層	1 4 D	2.3	1.2	1	1.1	碧玉	
49		第2黒色土層	1 4 D	1.5	1.3	1	1.1	碧玉	
50		第2黒色土層	1 4 E	1.8	1	0.5	0.5	碧玉	
51		第2黒色土層	1 4 E	1.5	1.2	0.7	0.7	碧玉	
52		第2黒色土層	1 4 F	1.8	1	0.5	0.5	碧玉	
53		第2黒色土層	1 1 E	5.3	2	0.7	4.9	凝灰岩	
54		第2黒色土層	1 3 D	2.2	2.1	0.3	0.8	流紋岩～安山岩	
55		第2黒色土層	1 3 D	2.2	1.5	0.9	1.4	碧玉	
56		第2黒色土層	1 3 D	2.2	1.3	0.5	0.5	碧玉	
57		第2黒色土層	1 2 D	3.4	2.8	0.9	7	流紋岩～安山岩	
58		第3黒色土層	1 4 D	1.9	1	1	1.4	黒曜石	
59		第3黒色土層	1 4 D	4.4	2.4	0.6	6.3	黒曜石	
60		第3黒色土層	1 3 D	1.3	0.8	0.2	0.1	黒曜石	
61		第3黒色土層	1 3 D	2	1.5	0.5	0.8	黒曜石	
62		第3黒色土層	1 2 D	1.9	1.6	0.5	1	黒曜石	
63		第3黒色土層	1 2 D	1.3	1.2	0.4	0.5	黒曜石	
64		第3黒色土層	1 2 D	2.1	1.2	0.6	0.9	黒曜石	
65		第3黒色土層	1 2 D	1.7	1.2	0.3	0.3	黒曜石	
66		第3黒色土層	1 3 E	1.4	1.3	0.4	0.6	黒曜石	
67		第3黒色土層	1 2 D	2.4	1.8	0.9	2.7	黒曜石	
68		第3黒色土層	1 2 D	2	1	0.8	1.2	黒曜石	
69		第3黒色土層	1 2 D	1.7	1.1	0.3	0.1	黒曜石	
70		第3黒色土層	1 2 D	1.6	0.8	0.4	0.2	黒曜石	
71		第3黒色土層	1 3 E	2.5	1.1	0.3	0.5	黒曜石	
72		第3黒色土層	1 1 D	1.6	1.1	0.3	0.2	黒曜石	
73		第3黒色土層	1 1 D	1.5	1.2	0.3	0.1	黒曜石	
74		第3黒色土層	1 2 D	2.6	1	1	2.2	黒曜石	
75		第3黒色土層	1 3 E	1.7	1.6	0.4	0.5	黒曜石	
76		第3黒色土層	1 3 E	1.5	1.1	0.7	0.8	黒曜石	
77		第3黒色土層	1 3 E	2	1.4	0.8	2.6	黒曜石	
78		第3黒色土層	1 2 E	2.9	1.3	0.5	1.4	流紋岩?	
79		第3黒色土層	1 2 E	2	1.2	0.4	0.5	黒曜石	
80		第3黒色土層	1 2 E	1.4	1	0.3	0.2	黒曜石	
81		第3黒色土層	1 1 D	2.7	1.6	0.8	1.8	黒曜石	
82		第3黒色土層	1 4 E	3	1.4	0.5	1.1	黒曜石	
83		第3黒色土層	1 3 E	1.9	1.8	0.4	0.6	黒曜石	
84		第3黒色土層	-	1.1	0.9	0.2	0.1	黒曜石	
85		第3黒色土層	1 2 D	2.5	1.1	0.4	0.5	黒曜石	
86		第3黒色土層	-	1.7	1.2	0.4	0.4	黒曜石	
87		第3黒色土層	-	1	0.9	0.3	0.1	黒曜石	
88		第3黒色土層	1 4 D	2	1.6	0.4	1.1	黒曜石	
89		第3黒色土層	1 4 D	2	0.9	0.3	0.1	黒曜石	
90		第3黒色土層	1 4 D	1.5	1.2	0.4	0.5	黒曜石	
91		第3黒色土層	1 2 E	2.1	1.7	0.9	2.4	黒曜石	
92		第3黒色土層	1 2 D	2.9	1.6	1.4	4.9	黒曜石	
93		第3黒色土層	1 1 D	2.6	1.7	1	3.2	黒曜石	
94		第3黒色土層	1 1 D	2.2	1.6	0.7	1.1	黒曜石	
95		第3黒色土層	1 1 D	2.3	1.5	0.5	1	黒曜石	
96		第3黒色土層	1 1 D	2.1	1.4	0.6	1.1	黒曜石	
97		第3黒色土層	1 1 D	1.9	1.2	0.6	1.2	黒曜石	
98		第3黒色土層	1 1 D	1.8	1.6	0.3	0.5	黒曜石	

計測 No.	標因 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
99		第3黒色土層	11D	2.1	1.1	0.5	0.5	黒曜石	
100		第3黒色土層	11D	1.3	1.1	0.6	0.5	黒曜石	
101		第3黒色土層	11D	1.2	1.1	0.3	0.1	黒曜石	
102		第3黒色土層	11E	2.5	2.3	1.1	4	黒曜石	
103		第3黒色土層	11E	2.3	2.3	0.8	3.3	黒曜石	
104		第3黒色土層	11E	1.9	0.8	0.3	0.3	黒曜石	
105		第3黒色土層	11E	1.3	1.3	0.3	0.3	黒曜石	
106		第3黒色土層	12E	2.5	1.2	0.6	0.2	黒曜石	
107		第3黒色土層	12E	1.5	1.2	0.2	1.9	黒曜石	
108		第3黒色土層	13E	1.7	1.2	0.2	1.6	黒曜石	
109		第3黒色土層	13E	2.4	0.9	0.6	1.4	黒曜石	
110	050-5	第3黒色土層	13E	1.6	1.4	0.4	0.9	黒曜石	
111		第3黒色土層	13E	1.8	1.3	0.4	0.4	黒曜石	
112		第3黒色土層	13E	1.1	1	0.4	0.3	黒曜石	
113		第3黒色土層	-	1.6	1.5	0.6	0.9	黒曜石	
114	050-4	第3黒色土層	-	2.3	1.7	0.4	2	黒曜石	
115		第3黒色土層	12E	2	1.5	0.5	1.1	黒曜石	
116		第3黒色土層	13D	2.1	1	0.5	0.4	黒曜石	
117		第3黒色土層	-	2.2	1.8	0.8	2.2	黒曜石	
118		第3黒色土層	13E	1.9	1.3	0.6	0.9	流紋岩～安山岩	
119		第3黒色土層	-	3.2	2.1	0.6	4.2	流紋岩？	
120		第3黒色土層	12D	7.4	3.5	2.5	82.8	流紋岩	
121		第3黒色土層	11E	4.1	3.8	1.5	20.1	流紋岩	
122		第3黒色土層	14D	1.8	1.4	0.3	0.3	流紋岩	
123		第3黒色土層	13E	4.8	4.4	2.9	64.7	流紋岩	
124		第3黒色土層	14D	7.5	2	1.6	16.6	流紋岩	
125		第3黒色土層	14D	3.7	3.4	0.7	13.5	安山岩	
126		第3黒色土層	14D	3.7	3.6	0.6	6.3	流紋岩？	
127		第3黒色土層	14D	2.7	2	0.6	3.8	流紋岩？	
128		第3黒色土層	14D	2.4	2.2	0.5	2.1	流紋岩	
129		第3黒色土層	14D	2.2	1.3	0.3	0.5	流紋岩	
130		第3黒色土層	11D	7.5	4.3	1.7	45	流紋岩	
131		第3黒色土層	11D	6.7	5.8	3.3	170	流紋岩	
132		第3黒色土層	11D	4.3	4.3	1.2	16.9	流紋岩	
133		第3黒色土層	12D	2.2	1.4	0.4	1.4	流紋岩？	
134		第3黒色土層	11E	4.1	2.7	0.6	6	安山岩	
135		第3黒色土層	11E	8.6	4.2	1.1	42.5	流紋岩	
136		第3黒色土層	11E	6.9	3.4	1	24.4	流紋岩	
137		第3黒色土層	11E	8.5	5.1	1	38.5	流紋岩	
138		第3黒色土層	11E	5.1	3.4	1.4	25.8	流紋岩	
139		M層	S102	2.6	2.3	0.3	2.1	-	
140		表土	12E	3.1	2.8	0.8	3.8	-	
141		不明	12E	2.1	0.8	0.6	1.1	黒曜石	
142		第3黒色土層	12E	1.8	1.2	0.3	0.7	黒曜石	
143		第3黒色土層	12E	2	1.8	0.1	0.7	黒曜石	
144		第3黒色土層	14E	1.2	0.8	0.1	0.1	黒曜石	
145		第3黒色土層	14E	2	1	0.2	0.5	黒曜石	
146		第3黒色土層	11E	2.4	2.3	1.2	4.9	黒曜石	
147		第3黒色土層	11E	2.3	1.6	0.8	2.1	黒曜石	
148		第3黒色土層	13E	1.6	1.1	0.4	0.6	黒曜石	
149		第3黒色土層	13E	3	1.1	1	2.4	黒曜石	
150		第3黒色土層	12E	1	0.8	0.1	0.1	-	
151		第3黒色土層	不明	5.8	3.5	1.1	26.2	-	
152		第3黒色土層	13D	2.4	1.1	0.2	0.5	-	
153		第3黒色土層	ID集5連構	1.5	1.2	0.4	5.5	黒曜石	

第30表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表（種類 磨石・敲石）

計測 No.	探査 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第1黒色土層	12E	18	15.1	10.4	4609	閃緑岩	
2		第1黒色土層	12D	14	12.4	9.6	2506	凝灰岩	
3		第1黒色土層	11E	10	8.7	3.8	420.6	凝灰岩	
4		第1黒色土層	12E	8.5	7.7	6.9	605.6	ひん岩	
5		第1黒色土層	12D	13.3	11.7	9.2	2094.6	花崗岩	
6	111-08	第1黒色土層	12D	9.1	8.9	5.7	683.8	ひん岩	
7		第1黒色土層	12E	9.3	7.9	5.2	456.7	流紋岩	
8		第1黒色土層	13D	9	7.2	5.1	509.3	流紋岩	
9		第1黒色土層	12D	13.2	11.5	11.1	2500	ひん岩	
10		第1黒色土層	13D	10.7	10.2	9.2	1352.4	凝灰岩	
11		第1黒色土層	12E	7.6	5.4	3.7	179.8	凝灰岩？	
12		第1黒色土層	11E	6.9	6.3	4.3	243.7	ひん岩	
13		第1黒色土層	12D	7	5.5	4.9	254.6	花崗岩	
14		第1黒色土層	12D	8.7	7.8	6.9	694.1	ひん岩	
15		第1黒色土層	11E	6.5	5.5	4.7	251	凝灰岩	
16	111-06	第1黒色土層	12D	7.1	6.2	5.6	343.3	ひん岩	
17	111-09	第1黒色土層	11E	23.8	7.2	6.8	2043.8	ひん岩	
18		第1黒色土層	13E	5.7	5.2	3.1	170.9	ひん岩	
19		第1黒色土層	pit12	6.1	4.9	3.4	143.7	閃緑岩	
20		第1黒色土層	11E	5.7	4.4	3.2	105.5	安山岩	
21		第1黒色土層	14D	7.5	5.1	3.4	217.7	流紋岩	
22		第1黒色土層	11E	6.6	5.6	3.4	167.5	ひん岩	
23		第1黒色土層	12D	9	8	5.6	542.4	花崗岩	
24		第1黒色土層	12E	9.7	7.6	7	701.7	ひん岩	
25		第1黒色土層	12D	9.8	7.7	5.5	599.7	閃緑岩	
26		第1黒色土層	12D	8.9	8.1	4.5	510.2	ひん岩	

第31表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表（種類 磨石・敲石）

計測 No.	探査 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第2黒色土層	14E	8.2	5.6	4.7	243.6	閃緑岩	
2		第2黒色土層	13E	7.8	4.9	2.9	145.7	花崗岩	
3	050-14	第3黒色土層	11D	11.7	9.7	6.2	934.6	-	
4		第3黒色土層	13D	6.2	5.4	4.5	160.3	花崗岩	
5		第3黒色土層	13E	5.2	4.6	3.2	108.1	閃緑岩	
6		第3黒色土層	13E	7.4	5.7	4.2	211.7	花崗岩	
7		第3黒色土層	13E	11.8	10.8	7.2	1060.6	安山岩	
8		第3黒色土層	14D	9.1	6.2	4.6	369.4	閃緑岩	
9	050-12	第3黒色土層	13D	8.8	7.7	4.4	405.1	粗面岩	
10		第3黒色土層	12E	9.4	8	6.5	648.4	花崗岩	
11	050-13	第3黒色土層	14E	8.8	7.9	5.1	522.1	ひん岩	
12		第3黒色土層	11E	15.9	9.7	6.6	1136.8	花崗岩	
13		第3黒色土層	12E	12.6	7.3	6.4	861.3	花崗岩	
14	050-11	第3黒色土層	11D	9.6	6.3	5.3	385	石英斑岩	
15		第3黒色土層	13E	15.2	10.2	7.9	1701.7	花崗岩	
16		第3黒色土層	11D	7.8	5.2	3.3	166.4	ひん岩	
17		第3黒色土層	13E	10.6	7.5	5.3	571.3	花崗岩	
18		第3黒色土層	11D	10.4	9.8	6.5	845	花崗岩	
19		第3黒色土層	13D	8.2	7.4	4.5	329.7	細粒花崗岩	
20		第3黒色土層	14E	11.3	8.8	5.4	697.2	花崗岩	
21		第3黒色土層	13E	10.1	9.1	6.1	687.8	ひん岩	
22		第3黒色土層	13E	7.6	7.5	6.8	479.1	花崗岩	

計測 No.	探団 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
23		第3黒色土層	14E	8.6	7.7	4.2	375.2	ひん岩	
24		第3黒色土層	14D	11.8	10.1	5.4	854	流紋岩?	
25		第3黒色土層	13E	12.1	6	3	190.6	凝灰岩	
26		第3黒色土層	不明	9.5	7.7	5.1	498.5	花崗岩	
27		第3黒色土層	13D	6.5	6.2	2.4	162.1	粗面岩	
28		第3黒色土層	11E	8.1	7.8	2.6	269.6	ひん岩	
29		第3黒色土層	14E	9.7	6.5	3.4	315.2	花崗岩	
30		第3黒色土層	11D	12	4	1.4	103.5	ひん岩	

第32表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表(種類 磨製石斧)

計測 No.	探団 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	50-09	第3黒色土層	13E	8.9	3.3	1.8	79.5	泥質片岩	
2	50-08	第3黒色土層	14D	9.4	5.1	2.1	156.4	頁岩	
3		第3黒色土層下部	11D	8.4	5.6	2.6	143.3	ひん岩	
4	50-10	第3黒色土層	13D	7.8	3.2	2.5	111.5	頁岩	
5		第3黒色土層	13E	5.9	3	0.8	15.4	安山岩?	
6		第3黒色土層	14D	8.3	5.3	2	104.8	粗面岩	

第33表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表(種類 石斧)

計測 No.	探団 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	111-2	第1黒色土層	12D	9.3	5.7	1.5	104.2	粗面岩	
2	111-1	第1黒色土層	14E	7.8	5.9	2.3	149.7	頁岩	

第34表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表(種類 凹石)

計測 No.	探団 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第1黒色土層	11E	13.2	9.1	8.1	994.9	ひん岩	
2	111-10	第1黒色土層	12E	9.5	5.5	5	369.2	粗面岩	
3	060-18	第2黒色土層	13D	10.7	7.6	5.5	604.6	閃綠岩	
4	050-15	第3黒色土層	11E	13.5	11.6	4.3	901.7	ひん岩	
5		第3黒色土層	12E	12.8	8.2	3.8	506.5	ひん岩	

第35表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表(種類 石匙・スクレーバー)

計測 No.	探団 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1	110-7	第1黒色土層	12E	6.6	5	0.7	31.6	流紋岩	スクレーバー
2	050-6	第3黒色土層	12E	5.3	3	0.8	8	流紋岩・安山岩	石匙

第36表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表(種類 石皿)

計測 No.	探団 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)				石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ		
1		第1黒色土層	11E	14.3	10.6	7.2	1942.1	閃綠岩	
2		第1黒色土層	12E	17	8.9	3.9	901.9	粗面岩	
3		第1黒色土層	12E	16.9	12.9	3.5	952.4	火山構成物	
4	111-11	第1黒色土層	11E	10.4	10.2	4.1	612.4	花崗岩	
5		第1黒色土層	12E	17.5	6.4	3.1	553.4	流紋岩	
6		第1黒色土層	12D	9.8	8.6	3.3	398.7	花崗岩	
7		第1黒色土層	12E	11.7	6.9	1	70	粗面岩	
8		第1黒色土層	11E	15.6	8.6	2.2	371.4	閃綠岩	
9	111-12	第1黒色土層	12E	10.2	10.1	3.7	381.4	酸性貫入岩	
10		第1黒色土層	11E	17.9	8.2	7.1	1761.6	閃綠岩	
11		第2黒色土層	12D	12.6	11.5	3.7	679.8	花崗岩	
12	060-20	第2黒色土層	13D	13.2	12	4.9	1097.4	花崗岩	

計測 No.	擇回 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)					石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ			
13	060-19	第2黒色土層	13 D	13.7	8	2.7	430.1	ひん岩		
14	052-01	第3黒色土層	11 D	17.8	13	5.2	2106	粗面岩		
15		第3黒色土層	14 D	12.8	4.5	4.5	434.9	ひん岩		
16		第3黒色土層	13 E	7	6.6	2.5	189	粗面岩		
17		第3黒色土層	13 E	12.6	8.1	3.8	526.2	閃綠岩		
18		第3黒色土層	11 D	11.5	8.53.6	636	636.6	ひん岩		
19		第3黒色土層	12 E	9.6	7.8	3.7	312.8	流紋岩		

第37表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表（種類 大型の石皿）

計測 No.	擇回 No.	層位・遺構	グリッド	計測値 (mm・g)					石材	特徴	
				長径	短径	厚さ	重さ				
25	52-02	第3黒色土層	石2 0	25.3	14.3	16.6	6909	ひん岩	縦面のため厚み実寸、各面とも使用面と思われる。		
1	S 10 1	中央土坑	25.9	24.3	15.5	14.4	-	-	支持壁のため実寸不明、表裏面が滑面であるが使用面か不明。		
2	S 10 3	土器窓り	44	16	11.9	10.7	-	-	粗面岩	石形状のもの。各面滑らか。神石かも。	
3	76-09	S 10 3	中央土坑	14.3	10.5	7.8	1.7	火山標記灰岩	長辺部欠け、各面とも滑らか、磨石として使用と思われる。		
4	77-01	S 10 3	中央土坑	17.6	8.2	7.8	1.7	凹面岩	波面のため実寸不明、表裏面とも滑らか石皿。		
5	S 10 3	中央土坑	15.4	8.2	6.5	0.9	-	-	各面は滑らか、側面部の一帯に削痕らしいものあり。叩石か		
6	S 10 3	中央土坑	11.9	7.5	5.8	0.6	-	-	各面ともゴツゴツした自然面、自然石と思われる。		
7	89-01	S 10 5	G層	23	17.4	10.9	7.2	大川標記灰岩	昆粗粒斜法は表面で不明、一面に凹みあり。石皿。		
8	S 10 5	M層	26	20.8	5	2.7	-	-	平たい石片。各面滑らかだが石皿かは不明。		
9	S 10 5	M層	42.3	24.9	10.5	11.4	-	-	表裏面が滑らかで使用面の可能性があるが、明確ではない。		
10	S 10 5	M層	18.9	18.2	7.6	3.4	-	-	自然石と思われる。各面とも滑面なし。		
11	S 10 5	G層	24.8	22.6	8.3	7.5	-	-	各面とも滑らかである。石皿の使用面かというより石対的な荷物か?		
12	S 10 5	M層	19.8	16.6	5.3	2.4	-	-	使用面と思われる背面はない。表や底面が自然面か?		
13		第1黒色土層	12 E	27.5	18.7	7.2	5.8	-	-	表面が削むが自然面の可能性あり。磨石と思われる。	
14		第1黒色土層	12 E	18.7	10.9	8.5	3.2	-	-	各面とも滑らかである。角棒状の石片、自然石と思われる。	
15		第1黒色土層	12 E	22.4	18.2	12.3	4.4	-	-	各面ともやや滑らかである。自然石と思われる。	
16		第1黒色土層	12 E	18.3	13.1	6.8	2.1	-	-	粗面のため底径不明、各面とも滑らかであるが自然石と思われる。	
17		第1黒色土層	11 E	26.3	13.7	12.8	5.5	-	-	各面若干滑らかだが自然石と思われる。	
18		第1黒色土層	12 E	20.9	18.4	12.2	5.4	-	-	各面ともやや滑らかである。表裏面が滑面とも考らるが測定できない。	
19		第1黒色土層	12 E	19	11.6	10.7	2.5	-	-	各面ともやや滑らかであるが、自然石と思われる。	
20		第1黒色土層	12 E	16.2	12.7	6.9	1.9	-	-	各面ともやや滑らかであるが自然石と思われる。	
21		第1黒色土層	12 E	33.2	25.3	13.9	13.2	-	-	各面とも滑らかであるが自然石と思われる。	
22		第1黒色土層	13 E	30.9	25.1	12.2	13.2	-	-	表裏面とも平坦であるが、石皿は断定できない。	
23	52-03	第3黒色土層	石8	29.3	11.7	5.8	2800	安山岩	研磨のため底径のみ実寸。表面が使用面。石皿片		
24		第3黒色土層	石1 0	34.8	29.8	8.8	10.6	-	-	平底な石。表は若干やや滑らみ、裏面とともに使用面の可能性あり。	
26		第3黒色土層	石2 4	19.6	17.1	6.7	3.8	-	-	平たい石片。表裏面とも滑らかが自然石の可能性あり。	
27		第3黒色土層	石2 7	17.6	13.8	6.5	1.7	-	-	表面はなく、自然石と思われる。	
28	52-05	第3黒色土層	64 4	25.7	12.8	3.9	2800	ひん岩	やや粗めの表面である。藍晶は無し。裏面が不自然に凹む。		
29	52-04	第3黒色土層	石4 3	22.8	22.3	8.5	6100	鷹性質入岩	平坦な石材。表裏面とも使用面と思われる。		
30		第3黒色土層(SD2)	石4 7	17.4	10.1	7	1.8	-	-	全面滑らかであるが自然石と思われる。	
31		第3黒色土層	石4 8	40.6	28.4	21	30.5	-	-	全体的に滑らかであるが、断定できない。	
32		第3黒色土層	石4 9	30.8	21.1	9.7	6.7	-	-	表裏面ともやや滑らかであるが、自然石の可能性が高い。	
33		第3黒色土層(SD2)	石5 0	11.8	9.4	6	0.7	-	-	自然石。	
34		第3黒色土層	石5 1	22.8	17.4	8.3	3.8	-	-	表裏面ともやや滑らかであるが、自然石の可能性が高い。	
35		第3黒色土層	No.なし	18.8	16.9	6	2.6	-	-	表裏面の片面が平滑であり使用面の可能性あり。	

第38表 板屋Ⅲ遺跡 出土石器 計測表（種類 磁石）

計測 No.	擇回 No.	層位・遺構	グリッド	計測値 (mm・g)					石材	特徴
				長径	短径	厚さ	重さ			
1	111-07	第1黒色土層	12 E	7.3	6.4	4.1	345.8	ひん岩		
2	111-13	第1黒色土層	12 E	8.1	5.7	3.8	254.7	流紋岩		
3	111-14	第1黒色土層	13 D	14	5.9	6.9	723.5	凝灰岩		
4		第1黒色土層	11 D	9.1	6.6	3.7	397.8	凝灰質凝灰岩		
5		第1黒色土層	12 E	5.8	4.5	2.1	88.9	流紋岩		
6		第1黒色土層	12 E	10.1	4.1	3.8	249.6	流紋岩		

第39表 積穴住居跡(SI)出土石器 計測表

計測 No.	辨認 No.	種類	遺構名	層位	計測値(cm・g)				石材
					長径	短径	厚さ	重さ	
1	-	円盤	S101	M層	17.1	5.3	4.9	750.1	-
2	67-18	磨石	S101	第1黑色土層	9.4	4.9	2.9	192.6	流紋岩
3	67-17	打製石斧	S101	覆土	10.7	5.2	1.1	92.3	流紋岩
4	-	刮片	S101	G層	2.8	1.4	0.4	1.3	流紋岩
5	67-19	円盤	S101	M層	15	9.7	4.8	1247.7	流紋岩
6	-	角盤	S101	第1黑色土層	5.1	2.7	1.4	29.9	-
7	-	円盤	S101	M層	17.6	13	7.7	2011.4	-
8	-	円盤	S101	M層	9.8	9.5	8.5	896.2	-
9	76-10	磨石	S103(中央土坑)	M層	8.5	10.5	5.5	771.5	安山岩
10	-	磨石	S103	M層	9.7	5	1.3	88.1	安山岩
11	-	角盤	S103	M層	9.8	6.4	2.4	185.5	-
12	-	刮片	S103	M層	3.5	2.2	0.3	2.7	安山岩
13	-	刮片	S103	第1黑色土層	2.7	1.9	0.4	2.5	安山岩
14	-	刮片	S103(77x7.4)	M層	1.6	0.8	0.2	0.2	安山岩
15	-	刮片	S103(中央土坑)	M層	3.2	1.9	0.2	1.9	安山岩
16	-	刮片	S103	M層	3.9	3.2	0.6	13.8	安山岩
17	-	円盤	S101	第1黑色土層	4.5	1.6	0.8	11.5	-
18	-	円盤	S103	G層	2.6	1.9	1.8	12.4	-
19	-	円盤	S103	M層	3	2.5	2.1	22.4	-
20	-	円盤	S103	G層	2.5	2.2	1.5	11.8	-
21	72-12	不明石器	S103	G層	3.1	3	0.6	8.7	流紋岩
22	85-17	砥石	S105	M層	13.1	5.9	5	674.1	流紋岩
23	-	円盤	S105	G層	5.7	4.9	2.5	111.8	-
24	-	円盤	S105	M層	11.2	8.7	2.1	237.6	-
25	83-11	磨石	S105	G層	12.6	8.4	4	909.5	粗面岩
26	85-16	磨石	S105	M層	10.8	9.3	4.7	766.8	粗面岩
27	-	刮片	S105	G層	3.1	2.9	0.6	6.3	粗面岩
28	-	刮片	S105	覆土	3.3	1.7	0.3	1.5	粗面岩
29	-	刮片	S105	G層	1.5	1.1	0.1	0.1	粗面岩
30	-	刮片	S105	覆土	2.7	2.5	0.3	2.6	粗面岩
31	-	刮片	S105	覆土	3.4	3.3	0.4	4.4	粗面岩
32	-	円盤	S105	M層	9.7	6.1	3.8	379.7	-
33	-	円盤	S105	M層	9.7	6.4	3.8	358.1	-
34	-	円盤	S105	-	6.3	3.6	1.2	40.7	-
35	-	円盤	S105	M層	6.6	3.9	1.7	60.9	-
36	-	円盤	S105	G層	4.7	3.5	1.7	41.7	-
37	-	円盤	S105	-	6.5	5.1	3.3	93.4	-
38	89-02	磨石	S106	覆土	6.2	4.3	2.3	102.3	酸性貫入岩
39	92-12	磨石	S108	G層	12.3	11.3	7.6	1677.9	ひん岩
40	92-10	磨石	S108	M層	12.9	7.5	6.7	948.6	花崗岩
41	92-11	磨石	S108	G層	10.9	5.2	6	404.7	ひん岩

第40表 板屋Ⅳ遺跡 集石遺構 出土石材 計測表 (第3黒色土層検出)

計測 No.	層位	グリッド	計測値 (mm・g)				特徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
1	第3黒色土層	集石遺構	103	60	25	273.4	
2	第3黒色土層	集石遺構	131	100	41	749.1	
3	第3黒色土層	集石遺構	102	93	67	681.3	赤く旋けた形跡あり
4	第3黒色土層	集石遺構	105	91	48	678.9	
5	第3黒色土層	集石遺構	124	66	30	418.5	
6	第3黒色土層	集石遺構	62	42	39	130.7	
7	第3黒色土層	集石遺構	121	77	46	417.7	模付着
8	第3黒色土層	集石遺構	94	64	53	431.1	
9	第3黒色土層	集石遺構	99	58	35	277.5	
10	第3黒色土層	集石遺構	145	74	28	468.7	
11	第3黒色土層	集石遺構	93	72	47	597.5	
12	第3黒色土層	集石遺構	75	61	56	574.1	
13	第3黒色土層	集石遺構	106	58	58	719.1	
14	第3黒色土層	集石遺構	79	55	37	242.6	
15	第3黒色土層	集石遺構	91	83	46	624.7	
16	第3黒色土層	集石遺構	100	85	48	847	
17	第3黒色土層	集石遺構	116	95	54	600	
18	第3黒色土層	集石遺構	117	84	33	677.2	
19	第3黒色土層	集石遺構	97	63	34	199.1	
20	第3黒色土層	集石遺構	113	78	36	391	
21	第3黒色土層	集石遺構	124	101	65	760	
22	第3黒色土層	集石遺構	107	59	47	409	
23	第3黒色土層	集石遺構	57	31	30	69.4	
24	第3黒色土層	集石遺構	105	65	22	234	
25	第3黒色土層	集石遺構	43	31	37	55.4	
26	第3黒色土層	集石遺構	79	70	49	384.4	
27	第3黒色土層	集石遺構	82	66	41	200.1	
28	第3黒色土層	集石遺構	60	37	30	109.6	模付着
29	第3黒色土層	集石遺構	97	57	23	134.1	模付着
30	第3黒色土層	集石遺構	46	28	25	33.6	
31	第3黒色土層	集石遺構	54	37	41	198.9	
32	第3黒色土層	集石遺構	53	37	24	52.2	
33	第3黒色土層	集石遺構	79	60	48	235.7	模付着
34	第3黒色土層	集石遺構	151	71	57	837.8	模付着
35	第3黒色土層	集石遺構	11	80	34	366.7	
36	第3黒色土層	集石遺構	63	47	52	315.3	模付着
37	第3黒色土層	集石遺構	60	44	27	98.9	
38	第3黒色土層	集石遺構	113	84	32	386.7	
39	第3黒色土層	集石遺構	110	63	26	294.5	赤い
40	第3黒色土層	集石遺構	105	82	24	418.1	赤い
41	第3黒色土層	集石遺構	61	50	31	153.5	
42	第3黒色土層	集石遺構	37	28	24	46.7	
43	第3黒色土層	集石遺構	61	54	33	165.3	
44	第3黒色土層	集石遺構	94	60	51	424.1	
45	第3黒色土層	集石遺構	66	41	19	84.4	
46	第3黒色土層	集石遺構	51	43	21	45.5	赤い
47	第3黒色土層	集石遺構	79	68	49	539.7	
48	第3黒色土層	集石遺構	90	76	36	318	
49	第3黒色土層	集石遺構	129	61	42	562.7	模付着
50	第3黒色土層	集石遺構	108	83	63	687.3	赤い
51	第3黒色土層	集石遺構	97	45	25	154.5	赤い
52	第3黒色土層	集石遺構	96	88	57	591.5	
53	第3黒色土層	集石遺構	103	64	52	681.3	
54	第3黒色土層	集石遺構	113	77	61	652.2	
55	第3黒色土層	集石遺構	89	85	43	442.6	模付着
56	第3黒色土層	集石遺構	107	46	35	330	
57	第3黒色土層	集石遺構	84	62	49	262.6	
58	第3黒色土層	集石遺構	115	87	44	463.9	模付着
59	第3黒色土層	集石遺構	69	44	21	88.6	

計測 No.	層位	グリッド	計測値 (cm · g)				特徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
61	第3黒色土層	集石造構	300	130	87	600	赤い
62	第3黒色土層	集石造構	92	86	36	573.8	
63	第3黒色土層	集石造構	70	28	50	443.4	灰付着
64	第3黒色土層	集石造構	143	96	36	536	
65	第3黒色土層	集石造構	115	65	43	374.6	
66	第3黒色土層	集石造構	129	74	53	701	
67	第3黒色土層	集石造構	99	23	30	165.3	
68	第3黒色土層	集石造構	106	94	68	652	
69	第3黒色土層	集石造構	117	69	37	386	
70	第3黒色土層	集石造構	106	59	37	426.4	
71	第3黒色土層	集石造構	76	50	18	116.1	赤い
72	第3黒色土層	集石造構	57	47	42	186.6	赤い
73	第3黒色土層	集石造構	96	45	42	269.2	
74	第3黒色土層	集石造構	116	34	48	287.5	灰付着
75	第3黒色土層	集石造構	42	41	41	172.5	灰付着
76	第3黒色土層	集石造構	76	43	34	337.6	
77	第3黒色土層	集石造構	110	74	35	478.3	
78	第3黒色土層	集石造構	87	45	35	193.4	
79	第3黒色土層	集石造構	79	63	32	128	赤い
80	第3黒色土層	集石造構	56	30	25	73.8	赤い
81	第3黒色土層	集石造構	78	54	58	303.3	
82	第3黒色土層	集石造構	50	31	26	49.3	
83	第3黒色土層	集石造構	75	50	29	123.8	灰付着
84	第3黒色土層	集石造構	108	68	42	482.6	赤い
85	第3黒色土層	集石造構	131	87	54	1134.4	灰付着
86	第3黒色土層	集石造構	77	25	28	141.4	赤い
87	第3黒色土層	集石造構	170	118	51	1414	灰付着
88	第3黒色土層	集石造構	143	86	56	1057.5	灰付着
89	第3黒色土層	集石造構	108	92	37	390.4	
90	第3黒色土層	集石造構	79	77	51	480.6	
91	第3黒色土層	集石造構	128	88	74	1021.7	赤い
92	第3黒色土層	集石造構	113	108	74	1635.6	灰付着
93	第3黒色土層	集石造構	114	102	83	1139	
94	第3黒色土層	集石造構	82	40	25	111.3	
95	第3黒色土層	集石造構	105	64	31	258.9	
96	第3黒色土層	集石造構	139	79	32	611.5	
97	第3黒色土層	集石造構	126	81	59	920	
98	第3黒色土層	集石造構	124	61	50	428.3	灰付着
99	第3黒色土層	集石造構	132	99	34	614.7	灰付着
100	第3黒色土層	集石造構	122	67	63	581.6	
101	第3黒色土層	集石造構	74	54	44	190.7	灰付着
102	第3黒色土層	集石造構	88	38	34	196.1	
103	第3黒色土層	集石造構	58	57	38	212.2	灰付着
104	第3黒色土層	集石造構	73	66	15	148.4	灰付着
105	第3黒色土層	集石造構	77	60	37	229.6	
106	第3黒色土層	集石造構	93	52	29	212.8	灰?
107	第3黒色土層	集石造構	177	62	51	850.5	
108	第3黒色土層	集石造構	113	106	68	756.9	灰?
109	第3黒色土層	集石造構	77	56	33	311.8	
110	第3黒色土層	集石造構	108	71	36	386.6	灰付着
111	第3黒色土層	集石造構	41	27	16	31.2	
112	第3黒色土層	集石造構	103	82	31	387.9	
113	第3黒色土層	集石造構	88	49	35	185.4	灰付着
114	第3黒色土層	集石造構	71	58	20	103.4	
115	第3黒色土層	集石造構	80	66	36	346.8	
116	第3黒色土層	集石造構	78	65	47	296.7	
117	第3黒色土層	集石造構	112	89	44	634.2	灰付着
118	第3黒色土層	集石造構	140	65	32	391.4	
119	第3黒色土層	集石造構	104	60	44	389.1	赤い
120	第3黒色土層	集石造構	135	85	30	491.2	赤い
121	第3黒色土層	集石造構	123	40	29	274.3	赤い

計測 No.	層位	グリッド	計測値 (mm + g)				特 徴
			長径	短径	厚さ	重さ	
122	第3黒色土層	集石透構	149	111	42	840.9	
123	第3黒色土層	集石透構	69	55	34	245.6	炭付着
124	第3黒色土層	集石透構	58	33	30	85.8	赤い
125	第3黒色土層	集石透構	46	34	24	32.6	炭付着
126	第3黒色土層	集石透構	45	27	15	23.8	炭付着
127	第3黒色土層	集石透構	76	37	35	145.6	炭付着
128	第3黒色土層	集石透構	65	38	28	108.7	赤い
129	第3黒色土層	集石透構	110	63	36	468.7	
130	第3黒色土層	集石透構	109	67	40	519.6	炭付着
131	第3黒色土層	集石透構	47	46	30	63.9	炭付着
132	第3黒色土層	集石透構	69	27	13	43	炭付着
133	第3黒色土層	集石透構	73	30	32	113.2	
134	第3黒色土層	集石透構	110	21	31	142.3	
135	第3黒色土層	集石透構	107	70	35	420.7	炭付着
136	第3黒色土層	集石透構	65	61	32	221.3	炭付着
137	第3黒色土層	集石透構	73	55	33	203.6	炭付着
138	第3黒色土層	集石透構	66	46	26	117.7	
139	第3黒色土層	集石透構	100	64	40	572.1	炭付着
140	第3黒色土層	集石透構	65	45	17	76	炭付着
141	第3黒色土層	集石透構	162	75	35	633.6	赤い 炭付着
142	第3黒色土層	集石透構	116	56	41	402.7	赤い 炭付着
143	第3黒色土層	集石透構	111	44	37	432.6	赤い 炭付着
144	第3黒色土層	集石透構	58	57	18	81	赤い 炭付着
145	第3黒色土層	集石透構	52	26	25	55.1	炭付着
146	第3黒色土層	集石透構	80	56	12	97.3	炭付着
147	第3黒色土層	集石透構	108	100	48	988.8	
148	第3黒色土層	集石透構	76	50	44	306.2	
149	第3黒色土層	集石透構	55	37	21	61	
150	第3黒色土層	集石透構	68	37	32	112.3	炭付着
151	第3黒色土層	集石透構	61	46	25	89.5	炭付着
152	第3黒色土層	集石透構	54	25	23	60.7	
153	第3黒色土層	集石透構	61	45	29	66.4	
154	第3黒色土層	集石透構	55	39	28	52	炭付着
155	第3黒色土層	集石透構	61	51	21	87.1	炭付着
156	第3黒色土層	集石透構	118	50	46	328	赤い 炭付着
157	第3黒色土層	集石透構	45	30	10	14.7	炭付着
158	第3黒色土層	集石透構	101	44	24	205.9	
159	第3黒色土層	集石透構	60	26	27	54.8	炭付着
160	第3黒色土層	集石透構	59	43	27	107.6	炭付着
161	第3黒色土層	集石透構	143	59	64	666.8	赤い
162	第3黒色土層	集石透構	57	43	33	89.3	炭付着
163	第3黒色土層	集石透構	45	30	21	36.2	炭付着
164	第3黒色土層	集石透構	83	48	16	109.3	赤い
165	第3黒色土層	集石透構	123	69	61	517.6	赤い
166	第3黒色土層	集石透構	118	114	59	963.3	赤い
167	第3黒色土層	集石透構	61	39	38	127.1	炭付着
168	第3黒色土層	集石透構	50	38	8	24.5	
169	第3黒色土層	集石透構	45	34	23	38.9	炭付着
170	第3黒色土層	集石透構	50	26	15	23.8	
171	第3黒色土層	集石透構	68	53	11	77.2	炭付着
172	第3黒色土層	集石透構	61	41	7	38.2	赤い
173	第3黒色土層	集石透構	52	40	18	39.2	赤い 炭付着
174	第3黒色土層	集石透構	63	58	20	91.4	
175	第3黒色土層	集石透構	51	41	23	75.9	
176	第3黒色土層	集石透構	67	50	31	115.4	赤い
177	第3黒色土層	集石透構	53	34	16	51.9	赤い 炭付着
178	第3黒色土層	集石透構	51	34	26	68	赤い 炭付着
179	第3黒色土層	集石透構	75	53	10	47.4	赤い 炭付着
180	第3黒色土層	集石透構	50	29	14	25.3	赤い 炭付着
181	第3黒色土層	集石透構	40	32	23	39.7	赤い 炭付着
182	第3黒色土層	集石透構	44	40	31	81.9	

計測 No.	層位	グリッド	計測値 (mm · g)			特徴	
			長径	短径	厚さ		
183	第3黒色土層	集石造構	27	24	18	17.3	灰付着
184	第3黒色土層	集石造構	70	37	31	104.9	赤い 灰付着
185	第3黒色土層	集石造構	50	37	20	65.8	赤い 灰付着
186	第3黒色土層	集石造構	53	31	15	38.3	赤い 灰付着
187	第3黒色土層	集石造構	35	29	14	26.6	
188	第3黒色土層	集石造構	154	78	64	1005.9	灰付着
189	第3黒色土層	集石造構	53	37	30	111.4	赤い 灰付着
190	第3黒色土層	集石造構	54	35	36	77.2	赤い 灰付着
191	第3黒色土層	集石造構	70	51	27	147.5	繊維が入っている
192	第3黒色土層	集石造構	156	113	51	1023.2	赤い
193	第3黒色土層	集石造構	88	49	36	264	赤い 灰付着
194	第3黒色土層	集石造構	84	74	29	307.3	赤い
195	第3黒色土層	集石造構	90	62	53	589.3	赤い 灰付着
196	第3黒色土層	集石造構	84	79	48	606.8	赤い 灰付着
197	第3黒色土層	集石造構	68	52	39	204.3	灰付着
198	第3黒色土層	集石造構	57	42	25	111.2	灰付着
199	第3黒色土層	集石造構	63	47	45	147	赤い
200	第3黒色土層	集石造構	65	39	38	173.5	
201	第3黒色土層	集石造構	63	35	19	100.8	赤い
202	第3黒色土層	集石造構	61	45	21	98.5	赤い
203	第3黒色土層	集石造構	110	65	59	423	
204	第3黒色土層	集石造構	129	86	41	597.1	
205	第3黒色土層	集石造構	79	70	22	130.2	赤い
206	第3黒色土層	集石造構	76	51	25	83.9	赤い 灰付着
207	第3黒色土層	集石造構	113	106	80	1362.7	赤い
208	第3黒色土層	集石造構	124	121	47	1016	赤い 灰付着
209	第3黒色土層	集石造構	78	70	43	285.8	赤い
210	第3黒色土層	集石造構	152	82	56	1207	灰付着
211	第3黒色土層	集石造構	134	114	78	1206	赤い
212	第3黒色土層	集石造構	43	38	26	83	
213	第3黒色土層	集石造構	41	40	13	37.8	灰付着
214	第3黒色土層	集石造構	72	25	26	59.7	赤い
215	第3黒色土層	集石造構	64	57	47	212.5	灰付着
216	第3黒色土層	集石造構	119	60	34	438.9	赤い 灰付着
217	第3黒色土層	集石造構	84	53	28	166.8	赤い 灰付着
218	第3黒色土層	集石造構	84	82	27	334.2	灰付着
219	第3黒色土層	集石造構	81	63	57	299.3	
220	第3黒色土層	集石造構	46	33	16	39.9	赤い
221	第3黒色土層	集石造構	85	82	39	413.5	赤い
222	第3黒色土層	集石造構	61	46	24	118.4	
223	第3黒色土層	集石造構	65	45	14	54.3	
224	第3黒色土層	集石造構	70	40	29	101.6	赤い
225	第3黒色土層	集石造構	136	79	49	798.2	赤い 灰付着
226	第3黒色土層	集石造構	50	45	28	105.8	赤い
227	第3黒色土層	集石造構	60	47	29	96	赤い
228	第3黒色土層	集石造構	43	43	19	55.4	赤い
229	第3黒色土層	集石造構	56	33	15	32.6	赤い
230	第3黒色土層	集石造構	72	24	17	40	灰付着
231	第3黒色土層	集石造構	57	29	26	46.3	
232	第3黒色土層	集石造構	56	36	21	39.7	
233	第3黒色土層	集石造構	35	32	18	27.9	
234	第3黒色土層	集石造構	35	23	21	25.3	赤い

第41表① 板屋Ⅲ遺跡 出土鉄釘(東区) 計測表

計測 No.	標印 No.	層位	グリッド	計測値 (cm · g)				特徴
				長さ	幅	厚さ	重さ	
1	31-02	第1黒色土層	SK1 6	4.1	0.5	0.5	2.53	完全形。鋸が激しい
2	31-03	第1黒色土層	SK1 6	3.9	0.4	0.3	2.15	完全形。鋸が激しい
3	31-04	第1黒色土層	SK1 6	3.1	0.5	0.6	0.9	頭部欠。鋸が激しい
4	第1黒色土層	SK1 6	4.6	1.9	1.1	3.48	詳細不明。木片付着	
5	第1黒色土層	SK1 6	3.5	0.5	0.4	2.1	詳細不明	
6	第1黒色土層	SK1 6	2.4	0.6	0.4	2.29	詳細不明。木片付着	
7	第1黒色土層	SK1 6	3	0.4	0.4	1.66	詳細不明。木片付着	
8	31-01	第1黒色土層	SK1 6	3.5	0.6	0.5	3.69	完全形。木片付着
9	第1黒色土層	SK1 6	2.6	0.7	0.3	1.71	詳細不明。木片付着	
10	31-05	第1黒色土層	SK1 6	3.2	0.4	0.4	1.92	先端部欠。木質が頭部側と先端部側で90度異なる
11	第1黒色土層	SK1 6	2.8	0.6	0.4	1.73	詳細不明。木片付着	
12	31-07	第1黒色土層	SK1 6	2.7	0.4	0.4	1.92	頭部側不規則。先端部欠。頭部側と先端部側で木質の付着方向が90度異なる
13	31-06	第1黒色土層	SK1 6	2.9	0.5	0.3	1.75	頭部側と先端部側で木質の付着方向が90度異なる
14	31-08	第1黒色土層	SK1 6	2.6	0.4	0.3	1.87	先端部欠。頭部側と先端部側で木族が90度異なる
15	第1黒色土層	SK1 6	2.2	0.4	0.3	1.52	残存少なく木質付着	
16	第1黒色土層	SK1 6	2.2	0.5	0.3	2.48	詳細不明。木片付着	
17	第1黒色土層	SK1 6	2.2		0.4	1.88	木片付着	
18	第1黒色土層	SK1 6	2.2	0.7	0.4	1.49	木片付着	
19	第1黒色土層	SK1 6	2	0.5	0.4	1.8	木片付着	
20	第1黒色土層	SK1 6	2.5	0.5	0.4	1.43	木片付着	
21	第1黒色土層	SK1 6	2.6	0.5	0.4	0.82	詳細不明	
22	第1黒色土層	SK1 6	2.5	0.4	0.4	1.32	木片付着	
23	第1黒色土層	SK1 6	2	0.6	0.4	2.1	詳細不明。木片付着	
24	第1黒色土層	SK1 6	1.8	0.4	0.3	1	詳細不明。木片付着	
25	第1黒色土層	SK1 6	1.1	0.6	0.4	0.81	詳細不明。木片付着	
26	第1黒色土層	SK1 6	1.7	0.4	0.3	1.36	詳細不明。木片付着	
27	第1黒色土層	SK1 6	1.1	1.6	1.2	1.71	詳細不明。木片付着	
28	第1黒色土層	SK1 6					詳細不明。木片付着	
29	第1黒色土層	SK1 6	1.7	0.4	0.3	1.11	詳細不明。木片付着	
30	第1黒色土層	SK1 6	1.8	0.7	0.6	1.23	詳細不明。木片付着	
31	第1黒色土層	SK1 6	2.1	0.4	0.4	1.4	詳細不明。鋸が激しい	
32	第1黒色土層	SK1 6	2.3	0.4	0.4	1.66	詳細不明。木片付着	
33	第1黒色土層	SK1 6	2.2	0.5	0.4	1.46	詳細不明。木片付着	
34	第1黒色土層	SK1 6	2.3	0.5	0.4	1.46	詳細不明。鋸が激しい	
35	第1黒色土層	SK1 6	2.3	0.6	0.4	1.46	詳細不明。木片付着	
36	第1黒色土層	SK1 6	2	0.5	0.3	1.2	詳細不明。木片付着	
37	第1黒色土層	SK1 6					詳細不明。木片付着	
38	第1黒色土層	SK1 6	1.5	0.4	0.3	1.62	詳細不明。鋸が激しい	
39	第1黒色土層	SK1 6	2	0.4	0.5	1.15	詳細不明。鋸が激しい	
40	第1黒色土層	SK1 6	2.1	0.5	0.3	1.1	詳細不明。鋸が激しい	
41	第1黒色土層	SK1 6	1.6	0.5	0.4	1.26	詳細不明。鋸が激しい	
42	第1黒色土層	SK1 6					詳細不明。木片付着	
43	第1黒色土層	SK1 6	1.2	0.4	0.3	0.51	詳細不明。鋸が激しい	
44	第1黒色土層	SK1 6	1.2	0.3	0.3	0.32	詳細不明。鋸が激しい	

第41表② 板屋Ⅲ遺跡 出土鉄釘(西区) 計測表

計測 No.	標印 No.	層位	グリッド	計測値 (cm · g)				特徴
				長さ	幅	厚さ	重さ	
1	113-13	p 1 43	11.3	1.85	1.74	41.15	先端部欠。頭部は鉄打により薄くて大きい。	
2	113-14	造成上	1 1 D	10.5	1.1	1.2	30.07	先端部若干欠
3	造成土	1 2 D	8	1.2	1.2	35.02	全存。鋸が激しい	
4	腐土			8.05	0.8	0.8	15.6	全存。鋸が激しい
5	113-15	表土	1 3 D	8.93	1	0.8	16.8	先端部欠で折れがれる
6	表土	1 2 D	7.18	1.2	1.4	29	先端破損。鋸が激しい	
7		不明		8.3	0.5	0.7	8.34	頭部が破損
8				55.6	1.3	1.2	16.8	詳細不明
9	表土	1 1 D	68.3	1.2	1.2	19	頭部が破損	
10	113-16			69.5	1	1.2	22.9	先端部欠
11	表土	1 1 D	55.1	0.9	0.9	14.6	先端が破損	
12	表土	1 1 D	52.9	0.8	0.9	10.81	先端が破損。鋸が激しい	
13	造成上	1 2 D(ベルト)	8.2	1.2	1.1	21.5	全存。鋸が激しい	
14	表土	1 1 D	6.6	0.9	0.9	13	先端部破損。鋸が激しい	
15	表土	1 1 D	7.4	1	0.8	12.31	全存。鋸が激しい	
16	表土	1 2 D	6.5	0.5	0.5	9.2	頭部が破損	
17	表土	1 2 E	4.8	0.7	0.6	9	先端部破損。鋸が激しい	
18	表土	1 1 D	6.4	0.7	0.5	8.1	全存。鋸が激しい	
19	表土	1 2 D	7.5	0.4	0.4	6.2	頭部が破損。鋸が激しい	

計測 No.	種図 No.	層位	グリッド	計測値 (cm・g)			特 徴
				長さ	幅	厚さ	
20		第一黑色土層	1 1 D	6	0.5	0.4	5.9 頭部が破損。縫が激しい
21			1 1 D	6.9	0.6	0.6	17 先端部破損
22		造成土	1 2 D	6.5	0.8	0.7	12.8 頭部破損
23		表土	1 1 E	5.6	0.7	0.6	3.9 先端部、頭部破損
24		造成土	1 2 D	5.6	0.6	0.5	11.1
25		表土	1 1 D	5.1	0.8	0.7	15.8 先端部破損
26		造成土	1 2 D	6.2	0.7	0.6	12.1 頭部と先端部破損
27		表土	1 1 D	6	0.7	0.6	12.8 頭部破損
28			1 2 E	6.2	0.6	0.4	10.7 頭部破損
29		造成土	1 2 D	6.4	0.8	0.7	19.5 先端部破損
30		造成土	1 2 D (*ベルト)	6.3	0.8	0.6	26.1 先端部破損
31		表土	1 1 D	6.6	0.8	0.7	30.1 先端部破損
32		第一黑色土層	1 2 E	5.3	0.5	0.4	5.9 頭部破損
33		表土		5.4	0.4	0.4	5.2 先端部破損。縫が激しい
34		表土	1 2 D	4.3	0.4	0.4	3.8 頭部破損。縫が激しい
35		表土	1 2 D	5	0.9	0.9	8.5 切部と先端部破損。縫が激しい
36	113-17	造成土	1 2 D	5	0.7	0.6	11.1 頭部の形状はX線でも不明。先端部欠
37		造成土	9時 背面	5.1	0.6	0.6	9.2 先端部破損。縫が激しい
38		表土	1 2 D	4.4	0.7	0.7	6.4 先端部破損。縫が激しい
39		第一黑色土層	1 2 E	4.5	0.7	0.6	7.2 先端部破損。縫が激しい
40		表土	1 2 E	5.4	0.8	0.6	9 先端部破損。縫が激しい
41	113-18		1 3 E	4	0.6	0.5	4.1 完形品。頭部の状況は明確ではない
42		表土	1 2 D	5.2	0.6	0.5	6.4 先端部破損。縫が激しい
43			p i t 11	4.7	0.6	0.7	7.3 先端部破損。縫が激しい
44		表土	1 1 D	5.5	0.6	0.6	7.5 頭部破損。縫が激しい
45		表土	1 2 E	5.4	0.6	0.5	7.3 先端部破損。縫が激しい
46				4.3	0.7	0.6	19.9 詳細不明
47		第一黑色土層	1 2 E	5	1.1	0.9	26.2 先端部破損
48		造成土	1 1 D	4.4	0.6	0.8	6.1 先端部破損
49		造成土	1 2 D	4.1	0.6	0.4	5.3 先端部破損
50		造成土	1 3 E	4	0.8	0.7	6.8 先端部、頭部破損
51		第一黑色土層	1 2 E	3.7	0.4	0.3	4.4 詳細不明
52		表土	1 1 D	4	1	0.6	12.1 詳細不明
53		東洋ベルト	1 2 D	3.9	1	0.9	10 先端部破損
54		表土	1 1 D	4.3	0.8	0.6	7 頭部破損
55		表土	1 1 E	4.7	0.5	0.4	6.3
56		造成土	1 1 D	4.6	1.4	1	7.8 詳細不明
57		造成土	1 2 D	3.4	0.8	0.7	7.7 先端部、頭部破損
58		造成土	1 2 D	4	0.5	0.5	5.7 詳細不明
59		表土	1 1 D	4.3	0.7	0.5	7.6 完形
60		造成土	1 2 D (*ベルト)	4.6	0.8	0.6	10.2 先端部破損
61		表土	1 1 E	3.3	0.6	0.5	3.2 先端部破損
62		造成土	1 2 D	3.1	0.7	0.5	7.8 先端部破損
63		造成土	1 2 D	4	0.6	0.6	2.9 完形
64		造成土	1 2 D	4.5	0.7	0.6	5 先端部、頭部破損
65		造成土	1 2 D	3.8	0.7	0.7	4.9 先端部、頭部破損
66		造成土	1 2 D	4.4	0.5	0.5	4.2 頭部破損
67		表土	1 1 D	3.4	0.5	0.4	5.2 詳細不明
68		第一黑色土層	1 2 E	3.2	0.8	0.4	6.6 詳細不明
69		造成土	1 2 D	3.5	1	0.8	8.6 頭部以外破損
70		表土	1 1 D	4	1.2	0.8	12.6 頭部以外破損
71	-		p i t 38	4.6	0.7	0.6	22.1 詳細不明
72	-		p i t 29	4	0.5	0.4	8 詳細不明
73		造成土	1 2 D	3.4	0.5	0.4	7.2 先端部、頭部破損。縫が激しい
74		表土	1 2 D	4.1	0.7	0.6	8.1 先端部、頭部破損。縫が激しい
75	-		1 2 E	3.4	0.4	0.3	3.2 先端部、頭部破損。縫が激しい
76		覆土	p i t 15	3.1	0.8	0.7	5.5 先端部、頭部破損。縫が激しい
77		第一黑色土層	1 2 E	3.8	0.5	0.5	3.7 先端部、頭部破損。縫が激しい
78		第一黑色土層	1 2 E	3.6	0.6	0.5	3.2 先端部、頭部破損。縫が激しい
79		第一黑色土	1 2 E	3.7	0.6	0.5	3.3 先端部、頭部破損。縫が激しい
80		表土	1 1 D	4.2	0.9	0.9	13.2 詳細不明。縫が激しい
81		表土	1 3 E	4.3	1.2	0.9	17.3 詳細不明
82	-		1 1 D	3.5	1	0.8	19.8 詳細不明。縫が激しい
83		造成土	p i t 11A	3.8	0.5	0.5	11.3 詳細不明。縫が激しい
84		造成土	1 2 D	3	0.9	0.7	10.3 詳細不明。縫が激しい
85		第一黑色土層	1 2 E	2.4	0.5	0.4	9.6 詳細不明。縫が激しい
86		覆土	p i t 40	2.1	0.6	0.6	2 詳細不明

計測 No.	種別 No.	層位	グリッド	計測値 (cm · g)			特 徴
				長さ	幅	厚さ	
87	造成上	1 2 D	-	2.8	0.8	0.8	3.6 詳細不明
88	表土	1 1 D	-	0.9	0.6	0.6	4.1 詳細不明
89	表土	1 1 E	-	2.9	0.5	0.4	1.5 詳細不明
90	表土	1 1 E	-	3.8	0.6	0.4	2.2 頭部破損
91	第一黒色土層	1 1 E	-	3	0.9	0.7	4.9 先端部破損
92	-	p i t 45	-	3.8	0.9	0.8	7.3 先端部破損。縫が激しい
93	表土	1 2 D	-	3.7	0.9	0.8	8.2 先端部破損。縫が激しい
94	表土	1 2 D	-	4	0.9	0.9	10.4 詳細不明。縫が激しい
95	造成土	1 2 D(ベルト)	-	3.6	1.1	0.6	9.7 詳細不明。縫が激しい
96	表土	1 1 D	-	2.7	0.8	0.8	3.6 詳細不明。縫が激しい
97	表土	1 1 D	-	3.9	1	0.9	9 詳細不明。縫が激しい
98	表土	1 1 D	-	2.9	0.9	0.8	7.1 詳細不明。縫が激しい
99	表土	-	-	3.1	0.8	0.5	3.4 詳細不明。縫が激しい
100	覆土	p i t 40	-	2	0.7	0.7	1.5 詳細不明。縫が激しい
101	覆土	p i t 40	-	3	0.5	0.5	2.9 詳細不明。縫が激しい
102	造成上	1 1 D	-	3.4	0.4	0.4	2.5 詳細不明。縫が激しい
103	表土	1 1 D	-	1.6	0.6	0.4	3.3 詳細不明。縫が激しい
104	表土	1 1 D	-	2.8	0.8	0.6	4.1 詳細不明。縫が激しい
105	表土	1 1 D	-	2.5	2.7	0.6	3.5 詳細不明。縫が激しい
106	表土	1 1 D	-	3.1	0.7	0.6	3.9 詳細不明。縫が激しい
107	表土	1 1 D	-	3	0.9	0.8	5.6 詳細不明。縫が激しい
108	造成土	1 2 D(ベルト)	-	4	0.6	0.5	8.3 先端部破損。縫が激しい
109	表土	1 2 E	-	3.2	0.7	0.7	5.4 先端部破損。縫が激しい
110	表土	1 1 D	-	3.2	0.7	0.7	6.1 詳細不明。縫が激しい
111	第一黒色土層	1 2 E	-	3.7	0.6	0.5	3.2 詳細不明。縫が激しい
112	造成上	1 2 D	-	3.2	0.8	0.7	4.7 詳細不明。縫が激しい
113	ピット群造成土	1 1 D	-	0.9	0.9	0.5	2.5 詳細不明。縫が激しい
114	西北ベルト	1 3 D	-	2.8	0.8	0.5	4.3 詳細不明。縫が激しい
115	第一黒色土層	1 2 E	-	2.2	0.9	0.4	1.5 先端部以外破損。縫が激しい
116	表土	1 1 D	-	3.1	0.4	0.4	1.3 詳細不明。縫が激しい
117	表土	1 1 E	-	2.5	0.4	0.4	1.3 詳細不明。縫が激しい
118	表土	1 1 E	-	1.7	0.6	0.5	0.9 詳細不明。縫が激しい
119	表土	1 1 E	-	1.9	0.5	0.5	1.6 詳細不明。縫が激しい
120	表土	1 2 D	-	2.6	0.6	0.6	1.4 詳細不明。縫が激しい
121	表土	1 1 D	-	3.3	0.5	0.4	2.7 詳細不明。縫が激しい
122	造成上	1 2 D	-	2.6	0.7	0.6	2.6 詳細不明。縫が激しい
123	表土	1 1 D	-	2	0.6	0.3	1.9 詳細不明。縫が激しい
124	表土	1 1 D	-	0.5	1	1	1.2 詳細不明。縫が激しい
125	表土	1 2 D	-	2.6	0.7	0.7	4.2 詳細不明。縫が激しい
126	造成土	1 2 D(ベルト)	-	2	0.6	0.6	1.7 詳細不明。縫が激しい
127	表土	1 2 E	-	3.3	0.5	0.5	2.3 詳細不明。縫が激しい
128	表土	1 1 D	-	2.3	0.6	0.7	4 詳細不明。縫が激しい
129	表土	1 1 D	-	3.2	0.6	0.6	3.1 詳細不明。縫が激しい
130	表土	1 2 E	-	2	0.7	0.5	8.1 詳細不明。縫が激しい
131	第一黒色土層	1 2 E	-	1.9	0.4	0.3	0.6 詳細不明。縫が激しい
132	-	p i t 42	-	1.5	0.7	0.5	0.9 詳細不明。縫が激しい
133	ピット群造成土	1 1 D	-	1.8	0.8	0.5	3.8 詳細不明。縫が激しい
124	-	p i t 42	-	2.8	0.6	0.6	1.9 詳細不明。縫が激しい
135	ピット群造成土	1 1 D	-	2.2	0.8	0.6	2.5 詳細不明。縫が激しい
136	表土	1 3 E	-	2.9	2	2.3	2.5 詳細不明。縫が激しい
137	表土	1 1 D	-	2.1	0.8	0.5	2.5 詳細不明。縫が激しい
138	表土	1 1 D	-	2.4	0.5	0.4	2.2 詳細不明。縫が激しい
139	-	1 2 D(ベルト)	-	2	0.6	0.6	1.1 詳細不明。縫が激しい
140	第一黒色土層	1 2 E	-	3	0.6	0.6	2.6 詳細不明。縫が激しい
141	表土	1 2 D	-	0.3	0.8	0.8	0.5 詳細不明。縫が激しい
142	表土	1 2 D	-	2	0.9	0.8	1.8 詳細不明。縫が激しい
143	表土	1 2 D	-	1.8	1.6	0.5	2.8 詳細不明。縫が激しい
144	-	-	-	2.4	0.6	0.6	2 詳細不明。縫が激しい
145	表土	1 1 D	-	1.3	1.1	1	1.8 詳細不明。縫が激しい
146	表土	1 1 D	-	2.8	0.6	0.7	2.9 詳細不明。縫が激しい
147	表土	1 1 D	-	0.9	0.7	0.5	0.3 詳細不明。縫が激しい
148	表土	1 1 D	-	2	1	0.8	4.3 詳細不明。縫が激しい
149	表土	1 1 D	-	1.7	0.6	0.6	1.5 詳細不明。縫が激しい

製鉄関連遺物観察表

1. 調査の手順

出土した製鉄関連遺物については、造構などの機能や工程を把握するために、製鉄関連遺物の強力磁石（TAJIMA PUP-M）と特殊金属探知器による鉄塊の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を実施した^{*1}。この中から造構の機能や工程を代表すると思われる資料について図化、観察表の作成をおこなった。また、近世の鋳冶炉に伴う遺物については金属学的な分析が必要なもの抽出し、詳細な観察表作成と写真撮影をおこなった。

2. 遺物観察表の見方

遺物観察表は、新潟県北沢遺跡^{*2}における製鉄関連遺物の検討で採用された様式を基本とし、これまでの志津見ダム地内遺跡の報告書で採用されている様式を用いている。上な項目の見方は以下のとおりである。

- (1) 遺物種類 金属学的な分析を行う以前に、考古学的な観察によって判定した遺物の種類。
- (2) 法量 資料の現存する最大長、最大幅、最大厚、重量を計測したものである。
- (3) 磁着度 鉄滓分類様の「標準磁石」を用いて資料との反応を1~8までの数字で表現したもので、数値が大きいほど磁性が強い。
- (4) 保存度 資料が完形品か破片かを記す。
- (5) 破面数 資料が破片の場合、破面がいくつあるかを記す。
- (6) メタル度 小形金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、基準感度は以下のとおりである。
 - H (○) : Hは最高感度でごく小さな金属鉄が残留していることを示す。
 - M (◎) : Mは標準感度で一般的な大きさの金属鉄が残留することを示す。
 - L (●) : Lは低感度でやや大きな金属鉄が残留することを示す。
 - 特L (△) : 特Lは低感度でL以上の大さな金属鉄が残留することを示す。
- (7) 分析 どの分析をどの部分について行うかを○印で示す。
- (8) 所見 外形や破面・断面の状況、木炭痕や気孔の有無、及び付着物やその他の状況について記す。
- (9) 分析箇所 資料をどのような部分でどのような目的で、調査・分析するのかを記す。また、観察表下の実測図の網掛け部は分析に供した試料の位置を示す。

*1 遺物の分類、観察表作成、分析用遺物の抽出については穴澤義功氏に指導・協力いただいた。

*2 新潟県教育委員会 1992年『北沢遺跡群』

第42表 板屋Ⅲ遺跡 創鉄駅遺物 一般観察表

No.	遺物名	遺構名	計例深(㎝)	長さ	幅	厚さ	重量(g)	破壊度	メタル度
構成 遺物名 遺構名 計例深(㎝) 長さ 幅 厚さ 重量(g) 破壊度 メタル度									
1	骨器	1.3D	10.5	11.2	5	437.6	3	なし	内面が黒褐色で密接したが剥離、施土には施土石質の石灰を含む。内面の上部部は茶褐色の剥離。
2	(骨器)	1.2D	133	94	60	711.6	4	なし	多量の石英質の砂を混じた灰質が剥離、内面が生き石が複合化。内面は下部部が複合化、やや焼け色。
3	(骨器)	1.1E	10.8	12.4	5.1	576.1	2	なし	内面のみ生き、上半部が複合化したが剥離、施土は前者と同様。下部部はさわやか化。全体にのみが焼け。
4	(骨器)	1.1E	15.8	12.6	7.3	1187.8	2	なし	完膚なき下部剥離片、下面は複合化で内面にははく離し、大部の木炭質や粉が目立つ。傾斜方向は内側に直角気味。
5	(骨器)	1.1D	7.6	9.5	6.8	481.5	3	L(●)	施土は硬質で石英質の砂粒が入り含蓄の剥離片。内面のみ生きており、黒色ガラス質化したが要主体。一部にごく低度あり。
6	流出孔隙	1.2E	7.5	5.2	3.6	236.6	5	なし	上面の中央部が平滑な流出痕。右側部は透出気泡で横筋脚がせり上がり。施土は無れで、上部は紫紅色気味、下部はごつごつしている。
7	流出孔隙	1.2D	7.1	8.6	4.8	445.4	3	なし	流れが止まると孔隙が発達。やや厚手で施土が発達。上面中央が凹凸気味。
8	流出孔隙	1.2E	7.6	7.2	3.8	418.4	2	なし	前着と同様、きれいな緩状の下面を持つ流出孔隙。中央部が左側方向に位置する。薄い施土。
9	流出孔隙	1.2D	12.3	7.7	5.6	580.6	4	なし	流出孔中にあつたような外壁を持つ流出孔隙。上面は大きめな崩壊位に分かれ、右方向に傾斜する。洋は断続で下面の一帯も紫紅色。
10	流出孔隙	1.1D(pit1)	9	8	2.1	235.9	4	なし	きれいな緩状の流出孔隙。上面は平坦気味で、たっぷりと埋没する。わずかに火炎あり。下面は灰膜や火炎跡がある。
11	流出孔隙	1.4E	8.3	9.1	3.6	420.7	2	なし	施土でややかんだ流出孔隙。下面は流れが底面から。上面の一帯が施土気味。
12	流出孔隙	1.2D	11.1	10.8	6.2	1006.3	5	なし	やや大きめの典型的な流出孔隙。上手側面に別個位の痕が異なる。内面は火炎膜が施土し、上面中央部には小卓状の施土痕が重複。ドラマガラに火炎を残す。
13	流出孔隙	1.1E	18.7	16.2	7.1	2590	5	なし	片が倒合して流出孔隙。右側には細かい施土跡がある。手の握形の外形を持つ。上面中央部の施土は別個位の洋で、他の洋を押し上げている。洋は底面にはまだまづ。
14	単位流動層	1.2D	4.8	2.2	1	17.6	2	なし	側面から下部に水洗痕の喰る跡がある。施土には施土痕が施土で、底面には初期低度と呼称振りがあり。
15	単位流動層	1.1E	7.3	3.1	1.7	33.6	2	なし	きれいな緩状の崩壊痕。周囲気味で、下面には初期低度と呼称振り。
16	流動層	1.1E	6.2	6.2	2	96.8	4	なし	やや大きめの施土で崩壊したが施土が別々。部分的に剥離面あり。
17	流動層	1.1E	5.3	6.2	3.5	140.7	4	なし	機密で洋が下方向に置換した流動層。下面には火炎膜があり、下面の一帯には光沢を伴つ薄が逆転して剥離。
18	流動層	1.1E	6.5	7.5	3	166.7	3	なし	扁平な流動層の底片。洋は施土で下面には入前の水洗痕がある。
19	流動層	1.1D(pit13)	7.3	7.3	4.2	270.3	3	なし	複密な流動層。広い流出孔隙を複数もの。下面には火炎膜や石炭が残る。
20	炉内層	1.1D(pit12)	7	6.8	4	187.1	6	なし	上面に木炭質が密集したが施土。焼色で下部にはノイカが固着。やや火炎と火炎の交差。
21	炉内層	1.2D	9.9	10.1	5.2	421.9	3	なし	ややガス質で、一部に炉窓部が物質の残る跡内、外側に小卓りの木炭質があり、全体が堅化気味。下面は火炎膜の剥離面小。
22	炉内層	1.2D	8.6	10.1	3.6	647.1	6	なし	比重の高い高密度的な炉内層。上面には二次の炉内ハイガラスが混入。水洗痕が大きめで部分的に流動層。流出痕跡の可逆性もあり。
23	炉内層	1.1D	9.6	8.8	5.6	619.2	3	なし	晶品が発達した緻密な炉内層。水洗痕が施土で剥離。
24	(板塗型炉窓)	1.1D	7.9	6.2	3.7	84.5	4	なし	灰色から白色へ転換した板塗型炉窓片。内面は焼けガラス化し、黒色気味。
25	(板塗型炉窓)	1.1D	7.3	9.1	3.9	198.6	7	焼成(△)	石英質の砂を多く含む火炎跡が目立つ。左側は木炭質の目立つ、右側がさした施土。右側は炉窓土の溶離した黒色の溶離。
26	(板塗型炉窓)	1.1D	9.4	7.6	4.6	259	4	なし	前着と共通する粘土をもつ焼却片。内面は薄く焼却し、茶褐色のこぶ状の焼却物が目立つ。上下を屈曲するように焼却する。

標数 No.	遺物名	遺跡名	計面積(cm)	重量(g)	幅さ 幅	厚さ	耐候性(△)	腐食度	メタル度
27	印鑑	(板型)切符押	1.1 D	9.3	12.7	3.6	250.8	3	耐化(△)
28	印鑑	(板型)切符	1.2 D	1.2	7.5	6	615.8	4	なし
29	印鑑	(板型)切符、二重	1.2 D	12.8	6.3	3.4	467.8	8	耐化(△)
30	羽口	(板型)切符	1.1 D	6.3	9.4	8	358.1	6	耐化(△)
31	羽口	(板型)切符	1.2 D	7.4	8	4.6	375.8	3	なし
32	羽口	(板型)切符	1.1 E	6.8	4.8	3.5	66.8	2	なし
33	(羽口)	(板型)切符	1.2 D	4.5	4.7	3	55.7	4	耐化(△)
34	(羽口)	(板型)切符	1.1 E	1.4	2.1	1.4	2.9	1	なし
35	(板型)切符	(板型)切符	1.1 E	5.9	6	2.6	120.2	6	なし
36	(板型)羽口(板型)	(板型)羽口(板型)	1.1 E	6.4	10.6	7	210.1	6	なし
37	(板型)羽口(板型)	(板型)羽口(板型)	1.3 E	12.7	11.2	6.3	784.6	5	11(○)
38	(板型)切符	(板型)切符	1.1 D	9.2	7	3.2	214.7	6	なし
39	地形鉛治済(中)	地形鉛治済(中)	1.2 D	7.1	10	4.7	258.1	7	M(○)
40	地形鉛治済(中)	地形鉛治済(中)	1.1 D	9.1	12.2	3.5	326.9	6	耐化(△)
41	地形鉛治済(中)	地形鉛治済(中)	1.1 D	10.6	8.6	3.6	510.7	6	なし
42	地形鉛治済(中)	地形鉛治済(中)	1.2 D	7.8	12.2	4.2	645.7	7	耐化(△)
43	地形鉛治済?	(板型)板型?	1.1 D	15.2	15	8	1388.1	4	なし
44	地形鉛治済?	(X)	1.2 D	19.6	12.6	7.9	2500	8	耐化(△)
45	地形鉛治済?	(含蓋)	1.3 D	4.5	6.3	3.8	146.9	7	L(●)
46	地形鉛治済?	(合蓋)	1.2 E	5	5.7	3.1	162.5	8	L(●)
47	地形鉛治済?	(合蓋)	1.3 E	6.8	12.1	10.2	1072.2	7	L(●)
48	地形鉛治済	(含蓋)	1.1 E	6.2	7.4	3.2	196.3	10	耐化(△)
49	地形鉛治済	(合蓋)	1.1 E	7.1	7.2	3.8	225	10	耐化(△)
50	(工芸品)	(工芸品)	1.1 E	4	4.2	2.8	48.4	3	なし
51	(工芸品)	(工芸品)	1.2 D	6.2	8.8	5.2	272	6	なし
52	派出孔済	(板型)	1.1 E	6.5	3.7	2	61.4	3	なし

構成 No.	被覆物	着線名	長さ (mm)	幅 (mm)	重さ (g)	耐着度 (mm)	耐着度 (mm)	メタル度
53	流出現れ津 (吸湿性)	1.3E	5.5	3	2.6	93.7	2	なし
54	流出現れ津 (吸湿性)	1.2D	7	7.2	3.9	169.8	6	焼化(△)
55	流出現れ津 (吸湿性)	トレンド1.6	7.5	6.4	4.8	265.8	4	なし
56	流出現れ津 (吸湿性)	1.2D	6.8	6.3	4.6	294.4	5	なし
57	流出現れ津 (吸湿性)	1.1D	8.6	5.4	3	144.9	5	なし
58	流出現れ津 (吸湿性)	1.1D	11.5	6.3	4.6	393.5	4	なし
59	流出現れ津 (吸湿性)	1.1D	14	8.1	5.6	666.2	4	なし
60	流出現れ津 (工具付)	1.2D	6.3	6	4.3	282.8	6	焼化(△)
61	流出現れ津 (工具付)	1.2D	11.3	8	6.2	446.7	4	なし
62	流出現れ津 (吸湿性)	1.4E	6.8	5.8	4.1	246.7	9	伸し(△)
63	流出現れ津 (吸湿性)	1.2D	6.8	3.8	2.8	137	2	なし
64	流出現れ津 (吸湿性)	1.2E	11.7	5.2	3	118.7	3	なし
65	流出現れ津 (吸湿性)	1.2D	13	7.9	4.8	438.8	3	なし
66	流出現れ津 (吸湿性)	1.2D	12.7	7.3	4.9	525.8	4	なし
67	輪治津 (含水率)	1.3D	2.7	2.2	1.6	12.9	7	焼化(△)
68	輪治津 (含水率)	1.1D	2.5	2.1	1	13.1	7	焼化(△)
69	輪治津 (含水率)	1.2E	3.2	3.5	2.4	40.9	8	焼化(△)
70	輪治津 (含水率)	1.1D	5.9	4.3	4.1	115.9	10	焼化(△)
71	輪治津 (含水率)	1.1E	5.7	7.8	4.1	294.6	9	焼化(△)
72	輪治津 (含水率)	1.1D	2	1.3	1.3	4.2	7	H(○)
73	輪治津 (含水率)	1.1D	2.6	2.3	1.2	9	7	H(○)
74	輪治津 (含水率)	1.1D	2.8	2.7	2	17.3	6	H(○)
75	輪治津 (含水率)	1.3D	3.3	4.2	3.8	62	7	H(○)
76	輪治津 (含水率)	1.2E	2.1	2.2	1.3	9.7	6	M(◎)
77	輪治津 (含水率)	1.2D	2.8	1.5	1.8	15.6	6	M(◎)
78	輪治津 (含水率)	1.2E	3	3.2	2.3	24.8	6	M(○)

考

備

標定 No.	遺物名	遺構名	長さ mm	幅 mm	高さ mm	計面積 (cm) ²	面積度 (%)	モデル度
79 (含鉄)	船形土器	1.2E	4.5	5.4	4.1	111	6	M(○)
80 (含鉄)	船形土器	1.3D	10	8.3	5.5	494.4	6	M(○)
81 (含鉄)	船形土器	1.2E	3.7	2.3	1.8	27.5	7	L(●)
82 (含鉄)	船形土器	1.2E	4.1	2.8	1.6	29.4	7	L(●)
83 (含鉄)	船形土器	1.2E	3.7	2.7	2.1	39.1	7	L(●)
84 (含鉄)	船形土器	1.2D	5.2	3.8	2	48.2	7	L(●)
85 (含鉄)	船形土器	1.2E	4.6	3.9	3	77.1	8	L(●)
86 (含鉄)	船形土器	1.3D	4.7	2.4	1.4	23.7	7	特L(△)
87 (含鉄)	船形土器	1.4E	3.1	3.2	2.1	47.1	6	特L(△)
88 (含鉄)	船形土器	1.2E	3.8	3.2	2.8	77.1	7	特L(△)
89 (含鉄)	船形土器	1.3E	5.6	2.5	2.4	76.9	8	特L(△)
90 (含鉄)	船形土器	1.1E	4.5	4.7	3.5	91.5	8	特L(△)
91 (含鉄)	船形土器	1.4E	4.2	2.6	1.9	30	7	特L(△)
92 (含鉄)	船形土器	1.1E	4.8	4.6	2.3	86.3	7	特L(△)
93 (含鉄)	船形土器	1.3E	5.5	4.6	2.6	143.6	8	特L(△)
94 (含鉄)	船形土器	1.2E	6.1	4.7	3.1	197.2	7	特L(△)
95 (含鉄)	船形土器	1.1D	7.1	8.5	3.5	343.9	9	特L(△)
96 (△)	船形土器	1.1E	5.1	7.3	3.9	123.1	4	純化(△)
97 (△)	船形土器	1.4E	6.7	5.6	2.8	126.2	3	なし
98 (△)	船形土器	1.3E	6	6.6	3	131.3	4	なし
99 (△)	船形土器	1.1E	8.1	6.8	6.3	238.9	3	純化(△)
100 (△)	船形土器	1.2E	7.7	6.4	3.6	248.6	7	純化(△)
101	羽口	1.2E	2.7	3.8	1.5	13.5	1	なし
102 (△)	舟形土器	7	3.5	1	5.6	1	なし	左側部にための工具痕を伴う水痕。大型の舟形土器、広葉樹の殻貝片、羽口は帆立貝柱が散在する。帆立貝柱の周辺
102 (△)	舟形土器	2.2	2.7	2.3	2.1	1	なし	右側部にための工具痕を伴う水痕。大型の舟形土器、広葉樹の殻貝片、羽口は帆立貝柱が散在する。帆立貝柱の周辺
103	舟形土器	1.1D	12.9	12.7	7	761.5	4	純化(△)

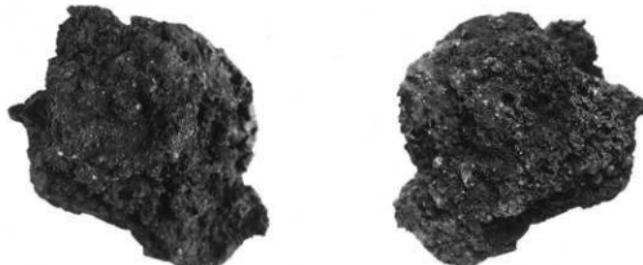
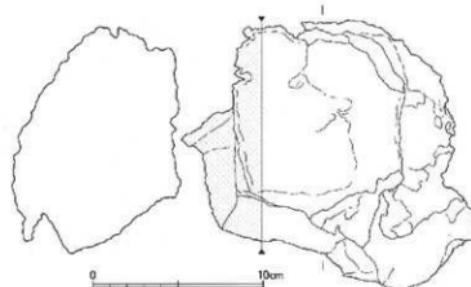
標記 No.	遺物名	遺構名	計画幅(cm)	幅さ 幅	厚さ 高さ	出露度 基盤(×)	メタル度	
104 (大)	輪形輪治溝	1 1 D	10	14.3	5.8	705.8	4 なし	
105 (大)	輪形輪治溝	炉跡	11.2	13.9	8.4	1518.2	4 熟化(△)	
106 (大)	輪形輪治溝	炉跡	15.6	17.2	7.7	2150	4 熟化(△)	
107 (二段・大)	輪形輪治溝	炉跡	17.5	15.8	9.9	2200	9 熟化(△)	
108 (二段)	輪形輪治溝	炉跡	19.2	16.3	12.1	3500	5 熟化(△)	
109 (中)	輪形輪治溝	1 1 D	6.1	10.2	3.7	271.2	4 なし	
110 (中)	輪形輪治溝	1 1 D(pit1B)	8.1	10.3	3.8	293.2	7 熟化(△)	
111	輪形輪治溝	炉跡	5.5	10.2	5.4	349.5	6 熟化(△)	
112	輪治溝	1 3 D(pit42)	2.9	3.1	1.4	20.2	3 なし	
113	輪治溝	1 1 D(pit41)	8.2	4.2	3.1	116.9	5 なし	
114	輪治溝	1 1 D	6.4	6.1	3.1	124.7	6 なし	
115 (含む)	輪治溝	1 1 D(pit46)	2.6	2.2	2.5	9.1	6 熟化(△)	
116 (含む)	原土坑	1.6	1.5	1.2	3.4	6 H(C)	基本的には前者と同様の含氣の輪治溝。含氣度はごく小さい。	
117 (含む)	輪治溝	2.3	2.5	1.1	7.2	4 H(C)	分析資料No. 2	
118 (含む)	原土坑	2.9	1.8	1.4	6.3	6 H(C)	墨塗した小塊状の含氣の輪治溝。No. 116に比べてややしっかりしている。ゆがんだ板状。	
119	輪治溝 (含む)	原土坑	1.6	1.3	0.9	4 6 M(③)	小塊状の含氣の輪治溝。表面には僅かに土被りがある。	
120	輪治溝 (含む)	原土坑	2	1.3	1.2	5.1	5 M(③)	黒褐色に墨塗された小塊状の含氣の輪治溝。輪治に横たわる含氣部が右側に存在。左側は溝。
121	輪治溝 (含む)	原土坑	3.6	2.2	1.9	18.2	6 L(●)	含氣の輪治溝の小底溝。墨塗に横たわる含氣部が右側に存在。左側は溝。
122	輪治溝 (含む)	原土坑	7.4	6.8	3	167.7	9 L(●)	分析資料No. 3
123	輪治溝	炉跡	—	—	—	—	なし	分析資料No. 4
124	輪治溝	炉跡	—	—	—	—	なし	分析資料No. 5
125	羽口	1 1 E	6.2	3.7	2.7	31.4	5 熟化(△)の赤土質。	羽口部の小底溝。上面に透風孔部の壁が残る。先端部は非常に強烈な熟化で紫紅色。透風孔部は鐵柱拘束部を残す。施工は羽口
126	羽口	1 1 D	5	5.5	4	65.4	6 なし	羽口部先端部。先端部は発泡部と土被り部分が失存。施工は羽口部を強く溶解し、透風孔部に沿ってひびかせた。
127	羽口	1 1 D(pit50)	4.6	4.9	4	56.8	4 なし	羽口部は土被りを差しめた直上部。外側はやや紫紅色。

第43表 板屢Ⅲ道跡 鋼鉄開通遺物分析資料一覧表

No	地区名	遺物名	構成要素	遺物性質	重量(g)	メタル度	分析コメント	マグネット	硬質	CX	化水	放射性元素	断面形	分析位置指定	採取方法	総合分析	セカノ	カラクリ	葉物	防護具	施設
42	11 D	炉跡	107 (陶器、石器)	焼瓦陶片	2300.0	9 純化(△)	浮遊を中心とする	-	○	○	C	-	-	-	長輪窯部1/4 直線状の切断	○	○	○	-	-	
43	11 D	炉跡	117 (陶器、石器)	焼瓦陶(含鉻)	7.2	4 H(○)	メタル度を中心とする	○	-	○	-	-	-	-	○	長輪窯部1/2 直線状の切断	○	○	○	-	
44	11 D	炉跡	122 (陶器、石器)	焼瓦陶(含鉻)	167.7	9 L(●)	メタル度を中心とする	○	-	○	-	-	-	-	○	長輪窯部1/5 直線状の切断	○	○	○	-	
45	11 D	炉跡	123 (陶器、石器)	-	-	なし	鉛が検出として	○	-	-	-	-	-	-	必要品	選択	○	○	-	-	
46	11 D	炉跡	124 鉛箔剥片(4点)	-	-	なし	鉛箔剥片として	○	-	-	-	-	-	-	必要品	選択	○	○	-	-	

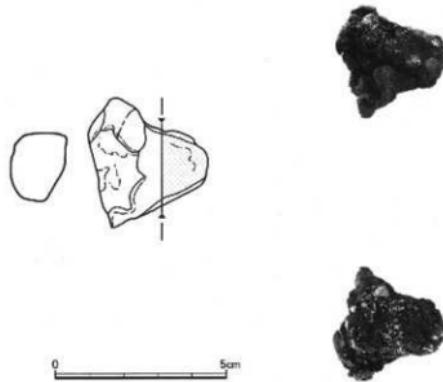
第44表 資料番号1

出土状況	遺跡名	板屋Ⅱ遺跡	遺物No	107		分 析	項目	洋	メタル
	出土位置	II D炉跡 (B 1)	時期・根拠	近世	出土陶磁器				
試料記号	検 録: ITA-42	法	長さ 幅 厚さ	17.5cm 15.8cm 9.9cm	表: 濁茶褐色～ 黒褐色 地: 濁茶褐色～ 青黒色	7	破面数		
	化 学: ITA-42						X線分析		
	放射化:	-	量	總着度 重量	9 2300.0 g		前含浸	-	
遺物種類 (名称)	楕形鐵治津 (二段・合鉢)			タタル度	矯化(△)		断面観察	-	
観察所見	鋸部が破面となった中型の二段焼成鉄治津である。上下面と右側から上手の側面が生きており、それ以外の側面は深い疏面となっている。破面数は7を数える。上部には暗色の強い凹り小張りの焼成鉄治津があり、下部部にはより大型の楕形鐵治津が重ねてある。生成順序としてはドーラーの順だが、観察上、上部から先に始める。上面の洋は中央部が低いビザ状で厚みは2.5mm強と薄いものである。右上手側の肩部は半流動状で、部分的に2枚が重なっている。両者とも似た外観である。洋の表面には微細な木炭痕が連続し、やや内側に1cm大の粒状質の洋が2ヶ所盛り上がっている。下半の洋に比べて粗面はやや弱い。上面の浅い溝みには全体に鍛造剥片が多く含む醜化土砂が固着しているが、本来の物ではなく一次的固着物である。下半の洋部は全体の厚みの8割方を占め、下面には木炭痕が密着する。中核部は密度の高い部である。上面の木炭痕は2cm大近いもの認められ、一部は木炭そのものもみ込んでいる。下面是きれいな焼成形で、その表面には1cm大以下の粉成形質が散在する。場所によりわずかに細かい砂質の押抜土らしき軌跡が存在する。押抜土には粗い石英質の粒子を含むものと細い砂質の両者がおり、鍛治が側の強張り粘土や表面の土質を反映している可能性がある。この面にも木炭痕の凹凸を中心に黒い光沢を持ったもので、鍛冶工程の進んだものが多い。木炭痕から見ると鍛冶灰は針葉樹材が主として用いられている。底面の気孔は少なめで、上下面に近い部位では量が目立つ。色調は表面が濁茶褐色から黒褐色で、地は濁茶褐色から青黒色である。								
分析部分 参考	長軸端部1/4を直錐状に切断し、洋部を中心に行分析用いる。残材返却。 11D区の郊野とした鍛冶炉周辺の出土遺物である。回収された全重量はコンテナ1箱程度と少ないが、中型で2段焼成形や上面に鉄粒状の鉄化物の多い洋が目立っている。平面影は中小型も楕円形主体で、底面は木炭痕のみである。このことから鍛冶炉は近世に多い物炭底と推定される。ほとんどの楕形鐵治津に光沢のある薄手の鋸齿剥片が固着し、僅かに粒状質も混じっている。鍛冶洋上に突出するように残る鉄部は2~4cm大の小鉄塊で、これを素材にいくつかの工程にまたがって鍛冶を行っている可能性が高い。付着する鋸齿剥片は0.3~0.1mm程度の原形を持っている。								



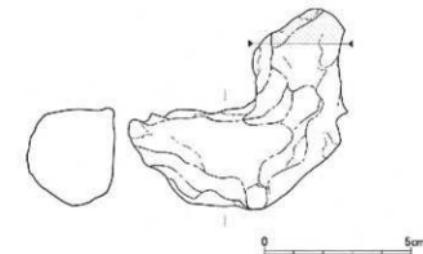
第44表 資料番号2

出土状況	遺跡名	板垣Ⅲ遺跡	遺物No	117			分	項目	津	メタル
				時期・根拠	近世	出土陶磁器				
試料記号	検 論: ITA-43	法 長さ 2.3cm 幅 2.5cm 厚さ 1.1cm	表面: 茶褐色～ 黒褐色 地: 濃茶褐色～ 黒褐色	破面数 I	遺存度 前含浸	破片	分析	マクロ	○	
	化 学: -							検 観	○	
	放射化: -							硬 度		
遺物種類 (名称)	鍛治鋤 (合鉄)	量 重量 7.2g	磁着度 メタル度	4	H (○)	新削削	分析	C M A		
観察所見	平面、不整三角形をした合鉄の鍛治鋤である。左側面の一部が欠けており破面数は1を数える。表面はやや流動状の漆部で、下面には茶褐色の酸化土跡が固着している。右半部は合鉄部で突出しており、放射割れが始まっている。上手側部は木炭痕様の圧痕である。左手は抜られたようになっているが、微細なガス質の洋表皮の欠落したものである。合鉄部の表面には光沢を持った薄手の鍛造剥片が酸化土跡とともに固着している。色調は表面が茶褐色から黒褐色、地は濃茶褐色から黒褐色である。									
分析部分	長軸端部1/2を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面脂膜微布。残材返却。									
備 考	小ぶりの合鉄の津である。鍛治鋤の粉炭層中に持ち込んだものであろうか。外觀的には區別が難しいが、製錬系の合鉄鋤が被熱したものか、精錬鍛冶段階の合鉄の鍛治鋤が、やはり粉炭層中に激離したまま落ち込んだものどちらかであろう。									



第44表 資料番号3

出土状況	遺跡名	板屋目遺跡		遺物No	122		分	項目	薄	メタル	
		出土位置	11Dか跡(B1)		時期・根據	近枝					
試料記号	検鏡:ITA-44 化學: - 放射化: -	法 幅	長さ 7.4cm 幅 6.8cm 厚さ 3.0cm	色調 地: 濃茶褐色~ 黒褐色	表: 濃茶褐色	透徹度	破片数 3?	分析	マクロ	○	
									鏡鏡	○	
	遺物種類 (名称)	鍛治滓 (含鉄)	重量 167.7g	磁着度 9	前含浸 -	L (●)	断面剖析 ○		硬度	○	
観察所見	通し字形に屈曲した含鉄の鍛治滓である。全体の断面形が楕円形で両側部に小さな凹面が残されている。破面数は3を数える。中央部は鉄主体で外周部には二次的に鍛造剥片や粉炭を多量に含む鐵付土砂が固着している。上面は全体的には平坦気味で、中央付近は大きく窪んでいる。表面には2cm以下の大穴痕が明瞭である。右側部には微細な銷ぶくれのある液状の面である。破面とも自然面とも区別がつきにくい。左手の手觸は決れるようになんでおり、底面側は工具痕の可能性を持ち、上半部は肩部の洋の被覆である。全体に磁着が強く放射割れや黒筋も激しい。表面に二次的に固着する液化土砂中の鍛造剥片の厚みは、0.28mm~0.1mm程度と薄く、両面が青黒い光沢を持つものである。色調は表面が濃茶褐色、地は濃茶褐色から黒褐色である。										
分析部分	長軸端部1/5を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面樹脂塗布。残材返却。										
備考	不定形な鉄塊系遺物のようにも、鉄主体の楕円形鍛治滓の側部のようにも、見える遺物である。比較的全体に均質で、鍛化部のみ磁着が弱い。表面が二次的な黒筋に覆われており、滓部を作りうる可能性もあるが、外見的には区別ができない。精錬鉄塊の可能性もある。本資料に付着する鍛造剥片の様相は、分析資料No.1~2に付着するものと同様、比較的柔軟で、工程的には進んでいる。										



第44表 資料番号4

出土状況 出土位置	遺跡名 11D区跡(B1)	測量III道場	遺物No 123			項目 マクロ 鏡 硬度 CMA X線剖析 化學 耐火度 カロリー 放射化 X線透過		
				時期・根拠	近世：出土陶器			
試料記号 化 学	検 級：ITA-45	法 長さ 幅 厚さ	表： — cm	道存度 —		分 析		
	放射化： —		色 調 —	破面数 —				
	遺物種類 (名稱) 粒状滓 (3点)		地： —	磁着度 —	前含浸 —			
観察所見	11D区跡辺の土砂を任意に一部取り上げ水洗して回収された粒状滓である。粒径の差が比較的、数の少ない滑資料から選択されている。また、磁着の強弱により二分した後、それぞれから選択構成している。磁着弱が分析No44-イ-1の1点、磁着強は分析No44-ロ-1からロ-2の2点である。							
分析部分	必要品を選択し、粒状滓として分析に用いる。残材選却。							
備 考								

資料番号4 粒状滓

番 号	直径(cm)	色調	形状および表面	磁着	気孔
4-イ-1	2.3	黒褐色	ややいびつな球形。光沢なし。	弱	なし
4-ロ-1	2.5	黒褐色	ややいびつな球形。光沢ややあり。	強	なし
4-ロ-2	0.5	黒褐色	いびつな球形。光沢なし。	強	なし



4-イ-1



4-ロ-1



4-ロ-2

第44表 資料番号5

出土状況	遺跡名	板塀Ⅲ遺跡		遺物No	124		項目	浮	メタル			
		出土位置	11D烟塀(B1)		時期・根拠	近世:出土陶磁器						
試料記号	検 級:ITA-46	法 長さ 幅 厚さ 重量	cm cm cm g	表:	—	造存度	—	分 析	マクロ			
	化 学: —			色 調	—	—	—		機械 硬 度			
	放射化: —			地:	—	破面数	—		C M A X線解析 化 学 耐火度			
遺物種類 (名称)	鑄造剥片 (4点)	量	—	磁着度	—	前含浸	—	分析	カロリー 放射化 X線透過程			
				メタル度	なし	断面剖析	—					
観察所見	11D区煙塀脇の土砂を任意に一部取り上げ水洗して回収された鋳造剥片である。比較的数少ない母資料から選択されている。また、磁着の強弱により二分した後、それぞれから選択構成している。磁着弱は分析No.6-イ-1からイ-2の2点、磁着強は分析No.6-ロ-1からロ-2の2点である。											
分析部分	必要品を選択し、鋳造剥片として分析に用いる。残材選却。											
備 考	分析資料No.1から3や、非分析の輪形鐵冶津の表面には多量の鋳造剥片が接着している。											

資料番号5 鋳造剥片

番 号	長軸(mm)	短軸(mm)	厚さ(mm)	色 調	表	裏	磁着	気孔
5-イ-1	4.2	3.4	0.7	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。 凹凸あり。光沢ややあり。	弱なし	弱	なし
5-イ-2	5	2.7	0.36	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。 平滑である。光沢ややあり。	弱なし	弱	なし
5-ロ-1	3.7	2.7	0.09	灰黒色	やや凹凸あり。光沢なし。 凹凸あり。光沢なし。	強なし	強	なし
5-ロ-2	2.4	1.2	0.08	暗青灰色	平滑である。光沢あり。 平滑である。光沢ややあり。	強なし	強	なし



5-イ-1



5-イ-2



5-ロ-1



5-ロ-2

第7章 自然化学分析

はじめに

板屋Ⅲ遺跡においては、近世の掘立柱建物跡に付設した鍛冶炉の内容、縄文時代を中心とした遺跡の自然環境及び農耕に関わる問題、黒色土層の年代値を解明するために自然科学分野の分析を依頼した。そしてその成果については、本章で各研究者及び研究機関からその成果を報告いただき掲載している。

これらの成果の詳細については各節の記述を読んでもらいたい。ここでは各成果について簡単に整理しておきたい。

第1節の製鉄関連遺物の分析については、検出した鍛冶炉の性格が精錬段階～鍛錬鍛治段階までの工程を行っていたことが確認された。発掘調査にミス等の問題が多くあったが何とか遺構の性格について明らかにできたのは幸いであった。ただ、微細遺物である鍛造剥片・粒状滓について計画的な取り上げが不十分であったことから、鍛冶作業の詳細な復元には至らなかった点が課題として残った。

第2節のプラントオパール分析の成果は今回発掘調査を実施した西側調査区と第一次調査終了後の西側調査区との境界にあたる壁面から採取された試料についての報告である。これまで高橋氏が板屋Ⅲ遺跡採取試料を検討してきた総括的な成果である。この報告によると第3黒色土層及び第4黒色土層からイネのプラントオパールが検出されており非常に重大な発見と言える。報告でもあるように今後の様々な考古学的な検証作業が必要であることは言うまでもない。

第3節の花粉分析及びプラントオパール分析の成果は今回発掘調査を実施した西側調査区及び東側調査区で採取した土壌を検討したものである。西側調査区では旧自然流路を各ハイカ層で検出しておらず、その発掘成果と花粉分析の成果は符合しているものと判断された。また第4黒色土層で検出されている「キビ属型」のプラントオパールによって、キビの栽培の可能性が指摘されており第2節の成果ともに注目される。

第4節のプラントオパール分析の成果は1998年に第一次調査終了後の西側調査区との境界にあたる壁面及び14Gグリッドの北壁で採取した土壤を検討したものである。分析方法は第3節と同様に定量分析であり第1黒色土層～第4黒色土層まで連続した試料群の分析結果である。ここでも第3黒色土層で「キビ属型」・「ヒエ属型」のプラントオパールが検出されている。

第5節の放射性炭素年代測定値の成果は1998年に採取された試料と2001年の発掘調査で採取された試料のそれぞれの測定結果である。測定の対照となった第3黒色土層と第4黒色土層はプラントオパールの検出などから注目される土壤であり、その年代値も注目されるものである。今後とも機会があれば測定を行う必要がある黒色土層と考えられる。

第1節 板屋Ⅲ遺跡の製鉄関連遺物の分析調査

安来市体育文化振興財團・和鋼博物館

村川 義行

1. 統論

志津見ダム建設予定地内板屋Ⅲ遺跡（島根県飯石郡飯石町大字志津見）より出土した製鉄関連遺物について分析調査した結果を報告する。

板屋遺跡は、神戸川上流域右岸に面した低丘陵に位置し、総面積が2万m²を超える大規模な遺跡である。便宜的に板屋Ⅰ遺跡、Ⅱ遺跡、Ⅲ遺跡と分けて、平成2年度から断続的に調査を行っているが、今回、西側調査区（板屋Ⅲ遺跡）で中世から近世と推測される掘立柱建物跡の中の炉跡と考えられる遺構より製鉄関連と思われる遺物が出土した。

2. 調査方法

2-1. 供試材

Table. 1 に供試材の明細を示す。供試材の通し番号は5であるが、粒状滓と鍛造剥片が夫々3～4点があるので総数は10点となる。

2-2. 調査項目および方法

(1) 目視観察

発掘調査担当者側作成の遺物観察表をもとにまとめた。

(2) マクロ組織

顕微鏡組織観察試料を10～20倍の光学顕微鏡にて出来るだけ試料の全体を観察した。

(3) 顕微鏡組織

実測図に指示された位置から切出して樹脂に埋め込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最終はダイヤモンドの3μ～1μで仕上げてから金属組織および鉱物組織を観察した。試料の腐食（Etching）は金属鉄は、ピクラン（ピクリン酸飽和アルコール溶液）およびナイタル（5%硝酸アルコール溶液）を用い、鉄滓は無腐食とした。

(4) 硬度測定

鉄滓の鉱物相と金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース微小硬度計を用いて硬さを測定した。試料は顕微鏡観察試料を供用した。

(5) CMA調査

顕微鏡組織観察試料にカーボン蒸着を施した後、X線マイクロアナライザーにより電子線を照射し、発生する特性X線を分光・画像化する定性分析とX線強度比から元素定量値を求め、データー解析を行い鉄滓の鉱物相を同定した。

(6) 化学組成分析

供試材の化学組成分析は次の方法で実施した。

全鉄分(T-Fe)、金属鉄(M-Fe)、酸化第一鉄(FeO)：容量法。

炭素(C)、硫黄(S)：燃焼赤外線吸収法。

二酸化珪素(SiO₂)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K₂O)、酸化ナトリウム(Na₂O)、酸化マンガン(MnO)、酸化チタン(TiO₂)、酸化クロム

(Cr₂O₃)、五酸化燐(P₂O₅)、バナジウム(V)、銅(Cu)：誘導結合プラズマ発光分光分析(ICP法)。

3. 調査結果

3-1. ITA-42：楔形鍛冶津

(1) 目視観察

側部が破面となった中型の二段楔形鍛冶津である。破面の気孔は少なめで、色調は表面が濃茶褐色から黒褐色で、地は濃茶褐色から黒褐色である。

(2) 顕微鏡組織

Photo. 1の②～⑤に示す。鉱物組成は、白色粒状結晶のウスタイト(FeO)、淡白色多角形結晶のウルボスピニル(2FeO·TiO₂)および淡茶褐色の板状結晶および木ずれ状結晶のファイヤライトが暗黒色ガラス質の基地中に晶出している。

(3) 硬度測定

Photo. 1の①に淡白色多角形結晶および淡茶褐色結晶のビッカース硬度測定(荷重300g)の圧痕を示す。硬度値は淡白色多角形結晶が666Hv、淡茶褐色大結晶が634Hvであった。マグネタイト(Fe₂O₄)の文献硬度値^[1]が500～600Hv、ウスタイト(FeO)は450～500Hv、ファイヤライト(2FeO·SiO₄)は600～700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピニル(2FeO·TiO₂)の硬度範囲は明記されてないが、600Hv以上とされ、他の調査項目の結果と照合して、淡白色多角形結晶はウルボスピニル、淡茶褐色結晶はファイヤライトと見なされる。

(4) CMA調査

Photo. 7のSE像(2次電子像)にある鉱物相の定性分析結果をFig. 1に示す。全体面から検出された元素は鉄(Fe)とガラス質成分(Si, Al, Ca, K, Mg, Na)およびチタン(Ti)である。また、同時に、SE全体の定量分析を実施し、その結果からは多い順にFeO、SiO₂、Al₂O₃、TiO₂、CaO、Na₂O、K₂Oと微少ながらMgOとなった。これらの酸化物を構成する元素は上記定性分析で検出された元素とほぼ一致する。つぎに、SE像で識別される鉱物相についてA～Eの記号をつけ、それについて同様の定量分析を行った。さらに、鉱物相の分布を視覚化するためこれら一連の分析結果から検出された元素毎に面分析した特性X線像と定量分析値をPhoto. 7に示した。

SE像中で記号Aの白色粒状結晶は鉄(Fe)に輝度が集中し、定量分析値はFeO: 96.87%で、ウスタイト(FeO)と同定される。記号Bの淡白色多角形結晶はチタン(Ti)および鉄(Fe)に輝度が集中し、定量分析値はTiO₂: 23.35% - Al₂O₃: 9.03% - FeO: 66.07%組成となり、ウルボスピニル(2FeO·TiO₂)と同定される。記号Cの淡茶褐色の大きな結晶は鉄(Fe)と珪素(Si)、酸素(O)に輝度が集中し、定量分析値はSiO₂: 33.12% - FeO: 63.39%であることからファイヤライト(2FeO·SiO₄)と同定される。記号Dの淡茶褐色の木ずれ状もしくは針状微小結晶は鉄(Fe)と珪素(Si)、酸素(O)輝度が集中し、やや太い結晶はカルシウム(Ca)にも輝度が集中している。また、定量分析値はSiO₂: 42.78% - FeO: 20.22% - Al: 18.50% - Ca: 6.96% - K: 4.86%であるが、特性X線像より判断して結晶が微小であるためAlとKは基地のガラス質成分をひろっている可能性がある。したがって、成分系としては、SiO₂-FeO-(Ca)となり、ファイヤライトの系統と思われるが明瞭な鉱物相は決めかねる。

記号Bのウルボスピニル(2FeO·TiO₂)の周辺を構成する記号Eの褐色結晶はアルミニウム(Al)の輝度が高い。定量分析値もAl₂O₃: 49.32% - FeO: 47.26% - TiO₂: 2.52%であることから、含

Tiハースサイト ($\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$) と同定される。

以上の結果より、本資料は砂鉄特有元素のチタン (Ti) を含む鉱物相 (ウルボスピニル) が多く認められることから、砂鉄原料を始発とする鉄素材の鍛冶滓と推定される。

(5) 化学組成分析

Table. 2、Table. 3 に示す。全鉄分 (T・Fe) は 43.87%、金属鉄 (M・Fe) は 0.18%、酸化第 1 鉄 (FeO) 46.26%、酸化第 2 鉄 (Fe_2O_3) は 11.07% である。ガラス質成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) は 35.13%、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) を 3.56% 含む。砂鉄特有の二酸化チタン (TiO_2) は 4.13% で高め、バナジウム (V) も 0.13% で高めである。また、酸化マンガン (MnO) は 0.36%、銅 (Cu) は 0.01% で不純物の多い成分系である。また、酸化第 2 鉄 (Fe_2O_3) が比較的少なく、酸化第 1 鉄 (FeO) が多めであることから還元性雰囲気下で形成されたものと推定され、製錬滓に近い組成であることから精錬鍛冶滓に分類される。

3-2. ITA-43：鍛冶滓（含鉄）

(1) 目視観察

平面、不整三角形をした含鉄の鍛冶滓である。一部が欠けており、表皮はやや流動性の滓で、色調は表面が濃茶褐色から黒褐色で、地は濃茶褐色から黒褐色である。

(2) マクロ組織

Photo. 6 の①に示す。中心部は黒色の基地に白色の網目模様が見える。また、若干の空洞を生じ鈎化もしている。中心から外側の灰白色部では鈎化が進み、さらに最外周部の内層は微細なマグネットタイト結晶、外層はゲーサイトと木炭の痕跡も認められる。中心部の空洞は抉られた欠落破面側に通じていたように見える。

(3) 観察鏡組織

Photo. 2 の④～⑧に示す。④は中心部および近傍の組織を示す。⑤～⑥は中心部の組織で白色の棒状または稜形状の組織は共晶炭化物（セメンタイト）、黒色の基地はやや鈎化したパーライト組織である。⑦～⑧は中心部周辺の灰白色部の組織で黒色の棒状もしく稜形状組織は共晶炭化物（セメンタイト）が鈎化したもの、灰色の基地はパーライト組織が鈎化したものである。中心部と共に非共晶組成 ($C < 4.3\%$) であるが、溶融状態から放冷冷却されたと思われる組織である。鍛冶滓とすればかなり高温の鍛打が行われたと思われる。

3-3. ITA-44：鍛冶滓（含鉄）

(1) 目視観察

断面形が椀形で両側部に小さな破面が残る。上面は平坦気味で、中央付近は窪んでいる。全体に磁着が強く放射割れや黒錆も激しい。色調は表面が濃茶褐色、地は濃茶褐色から黒褐色である。

(2) マクロ組織

Photo. 6 の②に示す。亜共析鋼および過共析鋼の組織を有する 2 片を内蔵している。粒状滓や剥片は認められない。

(3) 観察鏡組織

Photo. 3 の②③および④⑤に示す。②③は、白色結晶のフェライトと黒灰色のパーライト組織からなる亜共析鋼 ($C < 0.8\%$) の加熱-放冷組織である。また、フェライト/パーライトの比率より、②③の部位の含有炭素量は約 0.4% と推定される。④⑤は綿状のパーライト組織とその粒界に

網状に析出した白色の炭化鉄（セメントタイト）で、過共析鋼（C > 0.8%）が加熱後放冷された組織である。同様にこの部分の炭素含有量は約1.1～1.3%と推定される。本資料は炭素含有量の異なる2部分を有するがその境界にはスラグの混入と共に両者の中间組織である共析組織（C ≈ 0.8%）を形成し、組成の拡散が認められることから約800°C～900°C位の温度に長時間加熱後放冷されたと推定される。

（4）硬度測定

Photo. 3 の①に白色結晶と黒灰色結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は白色結晶が101Hv、黒灰色結晶が243Hvで、前者はフェライト、後者はパーライト組織と見なされる。

3-4. ITA-45-イ-1：粒状滓

（1）日視観察

ややいびつな球形。光沢はなし。色調は黒褐色。直径：2.3mm。

（2）マクロ組織

Photo. 2 の⑥に示す。0.1～1mm径の気泡を点在させた酸化鉄の基地である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 2 の⑦～⑨に示す。ウスタイト（FeO）の粒が密集し、粒界は亀甲状に見える。部分的に外殻を構成する皮膜（厚さ：約0.02mm）もウスタイト粒で微細な気泡を有する。

3-5. ITA-45-ロ-1：粒状滓

（1）日視観察

ややいびつな球形。光沢ややあり。色調は黒褐色。直径：2.5mm。

（2）マクロ組織

Photo. 3 の①に示す。断面全体に0.15mm径以下の微細な気泡を無数に有する空洞化の著しい粒状滓である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 3 の②～⑥に示す。ウスタイト（FeO）の粒が密集し、粒界はクラック状に見える。外殻には灰色のマグネタイト層（ Fe_3O_4 ）－白色の極薄いヘマタイト層（ Fe_2O_3 ）と、さらに外側を部分的であるが黒灰色のゲーサイト（ $FeO \cdot OH$ ）と思われる層が構成している。

3-6. ITA-45-ロ-2：粒状滓

（1）日視観察

非常に小さくいびつな球形。光沢なし。色調は黒褐色。直径：0.5mm。

（2）マクロ組織

Photo. 3 の⑦に示す。断面全体に約0.05～0.2mm径の微細な多数の気泡と2ヶの大きな梢円形状（長径約1mm～短径約0.6mm）気泡により半空洞化した粒状滓である。

（3）顕微鏡組織

Photo. 3 の⑧～⑩に示す。白色粒状結晶のウスタイト（FeO）と淡灰色木ずれ状ファイヤライト（ $2FeO \cdot SiO_2$ ）が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出している。精錬鋳造段階の派生物と思われる。

3-7. ITA-46-イ-1：鑄造剥片

（1）日視観察

表裏共に光沢ややあり、表面は平滑だが、裏面は凹凸。色調は灰黒色。4.2mm×3.4mm×0.7mm。

(2) マクロ組織

Photo. 4 の①に示す。断面全体に約0.1mm径以下の微細な多数の気泡有する鍛造剥片である。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 4 の②～③に示す。ウスタイト(FeO)の粒が密集し、粒界はクラック状に見える。ウスタイトは大小の粒がやや偏在している。鍛打作業の後半段階の派生物と思われる。

3-8. ITA-46-イ-2：鍛造剥片

(1) 目視観察

表裏共に光沢あり、平滑である。色調は灰黒色。5mm×2.7mm×0.36mm。

(2) マクロ組織

Photo. 4 の④に示す。約0.1mm径以下の微細な多数の気泡がやや偏在する鍛造剥片である。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 4 の⑤～⑥に示す。大小のウスタイト(FeO)の混粒が密集し、粒界はクラック状に見える。

3-9. ITA-46-ロ-1：鍛造剥片

(1) 目視観察

表裏共に光沢なし、表面はやや凹凸、裏面は凹凸。色調は灰黒色。3.7mm×2.7mm×0.09mm。

(2) マクロ組織

Photo. 5 の①に示す。微細な気泡が点在する変形した鍛造剥片である。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 5 の②～④に示す。白色粒状結晶のウスタイト(FeO)が暗黒色ガラス質スラグ中に晶出している。

3-10. ITA-46-ロ-2：鍛造剥片

(1) 目視観察

表裏共に平滑、表面は光沢あるが、裏面はやや光沢ある。色調は暗青灰色。2.4mm×1.2mm×0.08mm。

(2) マクロ組織

Photo. 5 の⑤に示す。微細な多数の気泡がやや点在する鍛造剥片である。

(3) 顕微鏡組織

Photo. 5 の⑥～⑩に示す。ウスタイト(FeO)が密集し、粒界は繊細であるが、大小の気泡が点在する。

4.まとめ

調査資料が少數かつ断片的であるため、上記の調査結果を関連づけて鍛冶作業を考察することは困難であるが、あえてまとめれば、鍛冶作業は砂鉄系荒鉄を始発とした銑鉄から過共析鋼を鍛冶原料鉄としてかなり高温の加熱・鍛打が行われたものと思われる。

本調査の分析は日立金属(株)冶金研究所およびハイメック(株)中国事業所で実施した。

5.参考文献

(1) 日刊工業新聞社：「焼結鉄組織写真および識別法」1968

(2) 岐阜県教育委員会：「中原遺跡（付編）」|志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告
書 6 1999

Table 1 鉄鋼連続物分析資料一覧表

試料記号	通標名	出十位置	通物名稱	重量(g)	磁性度	メタル度	分析コメント	検鏡	EPMA	化学分析	硬度	マクロ	分析位置	採取方法	
ITA-42	板焼III	11D(B1)	板形鐵治済	2200.0	9	磁化(△)	溶部を中心とする	○	○	—	—	—	長軸端部I/2	直線状の切断	
ITA-43	板焼III	11D(B1)	鐵治済(含銅)	—	7.2	4	—	—	—	—	—	—	—	長軸端部II/2	直線状の切断
ITA-44	板焼III	11D(B1)	鐵治済(含銅)	167.7	9	L(●)	メタル部を中心に	—	○	—	—	—	—	長軸端部I/5	直線状の切断
ITA-45	板焼III	11D(B1)	粒状済	—	—	なし	粒状済として	○	—	—	—	—	—	必要品	選択
ITA-46	板金III	11D(B1)	鐵造剥片	—	—	なし	鐵造剥片として	○	—	—	—	—	—	必要品	選択

Table 2 楔形鐵治済 (ITA-42) の化學組成 (wt%)

試料記号	C	SiO ₂	MnO	P ₂ O ₅	S	Cr ₂ O ₃	塗素性成分	TiO ₂	V ₂ O ₅	CaO	MgO	V ₂ O ₅	Cu	K ₂ O	Al ₂ O ₃	T·Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	M·Fe
ITA-42	0.15	23.73	0.36	0.079	0.031	0.03	0.49	2.51	1.05	0.24	4.13	0.01	0.79	6.56	43.87	46.24	11.07	0.18	

Table 3 楔形鐵治済 (ITA-42) の調査結果まとめ

試料記号	通標名	顯微鏡組織	化 學 組 成 (wt%)	所 見
ITA-42	楔形鐵治済	W+U+F	T·Fe 43.87 V ₂ O ₅ 11.07 MnO 3.56 TiO ₂ 4.13 MgO 0.24 Cu 0.36 Al ₂ O ₃ 35.13 K ₂ O 0.01 P ₂ O ₅ 0.01	精煉鐵治済

W: ウスタイト (Wastite : FeO)、U: ワルボスビネル (Uvöspinel : 2Fe₃O₄ · TiO₂)、F: ファイラライト (Fayalite : 2FeO · SiO₂)

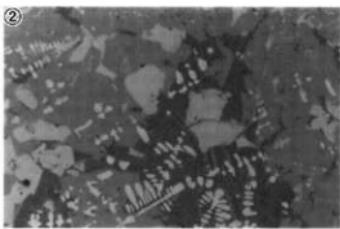
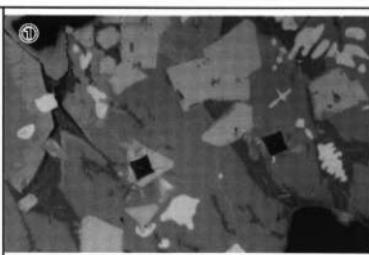
Table 4 粒状済・鐵造剥片一覧表

番 号	直徑(mm)	色調	形狀および表面	磁性	気孔	檢 鏡 結 果
4-1-1	2.3	黒褐色	ややいびつな球形。光沢なし。	弱	なし	ウスタイト凝集
4-1-1	2.5	黒褐色	ややいびつな球形。光沢ややあり。	強	なし	ウスタイト凝集
4-1-2	0.5	黒褐色	いびつな球形。光沢なし。	強	なし	ガラス質ラグ、ウスタイト

Table 4 粒状済・鐵造剥片一覧表

番 号	長軸(mm)	短軸(mm)	厚さ(mm)	色	調	美	檢 鏡 結 果
5-1-1	4.2	3.4	0.7	長黒色	平滑である。光沢ややあり。	凹凸あり。	弱 なし 気孔
5-1-2	5	2.7	0.36	灰黒色	平滑である。光沢ややあり。	平滑である。光沢ややあり。	弱 なし ウスタイト凝集
5-1-1	3.7	2.7	0.09	灰晶色	やや凹凸あり。光沢なし。	凹凸あり。光沢なし。	弱 なし ガラス質ラグ、ウスタイト
5-1-2	2.4	1.2	0.08	暗青灰色	平滑である。光沢あり。	平滑である。光沢あり。	強 なし ウスタイト凝集

(1) ITA-42
橢形鍛冶滓
①×200 硬度圧痕
左：636Hv 右：666Hv
②×100 ③×400
ウスタイト+ウルボスピニエル
ファイヤライト



(2) ITA-43
鍛冶滓
④×25
⑤×100 ⑥×400
セメントタイト(白)とパーライト
⑦×100 ⑧×400
セメントタイトの痕跡(黒)
パーライトの痕跡(灰)

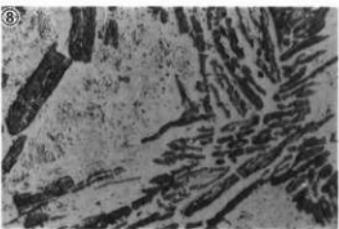
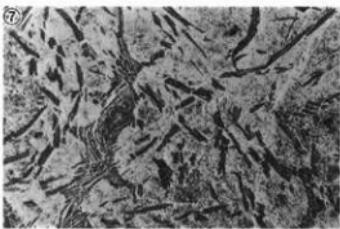
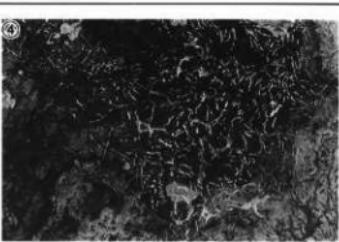


Photo. 1 橢形鍛冶滓と鍛冶滓の顕微鏡組織

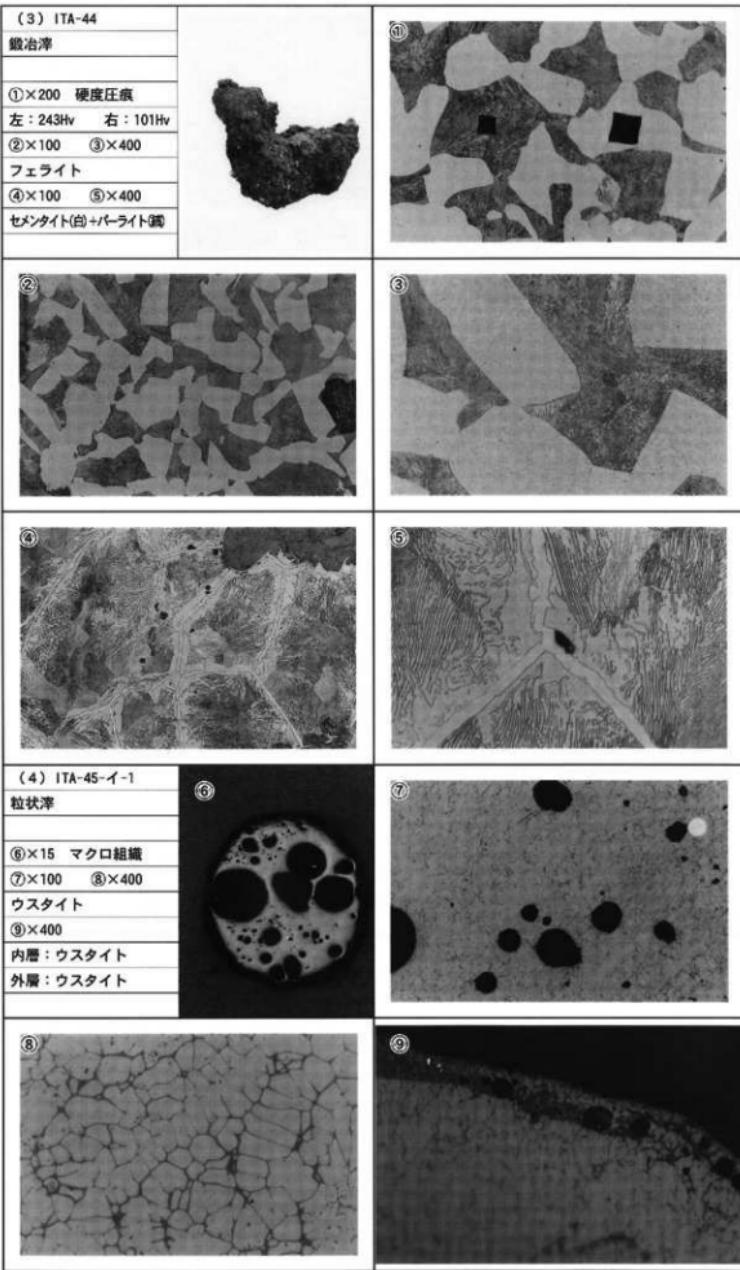


Photo. 2 鐵治津と粒状津の顕微鏡組織

(5) ITA-45-口-1

粒状滓

①×15 マクロ組織

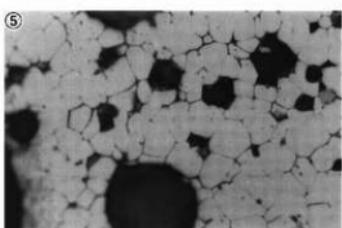
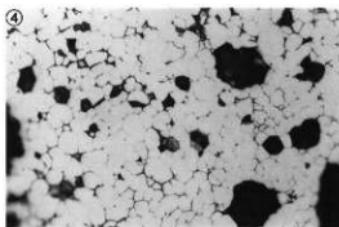
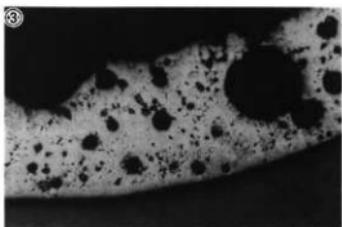
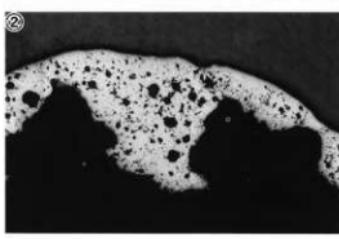
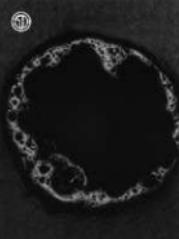
②×50 ③×100

④×200 ⑤×400

ウスタイト

⑥×400

最外層：ゲーサイト



(6) ITA-45-口-2

粒状滓

⑦×15 マクロ組織

⑧×100 ⑨×200

⑩×400

ウスタイト+ガラス質

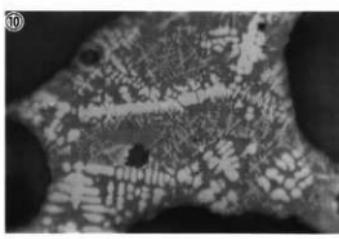
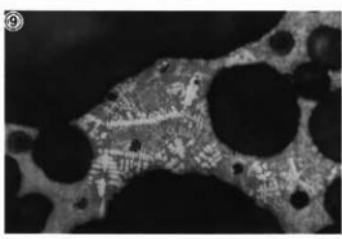
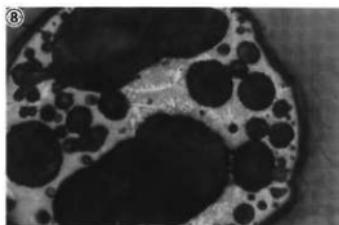
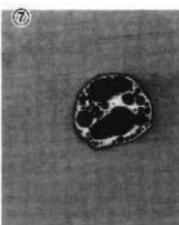


Photo. 3 粒状滓の顕微鏡組織